
南部地区職業教育拠点校新築等設計 公募型プロポーザル 実施要項

平成 30 年 1 月
宮城県土木部営繕課

目 次

I	本プロポーザルの背景及び目的	1
1	本プロポーザルの背景	
2	本プロポーザルの目的	
II	一般事項	1
1	名称	
2	主催者	
3	趣旨	
4	選定方式	
5	事務局	
III	参加申込者の資格要件等	1, 2
1	参加申込者の資格要件	
2	参加申込者の参加形態	
IV	評価・選定	2, 3
1	判定委員会	
2	評価・選定方式	
3	選定結果の発表	
4	技術提案を求める評価テーマ	
V	手続等	3, 4
1	実施要項の入手	
2	参加申込等	
3	現地見学会	
VI	プロポーザルの日程（予定）	4
VII	設計業務委託	4, 5
1	業務委託契約	
2	業務内容	
3	設計業務委託料	
4	管理技術者等	
VIII	著作権及び提出図書の取扱い	5
1	著作権の帰属	
2	技術提案書の取扱い	
IX	経費の負担	5
X	失格	5
XI	その他	5

別添 1 参加申込書・技術提案書作成要領

様式関係

別添 2 南部地区職業教育拠点校新築等設計公募型プロポーザル 評価・選定基準

別添 3 南部地区職業教育拠点校新築等設計 計画概要書

別表・別図・別添資料・参考資料

I 本プロポーザルの背景及び目的

1 本プロポーザルの背景

宮城県教育委員会では、引き続き減少する生徒数や地域経済のグローバル化、情報化の進展等の県立学校を取り巻く状況の変化に対応した高校のあり方を示すため、平成22年3月に※「新県立高校将来構想」を策定するとともに、将来構想を着実に推進するため、より具体的な取組を示す※「新県立高校将来構想実施計画」(第1次～第3次)を策定し、施策を進めています。

平成29年2月に策定された新県立高校将来構想第3次実施計画において、宮城県柴田農林高等学校と大河原商業高等学校を再編統合し、地域のニーズを踏まえた魅力ある高校づくりを推進するため新たに職業教育拠点校を設置するものとして位置づけられました。

※(参考：<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kyou-kikaku/shinkousou.html>)

2 本プロポーザルの目的

本プロポーザルは、南部地区職業教育拠点校新築等設計業務に当たり、選定方法の公平性等を確保しつつ、上記方針の下で、より優れた設計者を選定するため、公募型プロポーザル方式により広く提案を求め、この業務に最も適した設計業務委託候補者(以下「設計候補者」という。)を選定することを目的とします。

II 一般事項

1 名 称 南部地区職業教育拠点校新築等設計公募型プロポーザル

2 主催者 宮城県

3 趣 旨 本プロポーザルは、具体的な設計案を求めるものではなく、設計候補者の選定のために必要な技術提案書の提出を求めるものです。

4 選定方式 本プロポーザル方式は、公募型とし、2段階の選定方式とします。

5 事務局 宮城県土木部営繕課

担当：企画調査班

〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町三丁目8番1号

TEL：022-211-3264

FAX：022-211-3190

E-Mail：eizenp@pref.miyagi.lg.jp

営繕課ホームページ(以下「営繕課HP」という。)：<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/eizen/>

III 参加申込者の資格要件等

1 参加申込者の資格要件

本プロポーザルに参加を申し込む建築設計事務所(以下「参加申込者」という。)の必要な資格は、参加申込日において次の各号に該当することです。なお、参加できる者は、単体企業とします。

- (1) 宮城県建設関連業務指名競争入札参加資格承認者名簿(業種「建築設計」に限る。)に登録されたA等級の格付けを有する者であること。
- (2) 宮城県内に本社(店)、支社(店)又は営業所があること。
- (3) 地方自治法施行令(昭和22年政令第16号)第167条の4の規定に該当しない者であること。

- (4) 宮城県建設工事入札参加登録者等指名停止要領に基づく入札参加指名停止措置を受けていない者であること。
- (5) 建築士法(昭和25年法律第202号)第23条の規定に基づく一級建築士事務所の登録を受けている者であること。

2 参加申込者の参加形態

- (1) 設計は、管理技術者及び総合、構造、電気、機械の各業務分野を分担する主任担当技術者から構成される「設計チーム」によって行うこと。
- (2) (1)に規定する「設計チーム」の構成員のうち管理技術者を含む2名以上は、参加申込者に所属する一級建築士とすること。
- (3) (1)に規定する「設計チーム」の構成員のうち(2)に規定する一級建築士以外の者は、参加申込者以外の事務所に所属する技術者とすることができる。ただし、「設計チーム」の構成員が他の「設計チーム」の構成員を兼ねることはできない(※参加申込者において各構成員へ他の「設計チーム」の構成員となっていないことを確認すること)。
- (4) 同一の参加申込者からの設計チームは、1チームに限ること。

IV 評価・選定

1 判定委員会

技術提案書の審査は、南部地区職業教育拠点校新築等設計公募型プロポーザル判定委員会(以下「判定委員会」という。)が行います。

判定委員会は、次の判定委員5名により組織されます(五十音順、敬称略)。

- 伊藤 真市(公立大学法人宮城大学事業構想学部デザイン情報学科 准教授)
- 岡本 政喜(国土交通省東北地方整備局宮城県整備課長)
- 後藤 武徳(宮城県柴田農林高等学校 校長)
- 佐々 浩二(宮城県大河原商業高等学校 校長)
- 三浦 俊徳(宮城県土木部 次長(技術担当))

2 評価・選定方式

(1) 第1段階

判定委員会が、南部地区職業教育拠点校新築等設計公募型プロポーザル評価・選定基準(以下「評価・選定基準」という。)(別添2参照)に基づき参加申込書の内容を評価し、参加申込者の中から評価得点上位5位までをプロポーザルの提案予定者(以下「プロポーザル提案者」という。)として選定し、技術提案書の提出を求めます。

ただし、第5位が複数の場合は、全てプロポーザル提案者に含むものとし、応募者総数が5者以下の場合、全ての応募者をプロポーザル提案者とします。

(2) 第2段階

判定委員会の会議(以下「判定会」という。)において、プロポーザル提案者から技術提案書の内容についてヒアリングを行った上で評価・選定基準に基づき評価し、最高得点者を設計候補者として選定します。また、評価得点順位2位の者を次点候補者とします。

なお、ヒアリングの実施方法については、プロポーザル提案者に対して別途通知します。

3 選定結果の発表

第1段階の選定結果については平成30年2月21日(水)午後4時(予定)に、第2段階の選定結果については平成30年3月20日(火)午後4時(予定)に、それぞれ営繕課HPに掲載します。

4 技術提案を求める評価テーマ

課題1 (※) 3つのエリアにおける学校の機能を考慮した構成について

課題2 (※) ①エリアにおける土地利用と既存施設を考慮した配置計画について

課題3 教育効果を高め、学習意欲の向上につながる施設の空間構成について

(※) 3つのエリア, ①エリア: 別添3 南部地区職業教育拠点校新築等設計 計画概要書
別図2参照

V 手続等

1 実施要項の入手

本プロポーザルの参加申込方法等を含む実施要項は、営繕課HPから出力してください。

2 参加申込等

(1) 参加申込書等(様式-1~2)

本プロポーザルの参加申込者は、参加申込書・技術提案書作成要領(別添1)に従い、参加申込書(様式-1)及び「設計チーム・設計事務所 資格・業務実績等説明書」(様式-2)を提出してください。

① 提出場所: 事務局

② 期 間: 平成30年1月22日(月)から平成30年2月5日(月)まで
土曜日、日曜日及び休日を除く日の午前10時から午後4時まで
郵送の場合は、平成30年2月4日(日)の消印のあるものまで有効としますが、到着の有無を必ず事務局まで確認願います。

③ 提出方法: 持参又は書留による郵送とします。封書には「**南部地区職業教育拠点校新築等設計プロポーザル 参加申込書在中**」と朱書きしてください。

(2) 技術提案書(様式-3, 4-1~4-3)

技術提案書を提出できるのは参加申込者のうち第1段階で選定されたプロポーザル提案者とし、宮城県から技術提案書の提出要請の通知(以下「要請通知」という。)を行います。

① 提 案 書: 1チームにつき1提案に限ります。

② 提出場所: 事務局

③ 期 間: 平成30年2月21日(水)から平成30年3月9日(金)まで
土曜日、日曜日及び休日を除く日の午前10時から午後4時まで
郵送の場合、平成30年3月8日(木)の消印のあるものまで有効。

④ 提出方法: 持参又は書留による郵送とします。封書には、「**南部地区職業教育拠点校新築等設計プロポーザル 技術提案書在中**」と朱書きしてください。

(3) 質問書(様式-5)

本プロポーザルの参加申込書及び技術提案書についての質問は、質問書(様式-5)により提出してください。

① 提出場所: 事務局

② 期 間: 平成30年1月22日(月)から平成30年1月29日(月)まで
土曜日、日曜日及び休日を除く日の午前10時から午後4時まで

③ 提出方法: 持参又は郵送とし、郵送の場合は、提出期間末日必着とします。

- ④ 回 答：平成30年2月2日（金） 午後4時（予定）
 営繕課HPに掲載します。
 なお、質疑事項の内容により回答できない場合があります。

3 現地見学会

参加希望者を対象に、次のとおり現地見学会を実施します。

- ① 見 学 日：平成30年1月26日（金）
② 行 程：14：00～15：00 柴田農林高等学校 見学
③ 注意事項：
・参加希望者は、当日13：55までに柴田農林高等学校 本校舎3階大会議室に集合してください。
・参加人数は、1チームにつき2名までとします。
・現地見学会参加中に発生した参加者の事故等について、県は一切責任を負いません。
・参加希望者及び参加申込者を対象とした現地見学の機会は、本見学会のみとなります。

VI プロポーザルの日程（予定）

平成30年1月12日（金）	：第1回プロポーザル判定会
平成30年1月22日（月）	：実施要項の公表（営繕課HPに掲載）
平成30年1月22日（月）～2月 5日（月）	：参加申込書等の提出
平成30年1月22日（月）～1月29日（月）	：参加申込書等に関する質問書の提出
平成30年1月26日（金）	：現地見学会
平成30年2月 2日（金）	：質問に対する回答
平成30年2月 5日（月）	：参加申込締切（郵送は前日消印有効）
平成30年2月21日（水）	：第1段階選定結果の公表（営繕課HPに掲載） 及びプロポーザル提案者への要請通知
平成30年2月21日（水）～3月 9日（金）	：技術提案書の提出
平成30年3月 9日（金）	：技術提案書提出締切（郵送は前日消印有効）
平成30年3月19日（月）	：ヒアリング及び第2回プロポーザル判定会
平成30年3月20日（火）	：第2段階選定結果の通知・公表（営繕課HPに掲載）
平成30年5月 下旬	：契約締結予定

VII 設計業務委託

1 業務委託契約

設計候補者との間で設計業務委託契約（随意契約）を締結することを基本とします。

2 業務内容

(1) 業務委託名 南部地区職業教育拠点校新築等設計業務委託

(2) 業務概要

① 校舎棟・農業実習棟新築設計 延べ面積 約9,200㎡・約1,600㎡（基本・実施設計，
①エリアにおける敷地全体の土地利用計画を含む。）

② 既存南校舎等解体設計

③ 仮設建物建設設計

※建築設備・外構設計を含む。

(3) 履行期限

- | | |
|-----------------|-----------------|
| ① 校舎棟・農業実習棟新築設計 | 平成32年 3月下旬 (予定) |
| ② 既存南校舎等解体設計 | 平成31年11月中旬 (予定) |
| ③ 仮設建物建設設計 | 平成31年 3月下旬 (予定) |

3 設計業務委託料

業務に対する設計業務委託料は、県が定める方法により算出した額を上限とします。

4 管理技術者等

本業務委託の受託者の管理技術者及び各業務分野の担当者は、設計チーム・設計事務所 資格・業務実績等説明書(様式一2)に記載した設計チームの管理技術者及び各業務分野の主任担当技術者をそれぞれ選任するものとします。

VIII 著作権及び提出図書の取扱い

1 著作権の帰属

提出された技術提案書の著作権は、参加申込者に帰属するものとします。

なお、著作権が第三者に帰属する著作物の使用の責は、参加申込者に全て帰するものとします。

2 技術提案書の取扱い

前項の規定にかかわらず、本プロポーザルに関する公表、展示及びその他県が必要と認める場合に、県は提出された技術提案書を無償で使用することができるものとします。

IX 経費の負担

参加申込者が本プロポーザルの参加(技術提案書の作成及び提出を含む。)に要した全ての経費は、参加申込者の負担とします。

X 失格

次の各号に該当した場合は、失格となる場合があります。

- (1) IIIの参加申込者の資格要件等に違反した場合
- (2) 提出書類に虚偽の記載をした場合
- (3) 「実施要項」の基本的な条件に違反した場合
- (4) 参加申込書提出後、宮城県建設工事入札参加登録者等指名停止要領に基づく入札参加指名停止措置を受けた場合

XI その他

- (1) 県は、VIII 2 の場合を除き、提出書類を無断で使用しないものとします。
- (2) 県は、設計候補者の選定を行う作業に必要な範囲において、提出書類の複製を製作することがあります。
- (3) 「設計チーム・設計事務所 資格・業務実績等説明書」(様式一2)に記載された管理技術者及び各主任担当技術者は、病気、死亡等極めて特別の理由があると認められた場合を除き、変更することはできません。
- (4) 提出された書類は、返却しません。
- (5) 書類等の作成において使用する言語、通貨、時刻及び単位は、日本語、日本円、日本の標準時及び計量法(平成4年法律第51号)に規定された単位に限ります。
- (6) 設計候補者及び次点候補者は選定の通知後、技術提案書の電子データを提供いただきます。

南部地区職業教育拠点校新築等設計公募型プロポーザル 参加申込書・技術提案書作成要領

1 参加申込書

(1) 参加申込書（様式—1）

イ 「参加申込者」欄について

- (イ) 参加申込者は、実施要項 Ⅲ「1 参加申込者の資格要件」を満足する建築士事務所名を記載して下さい。
- (ロ) 押印欄は、当該建築士事務所の開設者が法人の場合は当該法人の社印及び代表者印を、個人の場合は当該個人の印を押印して下さい。

(2) 設計チーム・設計事務所 資格・業務実績等説明書（様式—2）

イ 「参加申込者」欄について

- (イ) (1) イに同じ。

ロ 「一級建築士事務所登録」「管理建築士（一級建築士）」欄について

- (イ) 参加申込者である一級建築士事務所の登録番号、登録年月日及び有効期限を記入すること。
- (ロ) 当該事務所の管理建築士の一級建築士登録番号、登録年月日及び氏名を記入すること。

ハ 「【設計チーム】 資格・CPD単位取得実績」欄について

- (イ) 管理技術者予定者及び各主任担当技術者予定者について、それぞれ氏名及び所属事務所・役職を記入すること。
- (ロ) 「専門分野の技術資格」欄は、管理技術者予定者及び各主任担当技術者予定者について、資格の名称、登録番号及び登録年月日を記入すること。
- (ハ) 「CPD単位取得実績」欄については、以下のとおりとします。
 - a 建築CPD運営会議（事務局：（公財）建築技術教育普及センター）を構成する各団体が主催した講習会等で参加申込書の提出期限から過去1年以内に発行されたCPD単位取得証明書等に記載されたCPD（継続能力/職能開発）の単位について記入すること。
 - b CPDを取得した団体の名称、当該団体の推奨単位数、当該団体での取得単位数及び当該取得単位数を当該団体の推奨単位数で除した値(%)を記入すること。
 - c 推奨単位数は、制度（参加申込者独自の制度及び推奨単位を定めていない制度を除く。）を定めている当該団体が示す値とすること。

ニ 「【設計チーム】 設計業務実績」欄について

- (イ) 設計業務実績は、一つの施設についての基本設計と実施設計の両方を行った場合を1件とします（一つの施設についての設計業務委託が基本設計と実施設計に分かれている場合は、両方を記載（添付書類共）すること）。
- (ロ) 改修工事（耐震補強工事を含む。）及び模様替工事の設計業務は、今回の設計業務実績とはしません。
- (ハ) 設計業務実績については、平成19年4月1日以降に完了した業務についていずれか1件のみを記入すること。
- (ニ) 記入上の留意事項については、以下のとおりとします。
 - a 業務委託名称欄には、その設計業務の業務名称を記入すること。
 - b 一つの施設についての設計業務委託が基本設計と実施設計に分かれている場合は、業務委託名称及び履行期間については、上下2段にそれぞれ記入することができる（設計業務委託が基本設計と実施設計に分かれていない場合は、1段のみの記入で可）。
 - c 用途欄には、以下の用途区分の番号のいずれかを記入すること。
 - ① 高等学校 校舎
 - ② 学校（幼稚園を除く。）校舎
 - ③ ①及び②以外
 - d 工事種別欄には、新築、増築、改築のいずれかを記入すること。
 - e 規模欄には、上記①から③の用途に供する新築、増築、改築工事に係る部分の床面積(m²)を記入すること（体育館など校舎以外の面積は除く）。

f 立場欄には、設計業務における役割分担における管理技術者、主任技術者、担当技術者等の別を下記の例により記入すること。

- ・管：管理技術者
- ・主：主任技術者
- ・担(総)：担当技術者(総合)
- ・担(構)：担当技術者(構造)
- ・担(電)：担当技術者(電気)
- ・担(機)：担当技術者(機械)

ホ 資格・CPD単位取得実績・実績等を証明する書類について

(イ) 資格、CPD単位取得実績及び設計業務実績欄に記載した内容を証明する書類を必ず添付すること。

(ロ) 資格及び設計業務実績欄に記載した内容を証明する書類は、以下のものを参考とすること。

- a 資格欄に記載した内容を証明する書類
 - ・各資格の免許状その他の証明書の写し
- b CPD単位取得実績欄に記載した内容を証明する書類
 - ・各団体又は建築CPD運営会議が発行するCPD単位取得証明書等の原本の写し（ホームページ等の画面の印刷は不可とする）
- c 設計業務実績欄に記載した内容を証明する書類
 - ・契約書の写し
 - ・当該契約に係る物件の図面（設計概要が判別できる程度のもの）
 - ・建築士法第24条の4に基づく帳簿の写し
 - ・管理技術者、主任技術者等の通知書の写し等

※ 証明書類の内容確認の結果、設計業務実績が記載内容どおりと認められない又は確認できない場合は、その部分の記載を修正又は削除して評価します。

ヘ 【設計事務所】設計業務実績」欄について

(イ) 設計業務実績については、当該事務所が委託契約等を締結した設計業務のうち平成19年4月1日以降に完了した全ての業務のうち、いずれか2件を記入すること。

(ロ) 記入上の留意事項については、(2)ニに準じる。

ト 事務所登録・実績等を証明する書類について

(イ) 一級建築士事務所登録を証明する書類(登録通知書等)を添付すること。

(ロ) 設計業務実績欄に記載した内容を証明する書類を必ず添付すること。

(ハ) 資格及び設計業務実績欄に記載した内容を証明する書類は、(2)ホに準じる。

※ 証明書類の内容確認の結果、設計業務実績が記載内容どおりと認められない又は確認できない場合は、その部分の記載を修正又は削除して評価します。

2 技術提案書

(1) 業務実施方針(様式—3)

業務の取組体制、設計チームの特徴、特に重視する設計上の配慮事項(様式—4—1～4—3に記載する内容を除く)、その他の業務実施上の配慮事項について記載して下さい。

(2) 課題に対する提案(様式—4—1～4—3)

別添3「南部地区職業教育拠点校新築等設計 計画概要書」を基に、実施要項IV「4 技術提案を求める評価テーマ」の課題1～3について提案してください。

(3) 提案書作成上の留意事項

提案書の作成には、以下の事項に留意してください。

- ① 提案書は、業務実施方針(様式—3)についてA4判縦1枚、課題に対する提案(様式—4—1～4—3)についてA3判横1枚とし、各8部を提出してください。
- ② 説明文字の大きさは、9ポイント以上の大きさで作成してください。また、各提案には、カラーコピーを用いても構いません。
- ③ 提案書は、基本的な考え方を文章で記述するものとし、文章を補完するための最小限の写真、イラスト、イメージ図等の使用は認めますが、設計内容を具体的に表現することは禁止します。
- ④ 提案書には、住所、氏名等の提案者を認識できる表示を付さないでください。

- ⑤ 各提案書の用紙右上に幅50mm, 高さ20mm以上の余白を設けてください。

南部地区職業教育拠点校新築等設計公募型プロポーザル

参 加 申 込 書

宮 城 県 知 事

村 井 嘉 浩 殿

標記について、必要書類を添付して参加を申し込みます。

平成 年 月 日

(参加申込者) 住 所 〒

参加申込者名
(代表者名)

印

電 話 番 号

F A X

メールアドレス

設計チーム・設計事務所 資格・業務実績等説明書

参加申込者名

(代表者名)

㊞

一級建築士事務所登録				管理建築士（一級建築士）			
登録番号	都道府県	第	号	氏名			
登録年月日	平成	年	月 日	登録番号	(大臣) 第	号	
有効期限	平成	年	月 日	登録年月日	S・H	年	月 日
【設計チーム】 資格・CPD単位取得実績							
A 管理技術者予定者				氏名			
所属事務所・役職							
専門分野の技術資格				CPD単位取得実績			
資格名称	一級建築士			団体の名称			
登録番号	(大臣) 第	号		取得単位数	推奨単位数		
登録年月日	S・H	年	月 日	取得単位数/推奨単位数		%	
G 主任担当技術者（総合）予定者				氏名			
所属事務所・役職							
専門分野の技術資格				CPD単位取得実績			
資格名称				団体の名称			
登録番号	() 第	号		取得単位数	推奨単位数		
登録年月日	S・H	年	月 日	取得単位数/推奨単位数		%	
S 主任担当技術者（構造）予定者				氏名			
所属事務所・役職							
専門分野の技術資格				CPD単位取得実績			
資格名称				団体の名称			
登録番号	() 第	号		取得単位数	推奨単位数		
登録年月日	S・H	年	月 日	取得単位数/推奨単位数		%	
E 主任担当技術者（電気）予定者				氏名			
所属事務所・役職							
専門分野の技術資格				CPD単位取得実績			
資格名称				団体の名称			
登録番号	() 第	号		取得単位数	推奨単位数		
登録年月日	S・H	年	月 日	取得単位数/推奨単位数		%	
M 主任担当技術者（機械）予定者				氏名			
所属事務所・役職							
専門分野の技術資格				CPD単位取得実績			
資格名称				団体の名称			
登録番号	() 第	号		取得単位数	推奨単位数		
登録年月日	S・H	年	月 日	取得単位数/推奨単位数		%	

(注1) 内容は、申込日現在で記入してください。

【設計チーム】 設計業務実績						
A 管理技術者予定者						
	業務委託名称	履行期間 (開始・完了年月)	工事種別 (新・増・改築)	規模	用途	立場
		H H 年 月 から H H 年 月 まで		m ²		
		H H 年 月 から H H 年 月 まで				
G 主任担当技術者（総合）予定者						
	業務委託名称	履行期間 (開始・完了年月)	工事種別 (新・増・改築)	規模	用途	立場
		H H 年 月 から H H 年 月 まで		m ²		
		H H 年 月 から H H 年 月 まで				
S 主任担当技術者（構造）予定者						
	業務委託名称	履行期間 (開始・完了年月)	工事種別 (新・増・改築)	規模	用途	立場
		H H 年 月 から H H 年 月 まで		m ²		
		H H 年 月 から H H 年 月 まで				
E 主任担当技術者（電気）予定者						
	業務委託名称	履行期間 (開始・完了年月)	工事種別 (新・増・改築)	規模	用途	立場
		H H 年 月 から H H 年 月 まで		m ²		
		H H 年 月 から H H 年 月 まで				
M 主任担当技術者（機械）予定者						
	業務委託名称	履行期間 (開始・完了年月)	工事種別 (新・増・改築)	規模	用途	立場
		H H 年 月 から H H 年 月 まで		m ²		
		H H 年 月 から H H 年 月 まで				
【設計事務所】 設計業務実績						
No.	業務委託名称	履行期間 (開始・完了年月)	工事種別 (新・増・改築)	規模	用途	
		H H 年 月 から H H 年 月 まで		m ²		
		H H 年 月 から H H 年 月 まで				
		H H 年 月 から H H 年 月 まで		m ²		
		H H 年 月 から H H 年 月 まで				

(注2) 設計業務実績欄は、平成19年4月1日以降に完了したものを記載して下さい。

業務実施方針

業務の取組体制, 設計チームの特徴, 特に重視する設計上の配慮事項 (様式—4—1～4—3に記載する内容を除く),
その他の業務実施上の配慮事項

(A4版縦1枚)

課題に対する提案

課題1	3つのエリアにおける学校の機能を考慮した構成について

(A3版横1枚)

課題に対する提案

課題2	①エリアにおける土地利用と既存施設を考慮した配置計画について

(A3版横1枚)

課題に対する提案

課題3	教育効果を高め、学習意欲の向上につながる施設の空間構成について

(A3版横1枚)

「南部地区職業教育拠点校新築等設計公募型プロポーザル」質問書

平成 年 月 日

参加申込者名：
 代表者名：
 担当者名：
 電話：
 F A X：

番号	質問事項

南部地区職業教育拠点校新築等設計公募型プロポーザル 評価・選定基準

■ 第1段階

● 評価方法

- ・ 設計者・設計事務所の資格・実績等技術力を客観評価

● 配点(概要)

- ・ 設計者の資格・実績 25点 (83.3%)
- ・ 設計事務所の実績 5点 (16.7%)

● 配点(詳細)

評価項目	評価の着目点		配点ウェイト	
	判断基準		小計	
(1) 資格<設計者>	専門分野の技術資格		5点 (16.7%)	
	主任担当技術者(*1)	総合	2	
		構造	1	
		電気	1	
		機械	1	
(2) 技術力<設計者>	特定期間(*2)の同種又は類似業務の実績(*3)		13点 (43.3%)	
	管理技術者		4	
	主任担当技術者	総合	3	
		構造	2	
		電気	2	
		機械	2	
	CPD推奨単位取得実績		7点 (23.3%)	
	管理技術者		2	
	主任担当技術者	総合	2	
		構造	1	
		電気	1	
		機械	1	
(3) 技術力<事務所>	特定期間(*2)の同種又は類似業務の実績(*4)		5点 (16.7%)	
合計点			30点 (100%)	

(1) 資格<設計者>の評価点

次式で計算される各主任担当技術者(*1)の技術資格に係る評価点とする。

$$\begin{aligned} \text{主任担当技術者の技術資格に係る評価点} &= \sum(\text{各主任担当技術者の技術資格に係る評価点}) \\ &= \sum(\text{配点ウェイト} \times \text{技術資格評価係数}) \end{aligned}$$

*1 各主任担当技術者の分担業務分野の業務内容並びに評価対象技術資格及び評価係数

分担業務分野	業務内容	評価対象技術資格	技術資格評価係数
総合	H21国交省告示15号別添一第1項第1号及び第2号で示される設計の種類における「総合」	一級建築士	1.0
構造	同上「構造」	一級建築士	1.0
電気	同上「設備」のうち、「電気設備」に係るもの	建築設備士, 一級建築士	1.0
機械	同上「設備」のうち、「給排水衛生設備」、「空調換気設備」及び「昇降機等」に係るもの	建築設備士, 一級建築士	1.0

(2) 技術力<設計者>の評価点

*2 特定期間：平成19年4月1日以降に完了したもの。

*3 同種又は類似業務の実績

下記の用途要件及び規模要件を満たす新築・改築・増築の基本・実施設計の実績

	用途要件	規模要件
同種業務	高等学校 校舎	延べ面積5,000㎡以上
類似業務	学校(幼稚園を除く。)校舎	延べ面積3,000㎡以上

① 特定期間(*2)の同種又は類似業務の実績(*3)

次式で計算される管理技術者及び各主任担当技術者の特定期間の同種又は類似業務の実績に係る評価点とする。

設計者の業務実績に係る評価点 = Σ (管理技術者及び主任担当技術者の業務実績に係る評価点)

= Σ (配点ウェイト×設計者業務実績評価係数)

設計者業務実績評価係数 = ⑤ 同種又は類似業務に係る係数 × ⑥ 携わった立場に係る係数

⑤ 同種又は類似業務に係る係数 = $\begin{cases} 1.0 & (\text{同種業務}) \\ 0.5 & (\text{類似業務}) \end{cases}$

⑥ 携わった立場に係る係数

過去の実績での立場	管理技術者の 実績評価の場合	主任担当技術者の 実績評価の場合
管理技術者の立場	1.0	1.0
主任担当技術者の立場	0.5	1.0
担当技術者の立場	0.3	0.5

※ 当該実績の分担業務分野が、本業務での分担業務分野と同じ場合に限る。

※ 照査技術者の立場は、評価の対象とならない。

② CPD推奨単位取得実績

次式で計算されるCPD単位取得実績に係る評価点とする。

設計者のCPD単位取得実績に係る評価点 = Σ (管理技術者及び主任担当技術者の業務実績に係る評価点)

= Σ (配点ウェイト×設計者のCPD単位取得実績評価係数)

取得した単位数	CPD単位取得実績 評価係数
推奨単位以上	1.0
推奨単位の1/2以上	0.5
推奨単位の1/2未満	0

(3) 技術力<事務所>の評価点

*2 特定期間：平成19年4月1日以降に完了したもの。((2) 技術力<設計者>の評価点の場合と同じ。)

*4 同種又は類似業務の実績

次式で計算される設計事務所の特定期間(*2)の同種又は類似業務の実績に係る評価点とする。

設計事務所の業務実績に係る評価点 = 配点ウェイト×事務所業務実績評価係数

事務所業務実績評価係数

類似業務の実績 \ 同種業務の実績	2件	1件	0件
	2件	1.0	
1件		0.8	0.6
0件	0.4	0.2	0

●選定

・選定基準に基づき、プロポーザル提案者5者を選定

■ 第2段階

● 評価方法

- ・ 技術提案：実施方針および評価テーマ(3つ)
- ・ 技術者の能力の直接確認のため、ヒアリングを実施
- ・ 第1段階の実績等評価＋技術提案に対する評価

● 配点(概要)

・ 設計者の資格・実績	25 点	(25.0%)
・ 事務所の実績	5 点	(5.0%)
・ 業務の実実施方針・取組意欲等	20 点	(20.0%)
・ 評価テーマに対する技術提案	50 点	(50.0%)
	計 100 点	(100.0%)

● 配点(詳細)

評価項目	評価の着目点		配点ウェイト	
	判断基準		小計	
資格<設計者>	専門分野の技術資格		5 点 (5%)	
	主任担当技術者	総合	2	
		構造	1	
		電気	1	
		機械	1	
技術力<設計者>	特定期間の同種又は類似業務の実績		13 点 (13%)	
	管理技術者		4	
	主任担当技術者	総合	3	
		構造	2	
		電気	2	
		機械	2	
	CPD推奨単位取得実績		7 点 (7%)	
	管理技術者		2	
	主任担当技術者	総合	2	
		構造	1	
		電気	1	
		機械	1	
技術力<事務所>	特定期間の同種又は類似業務の実績		5 点 (5%)	
小計			30 点 (30%)	
業務実施方針及び手法	業務の理解度及び取組意欲		8 点 (8%)	
		業務内容、業務背景、手続の理解 及び積極性	8	
	業務の実実施方針		12 点 (12%)	
		業務への取組体制、設計チームの特徴、特に重視する設計上の配慮事項等について、的確性、独創性、実現性等を総合的に評価	12	
	評価テーマに対する技術提案		50 点 (50%)	
	課題 1	各テーマについて、その的確性(与条件との整合性が取れているか等)、独創性(工学的知見に基づく独創的な提案がされているか等)、実現性(提案内容が理論的に裏付けられており、説得力のある提案となっているか等)を考慮して総合的に評価する。	20	
	課題 2		20	
	課題 3		10	
小計			70 点 (70%)	
合計点			100 点 (100%)	

● 技術提案の評価方法

- ・ 各項目について各判定委員が5段階評価し、各項目ごとに各判定委員の評価点の合計点に(配点ウェイト/出席判定委員数×5)を乗じたものを、各項目の評価点とする。

南部地区職業教育拠点校新築等設計 計画概要書

平成30年1月
宮城県土木部営繕課

I 基本方針

1 整備の目的

南部地区で想定される生徒数の減少等を踏まえて、柴田農林高等学校と大河原商業高等学校を再編し、地域のニーズを踏まえた魅力ある高校づくりを推進するため、南部地区職業教育拠点校を設置する。

既存2校の施設は、昭和44年・同51年の建設であり、いずれも老朽化が進んでいること、南部地区職業教育拠点校には既存2校の農業系学科、商業系学科の他にデザイン系学科を設置するため、既存校の校舎では授業の実施が困難であることから、新たな校舎等を整備するものである。

2 設計基本コンセプト

- (1) 機能的で使いやすい建物とする。
- (2) 災害に強く、安全性の高い建物とする。
- (3) 維持管理が容易な建物とする。
- (4) 環境に配慮した建物とする。
- (5) 敷地の有効利用を図る。

II 施設計画・設計条件等

1 業務委託名称

南部地区職業教育拠点校新築等設計業務委託

2 建築場所

柴田郡大河原町字上川原7-2

敷地面積 約24,800㎡ (①エリアのみ)

3 施設用途

高等学校

4 法規制等

- | | |
|-------------|--------------|
| (1) 都市計画区域等 | 都市計画区域内 |
| (2) 用途地域等 | 第二種中高層住居専用地域 |
| (3) 容積率 | 150% |
| (4) 建ぺい率 | 60% |
| (5) 防火地域等 | 建築基準法22条指定区域 |
| (6) 下水道処理 | 区域内 |

(7) その他の区域等 大河原町防災マップにおける洪水災害区域内（参考：
<http://www.town.ogawara.miyagi.jp/data/open/cnt/3/1737/1/bousaimap21-22.pdf>）

(8) 道路 県道 幅員：20.0m
町道 幅員：4.0m～6.0m

5 事業規模（予定）

(1) 新設建物

- ・校舎棟 延べ面積 約9,200㎡
- ・農業実習棟 延べ面積 約1,600㎡

(2) 仮設建物

- ・校舎棟 延べ面積 約1,000㎡
- ・ボクシング場・ウェイトリフティング場 延べ面積 約300㎡
（別表4参照）

(3) 解体建物

- ・本校舎 RC造 3階建て 延べ面積 約3,736㎡（本業務委託対象外）
- ・南校舎 RC造 2階建て 延べ面積 約1,039㎡
- ・柴農会館 RC造 2階建て 延べ面積 約432㎡
- ・その他1 ボクシング場・ウェイトリフティング場、温室等
- ・その他2 農業実習施設等（本業務委託対象外）
（別表5参照）

(4) 必要諸室

- ・校舎棟 普通教室，特別教室，専門教室等
管理諸室等（職員室，校長室，事務室，技師室，保健室，放送室，
図書室，会議室，便所，多目的便所，エレベーター等）
- ・農業実習棟 農業基礎実習室，食品加工室，木材加工室等
（※別表2，3参照）

(5) 屋外施設等

- ・外構・植栽等
- ・工事に伴う電気・機械設備の盛替え

(6) 予定工期

- ・設計
 - ①校舎棟・農業実習棟新築設計 平成32年 3月下旬まで（予定）
 - ②既存南校舎等解体設計 平成31年11月中旬まで（予定）
 - ③仮設建物建設設計 平成31年 3月下旬まで（予定）
- ・工事
平成32年度から平成34年度まで（予定） ※仮設建物建設は平成31年度（予定）
（※別表1参照）

(7) 予定工事費

約57億円(税抜き)。下記の費用は含まない。

- ・(3) 解体建物のうち本校舎及びその他2の解体工事費

6 南部地区職業教育拠点校の整備方針

(1) 以下を参照すること。

- ・柴田農林高等学校及び大河原商業高等学校の再編統合に係る報告書
／大河原地域における高校のあり方検討会議とりまとめ(別添資料1)
- ・南部地区職業教育拠点校教育基本構想
／南部地区統合校教育基本構想検討会議策定(別添資料2)
- ・南部地区職業教育拠点校整備事業基本構想
／宮城県教育庁作成(別添資料3)

(2) その他

- ・当面、既存の体育館、柔剣道場、プール、家庭科実習棟は残すこととするが、将来的には体育館、柔剣道場の建替えも考慮した上で、①エリアにおける敷地の有効利用に配慮した配置・動線計画とすること。なお、正門の位置は原則、現状のとおりとする。
- ・工事期間中の生徒・職員の安全確保、工事車両等の動線を考慮した配置計画・動線計画の合理性、全体コストやライフサイクルコストなどの経済合理性その他の妥当性の検討を行うこと。
- ・現状の地形を活かした設計を行うこと(造成は想定していない)。
- ・建物は、ライフサイクルを通じた環境負荷の低減に配慮すること。
- ・地質調査は、設計業務委託期間中に別途実施する予定である。
- ・工事期間中は、良好な学習環境の維持のために騒音や振動の抑制に配慮する。
- ・平成35年度及び36年度には、現柴田農林高校の敷地に柴田農林高校と南部地区職業教育拠点校が共存する。
平成35年度：柴田農林高校2, 3年生, 南部地区職業教育拠点校1年生が在籍
平成36年度：柴田農林高校3年生, 南部地区職業教育拠点校1, 2年生が在籍
- ・平成32年度から平成36年度の間は、柴田農林高校において①エリアの本校舎及び本校舎より北側の既存施設と新設仮設建物、②エリア及び③エリアの既存施設を継続使用する。
- ・平成37年度から、①エリアの本校舎及び②エリアの解体対象施設(別表5参照)を解体予定。

7 添付資料

- | | |
|-----|--------------------------------|
| 別表1 | 事業スケジュール |
| 別表2 | 校舎棟計画面積一覧(目安) |
| 別表3 | 農業実習棟計画面積一覧(目安)、既存活用農業実習施設面積一覧 |

別表4	仮設建物計画面積一覧（目安）
別表5	解体建物等一覧
別図1	学校位置図
別図2	柴田農林高等学校 航空写真
別図3	柴田農林高等学校 ①エリア配置図
別図4	柴田農林高等学校 ②エリア配置図
別図5	大河原町防災マップ
別添資料1	柴田農林高等学校及び大河原商業高等学校の再編統合に係る報告書
別添資料2	南部地区職業教育拠点校教育基本構想
別添資料3	南部地区職業教育拠点校整備事業基本構想
参考資料1	宮城県柴田農林高等学校 学校要覧
参考資料2	宮城県大河原商業高等学校 学校要覧
参考資料3	地質調査報告書

事業スケジュール

(四半期ごと)

年度 月	平成29年度				平成30年度				平成31年度				平成32年度				平成33年度				平成34年度				平成35年度				平成36年度				平成37年度																			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4																
校舎棟・農業実習棟 新築基本・実施設計					校舎棟・農業実習棟新築基本・実施設計																																															
既存南校舎等 解体設計					既存南校舎等解体設計				既存南校舎等解体設計																																											
仮設建物設計					仮設建物設計				仮設建物設計																																											
仮設建物					仮設建物建設				仮設建物建設																																											
引越等					引越				引越				引越																																							
既存南校舎等 解体工事					既存南校舎等解体工事				既存南校舎等解体工事				既存南校舎等解体工事																																							
校舎棟・農業実習棟 新築工事					校舎棟・農業実習棟新築工事				校舎棟・農業実習棟新築工事				校舎棟・農業実習棟新築工事																																							
引越等					引越				引越				引越				引越																																			
既存本校舎・ 農業実習施設等 解体設計					既存本校舎・農業実習施設等解体設計				既存本校舎・農業実習施設等解体設計				既存本校舎・農業実習施設等解体設計																																							
既存本校舎・ 農業実習施設等 解体工事					既存本校舎・農業実習施設等解体工事				既存本校舎・農業実習施設等解体工事				既存本校舎・農業実習施設等解体工事																																							

本業務委託対象

新校舎・
新農業実習棟
供用開始
(平成35年4月)

柴田農林高閉校
(平成37年3月)

本業務委託対象外

既存本校舎・
農業実習
施設等
解体設計

既存本校舎・
農業実習
施設
解体工事

別表2

校舎棟計画面積一覽(目安)

分類	部屋名	室数	面積(m ²)	備考	
管理諸室	校長室	1	36.00	・隣接させる。	
	応接室	1	36.00		
	職員室	1	252.00		
	事務室	1	72.00		
	技師室	1	36.00		
	印刷室	1	36.00		
	放送室	1	18.00		
	サーバ室	1	18.00		
	大会議室	1	72.00		
	小会議室	2	72.00		
	生徒会室	1	36.00		
	進路指導室	2	72.00		
	生徒相談室	2	72.00		
	保健室	1	72.00		
	図書室	1	144.00	・学校の歴史を紹介する場を設けることを想定する。	
	職員更衣室	2	72.00		
	生徒更衣室	2	72.00		
	食堂・売店	1	144.00		
	小計	23	1,332.00		
普通教室等	普通教室	18	1,296.00		
	選択教室	4	288.00		
	大講義室	1	288.00	※	
	小計	23	1,872.00		
特別教室	生物・化学実験室	1	144.00	・準備室(18m ²)を含む。準備室は隣接させ共用とする。	
	物理・地学実験室	1	144.00	・準備室には薬品保管庫を設置する。	
	音楽室	1	144.00	・準備室(18m ²)を含む。	
	美術室	1	144.00	・準備室(18m ²)を含む。	
	被服室	1	144.00	・準備室(18m ²)を含む。	
	調理室	1	144.00	・準備室(18m ²)を含む。	
	小計	6	864.00		
専門教室	簿記室	1	72.00	商業科(3類型制)で使用。	
	電子商取引室	1	144.00	・準備室(18m ²)を含む。	〃
	情報処理室	1	126.00		〃
	マーケティング実習室	1	144.00	・準備室(18m ²)を含む。	〃
	情報処理室	1	126.00		〃
	OA実践室	1	144.00	・準備室(18m ²)を含む。	〃
	情報処理室	1	126.00		〃
	情報科実習室	1	144.00	・準備室(18m ²)を含む。	〃
	ビジュアルデザイン実習室	1	144.00	・準備室(18m ²)を含む。	企画デザイン科で使用。
	プロダクトデザイン実習室	1	144.00	・準備室(18m ²)を含む。	〃
	コンピュータ室	1	126.00		〃
	小計	11	1,440.00		
その他	農業クラブ室	1	36.00		
	ギター部室	1	144.00		
	その他文化部室	4	80.00		
	教材室	1	20.00	・社会科(地歴・公民)を想定	
	小計	7	280.00		
合計		70	5,788.00		
共用部分(37%)			3,399.30		
合計			9,187.30		

※新設校は、学校全体で学科間連携、地域連携を図ることとしているため、大講義室については、1学年全員(240人)を収容でき、研究発表等のプレゼンテーションや外部講師を招聘した講義にも対応できるものとする。

別表3

農業実習棟計画面積一覧(目安)

部屋名	室数	面積(m ²)	備考
農業基礎実習室	1	144.00	農業科(2類型制)で使用。
食品加工室	1	240.00	''
木材加工室	1	120.00	''
工芸実習室(林業教室)	1	96.00	''
製材室・貯蔵室	1	80.00	''
きのこ培養室	1	80.00	''
実習用男子更衣室	1	40.00	''
実習用女子更衣室	1	40.00	''
倉庫	1	180.00	''
小計	9	1,020.00	
共用部分(37%)	-	599.05	
合計	9	1,619.05	

既存活用農業実習施設面積一覧

部屋名	別図4上の表記	面積(m ²)	備考
農場管理棟	84	542.00	農業科(2類型制)で使用。
農機具実習室	65	180.00	''
総合科学センター	90	1,271.00	''
動物飼育舎	91	229.00	''
動物科倉庫	94	80.00	''

仮設建物校舎棟計画面積一覧(目安)

部屋名	室数	面積(m ²)	備考
選択教室	4	288.00	
特別教室	2	288.00	
売店	1	54.00	
小計	7	630.00	
共用部分(37%)	-	370.00	
合計	7	1,000.00	

仮設建物ボクシング場・ウェイトリフティング場計画面積一覧(目安)

	室数	面積(m ²)	備考
ボクシング練習場	1	150.00	
重量拳練習場	1	150.00	
小計	2	300.00	
共用部分(0%)	-	0.00	
合計	2	300.00	

※床はコンクリートによるたたき仕上げとする。

別表 5

解体建物等一覧

《建物》

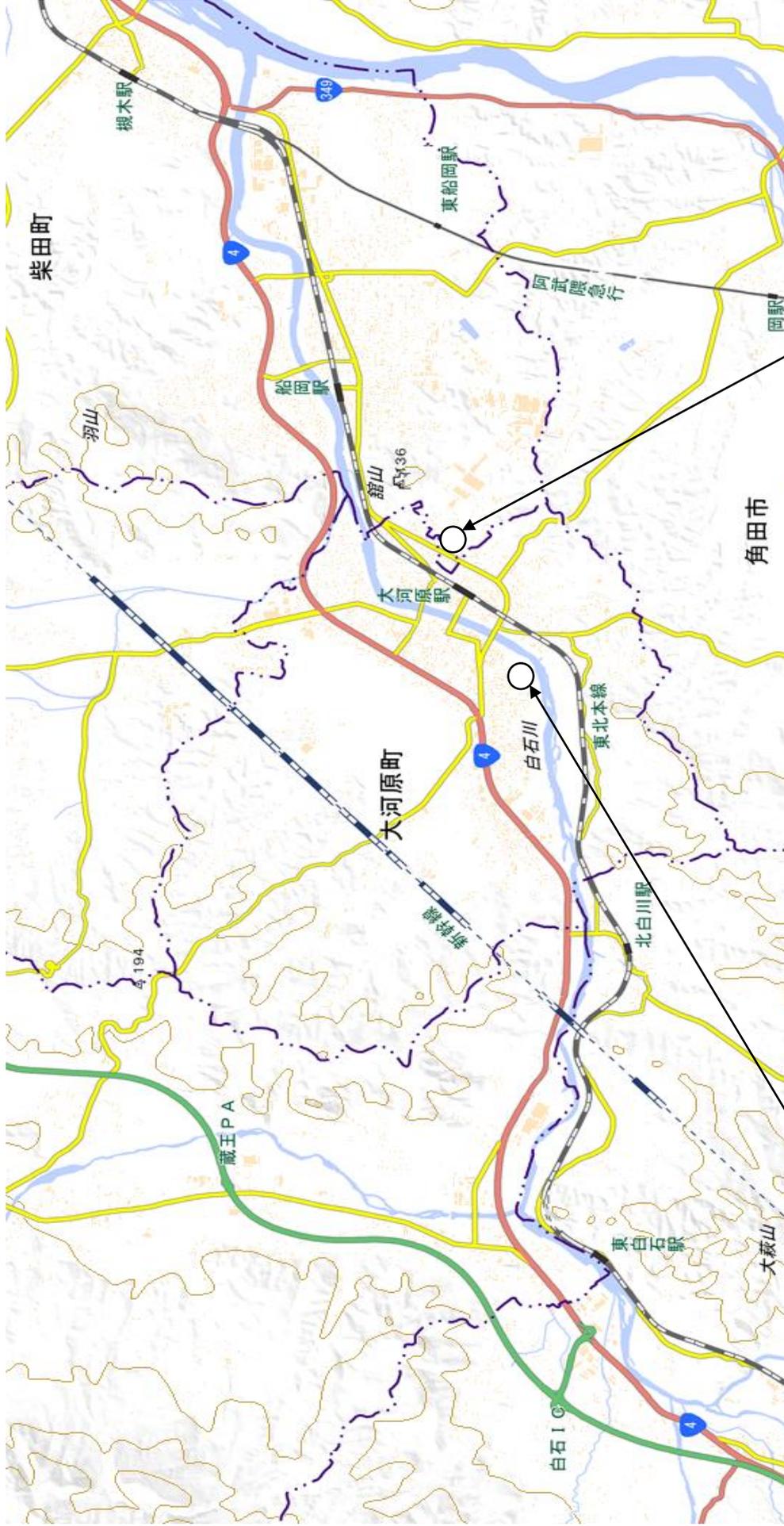
No.	別図上の 表記	名称	構造	階数	築年	面積(m ²)	備考
1	1	ホクシング場・ウエイリフティング場	W	1	T11	396.69	本業務委託対象
2	24	本校舎	RC	3	S44	3,736.04	本業務委託対象外
3	70	南校舎	RC	2	S55	1,039.09	本業務委託対象
4	68	柴農会館	RC	2	S55	432	〃
5	20	工芸実習室	W	1	S38	98.55	〃
6	72	温室	S	1	S57	150	〃
7	73	温室	S	1	S57	150	〃
8	74	温室	S	1	S57	67.5	〃
9	6	製材室	W	1	S29	47.04	本業務委託対象外
10	15	造園管理室・機械工作室	W	1	S29	133.59	〃
11	39	トレーニング室	W	1	S44	165.62	〃
12	41	農業基礎実習室	W	1	S44	129.6	〃
13	44	男子更衣室	W	2	S45	290.88	〃
14	45	材料実験室	S	1	S45	198	〃
15	52	作物実験室・食品加工室	S	1	S47	332.1	〃
16	53	農機具整備実習室	S	1	S47	99	〃
17	56	畜産教室	S	1	S48	159.3	〃
18	58	林産加工室	S	1	S49	163.8	〃
19	62	資材倉庫	S	1	S50	90.93	〃
20	83	園芸工学教室	S	1	S46	135.71	〃

《工作物》

No.	別図上の 表記	名称	構造	階数	築年	面積(m ²)	備考
21	× 1	作業小屋	S	1	不明	153.9	本業務委託対象
22	× 2	バイク駐輪場	S	1	不明	193.91	〃
23	× 3	車庫	S	1	不明	64.64	本業務委託対象外
24	× 4	車庫	S	1	不明	49.25	〃

No.	別図上の 表記	名称	長さ		備考	
25	—	テニスコート(ネットフェンス)			384m	本業務委託対象
			うち	高さ3m	308m	
				高さ1.8m	76m	

学校位置図



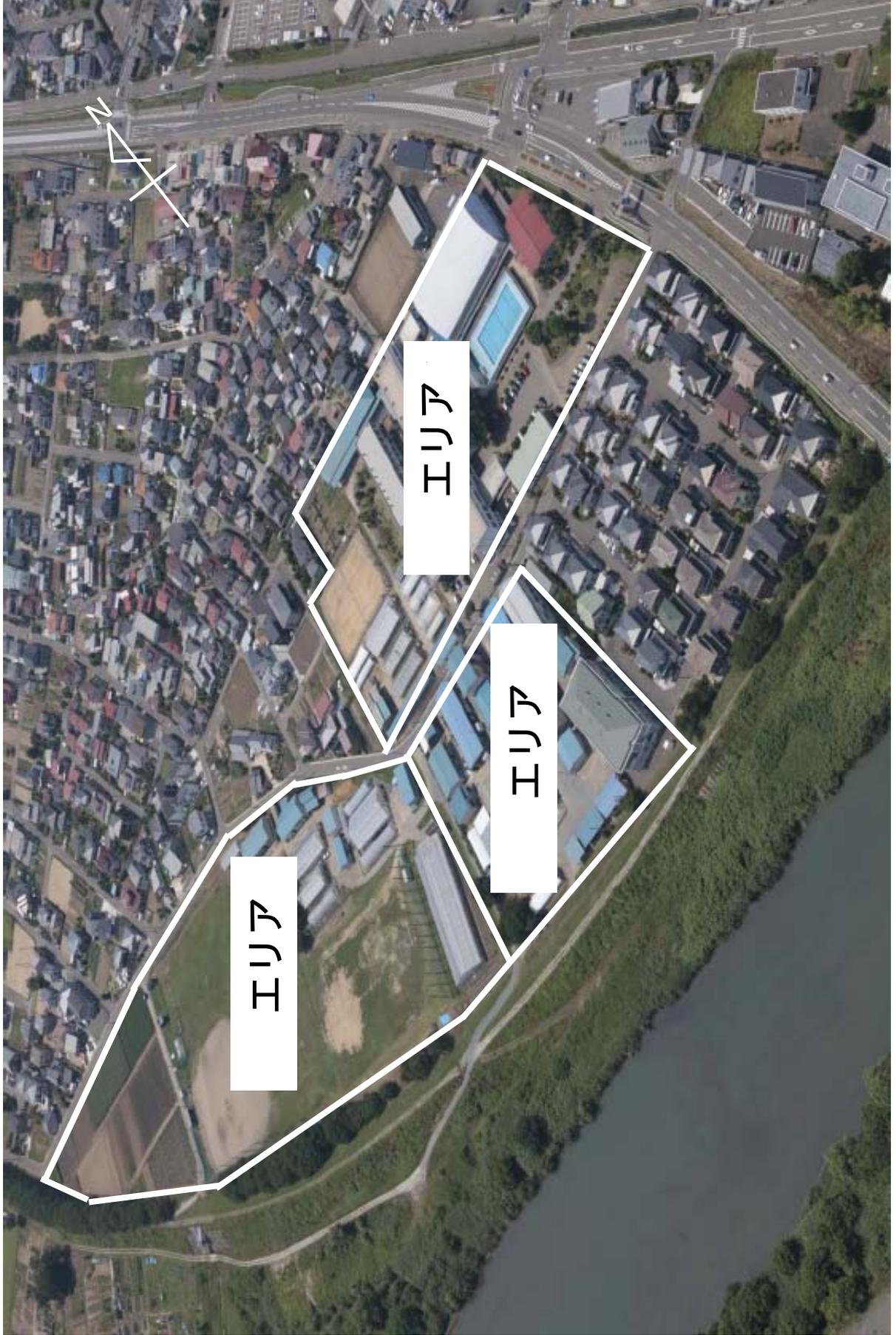
柴田農林高等学校
(南部地区職業教育拠点校計画地)

大河原商業高等学校

別図 1

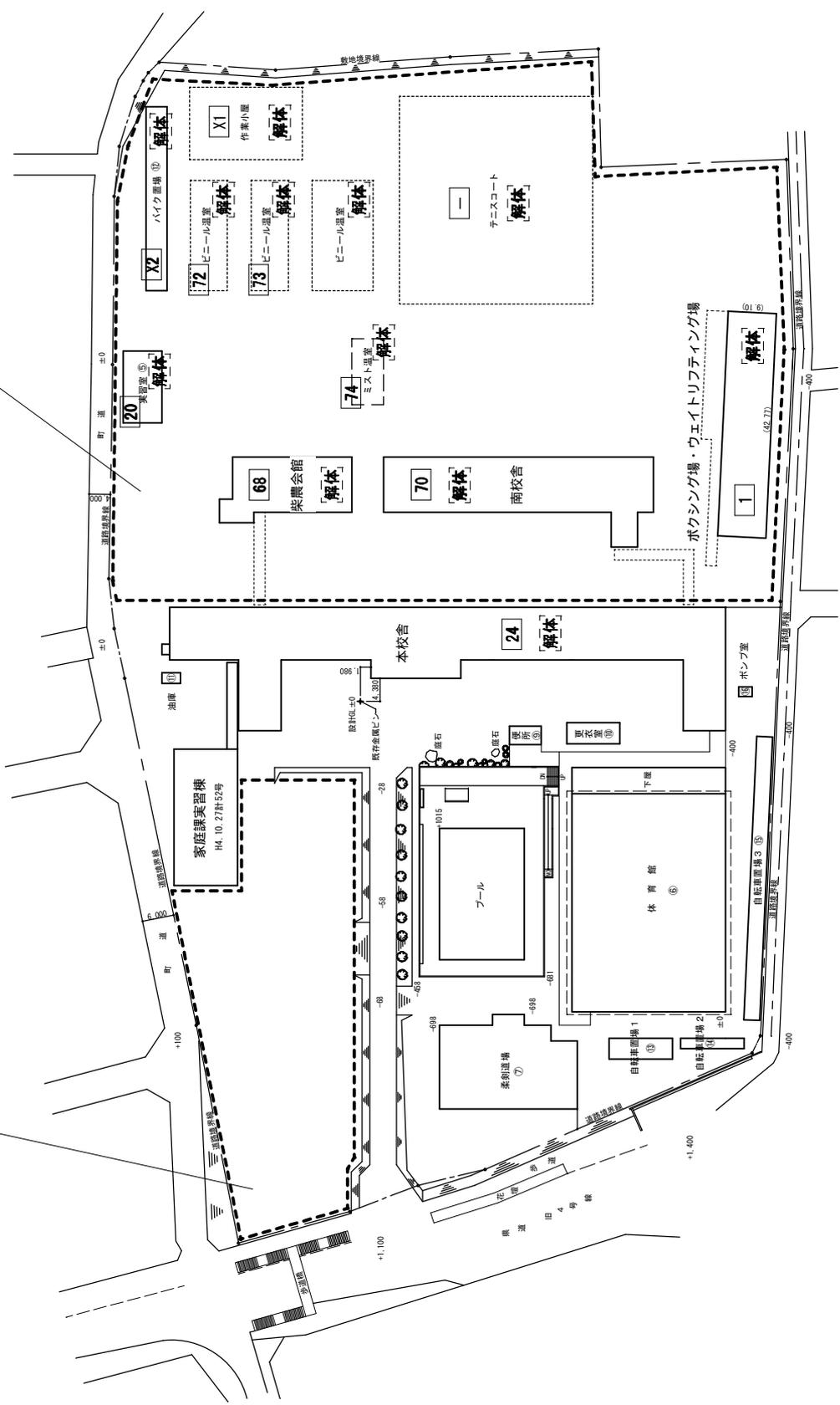
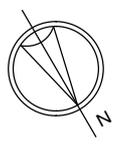
この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図(タイル)を複製したものである。(承認番号 平29情複, 第487号)

柴田農林高等学校 航空写真



校舎棟，農業実習棟計画範囲

仮設建物計画範囲

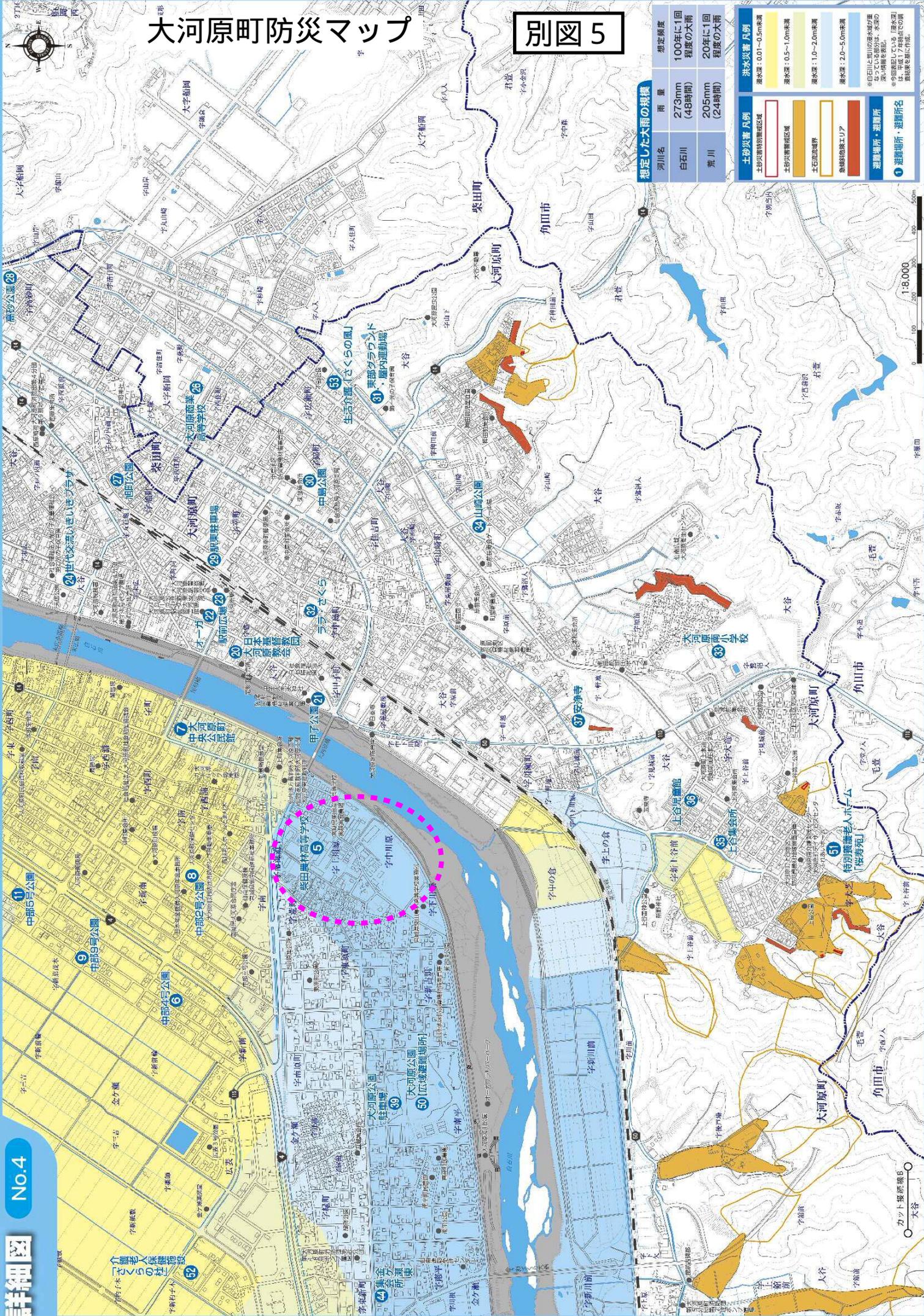




※③エリアの施設は、参考資料 1 の 33 ページを参照

大河原町防災マップ

別図5



想定した大雨の規模

河川名	雨量	想定深度
白石川	273mm (48時間)	100年に1回程度の大雨
荒川	205mm (24時間)	20年に1回程度の大雨

土砂災害ハ例

土砂災害特別警戒区域	浸水深: 0.01~0.5m未満
土砂災害警戒区域	浸水深: 0.5~1.0m未満
土石流警戒境界	浸水深: 1.0~2.0m未満
魚相危険エリア	浸水深: 2.0~5.0m未満

避難場所・避難所

- 1 避難場所・避難所名

洪水災害ハ例

※白石川・甲子川等の洪水が想定される場合は、この浸水深に、その河川の水位上昇を考慮し、浸水深を算定している。浸水深は、平成17年時点での調査結果を基に作成。

柴田農林高等学校及び大河原商業 高等学校の再編統合に係る報告書

平成28年9月

大河原地域における高校のあり方検討会議

目 次

はじめに	1
1 南部地区の概要	2
2 南部地区の高校教育の状況	3
3 両校の状況	5
4 魅力ある新たな職業教育拠点校のあり方について	9

資料編

- 新県立高校将来構想における県立高校再編計画について
- 各地区の中学校卒業生数の見通し
- 南部地区各高校の学科，系列，類型及び教育内容
- 柴田農林高校の概要
- 大河原商業高校の概要
- 大河原地域における高校のあり方検討会議開催要綱
- 大河原地域における高校のあり方検討会議開催経過

はじめに

本県では、平成13年3月に、時代の要請に対応した高校教育改革の方向性及び高校の整備・改編の方針を示す「県立高校将来構想」を策定し、生徒の多様な個性や特性に対応した魅力ある高校づくりと生徒数の減少に対応した学級減及び学校再編等を進めてまいりました。

また、平成22年3月には、引き続き減少する生徒数や地域経済のグローバル化、情報化の進展等の県立高校を取り巻く状況の変化に対応した高校のあり方を示すため、「新県立高校将来構想」を策定するとともに、将来構想を着実に推進するため、より具体的な取組を示す「新県立高校将来構想実施計画」を策定し、施策を進めております。

これまで、男女共学化や全県一学区化に取り組むとともに、中学校卒業生数の減少等への対応として、学級減の措置のほか、学校の再編に取り組んでまいりました。平成13年度には、栗原農業高校と若柳高校を統合して新たに迫桜高校を設置したほか、平成27年度には、上沼高校、米山高校、米谷工業高校及び登米高校の商業科を統合して登米総合産業高校を設置するなど、魅力ある高校づくりへ向けた取組を進めております。

一方で、少子化の進展は著しく、県全体でみると、昭和37年度に50,004人でピークを迎えた中卒者数は減少を続け、昭和56年度には26,884人となりました。その後増加傾向となり、昭和63年度には35,095人となったものの、以降再び減少を続け、平成27年度は21,723人となっています。少子化の傾向は、今後もさらに続くことが見込まれており、活力ある高校の存続に向けてより一層の取組が求められているところです。

このような取組の一環として、本県では、南部地区の大河原町内にある2つの専門高校（柴田農林高校及び大河原商業高校）を再編し、新たな職業教育拠点校を設置することとし、その検討に当たり、地域のニーズを踏まえた魅力ある高校づくりを推進するため、平成28年3月に「大河原地域における高校のあり方検討会議」を設置いたしました。地域の方々とともに検討を進める当検討会議の設置は県内初となるものであり、今後の高校改革の手法の先導事例となるものです。

当検討会議では、平成28年9月までの5回にわたる会議において、新たな学校への期待や新しい学科、魅力ある学校づくりに向けた地域との連携等について話し合いを重ねてまいりました。本報告書が、地域にとって真に魅力ある新たな職業教育拠点校の設置に向けての一助となることを期待します。

平成28年9月

大河原地域における高校のあり方検討会議

(宮城県教育庁教育監兼教育次長)

座長 鈴木 洋

1 南部地区の概要

南部地区は、白石市及び角田市の2市と蔵王町、七ヶ宿町、大河原町、村田町、柴田町、川崎町及び丸森町の7町で構成され、古くから街道や水運による交通の要衝となっており、東北新幹線・東北本線・阿武隈急行線の鉄道網や、東北自動車道・山形自動車道の高速交通網が整備されている。

西部は、蔵王連峰の裾野に広がる丘陵地帯、東部は、阿武隈川・白石川が流れる平野部となっており、地区の面積のうち森林が約7割を占めている。

(1) 人口

宮城県の人口は仙台都市圏を除き各圏域の人口減少が顕著となっており、仙台都市圏への一極集中が進んでいる。

南部地区の人口は、平成7年度をピークに減少に転じ、平成27年度の国勢調査では平成7年度と比べ約10%減少し177,238人（県人口の7.6%）となっている。

当地区の各自治体について見てみると、総じて減少傾向であるものの、過疎地域に指定されている七ヶ宿町・丸森町で減少率が大きく、柴田町ではほぼ横ばい、大河原町では増加傾向にある。

平成22年度の当地区の年齢別人口は、平成7年度と比べ、15歳未満の年少人口が約34%減少し22,467人、15～64歳のいわゆる生産年齢人口（労働人口）が約11%減少して112,101人となる一方で、65歳以上の高齢人口が31%増加し48,552人となっており、少子高齢化が急速に進んでいる。

なお、県全体に占める当地区の労働人口（15～64歳）割合は7.5%となっている。

(2) 産業

平成25年度の市町村民経済計算における南部地区の総生産額は約5,800億円で、県全体に占める当地区の総生産額割合は6.5%となっている。

当地区における産業の特徴は、第1次産業については、農林畜産業の全てにおいて県内有数の産地であること、農業経営の多角化の先進地であること、課題としては、後継者の育成と経営基盤の強化が挙げられる。

また、第2次産業については、当地区の労働者のうち29%が製造業に従事しており、機械系製造業を中心に県内有数の集積地であること、地元にも多様な農林畜産物があり、第1次産業の強みを活かして食品製造業が盛んであることが挙げられる。

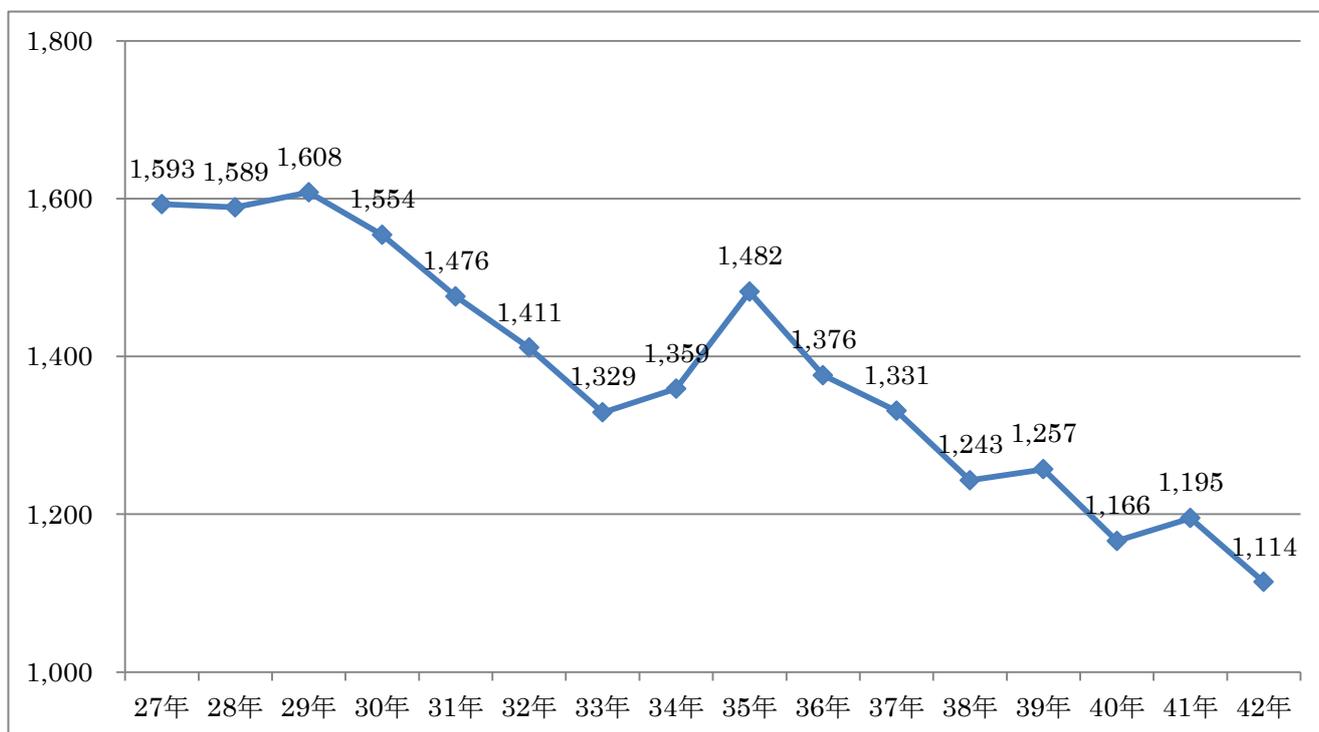
第3次産業では、蔵王等の観光資源に恵まれていることから、地域特性を活かした観光業に強みがあり、一方、課題としては、原発事故に伴う風評被害の払しょく、インバウンドの推進等が挙げられる。

2 南部地区における高校教育の状況

地区には、全日制高校として、白石高校、蔵王高校、白石工業高校、村田高校、柴田農林高校、柴田農林高校川崎校、大河原商業高校、柴田高校、角田高校及び伊具高校の10校がある。また、定時制高校として、白石高校七ヶ宿校及び大河原商業高校定時制の2校がある。

(1) 生徒数の推移

南部地区の中学校卒業生数の推移についてみると、平成28年3月の卒業生数は1,589人となっているが、平成42年3月卒業生数の見込みは1,114人となっており、14年間で475人の減（△30%）となっている。



※平成27年及び平成28年は実数値、平成29年～平成36年は学校基本調査（平成27年5月1日）における小中学校在籍者数、平成37年以降は住民基本台帳（平成27年4月1日）の年齢別乳幼児数をもとに、社会増減を考慮し推計したもの。

(2) 各高校の学科・充足率

全日制の学科構成をみると、普通科が5科（定員640人）、総合学科が2科（定員240人）、専門学科として、農業に関する学科が4科（定員160人）、工業に関する学科が5科（定員240人）、商業に関する学科が3科（定員200人）、看護に関する学科が1科（定員40人）、体育に関する学科が1科（定員40人）となっており、多様な学科の設置により、幅広い進路に対応できる状況となっている。

充足率をみると、地区全体では、平成28年度で95.4%となっているが、学校（学科）によりばらつきがある。同じく平成28年度で、白石高校、村田高校、柴田高校で100%となっているのに対し、蔵王高校では77.5%、伊具高校では76.7%と8割を切っている状況となっている。

学校名	平成29年度の募集定員等			充足率			一般入試出願倍率(後期)			
	学科	定員	クラス	H26	H27	H28	H26	H27	H28	3年平均
白石	普通科	240	6	100.0%	100.0%	100.0%	1.10	1.13	1.20	1.14
	看護科	40	1	100.0%	100.0%	100.0%	1.68	1.54	1.61	1.61
蔵王	普通科	80	2	65.8%	50.0%	77.5%	0.51	0.33	0.48	0.44
白石工	機械科	80	2	100.0%	92.5%	100.0%	1.09	0.81	1.02	0.97
	電気科	40	1	100.0%	80.0%	82.5%	1.32	0.38	0.50	0.73
	工業化学科	40	1	100.0%	100.0%	100.0%	1.14	0.83	1.58	1.18
	建築科	40	1	100.0%	100.0%	95.0%	1.21	1.29	0.88	1.13
	設備工業科	40	1	100.0%	100.0%	100.0%	1.03	1.33	1.79	1.38
村田	総合学科	120	3	98.3%	92.5%	100.0%	1.01	0.82	1.01	0.95
柴田農林	食農科学科・動物科学科	80	2	100.0%	100.0%	98.8%	1.13	1.23	1.04	1.13
	森林環境科・園芸工学科	80	2	100.0%	100.0%	98.8%	1.05	1.25	1.06	1.12
柴田農林川崎	普通科	40	1	97.5%	67.5%	87.5%	0.97	0.55	0.75	0.76
大河原商	流通マネジメント科	80	2	97.5%	100.0%	100.0%	0.98	1.13	1.29	1.13
	情報システム科	80	2	83.8%	100.0%	96.3%	0.59	1.06	0.77	0.81
	OA会計科	40	1	80.0%	95.0%	100.0%	0.71	0.92	0.71	0.78
柴田	普通科	120	3	100.0%	100.0%	100.0%	1.18	1.15	1.08	1.14
	体育科	40	1	100.0%	100.0%	100.0%	1.45	1.25	2.42	1.71
角田	普通科	160	4	90.0%	98.8%	95.6%	0.79	0.99	0.90	0.89
伊具	総合学科	120	3	89.2%	90.8%	76.7%	0.82	0.92	0.68	0.81
南部 計		1,560	39	93.9%	93.1%	95.4%	0.97	0.97	1.01	0.98

(3) 全日制高校の再編・学級減実施状況

平成13年度時点で12校、58学級あったが、中学校卒業生数の減少等により、学級減や再編統合の措置を行い、平成28年度には10校、39学級となっている。

(単位:1学年あたりの学級数)

年度	学校名												合計
	白石		白石工業	大河原商業	柴田農林	柴田	角田		村田	伊具	蔵王	柴田農林川崎	
	白石	白石女子					角田	角田女子					
H13 学級数	5	7	7	6	5	6	4	5	4	4	3	2	58
H14		▲1 普5 看1	▲1 電気▲1			▲1 普3 体2							▲3
H15								▲1 普通科4					▲1
H16	▲1 普通科4			▲1 OA▲1			▲1 普通科3						▲3
H17		▲1 普4 看1					再編統合 ▲1 普通科6						▲2
H18					▲1 学科改編				▲1 総合学科3				▲2
H19							▲1 普通科5						▲1
H20						▲1 普3 体1						▲1 普通科1	▲2
H21										▲1 総合学科3			▲1
H22	再編統合 ▲2 普通6 看護1					▲1 普4 体1							▲1
H23						▲1 普3 体1							▲1
H24													-
H25													-
H26													-
H27							▲1 普通科4						▲1
H28										▲1 普通科2			▲1
H13~H28 学級減計	▲5		▲1	▲1	▲1	▲2	▲5		▲1	▲1	▲1	▲1	▲19
H28 学級数	7		6	5	4	4	4		3	3	2	1	39

3 両校の状況

(1) 柴田農林高等学校

①学校の概要

明治41年に柴田郡立養蚕講習所として創立し、平成20年には創立100年を迎えた歴史と伝統のある農業高校である。平成18年度に食農科学科、動物科学科、森林環境科、園芸工学科の4学科4クラスの構成となり現在に至っている。

学校では、多様な産業界で活躍できるふるさと定住後継者の育成を目指し、地域や生徒の実態に即して、特色と魅力ある幅広い職業教育・職業準備教育を展開している。

②教育方針

21世紀に生きる国際的視野を持ち、社会の進展に寄与する人物を目指し、高い知性、豊かな情操、優れた道徳性と健康な体を持ち、さらに正義と勤労を愛し、人を敬うことのできる調和のとれた人間を育成する。

③教育内容

学科名	学習内容	将来想定している資格・進路
食農科学科	野菜、果樹の作り方を中心に学ぶ。さらに農作物を利用してジャムやうどん等をつくる食品製造、作った作物を販売するための流通やコンピューター等の学習も行う。(野菜班・果樹班) 【主な科目】 野菜、果樹、食品製造、食品流通、グリーンライフ 等	【資格】・危険物取扱者丙種(乙種) ・毒物劇物取扱者 【進学】・農業・園芸系 【就職】・食品製造会社 ・園芸店 ・青果物卸売関連会社 ・食料品販売店 ・農協 等
動物科学科	動物(家畜)たちの習性・生理・飼育管理、そして関連する生産物の加工や流通について学ぶ。また、実験動物や愛玩動物(ペット)についても学習する。(畜産班・実験動物班) 【主な科目】 畜産、動物バイオテクノロジー、実験動物、動物科学、食品製造 等	【資格】・危険物取扱者丙種(乙種) ・毒物劇物取扱者 ・愛玩動物飼育管理士準2級 【進学】・畜産、動物飼育、自然環境系 【就職】・畜産系会社 ・ペットショップ ・介護福祉施設 ・食品製造等
森林環境科	大切な自然環境を守るため、木を育てる育林や森林の管理、森林から得られる木材の加工、きのこの栽培を学習する。また、緑のある生活空間(公園・庭園)の創造と造園技術などを学習する。(森林班・造園班) 【主な科目】 造園環境、測量、林産加工、造園計画、農業土木基礎 等	【資格】・レンタル検定 ・トレース検定 【進学】・森林環境系 ・造園緑地系 【就職】・営林署 ・造園会社 ・測量会社 ・建設会社 ・園芸店 ・DIY会社 等
園芸工学科	温室で草花の栽培や、バイオテクノロジーについて学習する。また、その活用方法についても学習する。(草花班・植物バイオテクノロジー班) 【主な科目】 草花、植物バイオテクノロジー、園芸施設、生物活用、食品流通 等	【資格】・危険物取扱者丙種(乙種) ・毒物劇物取扱者 【進学】・園芸系 ・農業系 【就職】・公務員 ・種苗会社 ・園芸店 ・農業肥料会社 ・食品会社 等

④特徴的な取り組み

○くくり募集とミックスホームルーム

入試では、4学科を生産技術系の「食農科学科」「動物科学科」と環境技術系の「森林環境科」「園芸工学科」の2つに分けくくり募集を行っている。入学後に学科の内容をより深く理解して学科を選択できること、ミックスHRで人間関係が広がるというメリットがある。

○基礎学力の定着と学力の向上

1年で学校設定科目「ベーシック読書術」「ベーシック算術」(各1単位)を実施し、高校の授業が『わかる』ことを目指して国語と数学の基礎をドリル形式で学んでいる。定着の度合いは、年3回実施する基礎力診断テストで測定し、取組の改善に繋げている。

○町の中心部にある県内に3校しかない農業単独の専門高校

最寄駅から徒歩10分、町の中心部で住宅地に隣接した農業高校であり、農場は圃場が住宅地に面しており、年中公開された状態にある。だからこそ、臭いや音などの環境に配慮した取り組み、学校公開や学習成果の公開・成果物の販売に力を入れている。

○県内唯一の林業・造園を学べ、仙南地区唯一の土木が学習できる学科

森林環境科は育林や森林の管理、林産加工を学ぶ森林班と公園や庭園の設計・施工、造園技術を学ぶ造園班に分かれて学習する。また、青根には90haの演習林を有しており、1年を通して実習に活用している。

○地域になくてはならない学校を目指して(地域に密着した農場生産物販売会)

5月中旬の「苗販売」、10月下旬の柴農祭での「農場生産物販売」、11月下旬の「シクラメン販売」の3回が校内での販売会である。どの販売会も問合せや来校者が大変多く、恒例行事として地域の方々から認識されている。この他、生徒の訪問販売実習も好評である。

○地域になくてはならない学校を目指して(積極的な地域貢献活動・ボランティア活動)

- ・ 地域ボランティア : 桜の天狗巣病枝剪除作業、角田市ゆうゆうホーム交流会等
- ・ 震災復興ボランティア : 岩沼海岸植樹会、千年希望の丘育樹祭、抵抗性クロマツ苗増殖等
- ・ 交流会 : 船岡支援学校交流会、幼稚園・保育園・小学生の遠足(芋ほり、農場見学)等

⑤進路の状況

	大学	短期大学	専各学校	就職(県内)	【うち仙南地区就職】	就職(県外)	その他
H25 【123人】	5人(4.1%)	1人(0.8%)	22人(17.9%)	85人(69.1%)	【29人(34.1%)】	7人(5.7%)	3人(2.4%)
H26 【113人】	5人(4.4%)	0人(0.0%)	21人(18.6%)	76人(67.3%)	【25人(32.9%)】	11人(9.7%)	0人(0.0%)
H27 【130人】	3人(2.3%)	0人(0.0%)	29人(22.3%)	90人(69.2%)	【34人(37.8%)】	8人(6.2%)	0人(0.0%)

※仙南地区就職については、白石市、角田市、蔵王町、七ヶ宿町、大河原町、村田町、柴田町、川崎町、丸森町の2市7町の区域内に就職した生徒の数である。

(2) 大河原商業高等学校

①学校の概要

大正 11 年に大河原町立実科高等女学校として創立し、昭和 48 年に現在の校名に改称となった。平成 12 年度からは学科を改編し、従来の商業科、経理科、情報処理科、流通経済科の 4 学科を流通マネジメント科、情報システム科、OA 会計科に再編成した。現在は、3 学科 5 クラスの編成となっている。

県立の商業高校としては最大規模の学校であり、多くの卒業生を各界に輩出している。

②教育方針

(校是)「文質彬彬(ぶんしつひんぴん)」出典 論語「雍也(ようや)」篇

意味するところは、「外面に現れた美しさ(文)と、内面の美しさ(質)とが、程よく調和し、共に備わっていること」である。

③教育内容

学科名	学習内容	将来想定している資格・進路
流通 マネジメント 科	マーケティング分野に関連する科目を中心とした学習内容が組み まれ、多くの実習を通して販売の知識や技術、コミュニケーション能 力など、様々なビジネスの諸活動に適應できる幅広い職業人の 育成を目指す。 【主な科目】 マーケティング、ビジネス実務、商品開発、国際ビジネス 等	【日本商工会議所】・販売士 【全国商業高等学校協会】 ・簿記実務 ・ビジネス文書 ・ビジネスコミュニケーション ・商業経済 ・情報処理 ・英語 ・珠算・電卓
情報 システム科	様々な情報を処理し活用する能力を育て、特にコンピューターに 関する知識と技術を習得させ、高度情報通信ネットワーク社会に 対応する専門的な知識コミュニケーション能力など様々なビジネ スの諸活動に適應できる幅広い職業人の育成を目指す。 【主な科目】 プログラミング、ビジネス情報、ビジネス情報管理 等	【経済産業省主催】 ・基本情報技術者 ・IT パスポート 【全国商業高等学校協会】 ・情報処理 ・簿記実務 ・商業経済 ・ビジネス文書 ・英語 ・珠算・電卓
OA会計科	簿記やパソコンに関する知識と技術を習得させ、進展 OA(Office Automation)化社会に対応したビジネスに関する総合的な能力・態 度の育成を目指す。 【主な科目】 財務会計 I、原価計算 等	【日本商工会議所】・簿記 【全国経理教育協会】・簿記 【全国商業高等学校協会】 ・ビジネス文書 ・商業経済 ・情報処理 ・英語 ・珠算・電卓

④特徴的な取り組み

○大商ブランド(DAISHO BRAND)

全校あげて「大商ブランド」を目指した取組を行っている。そのねらいは企業や大学、そして地域社会等から確かな信頼を得ること、生徒の進路目標を実現することにある。そのためには、部活動をとおして「体力・気力・社会性」を、教養では「基礎学力・知性」を、資格取得では「専門知識・技能」を、規律ある生活からは「生活習慣・マナー」の 4 分野の能力・態度を育成することが重要と考えている。

○部活動の成果

・運動部

平成 27 年度の仙南地区高校総体で女子ソフトボール部、男子ソフトテニス部、女子卓球部が優勝した。このほかに、陸上競技部「女子走り幅跳び」、水泳部「女子個人メドレー200M、同 400M」が東北大会へそれぞれ出場を果たした。

・文化部

ワープロ部の活躍がめざましく、県大会（団体の部）で優勝 19 回、県大会個人の部で優勝 20 回を数える実績があり、平成 17 年には全国優勝を成し遂げている。平成 27 年度も県大会では団体と個人の部で優勝し、東北・全国大会へ出場した。

・ギター部

過去 38 年間全国大会に連続出場し、最優秀賞 20 回、特別金賞 7 回、金賞 6 回を受賞した実績と伝統がある。地域の皆様をはじめ多くの方々から親しまれている。定期演奏会（毎年 1 月）では、町民をはじめ県内外から多数の聴衆が訪れる。

○教養を深める取り組み

平成 21 年度から始業前の朝読書を実施しているが、平成 27 年 10 月からは朝読書 2 日間、朝自習 3 日間（国語、数学、英語）を実施している。取組状況は良く、知性と基礎学力が着実に向上している（業者テストで検証済み）。平成 28 年度からは一層学力向上に努めることとし、他校に先駆けて新たなシステムを導入して全校を挙げて取り組む計画である。

○資格取得

各学科の教育目標・特色に応じてより高度な資格取得を目指している。県内でもトップクラスの合格率となっている。

■流通マネジメント科：「日商リテールマーケティング検定（販売士検定）」「全商簿記」「全商ビジネスマン」等

■情報システム科：「基本情報技術者」「ITパスポート」「全商情報処理 1 級」「全商簿記」「全商ビジネスマン」等

■OA会計科：「日商簿記 2 級」「全経簿記上級」「全商簿記」「全商ビジネスマン」等

○その他の特色ある教育活動（企業等と連携した商品開発・販売活動）

・カルビー（株）の指導を受けて開発したポテトチップスの販売活動

大河原の特産である梅と美里町などの農家が生産した芋を使用した商品である。県内外の生協をはじめ多くの店で販売してもらい、たくさんのお客が買い求めるなど大変好評であった。

・（株）ウェルネス伯養軒との弁当の共同開発

四季折々の弁当の開発をし、主に空港売店で販売したほか、会議等の参加者向けの販売を行った。夏バージョンの弁当の販売は特に好評であった。平成 28 年度も昨年の課題を踏まえて実施に向けて検討中である。

⑤進路の状況

	大学	短期大学	専各学校	就職(県内)	【うち仙南地区就職】	就職(県外)	その他
H25 【198 人】	13 人 (6.6%)	9 人 (4.6%)	46 人 (23.2%)	111 人 (56.1%)	【37 人(33.3%)】	13 人 (6.6%)	6 人 (3.0%)
H26 【192 人】	15 人 (7.8%)	5 人 (2.6%)	45 人 (23.4%)	114 人 (59.4%)	【43 人(37.7%)】	11 人 (5.7%)	2 人 (1.0%)
H27 【184 人】	18 人 (9.8%)	11 人 (6.0%)	42 人 (22.8%)	90 人 (48.9%)	【37 人(41.1%)】	18 人 (9.8%)	5 人 (2.7%)

※仙南地区就職については、白石市、角田市、蔵王町、七ヶ宿町、大河原町、村田町、柴田町、川崎町、丸森町の 2 市 7 町の区域内に就職した生徒の数である。

4 魅力ある新たな職業教育拠点校のあり方について

南部地区において想定される生徒数の減少等を踏まえて、大河原町内にある2つの専門高校を再編し、地域のニーズを踏まえた魅力ある高校づくりを推進するため、新たな職業教育拠点校を設置することとした。その目的は以下のとおりである。

- 専門的な知識や技術を持ち、地域産業を担う人材の育成
- 6次産業化を軸とした学科間連携による発展的な専門教育の展開
- 地域産業や地域社会との連携・交流の充実及び地域ブランドの創出等を通じた地域振興への貢献

「大河原地域における高校のあり方検討会議」では、検討項目を（1）今後の農業教育・商業教育について、（2）新しい学校に期待すること、（3）魅力ある学校づくりに向けた地域との連携等について、（4）新しい学科について、と設定し検討を行った。

（1）今後の農業教育・商業教育について

①農業教育

柴田農林高等学校では、平成18年度より食農科学科、動物科学科、森林環境科、園芸工学科の4学科構成とし、多様な産業界で活躍できるふるさと定住後継者の育成を目指し、地域や生徒の実態に即して、特色と魅力ある幅広い職業教育及び職業準備教育を展開している。

今後の農業教育に関して、検討会議において出された主な意見は以下のとおりである。

- 6次産業化への取組の推進
- マーケティングの手法や流通に関するノウハウの導入
- 大学や農業関連団体などと連携した取組の推進
- 専門性の向上

②商業教育

大河原商業高等学校では、平成12年度より流通マネジメント科、情報システム科、0A会計科の3学科構成とし、卒業後にビジネス界で活躍する生徒及び大学等で専門的に学ぶ力を発揮する生徒の育成を目指している。「規律」、「教養」、「資格取得」、「部活動」の4つの分野に重点的に取り組み、「大商ブランド」の強化を図っている。

今後の商業教育に関して、検討会議において出された主な意見は以下のとおりである。

- 就職，進学双方に対応できる学校づくりの推進
- ITに関する知識やネットビジネスに関する知識の導入
- より高度な資格取得の促進
- ビジネススペシャリストの育成

③農業・商業共通

大河原町内にある2つの専門高校を再編し、農業と商業を融合させた魅力ある学校づくりを目指し、新たな「職業教育拠点校」を新設することから、検討会議においては、農業と商業をつなぎ、発展させるための有効な手法についての意見交換を行った。主な意見は以下のとおりである。

- 各専門分野の基礎・基本知識の確実な定着の促進
- 大学，地域の企業及び関係団体等との連携の促進
- 外国語によるコミュニケーション能力や情報の処理能力の育成
- ネットビジネスのノウハウやマーケティングの力をもった人材の育成
- デザイン力を活用した付加価値のある商品開発能力の養成
- インターネットを活用した販売戦略，企画能力の養成

(2) 新しい学校に期待すること

検討会議において、新たな「職業教育拠点校」に期待することについて意見交換を行った。主な意見は以下のとおりである。

- 時代のリーダーシップをとっていけるような学校
- 全国に先駆けるような学科や指導内容
- ITを活用した教育活動や6次産業化に向けた取組
- 地域との連携が図られ，地域とともにある学校
- 地域に貢献できる人，さらに日本全体に貢献できる魅力ある人材の育成
- 海外を視野に入れた語学力や情報，デザイン等も勉強できる学校

(3) 魅力ある学校づくりに向けた地域との連携等について

学校と地域との連携については、高等学校学習指導要領（平成 21 年 3 月）や国の第 2 期教育振興基本計画（平成 25 年 3 月）においても、活力あるコミュニティの形成に向けて、学校と地域社会や産業界等が連携、協働した教育活動の充実について謳われており、各学校においても様々な取組がされているところである。

学校と地域との連携に関して、検討会議において行った意見交換の主な内容は以下のとおりである。

- 自身の生まれ育った地域の価値を高め、町づくりを推進しようとする志を持った人材の育成
- 地域の魅力に興味関心を持つ子どもの育成
- 地域への貢献、地域との連携及び地域のことに関する学びの推進
- 高校も含め地域が一体となった情報発信の取組
- 地域の方々を学校に呼び込む
- 店舗運営など地域の方々に学校の取組が見えるような場所の設置
- 高校と地域及び地域外の企業、小中学校、大学等との連携の促進

(4) 新しい学科について

新たな「職業教育拠点校」における農業と商業を結ぶ新しい学科について、検討会議において意見交換を行ったところ、「両校の伝統とそれぞれの分野での強みを活かす学科や地域社会が発展できるような学科」、「地域の担い手となる生徒を育成できるような学科」といった意見が出された。具体的な学科としては、「情報系の学科」、「デザイン系の学科」、「外国語系の学科」、「国際ビジネスの学科」、「(地域)ブランド学科」が挙げられた。

検討の結果、下記の理由により、新学科を『デザイン系学科』とした。

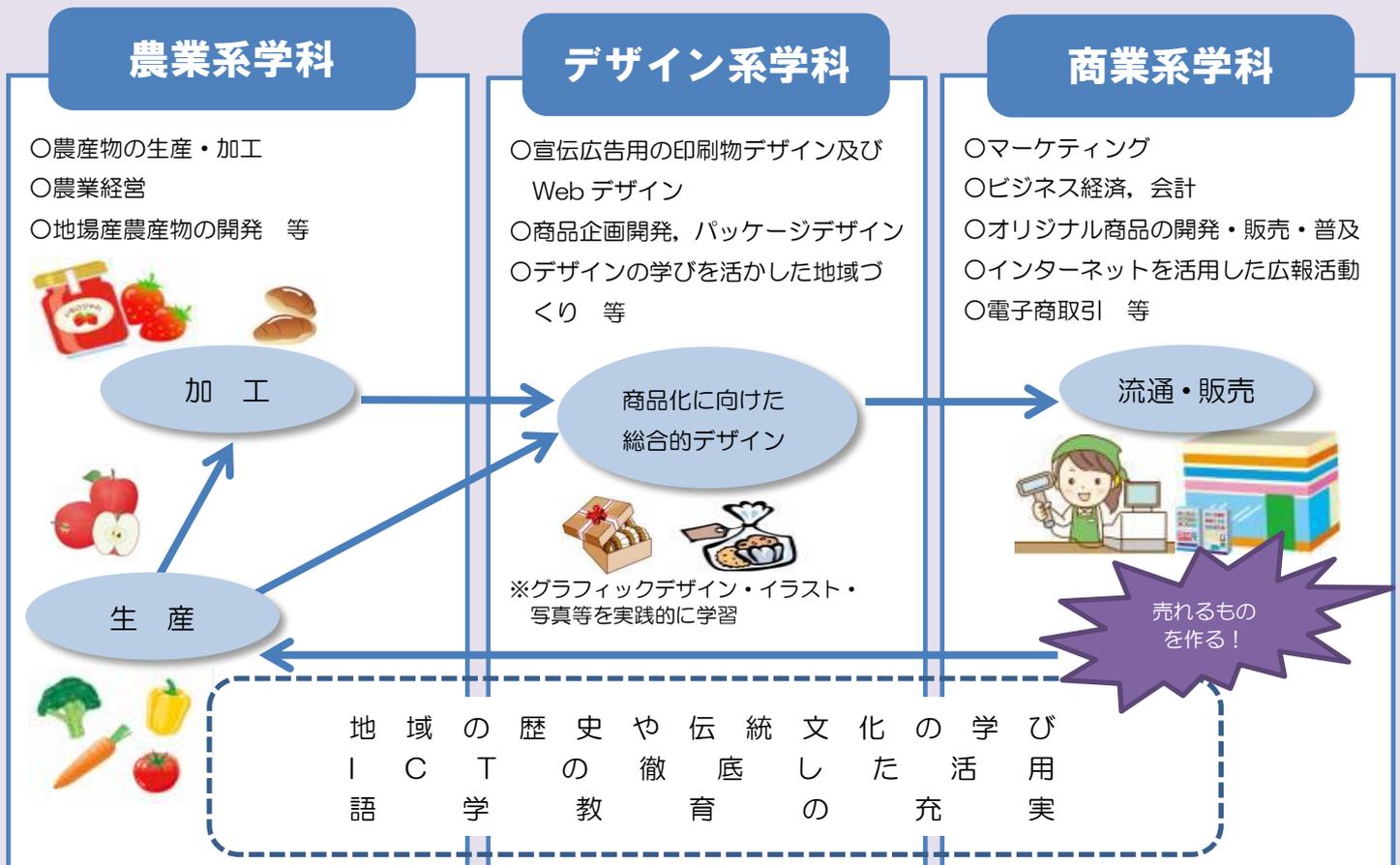
- ① 6次産業化をキーワードとして、農業、商業との連携が幅広く考えられること
- ② これまで南部地区にない新たな学科となることで、子どもたちにとって、学校選択の幅が広がること
- ③ 学校全体として、再編が目指す「地域ブランドの確立を通じた地域振興への貢献」に沿うこと

魅力ある新たな職業教育拠点校の設置

学校全体で『地域ブランドの確立』を通じた 地域振興への貢献を目指す

3学科が連携することで『6次産業化』の一体的・循環的な学びの構築が可能

3学科連携のイメージ



地域連携機関

- ・大学, 各種専門学校等
- ・地元自治体
- ・地元商工会議所, 商工会
- ・地元企業 (6次産業に取り組む企業, 農業法人, 広告・出版・印刷会社等)
- ・県関係機関

※ 学科の名称や学習内容等の詳細については, 各学科の教員代表及び県教委で構成する「統合校教育基本構想検討会議」で別途検討する。

○各学科の概要

農業系学科

農業の各分野に関する基本的・基礎的な知識を習得し、農業に関する社会的な意義や役割を理解するとともに、地域を支える農業の持続及び安定化に向けて創造的な能力と実践的な態度の育成を図る。

学科概要

- 農業分野の知識及び技術を習得し、農業の各分野で活躍できる人材を育成
- 商業・デザイン系学科との連携を通して「モノづくり」に貢献できる人材を育成
- 地域の魅力を発掘してブランドを創出し、発信できる人材を育成

学習内容

- 農業の経営と食品産業に関する分野
- バイオテクノロジーに関する分野
- 環境の創造と素材生産に関する分野
- ヒューマンサービスに関する分野 等

資格・検定

- 毒劇物取扱者 ○ 危険物取扱者 ○フォークリフト運転技能講習 ○玉掛け技能講習
- 小型車両系建設機械運転特別教育 ○アーク溶接特別教育 ○ガス溶接技能講習 等

卒業後の進路

- 進学：国公立・私立大学の農業系の学科，専門学校 等
- 就職：農業協同組合，食品関連企業，木材関連企業，自治体 等

商業系学科

商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、ビジネスの意義や役割について理解するとともに、地域経済社会を支え、発展へつなげる創造的な能力と実践的な態度の育成を図る。

学科概要

- 商業分野の知識及び技術を習得し、商業の各分野で活躍できる人材を育成
- 農業・デザイン系学科との連携を通して「モノづくり」に貢献できる人材を育成
- 地域の魅力を発掘してブランドを創出し、発信できる人材を育成

学習内容

- マーケティングに関する分野
- ビジネス経済分野
- 会計分野
- ビジネス情報分野 等

資格・検定

- 日商リテールマーケティング検定(販売士検定) ○ 全商簿記 ○日商簿記 ○全商ビジネス文書
- 基本情報技術者 ○ITパスポート ○全商情報処理 等

卒業後の進路

- 進学：国公立・私立大学の商業系等の学科，専門学校 等
- 就職：銀行，商工会，一般企業(職種:経理等)，自治体 等

デザイン系学科

私たちのライフスタイルと密接に関わる「デザイン」の学習を通して、柔軟な発想や確かな技術、行動力等を持った人間性豊かなデザイナーの育成を目指し、将来、デザイン関係の職域で活躍できる人材を育成する。

さらに、6次産業化を軸とした農業・商業学科との連携による教育を展開する中で、「モノづくり」を通して社会や地域に貢献し活躍できる人材の育成を図る。

学科概要

- デザインに関する専門的技術者を育成
- 農業・商業学科との連携を通して「モノづくり」に貢献できる人材を育成
- 地域の魅力を発掘してブランドを創出し、発信できる人材を育成

学習内容

- 宣伝広告等印刷物に関するグラフィックデザイン及びWebデザイン
- 商品企画開発や商品化に向けた企画デザインなど、付加価値の高い商品・作品づくり
- デザインの学びを活かした地域づくり

資格・検定

- グラフィックデザイン検定 ○レタリング技能検定 ○カラーコーディネーター検定
- トレース技能検定 ○情報技術検定 ○基礎製図検定 ○パソコン利用技術検定
- 初級 CAD 検定 等

卒業後の進路

- 進学：国公立・私立大学のデザイン系の学科，専門学校 等
- 就職：広告・出版・印刷関連企業，一般企業（職種：グラフィックデザイナー，販売・POP制作，宣伝広告物制作等），自治体 等

※各学科の記載内容は例示であり、今後の検討の状況によっては変更になる場合もある。

資料編

資料編目次

○ 新県立高校将来構想における県立高校再編計画について	1
○ 各地区の中学校卒業者数の見通し	3
○ 南部地区各高校の学科，系列，類型及び教育内容	4
○ 柴田農林高校の概要	7
○ 大河原商業高校の概要	8
○ 大河原地域における高校のあり方検討会議開催要綱	9
○ 大河原地域における高校のあり方検討会議開催経過	11

○新県立高校将来構想における県立高校再編計画について

1 将来構想及び計画の概要

本県では、時代のニーズや少子化に対応した高校教育改革の方向性及び高校の再編整備の方針を示すものとして、平成13年3月に「県立高校将来構想（H13～22）」を、平成22年3月に「新県立高校将来構想（H23～32）」を策定し、高校教育の一層の充実及び計画的な高校再編整備を実施している。

「新県立将来構想」においては、教育改革及び高校の再編整備を着実に推進するため、5年間で単位とした実施計画を策定するとともに、社会の変化等に対応するため、原則的に3年毎にローリングしていくこととしている。

第1次実施計画 平成23年度～平成27年度（公表時期：平成21年度）

第2次実施計画 平成26年度～平成30年度（公表時期：平成24年度）

第3次実施計画 平成29年度～平成32年度（公表時期：平成28年度）

2 再編の基本的考え方

中学校卒業生数の減少への対応と高校教育としての適正規模の確保という観点から、学校の統廃合や学級減を行ってきたが、今後も引き続き中学校卒業生数の減少が見込まれることから、大幅な学級数の削減が必要になっている。

現在、県立高校1校当たりの学級数が減少し、特に中部地区以外の学校は、小規模校化しており、今後の学校配置については、統合を含めた再編が避けられない状況である。

そうした中でも、以下の点に配慮しながら、地域の教育的ニーズを十分踏まえ、未来を担う人づくりに適した教育環境や教育内容の整備・充実を図る。

（1）地域との関わり

地域における高校の存在は、まちづくりのあり方や企業誘致、住民の定着という側面も持ち合わせていることから、地域における高校の役割や期待等も十分に踏まえる。

（2）機会均等への配慮

地域の交通の利便性や通学可能エリアの設置校、設置学科などを勘案しながら、学校・学科等の選択機会の確保に配慮する。

（3）活力維持や教育機能を十分に発揮し得る学校規模

十分な教育効果を上げるためのカリキュラム編成や課外活動の充実、また生徒間の多様な個性が触れ合う場や切磋琢磨の機会を確保する必要があることから、一定の学校規模の維持を図りながら学校の活力を維持する。

(4) 市立高校・私立高校との協調

県立高校のあり方については、市立高校・私立高校の設置者と協調しながら中学校卒業生数の減少に対応していく。

(5) 小規模校への対応

小規模校については、カリキュラム編制や部活動の展開など課題もあることから、1 学年 2 学級（80 名）を維持できない学校については、原則的に統廃合による再編を進める（分校は 1 学級）。

3 これまでの再編整備

(1) 第 1 次実施計画（H23～27）

- ・中部地区における通信制高校の独立校化（宮城県美田園高校の新設（H24. 4 開校））
- ・登米地区における総合産業高校の新設（上沼高校・米山高校・米谷工業高校・登米高校(商業)を再編統合し、宮城県登米総合産業高校を新設（H27. 4 開校））
- ・石巻地区における高校の計画的な再編（宮城県女川高校の募集停止（H26. 3 閉校））

(2) 第 2 次実施計画（H26～30）

- ・防災系学科の新設（宮城県多賀城高校に災害科学科を新設（H28. 4））
- ・観光系学科の新設（宮城県松島高校に観光科を新設（H26. 4））
- ・宮城県水産高校海洋総合科の拡充（H26. 4）

(3) 第 2 次実施計画（追加）

- ・栗原地区における機械系学科の再編（迫桜高校に機械系科目を拡充し、岩ヶ崎高校創造工学科（鶯沢校舎）を募集停止（H28. 4））
- ・本吉地区における高校の再編（気仙沼高校と気仙沼西高校を再編統合（H30. 4 開校））

○各地区の中学校卒業生数の見通し（中等教育学校を含む。社会増減を考慮したもの。）

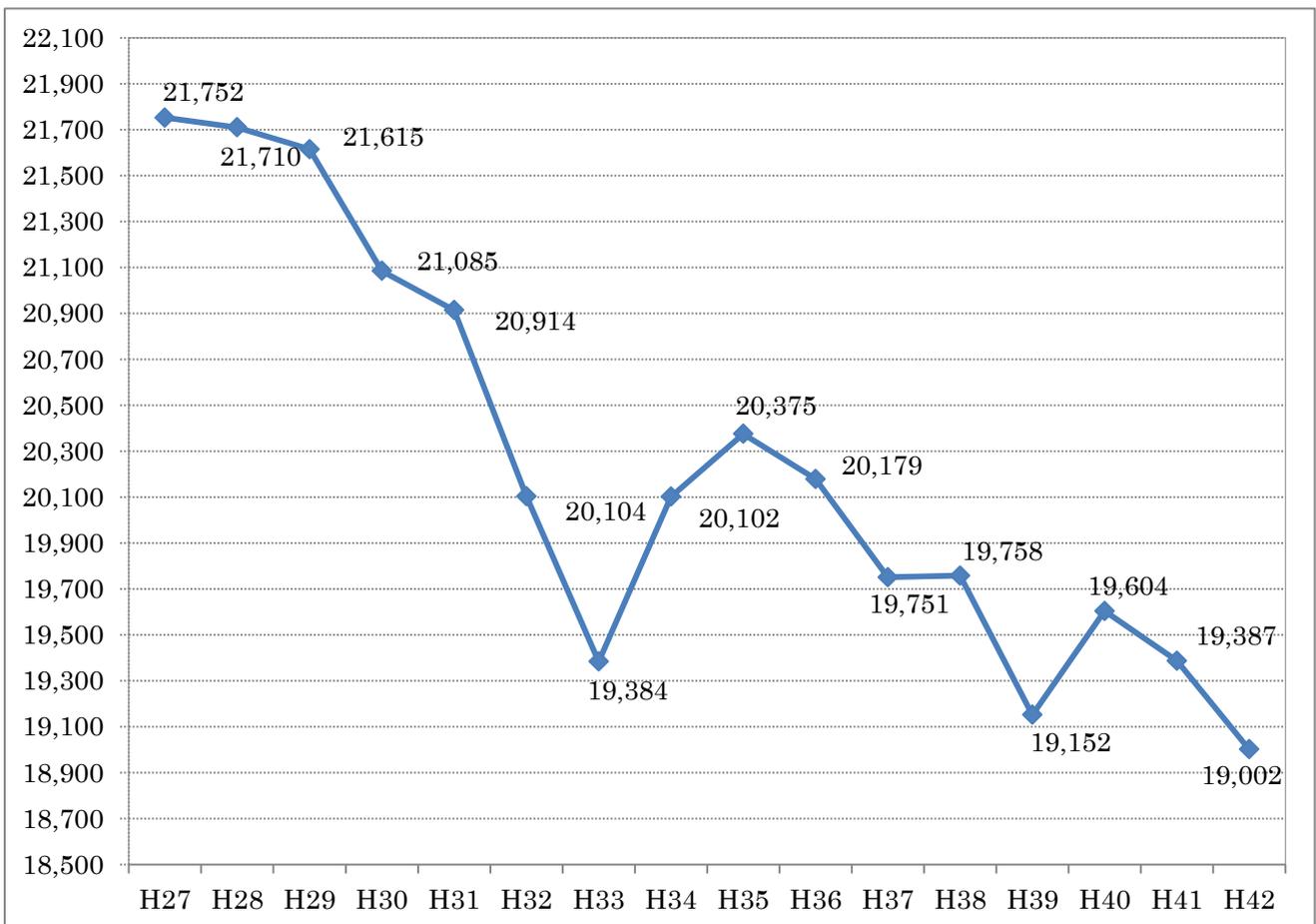
地区別推移

(単位:人)

卒業年 地区	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H27~H42 減少数
	高1	中3	中2	中1	小6	小5	小4	小3	小2	小1	5歳	4歳	3歳	2歳	1歳	0歳	
南部地区	1,593	1,589	1,608	1,554	1,476	1,411	1,329	1,359	1,482	1,376	1,331	1,243	1,257	1,166	1,195	1,114	△ 479
中部地区	14,225	14,264	14,129	13,842	14,019	13,395	13,204	13,810	13,900	14,095	13,903	14,031	13,615	14,110	14,021	13,877	△ 348
大崎地区	1,876	1,989	1,959	1,912	1,868	1,843	1,751	1,778	1,771	1,666	1,664	1,626	1,582	1,598	1,544	1,433	△ 443
栗原地区	614	570	594	560	531	505	472	484	491	455	409	432	435	399	410	335	△ 279
登米地区	754	771	759	746	716	714	631	657	655	633	627	631	569	609	534	559	△ 195
石巻地区	1,932	1,798	1,848	1,775	1,666	1,619	1,452	1,480	1,547	1,449	1,366	1,331	1,289	1,323	1,276	1,254	△ 678
本吉地区	758	729	718	696	638	617	545	534	529	505	451	464	405	399	407	430	△ 328
全県	21,752	21,710	21,615	21,085	20,914	20,104	19,384	20,102	20,375	20,179	19,751	19,758	19,152	19,604	19,387	19,002	△ 2,750
対前年度	△ 274	△ 42	△ 95	△ 530	△ 171	△ 810	△ 720	718	273	△ 196	△ 428	7	△ 606	452	△ 217	△ 385	

平成27年及び平成28年は実績値，平成29年～平成36年は学校基本調査（平成27年5月1日）における小中学校在籍者数，平成37年以降は住民基本台帳（平成27年4月1日）の年齢別乳幼児数をもとに，社会増減を考慮し推計したもの。

全県推移



○南部地区の各高校の学科，系列，類型及び教育内容

学校名	学科・系列	教育内容
白石	普通科	<ul style="list-style-type: none"> ・進学重視型単位制 ・地域の進学重点校(指定校) ・難関大学を含む国公立大学進学への対応 ・多くの選択科目，少人数授業，習熟度別学習 ・先進的英語教育充実支援事業拠点校(文科省指定)
	看護科	<ul style="list-style-type: none"> ・5年一貫教育(高校課程3年，専攻科課程2年) ・5年間の学習により，自覚と誇りある看護師の育成 ・専攻科を修了した段階で看護師国家試験受験資格
蔵王	普通科	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数授業，習熟度別授業，T・T ・介護職員初任者研修の資格取得 ・アントレプレナーシップ教育(起業家教育) ・MAP(みやぎアドベンチャープログラム)事業実践校 ・幅広い教養を身につける科目(茶道・華道・手話・中国語など)を学校独自に設定
白石工業		<ul style="list-style-type: none"> ・ 県南唯一の工業高校 ・ T・T指導体制及び習熟度別授業 ・ 専門性の知識と技術の習得 ・ 東北工業大学と高大接続事業 ・ 一般市民対象開放講座 ・ 資格取得推奨
	機械科	<ul style="list-style-type: none"> ・機械を用いた作品制作や機械の設計デザインなどに関する知識や技術についての学習 ・製造・整備・企画・設計・研究・営業などの業務に従事する技術者の養成
	電気科	<ul style="list-style-type: none"> ・電気を発電所のようなスケールの大きいものから携帯電話やパソコンなどの端末機器に関するレベルまで幅広く学習 ・電子技術やインフォメーション・テクノロジーに対応するため，将来幅広い分野で活躍できる人材の養成
	工業化学科	<ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりを基礎の学習 ・環境や安全についての学習
	建築科	<ul style="list-style-type: none"> ・使いやすい間取計画・設計方法，建築の構成や材料の特性，建築工事の方法などについて，実習・製図などの実技を通じた学習 ・建築物の設計・施工・監理・指導などの業務に従事する技術者の養成
	設備工業科	<ul style="list-style-type: none"> ・建築物に必要な空調和の整備(冷房・暖房・空気清浄など)・給排水・衛生設備(汚水浄化など)等に関する設計施工，保守管理など理論や技術についての学習 ・空調和・給排水・衛生設備などの計画・設計・施工・管理・保全などの業務に従事する技術者の養成
村田 (総合学科)		<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる進路に対応した教育課程 ・ インターンシップ ・異校種(小中)や地域連携 ・ 資格取得推奨
	大学文系・公務員	<ul style="list-style-type: none"> ・普通教科の科目を中心とした学習
	福祉系	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉，家庭，看護の専門的な学習を通じた介護職や福祉サービスに従事する人材の育成 ・介護職員初任者研修の資格取得
	商業系	<ul style="list-style-type: none"> ・一般常識や学力を身につける普通教科に加え，事務処理能力を高めるため商業の専門科目を学習し，ビジネスの諸活動に適應できる人材の育成
	工業系	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い工業科目を中心とした学習を通じた機械製造系で活躍できる人材の育成

学校名	学科・系列	教育内容
柴田農林		<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な産業界で活躍できるふるさと定住後継者の育成 ・ 地域や生徒の実態に即した特色と魅力ある幅広い職業教育・職業準備教育を展開 ・ 「学び直し」の実施(ベーシック読書, 算術の設置) ・ 川崎校との連携 ・ 資格取得推奨
	食農科学科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 野菜, 果樹の作り方を中心に学習 ・ 農作物を利用したジャムやうどん等の食品製造 ・ 作物を販売するための流通, コンピュータの学習
	動物科学科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動物(家畜)の習性・生理・飼育管理, さらに関連する生産物の加工や流通の学習 ・ 実験動物や愛玩動物(ペット)の学習
	森林環境科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 木を育てる育林や森林管理, 森林から得られる木材の加工, きのこと栽培の学習 ・ 緑のある生活空間(公園・庭園)の創造と造園技術の学習
	園芸工学科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 温室における草花の栽培や, バイオテクノロジーの学習
柴田農林川崎	普通科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全人教育を目指す ・ 「学び直し」の充実(学校設定科目「ベーシックJEM」) ・ 基礎学力向上のための少人数習熟度別授業(国・数・英) ・ 理科教育充実と普通教育に関する科目拡充 ・ 農業高校の分校であることを生かした農業学習 ・ 地域ボランティア ・ 平成28年度より岩沼高等学園川崎キャンパス併設
大河原商		<ul style="list-style-type: none"> ・ 「規律」「教養」「資格取得」「部活動」を重点的取組とした大商ブランドの強化 ・ 企業と提携し, 特産品を使った商品開発・販売(商業研究グループ) ・ 資格取得推奨
	流通マネジメント科	<ul style="list-style-type: none"> ・ マーケティング分野に関連する科目を中心とした学習 ・ 多くの実習を通して販売の知識や技術, コミュニケーション能力など, 様々なビジネスの諸活動に適應できる幅広い職業人の育成
	OA会計科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 簿記やパソコンに関する知識と技術の習得 ・ 進展OA(Office Automation)化社会に対応したビジネスに関する総合的な能力・態度の育成
	情報システム科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な情報を処理し活用する能力を育て, 特にコンピュータに関する知識と技術の習得 ・ 高度情報通信ネットワーク社会に対応する専門的な知識, コミュニケーション能力など, 様々なビジネスの諸活動に適應できる幅広い職業人の育成
柴田	普通科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 習熟度別授業(数学・英語) ・ 課外講習 ・ インターンシップ
	体育科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学力と競技力を兼ね備えたスポーツエリート育成 ・ スポーツで全国レベルの活躍ができる人材の育成 ・ 午前中は普通教科の学習, 午後は専門科目と部活動 ・ 寮の設置 ・ 仙台大学と高大接続事業
角田	普通科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の進学重点校(指定校) ・ 米国デラウェア州ドーバー高校と姉妹校締結, アメリカ短期研修の実施 ・ 45分授業を1日7コマ, 週35コマの時間割設定 ・ 習熟度別授業(英語・数学) ・ チャレンジタイム(早朝学習)の実施

学校名	学科・系列	教育内容
伊具（総合学科）		<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合職業高校のカリキュラム ・ インターンシップ ・ 資格取得推奨 ・ 公務員及び進学者に対する課外講習（対策講座） ・ ICTを活用した専門高校生地域定着促進事業（指定）
	農学系列	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域性を生かした農業生産及びその活用に関する知と技術の習得 ・ 自営者育成や関連企業への就職，農業関連大学・短大への進学を目指す
	機械系列	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンピュータ制御による最新工作機械（NC・MC）の操作，溶接・旋盤技術，設計・製図及び企業のFA化（工場の自動化）に関する知識の習得 ・ 関連企業への就職や工学関係大学・短大への進学を目指す
	福祉系列	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢化社会に対応した心身ともに健康で豊かな生活を支えるための知識と技術・態度の習得 ・ 介護職員初任者研修の資格取得 ・ 福祉実習を通して総合的・実践的な能力を高め，看護・福祉・家政に関する分野への就職や進学を目指す

【定時制】

学校名	学科・系列	教育内容
白石 七ヶ宿校	普通科【昼】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3年間で卒業（4年間での卒業も可） ・ 地域社会に貢献できる有為な人材の育成 ・ 少人数授業（国語・数学・英語） ・ 「学び直し」の内容を盛り込み，基礎学力定着徹底 ・ インターンシップ（職場体験学習）の全学年実施
大河原商業	普通科【夜】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少人数授業 ・ 普通科の科目を中心に，商業科目も学習 ・ 補食給食

○柴田農林高校の概要

(1) 学校の沿革

MT41	柴田郡立蚕業講習所(後に柴田郡立農業講習所, 柴田郡立柴田農学校へと改称)
S23	柴田農林高等学校と改称(農業科①, 林業科①)
S24	大河原高等学校と統合
S25	柴田高等学校と改称(普通部・農林部)
S28	柴田農林高等学校と改称(普通部は分離独立)
S29	学科改編(農業科①, 林業科①, 畜産科①)
S35	学科改編(農業科①, 林業科①, 畜産科①, 農業土木科①)
S44	本校舎竣工
S55	南校舎竣工
H7	学科改編(農業科学科①, 動物科学科①, 森林科学科①, 環境デザイン科①, 土木科①)
H18	学科改編(食農科学科①, 動物科学科①, 森林環境科①, 園芸工学科①)
H20	創立 100 周年記念式典

(2) 在籍状況

(単位:人)					(単位:人)					(単位:人)				
平成26年度					平成27年度					平成28年度				
	1学年	2学年	3学年	合計		1学年	2学年	3学年	合計		1学年	2学年	3学年	合計
男	92	87	71	250	男	92	85	82	259	男	92	81	80	253
女	68	58	44	170	女	71	65	51	187	女	67	67	58	192
合計	160	145	115	420	合計	163	150	133	446	合計	159	148	138	445

(3) 在籍生徒の出身地域

平成26年度				平成27年度				平成28年度			
地区	市町村	人	%	地区	市町村	人	%	地区	市町村	人	%
南部	大河原町	30	18.8%	南部	柴田町	45	27.6%	南部	柴田町	33	20.8%
南部	柴田町	29	18.1%	南部	大河原町	27	16.6%	南部	白石市	23	14.5%
南部	白石市	20	12.5%	中部	岩沼市	15	9.2%	南部	大河原町	24	15.1%
中部	仙台市(太)	16	10.0%	中部	名取市	14	8.6%	中部	仙台市(太)	19	11.9%
中部	名取市	15	9.4%	南部	白石市	12	7.4%	中部	名取市	13	8.2%
中部	岩沼市	11	6.9%	中部	仙台市(太)	11	6.7%	中部	岩沼市	11	6.9%
南部	角田市	9	5.6%	南部	角田市	9	5.5%	南部	角田市	7	4.4%
中部	亘理町	7	4.4%	南部	蔵王町	8	4.9%	南部	蔵王町	6	3.8%
中部	仙台市(宮)	3	1.9%	中部	亘理町	6	3.7%	中部	亘理町	6	3.8%
南部	村田町	3	1.9%	中部	山元町	4	2.5%	中部	山元町	4	2.5%
南部	川崎町	3	1.9%	南部	村田町	3	1.8%	南部	村田町	3	1.9%
南部	蔵王町	3	1.9%	中部	仙台市(若)	2	1.2%	中部	仙台市(泉)	3	1.9%
中部	仙台市(若)	3	1.9%	南部	川崎町	2	1.2%	中部	仙台市(宮)	2	1.3%
中部	山元町	2	1.3%	県外	県外	2	1.2%	南部	七ヶ宿町	1	0.6%
中部	仙台市(青)	2	1.3%	中部	仙台市(宮)	1	0.6%	南部	川崎町	1	0.6%
中部	仙台市(泉)	2	1.3%	中部	仙台市(青)	1	0.6%	中部	仙台市(青)	1	0.6%
中部	多賀城市	1	0.6%	南部	丸森町	1	0.6%	中部	仙台市(若)	1	0.6%
県外	県外	1	0.6%	合計	合計	163		県外	県外	1	0.6%
合計	合計	160		合計	合計	163		合計	合計	159	
	南部	97	60.6%	南部	南部	107	65.6%		南部	98	61.6%
	中部	62	38.8%	中部	中部	54	33.1%		中部	60	37.7%
	県外	1	0.6%	県外	県外	2	1.2%		県外	1	0.6%

○大河原商業高校の概要

(1) 学校の沿革

T11	大河原町立実科高等女学校開校(後に大河原高等女学校へと改称)
S21	大河原中学校設立
S23	大河原高等学校設立(大河原高等女学校と大河原中学校の統合)
S24	県立移管, 柴田農林高等学校普通科となる
S28	大河原高等学校となる
S31	学科改編(普通科②, 商業科①, 家政科①)
S41	学科改編(普通科②, 商業科⑤)
S46	学科改編(商業科⑥, 情報処理科①)
S48	大河原商業高等学校と改称, 学科改編(営業科②, 情報処理科②, 経理科②, 商業科①)
S52	北校舎竣工
S53	南校舎竣工
H6	学科改編(流通経済科②, 情報処理科②, 経理科②, 商業科①)
H12	学科改編(流通マネジメント科②, 情報システム科②, OA会計科②)
H16	学級減(流通マネジメント科②, 情報システム科②, OA会計科①)
H23	創立90周年記念式典

(2) 在籍状況

平成26年度 (単位:人)					平成27年度 (単位:人)					平成28年度 (単位:人)				
	1学年	2学年	3学年	合計		1学年	2学年	3学年	合計		1学年	2学年	3学年	合計
男	64	55	67	186	男	66	62	54	182	男	71	65	59	195
女	114	131	128	373	女	132	110	130	372	女	126	132	110	368
合計	178	186	195	559	合計	198	172	184	554	合計	197	197	169	563

(3) 在籍生徒の出身地域

平成26年度				平成27年度				平成28年度			
地区	市町村	人	%	地区	市町村	人	%	地区	市町村	人	%
南部	大河原町	28	15.7%	南部	白石市	44	22.2%	南部	大河原町	41	20.8%
南部	柴田町	27	15.2%	南部	柴田町	33	16.7%	南部	柴田町	29	14.7%
南部	白石市	24	13.5%	南部	角田市	21	10.6%	南部	白石市	26	13.2%
南部	蔵王町	18	10.1%	南部	大河原町	20	10.1%	南部	角田市	26	13.2%
中部	名取市	16	9.0%	中部	名取市	14	7.1%	中部	名取市	16	8.1%
南部	村田町	12	6.7%	南部	蔵王町	13	6.6%	南部	蔵王町	12	6.1%
南部	川崎町	12	6.7%	中部	岩沼市	12	6.1%	中部	岩沼市	11	5.6%
中部	仙台市(太)	10	5.6%	南部	村田町	11	5.6%	南部	村田町	8	4.1%
中部	岩沼市	10	5.6%	中部	山元町	9	4.5%	中部	亶理町	8	4.1%
南部	角田市	6	3.4%	南部	川崎町	5	2.5%	南部	川崎町	7	3.6%
中部	亶理町	5	2.8%	中部	亶理町	5	2.5%	中部	仙台市(若)	4	2.0%
南部	丸森町	4	2.2%	中部	仙台市(太)	5	2.5%	中部	仙台市(太)	4	2.0%
中部	仙台市(宮)	2	1.1%	南部	丸森町	3	1.5%	中部	山元町	3	1.5%
中部	仙台市(若)	1	0.6%	中部	仙台市(青)	3	1.5%	中部	丸森町	2	1.0%
中部	山元町	1	0.6%								
南部	七ヶ宿町	1	0.6%								
中部	利府町	1	0.6%								
合計		178		合計		198		合計		197	
南部		132	74.2%	南部		150	75.8%	南部		151	76.6%
中部		46	25.8%	中部		48	24.2%	中部		46	23.4%

○大河原地域における高校のあり方検討会議開催要綱

(目的等)

- 第1 大河原町内にある宮城県柴田農林高等学校及び宮城県大河原商業高等学校(以下「両校」という。)の2つの専門高校を再編統合し、地域産業を担う人材を育成するための新たな職業教育拠点校を設置するにあたり、地域のニーズを踏まえた魅力ある高校づくりを推進するため、大河原地域における高校のあり方検討会議(以下「検討会議」という。)を開催し、地域・学校関係者等から幅広く意見を聴取するもの。
- 2 宮城県教育委員会は、検討会議における検討内容を踏まえ、再編統合計画等を策定する。

(所管事項)

- 第2 検討会議は、次の事項について、意見交換を行うものとする。
- (1) 今後の農業教育及び商業教育のあり方に関すること
 - (2) 新しい学科のあり方に関すること
 - (3) 新たな学校に対する期待等に関すること
 - (4) 魅力ある学校づくりに向けた地域との連携・協力のあり方に関すること
 - (5) その他、両校の検討課題に関すること

(構成)

- 第3 検討会議は、地域の教育・産業関係者及び両校関係者等をもって構成し、別表のとおりとする。

(座長)

- 第4 検討会議に座長を置き、座長は宮城県教育庁教育次長が務める。
- 2 座長は会議の進行を行う。

(会議)

- 第5 検討会議は、宮城県教育委員会教育長(以下「県教育長」という。)が招集する。
- 2 県教育長は、必要があると認めるときは、検討会議に別表に掲げる者以外の者を出席させることができる。

(庶務)

- 第6 検討会議の庶務は、宮城県教育庁教育企画室において処理する。

(その他)

- 第7 この要綱に定めるもののほか、検討会議の運営に関し必要な事項は、県教育長が別に定める。

附則

- 1 この要綱は、平成28年1月27日から施行する。
- 2 この要綱は、平成29年3月31日限り、その効力を失う。

附則

この要綱は、平成28年4月1日から施行する。

附則

この要綱は、平成28年5月28日から施行する。

別表（第3・第5関係）

所 属 ・ 職 名 等		氏 名	備 考
大河原町	大河原町長	伊 勢 敏	
	教育委員会教育長	齋 一 志	
	大河原中学校校長	菊 池 均	
	金ヶ瀬中学校校長	佐々木 敦子	～H28. 3. 31
品川 信一		H28. 4. 1～	
大河原地区中学校校長会	会 長	佐藤 純子	～H28. 3. 31
		菊 池 均	H28. 4. 1～
柴田郡父母教師会連合会	会 長	藤原 義信	
大河原町商工会	会 長	斎藤 清一	
宮城県柴田農林高等学校	校 長	後藤 武徳	
	同窓会長	菅 野 信	
	P T A会長	大野 幸雄	～H28. 5. 27
		我 妻 亨	H28. 5. 28～
宮城県大河原商業高等学校	校 長	佐藤 充幸	
	同窓会長	安藤 征夫	～H28. 5. 27
		大沼 俊臣	H28. 5. 28～
	P T A会長	相原 正幸	
宮城県大河原教育事務所	所 長	菅原 祥顕	～H28. 3. 31
		鈴木 一史	H28. 4. 1～
宮城県教育庁	教育次長	鈴 木 洋	～H28. 3. 31
	教育監兼教育次長		H28. 4. 1～

○大河原地域における高校のあり方検討会議開催経過

開催年月日	開催場所	内容
第1回検討会議		
平成28年3月17日	大河原合同庁舎	<ul style="list-style-type: none"> ○大河原地域における高校のあり方検討会議について ○新県立高校将来構想における県立高校再編計画について ○南部地区における高校教育の現状について ○両校の現状について ○南部地区の概要
第2回検討会議		
平成28年5月27日	大河原合同庁舎	<ul style="list-style-type: none"> ○第1回大河原地域における高校のあり方検討会議における主な意見について ○農業・商業教育の今後の方向性について ○新しい学科について
第3回検討会議		
平成28年6月13日	山形県立 村山産業高校	○先進校視察
第4回検討会議		
平成28年7月19日	大河原合同庁舎	<ul style="list-style-type: none"> ○第2回大河原地域における高校のあり方検討会議における主な意見について ○魅力ある学校づくりに向けた地域との連携等について ○柴田農林高校及び大河原商業高校の再編統合に係る報告書（中間案）について
第5回検討会議		
平成28年9月16日	大河原合同庁舎	<ul style="list-style-type: none"> ○第4回大河原地域における高校のあり方検討会議における主な意見について ○柴田農林高校及び大河原商業高校の再編統合に係る報告書（案）について

南部地区職業教育拠点校教育基本構想

概要

柴田農林高等学校

大河原商業高等学校

南部地区職業教育拠点校（仮称）

（平成35年4月開校予定）

入学定員 1学年 6学級 240名

・農業系学科 2学級

・商業系学科 3学級

・デザイン系学科 1学級

*平成35年度に1年生のみで柴田農林高等学校敷地内に開校し、柴田農林、大河原商業は平成36年度末に閉校

基本理念



学校として目指すもの

- ・学校全体で『地域ブランドの確立』に取り組み、地域振興へ貢献する
- ・大学、地域などと連携した課題研究を軸とした教育課程を編成し、主体的・協働的な学びを実践する
- ・地域の小中学校・社会と連携した教育活動を展開し、自ら課題を設定し、解決する力を育成する
- ・それぞれの学科の特色をいかし、6次産業化を軸とした学科間連携による先進的な産業教育を展開する
- ・産業・社会の変化を取り入れたグローバルな教育活動を展開し、生徒一人ひとりの進路希望を実現する

（*「グローバル」とはグローバルとローカルを合わせた造語であり、「グローバルな教育活動」では今日的な問題や課題をローカルな視点から捉えるとともに、グローバル社会と対称化できる力を育成する）

育成する生徒の力

- ・将来のスペシャリストとして必要な思考力・判断力・表現力をもち、それらの能力を生涯にわたって発揮できる力
- ・専門分野の課題研究などの教育活動を通して、主体的かつ仲間と協働して学ぶ力
- ・地域の産業・社会と連携し、自ら課題を設定し、解決する力
- ・郷土を誇りに思い、地域貢献を通して自己実現を達成する力
- ・他分野と連携して、地域の産業・社会を担う力

設置学科

農業科(2類型制)

生産加工類型，環境創造類型

学習内容：野菜，果樹，動物，森林，草花，造園に関する分野など

商業科(3類型制)

流通ビジネス類型，情報ビジネス類型，会計ビジネス類型

学習内容：マーケティングに関する分野，ビジネス経済分野，ビジネス情報分野，会計分野など

企画デザイン科 (大学科：商業)

学習内容：宣伝広告等印刷物に関するグラフィック及び Web デザイン，商品企画開発や商品化に向けた企画デザインなど，付加価値の高い商品・作品（もの）づくり

*教科横断的かつ専門性の高い学校設定科目により学習内容に独自性を持たせ，地域の魅力を発掘してブランドを創出し，発信できる人材の育成を目指す

(*「大学科」とは，専門教育を主とする学科のもととなる教科の種類のこと)

教育課程

基本方針

- 各学科の特色をいかし，それぞれの学科が連携して『地域ブランドの確立』を図り，地域振興への貢献を目指す
- 大学，地域などと密に連携した『課題研究』を軸とした教育課程を編成し，自ら課題を設定し，解決する力を育成する
- 『主体的・協働的な学び』や『ICTの活用』により，生徒の主体性や協働性を育成できる学びを実践する
- 将来のスペシャリスト育成のため，産業・社会の変化を取り入れたグローバルな教育活動を展開する

総合選択制を導入した教育課程

1年生	普通科目 (18 単位程度)	専門科目 (10 単位程度)	*	*課題研究基礎(1)
2年生	普通科目 (16 単位程度)	専門科目(11 単位程度)	総合選択	
3年生	普通科目 (11~16 単位)	専門科目 (11~14 単位)	総合選択	

(*「総合選択制」とは，専門学科において他の学科の専門科目を選択できるようにする制度のこと)

課題研究を中心とした専門教育の充実

各学科の専門科目

- 専門的な知識・技術の習得
- 地域との連携を密にした授業の実施

総合選択科目

- 学科を横断した学習による生徒の多様な進路希望などに対応

「課題研究基礎」

- キャリア形成に必要な思考力、判断力、表現力の育成
- 大学・地域と連携した講義・探究活動などの実施

「課題研究」

- 高大連携、学科間連携による専門的知識・技能の深化・統合化
- 地域産業と連携した研究活動
- 農業・商業・デザイン分野を横断した研究

3学科連携のイメージ

農業科

連携

商業科

連携

それぞれの学科が連携し合うことで『6次産業化』の一体的・循環的な学びの構築が可能

連携

企画デザイン科



連携機関

- ・海外姉妹校
- ・海外大学・企業
- ・大学・各種専門学校
- ・地元自治体
- ・地元商工会議所・商工会
- ・地元企業（6次産業に取り組む企業，農業法人，広告・出版・印刷会社等）
- ・県関係機関 等

開校に向けたスケジュール

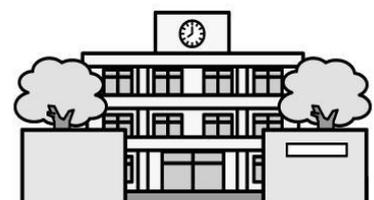
準備組織の設置と主な検討内容

	会議名	主な検討内容
平成27～28年度	大河原地域における高校のあり方検討会議	地域のニーズを踏まえた魅力ある高校づくりを推進するため、地域・学校関係者等から今後の農業教育及び商業教育のあり方に関することや新しい学科のあり方に関する事などについて幅広く意見を聞く。
平成29年度	南部地区統合校教育基本構想検討会議	「大河原地域における高校のあり方検討会議」での議論を踏まえながら、統合校における具体的な学科構成や教育内容の基本的な考え方を整理し、統合校の教育基本構想を策定する。
平成30～32年度	南部地区職業教育拠点校準備委員会（仮称）	<ul style="list-style-type: none"> ・新設校の学校運営、教育内容、施設・設備、学科間連携教育 等 ・移行期の柴田農林、大河原商業の学校運営、教育内容に関する事 ・その他、調整が必要な事項
平成33～34年度	開設準備委員会（仮称）	<ul style="list-style-type: none"> ・新設校の学校運営等 ・新設校の諸規定、規約、内規等 ・その他、調整が必要な事項

*地域との連携活動について検討を進めるため「地域パートナーシップ会議（仮称）」を設置する

施設整備計画

	南部地区職業教育拠点校 校舎、農業実習棟	柴田農林高校 校舎、農業実習施設
平成 30 年度	設計	南校舎等解体設計
平成 31 年度	↓	南校舎等解体設計・工事
平成 32 年度	建設工事	南校舎等解体工事
平成 33 年度	↓	
平成 34 年度	↓	
平成 35 年度 (新設校開校)	供用開始	
平成 36 年度 (柴田農林、大河原商業閉校)		本校舎、農業実習施設 解体設計
平成 37 年度		本校舎、農業実習施設 解体工事



南部地区職業教育拠点校整備事業基本構想

1 南部地区職業教育拠点校の概要

(1) 県立高校将来構想上の位置付け

宮城県教育委員会では、平成 13 年 3 月に時代の要請に対応した高校教育改革の方向性及び高校の整備・改編の方針を示す「県立高校将来構想」を策定し、生徒の多様な個性や特性に対応した魅力ある高校づくりと生徒数の減少に対応した学級減及び学校再編等を進めてきた。

また、平成 22 年 3 月には引き続き減少する生徒数や地域経済のグローバル化、情報化の進展等の県立高校を取り巻く状況の変化に対応した高校のあり方を示すため、「新県立高校将来構想」を策定するとともに、将来構想を着実に推進するため、より具体的な取組を示す「新県立高校将来構想実施計画」(第 1 次～第 3 次)を策定し、施策を進めている。

南部地区職業教育拠点校は、新県立高校将来構想第 3 次実施計画において、宮城県柴田農林高等学校と大河原商業高等学校を再編統合し、新たに職業教育拠点校を設置するものとして位置づけている。

(2) 再編統合の背景

宮城県の中学校卒業生数は、昭和 37 年度の 50,004 人をピークに昭和 56 年度には 26,884 人まで落ち込むが、再び増加傾向となり昭和 63 年度には 35,095 人となった。以降再び減少を続け、平成 28 年度は 21,576 人となっている。

少子化に伴う中学校卒業生数の減少は全県的な傾向で、今後もさらに続くことが見込まれており、中学校卒業生数に合わせて、県立高校を適正な規模とすることと併せて、活力ある高校の存続に向けてより一層の取組が求められている。

南部地区においても中学校卒業生数の減少は例外ではなく、このような取組の一環として、大河原町内にある 2 つの専門高校である柴田農林高校と大河原商業高校を再編し、新たな職業教育拠点校を設置することとした。

(3) これまでの取り組み状況

1) 大河原地域における高校のあり方検討会議(平成 27 年度～平成 28 年度)

地元首長、教育関係者などで構成する「大河原地域における高校のあり方検討会議」を 5 回開催し、農業・商業教育の今後の方向性や新しい学科について検討し、報告書を取りまとめた。

【報告書の内容】

- ・設置学科は農業系学科、商業系学科、デザイン系学科の 3 学科とする。
- ・学校全体で『地域ブランドの確立』を通じた地域振興への貢献を目指す。
- ・3 学科が連携することで『6 次産業化』の一体的・循環的な学びの構築が可能となる。

2) 新県立高校将来構想第3次実施計画

平成23年度から平成32年度までの県立高等学校の今後の方向性を示した「新県立高校将来構想」のアクションプランである「第3次実施計画」に「南部地区における職業教育拠点校の新設」として位置づけた。

3) 南部地区統合校教育基本構想検討会議

「大河原地域における高校のあり方検討会議」での議論を踏まえ、宮城県柴田農林高等学校及び宮城県大河原商業高等学校の再編統合校における具体的な学科構成、教育内容及び教育施設等の検討を行うため、南部地区統合校教育基本構想検討会議を開催し、南部地区職業教育拠点校教育基本構想を策定した。

(4) 柴田農林高等学校と大河原商業高等学校（統合対象校）の状況

1) 柴田農林高等学校

①学校の概要

明治41年に柴田郡立養蚕講習所として創立し、平成20年には創立100年を迎えた歴史と伝統のある農業高校である。平成18年度に食農科学科、動物科学科、森林環境科、園芸工学科の4学科4クラスの構成となり現在に至っている。

学校では、多様な産業界で活躍できるふるさと定住後継者の育成を目指し、地域や生徒の実態に即して、特色と魅力ある幅広い職業教育・職業準備教育を展開している。

②教育方針

21世紀に生きる国際的視野を持ち、社会の進展に寄与する人物を目指し、高い知性、豊かな情操、優れた道徳性と健康な体を持ち、さらに正義と勤労を愛し、人を敬うことのできる調和のとれた人間を育成する。

③教育内容

学科名	学習内容	資格取得
食農科学科	・野菜、果樹栽培 ・農作物を利用した食品加工及び加工品の販売	・危険物取扱者丙種（乙種） ・毒物劇物取扱者
動物科学科	・動物（家畜、実験動物、愛玩動物）の習性・生理・飼育管理 ・生産物の加工・流通	・危険物取扱者丙種（乙種） ・毒物劇物取扱者 ・愛玩動物飼育管理士準2級
森林環境科	・森林管理、木材加工、きのこ栽培 ・造園技術	・レンダリング検定 ・トレース検定
園芸工学科	・草花栽培 ・バイオテクノロジー	・危険物取扱者丙種（乙種） ・毒物劇物取扱者

④特色

i) くくり募集とミックスホームルーム

入試では、4学科を生産技術系の「食農科学科」「動物科学科」と環境技術系の「森林環境科」「園芸工学科」の2つに分けくくり募集を行っている。このことにより、入学後に学科の内容をより深く理解して学科を選択でき、ミックスホームルーム(※)で人間関係が広がるというメリットがある。

※1年次では、学科単位で学級編成はせずに、入試の募集単位でクラス編成を行うこと。

ii) 県内唯一の林業・造園を学べる学科

森林環境科は県内で唯一の林業と造園について学習できる学科であり、森林管理や林産加工を学ぶ森林班と公園や庭園の設計・施工、造園技術を学ぶ造園班に分かれて学習する。青根には90haの演習林を有しており、1年を通して実習に活用している。

iii) 地域に密着した農場生産物販売会

5月中旬の「苗販売」、10月下旬の柴農祭での「農場生産物販売」、11月下旬の「シクラメン販売」の3回、校内販売会を実施し、いずれも恒例行事として地域の方々から認識され、好評を博している。

v) 地域貢献活動

地域において、枝剪除作業や植樹、学校行事への花の提供を実施し、幼稚園、保育所等との講習会を実施している。

⑤進路の状況

年度	進学				就職			その他	総数
	大学	短大	専門等	就職	県内	県外			
H26	26	5	0	21	87	76	11	0	113
	23.0%	4.4%	0.0%	18.6%	77.0%	67.3%	9.7%	0.0%	100.0%
H27	32	3	0	29	98	90	8	0	130
	24.6%	2.3%	0.0%	22.3%	75.4%	69.2%	6.2%	0.0%	100.0%
H28	19	3	1	15	118	106	12	0	137
	13.9%	2.2%	0.7%	10.9%	86.1%	77.4%	8.8%	0.0%	100.0%

2) 大河原商業高等学校

①学校の概要

大正11年に大河原町立実科高等女学校として創立し、昭和48年に現在の校名に改称となった。平成12年度からは学科を改編し、従来の商業科、経理科、情報処理科、流通経済科の4学科を流通マネジメント科、情報システム科、OA会計科に再編成した。現在は、3学科5クラスの編成となっている。

県立の商業高校では最大規模の学校であり、多くの卒業生を各界に輩出している。

②教育方針

<校是> 「文質彬彬(ぶんしつひんぴん)」

出典 論語「雍也(ようや)」篇

意味するところは、「外面に現れた美しさ（文）と、内面の美しさ（質）とが、程よく調和し、共に備わっていること」である。

③教育内容

学科名	学習内容	資格取得
流通マネジメント科	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティング ・ビジネス実務 ・商品開発 ・国際ビジネス 	<ul style="list-style-type: none"> ・販売士 ・簿記実務 ・ビジネスコミュニケーション
情報システム科	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング ・ビジネス情報 ・ビジネス情報管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本情報技術者 ・ITパスポート ・簿記実務
OA会計科	<ul style="list-style-type: none"> ・財務会計 ・原価計算 	<ul style="list-style-type: none"> ・簿記

※各課共通で取得できる資格として、ビジネス文書、商業経済、情報処理、珠算等。

④特徴的な取り組み

i) 大商ブランド（DAISHO BRAND）」

全校あげて「大商ブランド」を目指した取組を行っている。そのねらいは企業や大学、そして地域社会等から確かな信頼を得ること、生徒の進路目標を実現することにある。そのためには、部活動をとおして「体力・気力・社会性」を、教養では「基礎学力・知性」を、資格取得では「専門知識・技能」を、規律ある生活からは「生活習慣・マナー」の4分野の能力・態度を育成することが重要と考えている。

ii) 部活動

運動部、文化部ともに部活動が盛んで、特にワープロ部は全国大会で優勝、ギター部は金賞の経験を有し、全国レベルの成績を残している。

iii) 企業等と連携した商品開発・販売活動等

・カルビー（株）

大河原の特産である梅と県内農家が生産した芋を使用したポテトチップスの開発。

・（株）ウェルネス伯養軒

四季折々の弁当の開発（主に空港売店で販売）。

・その他、地元菓子店

「うめ輝らり（飴）」、「うめ果りり（ゼリー）」の開発。

⑤進路の状況

年度	進学				就職			その他	総数
	大学	短大	専門等	就職	県内	県外			
H26	65	15	5	45	125	114	11	4	194
	33.5%	7.7%	2.6%	23.2%	64.4%	58.8%	5.7%	2.1%	100.0%
H27	71	18	11	42	108	90	18	5	184
	38.6%	9.8%	6.0%	22.8%	58.7%	48.9%	9.8%	2.7%	100.0%
H28	69	13	8	48	97	89	8	3	169
	40.8%	7.7%	4.7%	28.4%	57.4%	52.7%	4.7%	1.8%	100.0%

2 整備概要

- (1) 予定地 柴田郡大河原町字上川原7の2
 (2) 敷地面積 24,673.18㎡
 (3) 法的規制等

法令	条文	規制の内容	
都市計画法	第8条第1項	用途地域	第2種中高層住居専用地域 (建ぺい率60%, 容積率150%)
	第29条第1項	開発許可	50cm以上の造成を伴う場合は 許可が必要
建築基準法	第22条第1項	防火地域	
農地法	第4条	農地転用	実習圃場に関して、開発許可が必 要な場合は農地転用に関しても許 可が必要
河川法	第55条第1項	河川保全区域	河川保全区域から20m以内の場 合、解体でも許可が必要

(4) 建物

①新設建物

名称	面積
校舎	9,187.30㎡
農業実習棟	1,619.05㎡

②仮設建物

名称	面積	階数
校舎棟	1,000㎡	2階
ボクシング場ウェイトリフティング場	300㎡	1階

③解体建物等

《建物》

No.	名称	構造	階数	築年	面積 (㎡)
1	ホクシツ場・ウェイトリフティング場	W	1	T11	396.69
2	本校舎	RC	3	S44	3,736.04
3	南校舎	RC	2	S55	1,039.09
4	柴農会館	RC	2	S55	432.00
5	工芸実習室	W	1	S38	98.55
6	温室	S	1	S57	150.00
7	温室	S	1	S57	150.00
8	温室	S	1	S57	67.50
9	製材室	W	1	S29	47.04
10	造園管理室・機械工作室	W	1	S29	133.59
11	トレーニング室	W	1	S44	165.62
12	農業基礎実習室	W	1	S44	129.60
13	男子更衣室	W	2	S45	290.88
14	材料実験室	S	1	S45	198.00
15	作物実験室・食品加工室	S	1	S47	332.10
16	農機具整備実習室	S	1	S47	99.00
17	畜産教室	S	1	S48	159.30
18	林産加工室	S	1	S49	163.80
19	資材倉庫	S	1	S50	90.93
20	園芸工学教室	S	1	S46	135.71

《工作物》

No.	名称	構造	階数	築年	面積 (㎡)
21	作業小屋	S	1	?	153.90
22	バイク駐輪場	S	1	?	193.91
23	車庫	S	1	?	64.64
24	車庫	S	1	?	49.25

No.	名称	長さ		
25	テニスコート (ネットフェンス)	384m		
		うち	高さ 3m	308m
			高さ 1.8m	76m

3 施設整備の基本的事項

- (1) 平成35年4月の開校までに新たに整備するのは、校舎と農業実習棟とする。
- (2) 柴田農林高等学校は平成36年度まで存続させる（大河原商業高等学校も同様）ことから、柴田農林高等学校の旧校舎及び旧農業実習施設は平成37年度に解体する。
- (3) 校舎と農業実習棟以外の体育館や武道場は、今回の整備対象としない。
- (4) 学科間連携，地域連携を図る施設として，1学年全員（240人）を収容でき，研究発表等のプレゼンテーションや外部講師を招聘した講義にも対応できる大講義室を設けるものとする。
- (5) 校舎は特別教室型とし，学科，学年の垣根を越えた交流が図れる配置とする。
- (6) 校舎内は採光，通風，換気等に配慮して，生徒が健康的に学校生活を送れるように配慮する。
- (7) 周辺住家への粉塵の飛散，騒音等による生活環境悪化を避けるよう配置計画や，防砂ネット，散水による防塵対策等において配慮する。
- (8) 障害者の学校生活，障害を持つ来校者等だけでなく，全ての利用者に配慮したユニバーサルデザインの視点を取り入れて整備する。
- (9) 自然エネルギーの活用については，その有効性・経済性を判断した上で導入を検討する。

4 防犯上の配慮

平時，教員や生徒が使用する入口と外部から来訪者が使用する入口の分離，受付窓口の明確化などによって動線を区別し，外部からの来訪者に対する視認性を確保し，監視機能を強化する。

5 防災上の配慮

建設地は阿武隈川水系白石川に近接し，洪水浸水想定区域内にあり，想定最大規模降雨で3m～5m浸水すると想定されている。

風水害も含めた災害に対しては，東日本大震災の教訓から県教育委員会で策定した「みやぎ学校安全基本指針」を基に，日常的には訓練や防災教育を実施し，災害発生時には応急対応から学校再開までを学校で適切に対応することとしている。

風水害発生を想定した施設への配慮に関しては，平時の教育活動に支障がない範囲で，教職員や生徒，周辺住民の緊急的な避難への対応を想定した諸室の配置とする。

なお，現在，柴田農林高校は大河原町の指定避難所となっているが，新設校については指定避難所の指定等について，大河原町と協議することとなる。

6 工事中の安全配慮

- (1) 仮設校舎については，安全のために極力，生徒の動線と工事関係者の交差は避ける計画とするため，仮設校舎は校舎北側に設置する。また，新校舎及び新実習棟については校舎南側に集約して建設する。

- (2) 工事期間中の実習施設の利用に当たっては、生徒用の通路を設けて安全を確保する。
- (3) 工事車両は校舎東側の町道を使用するが、幅員が不足する部分に関しては、道路管理者と協議の上、フェンスを撤去し、校舎敷地側へ拡幅する。
- (4) 工事の騒音・粉塵の影響は最小限になるように配慮するが、定期考査等、大型車両の通行・騒音等の影響が大きいと判断される場合は該当工事を休止することがある。
- (5) 工事現場事務所は、学校との調整により工事現場内に設けることができる。

《参考資料掲載 URL 一覧》

○新県立高校将来構想

○新県立高校将来構想 第1次～第3次実施計画

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kyou-kikaku/shinkousou.html>

○柴田農林高等学校及び大河原商業高等学校の再編統合に係る報告書

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kyou-kikaku/kentoukaigi.html>

○南部地区職業教育拠点校教育基本構想

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kyou-kikaku/nanbu.html>

平成 29 年度

学 校 要 覧



宮城県柴田農林高等学校

本 校：〒 989-1233 宮城県柴田郡大河原町字上川原 7 の 2

<http://www.sibano.myswan.ne.jp/>

E-mail : chief@sibano.myswan.ne.jp

TEL 0224 (53) 1049

FAX 0224 (53) 1050

川崎校：〒 989-1501 宮城県柴田郡川崎町前川字北原 25

TEL 0224 (84) 2049

FAX 0224 (84) 2087

校章

由来



(明治 43 年制定)

古来、稲と蚕とは我が国農家の二本柱であった。

稲穂をもって繭をかこみ、さらに農林の二字を配して本校の特性をあらわした。

校訓

質実剛健 自主調和

宮城県柴田農林高等学校校歌

作詞 新見武男 作曲 手島 勇

堂々と



ざーおー ほつねのしろきゆき



たーかきりそーにつどいこし



やーまとしまねのわかきーこーが



あーおぎみるめにうるわしや

一、威王秀峰の白き雪

高き理想に集いこし

大和島根の若き子が

仰ぎ見る目に麗しや

二、白石川の蒼き波

久遠の調胸にして

希望に燃ゆる青春の

健児幾百ここに立つ

三、様り豊けきこの里に

瑞穂の国の礎と

尊き教農林の

業とし字ぶ三春秋

四、是先人の築きけん

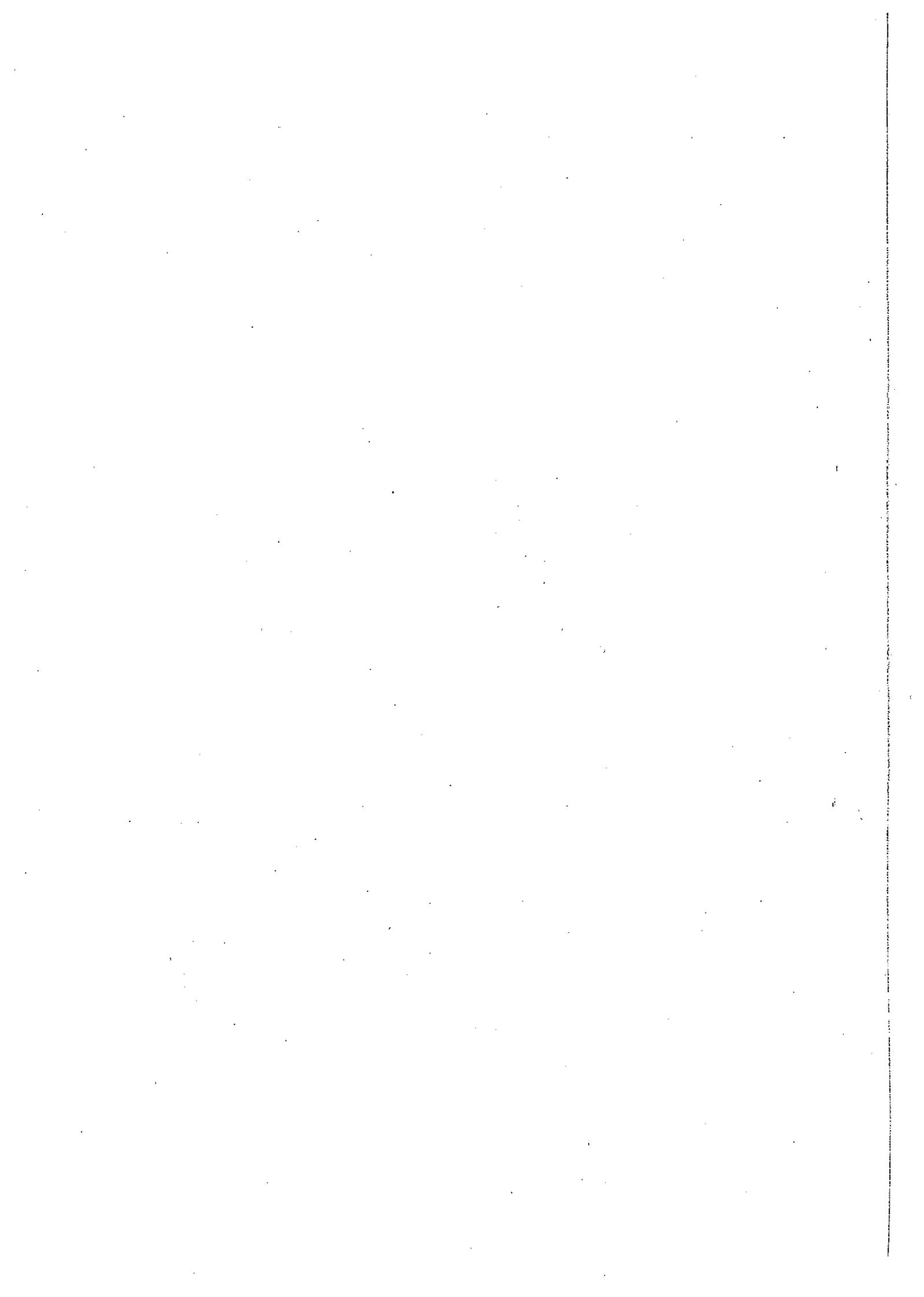
字の殿堂いまここに

自主の梁火とる若人や

扶桑の香いやまさん

目 次

<p>校訓・校歌……………表紙裏</p> <p>I 学校沿革……………1</p> <p>II 歴代校長……………2</p> <p>III 教育計画……………3</p> <p style="padding-left: 20px;">1 平成29年度宮城県柴田農林高等学校 経営方針</p> <p style="padding-left: 20px;">2 学校経営目標</p> <p style="padding-left: 20px;">3 具体的指導目標</p> <p style="padding-left: 20px;">4 学科目標</p> <p style="padding-left: 20px;">5 学年の目標</p> <p style="padding-left: 20px;">6 分掌目標</p> <p style="padding-left: 20px;">7 平成29年度日程表（教職員・生徒） 平成29年度年間行事計画</p> <p>IV 教育課程……………16</p> <p style="padding-left: 20px;">1 教育課程編成の基本方針</p> <p style="padding-left: 20px;">2 特色ある教育活動</p> <p style="padding-left: 20px;">3 平成29年度実施教育課程表</p> <p style="padding-left: 20px;">4 平成29年度入学生教育課程表</p> <p>V 職員……………19</p> <p style="padding-left: 20px;">1 教職員数</p> <p style="padding-left: 20px;">2 教職員一覧</p> <p style="padding-left: 20px;">3 学校評議員</p> <p>VI 学校運営組織図……………22</p> <p> </p> <p>VII 生徒概要……………23</p> <p style="padding-left: 20px;">1 定員・在籍生徒数</p> <p style="padding-left: 20px;">2 出身中学校・出身市町村別生徒数</p>	<p>3 通学方法</p> <p>4 保護者の職業・続柄</p> <p>VIII 進路……………25</p> <p style="padding-left: 20px;">1 平成28年度卒業生の進路状況</p> <p style="padding-left: 20px;">2 年間指導計画（学年別）</p> <p>IX 特別活動……………26</p> <p style="padding-left: 20px;">1 部活動</p> <p style="padding-left: 20px;">2 生徒会</p> <p style="padding-left: 20px;">3 学校農業クラブ</p> <p>X P T A ……………28</p> <p style="padding-left: 20px;">1 組織</p> <p style="padding-left: 20px;">2 役員</p> <p>XI 同窓会……………29</p> <p style="padding-left: 20px;">1 組織</p> <p style="padding-left: 20px;">2 役員</p> <p style="padding-left: 20px;">3 卒業者数</p> <p>XII 学校施設……………30</p> <p style="padding-left: 20px;">1 土地</p> <p style="padding-left: 20px;">2 建物</p> <p style="padding-left: 20px;">3 学校及び農場の位置</p> <p style="padding-left: 20px;">4 校舎及び実験実習施設配置図</p> <p style="padding-left: 20px;">5 川根農場（平面図）</p> <p style="padding-left: 20px;">6 青根演習林</p>
--	---



I. 学校沿革

明治 41 年	柴田郡立蚕業講習所 創立（修業年限 6 ヶ月）
"	柴田郡立農業講習所 改称、現在地に校舎竣工（修業年限 1 カ年）
43 年	柴田郡立柴田農学校 改称（乙種修業年限 2 カ年）
大正 5 年	（修業年限 3 カ年）
12 年	宮城県柴田農学校 県立移管
15 年	宮城県柴田農林学校 改称（甲種に昇格、修業年限 3 カ年）
昭和 23 年	宮城県柴田農林高等学校 学制改革により改称（修業年限 3 カ年） 全日制課程農業科・林業科設置 定時制課程設置
24 年	普通科設置（大河原高等学校と統合） 川崎町に青根演習林開設
25 年	宮城県柴田高等学校 改称（農林部と普通部）
28 年	宮城県柴田農林高等学校 普通部は分離独立して、宮城県大河原高等学校となり、農林部は宮城県柴田農林高等学校と旧称に復す。
29 年	畜産科設置
35 年	農業土木科設置
39 年	柴田町に小泉牧場開設
44 年	鉄筋本校舎落成
45 年	体育館・プール落成
47 年	緑地工学科設置
52 年	大河原町金ヶ瀬に川根農場と薬師水田開設
54 年	柴農会館新築落成
55 年	鉄筋南校舎新築落成
56 年	武道館落成
57 年	「省エネルギー生産学習センター」 温室（ソーラー・地中球熱交換・ミスト）新設
58 年	青根演習林地内に「ふるさと学習総合センター」実験・実習棟並びに宿泊棟新築落成
63 年	「農業科学技術学習センター」新築落成
平成 5 年	家庭科実習棟新築落成
7 年	学科を改編し、農業科学科・動物科学科・森林科学科・環境デザイン科・土木科の 5 学科とし、各学科で男女募集する。
8 年	小泉牧場閉場
9 年	総合科学センター新築落成
10 年	創立 90 周年記念式典
11 年	川根農場学習センター改築落成
14 年	旧講堂解体
16 年	フェンス設置
17 年	機械警備全面移行、倉庫（畜産実習室）落成、更衣室落成
18 年	宮城県柴田農林高等学校学科を改編し、食農科学科、動物科学科、森林環境科、園芸工学科の 4 学科とし、男女及びくくり募集を行い、土木科の募集を停止した。
20 年	創立 100 周年記念式典
24 年	プール改築工事

II 歴代校長

代次	氏名	就任年月	離任年月	勤続年数
初	渡辺 昶友	明治41. 3	明治43. 3	2年1ヶ月
2	金成 金彦	" 43. 5	大正 4. 4	4年11ヶ月
3	鈴木 寿一	大正 4. 5	" 13. 7	9年3ヶ月
4	沼田 清五郎	" 13. 7	昭和13. 4	13年9ヶ月
5	福田 建策	昭和13. 4	" 16. 1	2年9ヶ月
6	今野 勇記	" 16. 1	" 21. 3	5年2ヶ月
7	渡辺 靖	" 21. 3	" 24. 10	3年6ヶ月
8	瀬戸 金治	" 24. 10	" 29. 3	4年6ヶ月
9	荒 勝美	" 29. 4	" 35. 4	6年1ヶ月
10	貫洞 英正	" 35. 5	" 43. 3	7年11ヶ月
11	小笠原 政志	" 43. 4	" 45. 3	2年
12	板橋 末治	" 45. 4	" 47. 3	2年
13	半澤 青一	" 47. 4	" 51. 3	4年
14	池田 大吉	" 51. 4	" 56. 3	5年
15	吉田 俊和	" 56. 4	" 59. 3	3年
16	渡部 宗夫	" 59. 4	" 63. 3	4年
17	加藤 哲哉	" 63. 4	平成 3. 3	3年
18	竹内 一誠	平成 3. 4	" 5. 3	2年
19	菊地 進	" 5. 4	" 7. 3	2年
20	千葉 浩三	" 7. 4	" 10. 3	3年
21	本田 繁夫	" 10. 4	" 13. 3	3年
22	高橋 興業	" 13. 4	" 15. 3	2年
23	千田 稔	" 15. 4	" 18. 3	3年
24	菅野 信	" 18. 4	" 20. 3	2年
25	小野 和廣	" 20. 4	" 23. 3	3年
26	大野 剛	" 23. 4	" 25. 3	2年
27	高橋 欣也	" 25. 4	" 27. 3	2年
28	後藤 武徳	" 27. 4		

備考

蚕業講習所長・農事講習所長校長事務取扱

佐藤信治

明治43. 4~5

Ⅲ 教育計画

1. 平成29年度 宮城県柴田農林高等学校 経営方針と重点

教育方針

21世紀に生きる国際的視野を持ち社会の進展に寄与する人物を目指し、高い知性、豊かな情操、優れた道徳性と健康な体を持ち、さらに正義と勤労を愛し、人を敬うことのできる調和のとれた人間を育成する。

校訓

質実剛健

自律調和

柴田農林高等学校教育目標

- 1 基礎・基本の学力を身につけ、たくましく生きる健全な心身を育成する。
- 2 個性の伸長を図るとともに、創意と活力にあふれ、志をもった人間を育成する。
- 3 豊かな心を持ち、生涯の生き方を自らの意志で切り開く態度と能力を育成する。
- 4 勤労と責任を重んじ、地域社会の発展に寄与する精神を育成する。
- 5 科学的精神を培い、社会の変化と今日的課題に対応できる能力を育成する。

H29年度スローガン

『地域に根差し、
地域に愛される学校をつくろう』

- ・授業を大切にしよう
- ・早期の進路決定を目指そう
- ・部活動で活力と品位を高めよう
- ・農業クラブで上位入賞を目指そう

H29年度モットー

- 1 学校を中心にした基本的な生活を大切にしよう
- 2 目的を持った生活を心掛けよう
- 3 身だしなみをしっかりとしよう
- 4 当たり前を当たり前

H29年度重点目標と取組み

- 1 基礎学力の向上と進路達成学力の育成及び定着
⇒ 授業を大切に（しっかり取り組む準備と態度の醸成）
学校を中心に据えた生活習慣の確立（家庭学習の定着）
- 2 志教育の推進（学年ごとの進路目標の達成による意識の向上）
⇒ 全員の進路決定に向けての準備と指導
- 3 将来社会人として必要な生活習慣の確立
⇒ 当たり前10か条の定着、スマホ利用・交通マナー・薬物・DVの講習利用
- 4 学校公開の推進
⇒ 生徒主体の魅力ある学校づくりで定員を確保する。
PTAや同窓会との交流活動の推進（記念事業の在り方と対応検討）
農産物販売や地域への広報・貢献活動をとおして活動や成果を伝える場の設定
- 5 教職員の研究・研修の推進
⇒ 情報共有化（職員間、生徒・保護者への正しい情報の提供）
新学習指導要領を最大限に活用した指導方法の研究
- 6 仙南地区職業教育拠点校構想の研究
⇒ 進行状況の説明と柴農の「不易と流行」の研究

2. 学校経営目標

「学校経営」

- 1) 本校と川崎校の学習環境等の特殊性を活かしつつ、一貫性を持った指導理念の共有に努める。
- 2) 学校評価、学校開放、授業評価などを積極的に推進し、教育内容および成果等の向上を図る。
- 3) 行事を精選し、職員全体で組織的に取り組む。

「教科指導」

- 1) 50分授業を、一斉開始、一斉終了し生徒に緊張感を持たせる。
- 2) 教科学習での社会人人材の活用に努力する。
- 3) 資格取得の指導に努める。
- 4) 生徒の基礎学力の向上に向けてあらゆる指導方法の実践のため教職員研修を深める。
- 5) 校内における教員間の自発的な授業参観の活性化を図り、授業の改善に向けた研修を行う。

「生徒指導」

- 1) 欠席・遅刻・早退の減少に全クラスが取り組む。
- 2) 部活動指導に努める。
- 3) 保護者との連携の下、善悪の判断を持つ生徒の育成に全力を尽くす。
- 4) 教職員間の同一歩調による指導の徹底を図る。

「進路指導」

- 1) 進路指導の充実を図り、100%の希望進路決定を目指す。

3. 具体的指導目標と方策

「学校経営」

- 1) 望ましいコミュニケーション能力を持ち、自己の表現が相手に丁寧に伝わるよう、生徒と教師間の普段の会話に心がける。
- 2) 教師が、分掌部、学年、学科等の組織の中での共通理解の下、それぞれの役割を十分に発揮できるよう、相互の連絡・調整・報告・相談等を緊密にする。
- 3) 学習環境の美化、学校施設・設備の保全・管理並びに充実に努める。
- 4) 柴田農林高校を志望する中学生の意欲と関心を喚起するために、中学生が高等学校で学習体験できる機会を土曜日等に複数回実施する。
- 5) 不適応生徒、不登校生徒等に対しては組織的に対応し、教育相談活動、カウンセリング委員会と学習評価規定とのリンクによる対策と実行を迅速に行い、中途退学者数の減少を目指す。

「生徒指導」

- 1) 人間関係における基本的な生活習慣の醸成と自己信頼関係の基礎づくり
→学校生活での挨拶、規律、服装、頭髪指導
- 2) いじめ等のない学校づくり
→学習活動あらゆる場面をとおして生命に命の尊さ、個人の尊重を指導
- 3) 自己目標達成への向上心、精神的充実感、連帯感の醸成
→部活動への継続参加。学校行事・生徒会・農業倉部活への全員参加

「教科指導」

- 1) 基礎的な学力の定着と活用する力の伸長
→生徒の学習到達度を把握し、シラバスの作成、指導方法の改善を図り、「わかる授業の創造」の工夫を行う。
→家庭学習を推進する。(週末課題など)
- 2) 学習の理解不足者生徒数の減少を目指す。
→欠点を出した生徒に対しては個々人の学力・関心を考慮した再指導の徹底を図る。
- 3) 専門高校としての学習内容、学習環境、施設設備の充実に努めると共に、教職員・農場技師の研修機会の充実を図る。専門分野の地域経営者や技術者等との連携を密にする。
- 4) 実験実習の分野については、新しい取り組みに積極的に挑戦し、地域の期待に応えることのできる指導者としての技術研修を各人が推進すると共に研修の機会の充実を図る。

- 5) スペシャリスト育成に関する教職員の知識・技術・技能のたゆまぬ研鑽に努める。また、現代の高度化した技術を指導者が習得し、生徒に伝えるために自己開発能力の継続に努める。
- 6) 生徒の資格取得、ボランティア活動を推進する。卒業までに全ての生徒が少なくとも1つの資格を持って卒業するよう指導する。

「進路指導」

- 1) 自己実現に向けた進学および就職への進路指導を行う。
→成績上位者の学力を一層引き上げるための、進路指導と一体化した補習指導期間を設定する。

4. 学科学科目標

食農科学科

- ・農産物の生理生態・育成環境および取扱に関する知識と技術を習得する。
- ・安全な生産から加工・流通までの各分野に関する知識や技術を学ぶとともに、品質と生産性向上およびこれからの農業における課題を解決する能力と態度を育てる。
- ・社会人として農業に関係する各分野で活躍できる人材、上級学校へ進学できる人材を養成し、将来の農業理解者を育成する。

動物科学科

産業動物（家畜、実験動物）愛玩動物・伴侶動物並びに野生動物の生理生態や生育環境、飼育管理などを総括的に学ぶ。各専攻において畜産では家畜生産を通し安全な食料生産と飼育管理技術を学習し、動物バイオテクノロジーでは動物の基本的生理生態の知識を習得し、それらを生かしたバイオテクノロジー技術について学習する。社会人として、豊かな人間性を育むと共に動物関連産業に従事する実践的な職業人、農業理解者を育成する。

森林環境科

緑地や森林が果たしている役割や、人との関わりを学び、農業の基礎となる測量や土木に関する知識を学ぶ。その上で、地域や自然環境の保全、森林資源の利用や加工のための知識・技術を学習する。あわせて空間創造、庭園の維持管理、造園に関する知識・技術も学習する。外部機関とも協力しながら、ボランティア活動や資格取得に積極的に取り組み、全ての教育活動の機会を通じて、関連分野における次世代の担い手育成、環境意識の高い職業人を育成する。

園芸工学科

農業生物の生理生態の基礎学習の上に、農業生産に関わる施設・設備に関する知識と技術を習得する。草花の特性や生産に適した環境を理解し、高品質のシクラメン生産及び経営の改善を図る能力と態度を育てる。また、植物バイオテクノロジーの知識と技術を習得し、組織培養技術を利用した野菜等の品質改善及びウイルスフリー苗の生産向上を図る。バイオテクノロジーが果たす社会的役割について理解を深め、地域農業や関連産業で活躍できる生徒の育成を目指す。

5. 学年の目標

1 学年

- (1) 教育目標について
 - ① 基本的生活習慣の確立
 - ② 基本的生活態度の確立
 - ③ 基礎学力の養成
- (2) 具体的な努力目標
 - ① 時間厳守の意識を持たせる。
 - ② あいさつ・身なりを正しくさせる。
 - ③ 学習意欲を高め、進路意識の向上を図る。
- (3) 目標を達成させるための具体的方策
 - ① 保護者との連携（情報交換）を密に行う。
 - ② 教員が模範となり、日常的に指導を行う。
 - ③ 苦手教科から逃げないように励まし続ける。

2 学年

- (1) 今年度の教育目標について
 - ① 基本的生活習慣の確立
 - ② 基礎学力の向上
 - ③ 進路目標の確立
- (2) 学年としての具体的な努力目標
 - ① 中堅学年として物事を主体的に考え、行動できる生徒の育成に努める。
 - ② 思いやりや道徳心に富み、善悪の判断がきちんとできる生徒の育成に努める。
 - ③ 学習意欲を高め、家庭での学習習慣を身に付けさせる。
 - ④ 自己理解を深めさせるとともに進路意識の向上を図る。
 - ⑤ 修学旅行を成功させる。
- (3) 目標を達成させるための具体的方策
 - ① 毎日の授業や部活、学校行事にしっかり取り組ませる。
 - ② 時宜にかなった教育相談を心がけ、生徒理解に努める。
 - ③ 問題行動を極力少なくするため、予防的な生徒指導を工夫する。
 - ④ 宿題や課題等を工夫し、家庭学習の習慣を身につけさせる。
 - ⑤ 計画的な進路学習やインターンシップ等を通して進路意識を高めさせる。
 - ⑥ 修学旅行実施に向け、事前学習にしっかり取り組ませる。

3 学年

(1) 教育目標

- ① 基本的な生活習慣の確立
- ② 社会に適応できる豊かな人間性の育成
- ③ 進路志望の達成

(2) 努力目標

- ① 生活のリズムを整え、自己管理能力を高める。
- ② 挨拶、礼儀・服装・言葉遣いを整え、社会人らしい常識的態度を身につけさせる。
- ③ 進路志望を達成させる。

(3) 目標達成のために

- ① 保護者との連携を密にし、家庭と学校で協力する体制を作る。
- ② 教員全体で日々の指導・声かけを継続する。
- ③ 進路指導部と連携し、個人の能力・適性に合った進路を達成させる。

6. 分掌目標

総務部

(1) 基本方針

- ① 当部における各種校務は、職員全体の協力無しでは到底できないものばかりである。したがって、校務を円滑に進めるために、“事前の連携”等を行うようにする。
- ② 校務内容を検証し、スリム・コンパクト化しながら内容をより充実させていく。

(2) 重点努力目標

- ① 行事等の前に、他の分掌部や学年と連携をとりながら、校務の遂行を図る。
- ② 一つ一つの校務について事後検証を行い、“労少なく功多き”遂行を図る。

(3) 具体的方策

- ① 学校行事等全体に関わることは、当該企画委員会以前から企画・調整を図る。
- ② 一つ一つの校務内容について、まずは、当部内で検証していき改善を図る。

教務部

(1) 基本方針

平成29年度本校の教育方針を基本とし、在校生の学習機会・内容の充実を図り、確かな学力を獲得させる。そのことで、本校教育活動を地域からの理解に繋げ、志を高く持つ受験生が数多く受験する生徒募集を目指す。これらを実現しつつ、教育活動の円滑な推進と充実努める。

(2) 重点努力目標

- ① 在校生の学習機会・内容の充実を図る。
- ② 基礎学力の定着を図る。
- ③ 地域から必要な学校と思われるように地域住民から理解を得る。
- ④ 志を高く持つ受験生が多く受験する生徒募集を行う。

(3) 具体的方策

- ① 在校生の学習機会・内容の充実を図る。
 - ・「わかりやすい授業」「はじめある授業」の実践。
 - 柴農学習心得の活用、研究授業・現職教育
 - ・「教務部かわら板」の発行により教職員への情報提供を行う。
- ② 基礎学力の定着を図る。
 - ・教科「ベーシック」の充実。
 - ・基礎力診断テスト（ベネッセ）の実施。
 - 学習への意識付け。試験後の学習会の開催。
 - ベネッセGTZ（学力到達ゾーン）D3ゾーンからの脱却を目指す。
 - ・放課後勉強会の実施（基礎学力充実支援事業）
 - 自学自習できる力を身につける。ベーシックの発展。
- ③ 地域から必要な学校と思われるように地域住民から理解を得る。
 - ・学校新聞「すぎやん・さくやん」の配布。
 - ・公開授業の設定。
- ④ 志を高く持つ受験生が多く受験する生徒募集を行う
 - ・中学生体験入学、学校説明会、中学校訪問により前期選抜の受験生の確保。
 - ・魅力ある学校パンフレットの作成。

保健相談部

(1) 基本方針

- ① 心身共に健康な生活ができるよう、生徒並びに教職員の健康保持・増進に努める。
- ② 明るく健全な学習環境の維持・改善を図るとともに、学校内の環境美化に努める。
- ③ 自主・自律の精神を養い、好ましい人間関係を図り、正しく自己表現できるようにする。

(2) 重点努力目標

- ① 生徒の健康安全教育の充実と保護者への啓蒙
- ② 教職員の安全衛生管理の徹底
- ③ 生活環境の整備と維持管理の推進
- ④ 問題を抱える生徒の理解と対応、及び教育相談に関する研修

(3) 具体的方策

- ① 生徒の定期健康診断を計画、実施する。
- ② 基本的な生活習慣の意識を高めさせ、欠席・遅刻・早退の防止に努める。
- ③ 広報活動（保健だより）を通して、生徒及び保護者に健康管理の意識を高めさせる。
- ④ 教職員の健康診断・保健講話・健康相談を実施し、自己の健康管理を促す。
- ⑤ 教室内の整理整頓や換気・照度・湿度等の調整に努める。
- ⑥ 清掃活動を通じ、日常生活の中で衛生環境と美化に努める習慣を身につけさせる。
- ⑦ 部活動では、健康管理と事故防止に留意し、活動できるように指導する。
- ⑧ 実験実習学習では、特に安全に留意し、活動できるように指導する。
- ⑨ 保健室利用規程を守り、保健室の有効活用ができるように指導する。
- ⑩ 教育相談に関する広報活動と、自主相談の推進及び研修をする。

生徒指導部

(1) 基本方針

- ① 自覚と誇りをもち、生き生きとした生徒の育成をめざして、全教職員の共通理解と協力のもとに、各分掌部と連携して組織的・総合的な指導体制を確立し、指導の効果を高める
- ② 学校・家庭・地域社会・関係機関との連携・協調を深めながら、学校内外において意図的・組織的に生徒の指導を推進する。

(2) 重点努力目標

- ① 基本的な生活習慣と規律正しい集団生活の確立
- ② 愛校心と所属感を育む生徒会活動の活性化
- ③ 生命の尊重と安全な生活態度の確立
- ④ 生徒・教職員間における人間関係の深化・充実

(3) 具体的方策

- ① 挨拶の励行と、頭髪・服装指導の徹底ならびに遅刻防止に努める。
- ② 生徒会活動を通して、生徒一人一人の活動を援助しながら、愛校心・所属感を育み、継続的な生徒会役員活動および部活動を援助・推進する。
- ③ 保護者や地域・関係機関との連携を深め、安全宣言・講習会などを通して、交通安全指導を推進する。
- ④ 保健相談部などと連携し、カウンセリングマインドをもって生徒理解に努める。
- ⑤ 生徒指導委員会の機能を通して、学年会との連携を密にし、指導の徹底を図る。
- ⑥ 通学路の清掃を実施する。
- ⑦ 地域の青少年指導関連諸事業との協力・連携を図り、本校生徒の健全育成の効果を高める。

図書情報部

(1) 基本方針

- ① 「図書館の自由に関する宣言」(1954採択)に基づく図書館運営を行う。
- ② 図書館や視聴覚室が学習の総合センターとしての役割を担うことを踏まえ、生徒や教職員の学習・教育研究はもとより生きがいや趣味に繋がる文化的な環境づくりに寄与する。
- ③ 図書館や視聴覚施設・設備の充実をはかり、教育活動が十分に展開できるように運営する。
- ④ 各種行事での放送支援を行う。
- ⑤ 校内ネットワークの整備・保守を行い、安定したネットワーク環境を提供する。

(2) 重点努力目標

- ① 図書部門・・・図書館の管理、運営、利用指導
- ② 視聴覚部門・・・視聴覚教材、教具の充実と活用
- ③ 放送部門・・・校内放送、行事の放送支援
- ④ 情報部門・・・コンピュータの利用支援と校内ネットワークの整備・保守管理

(3) 具体的方策

① 図書部門

- 1) 新入生オリエンテーションや読書指導を行い、図書館の利用促進をはかる。また多読賞等の表彰も行う。
- 2) 蔵書点検、廃架計画、資料選定を行い、魅力ある図書館をつくる。
- 3) 国語科と連携し、校内読書感想文コンクールを開催し、ひいては県コンクールへの参加も指導する。

② 視聴覚部門

- 1) 視聴覚室・視聴覚機材の整備を行い、学習活動や各種行事における機材貸出を行う。
- 2) 芸術鑑賞会を計画し、実施する。
- 3) 行事の記録を行う。

③ 放送部門

- 1) 校内行事の放送支援を行う。
- 2) 放送委員会の活動支援を行う。

④ 情報部門

- 1) 校内ネットワークの整備・保守管理を行い、安定したネットワーク環境を提供する。
- 2) 学校ホームページを作成し、保護者や地域へ適切な情報を提供する。
- 3) 校務、授業におけるコンピュータ活用を積極的に支援する。

進路指導部

(1) 基本方針

- ① 進路指導を「人生の方向づけ」とするための重要な全人教育的指導活動として位置づける。そのため全教職員が共通理解に立って指導体制を確立し、教育課程の全領域にわたって、計画的・組織的・継続的な実践展開をする。
- ② 生徒・保護者相互の進路希望、地域社会の実態、卒業生の動向等の把握に努めるとともに、生徒の自己理解の深化を促し、個別指導の充実によって、多様化した生徒個々に適切な進路選択・進路決定ができるように指導・援助に努め、将来にわたり、職業人として活躍できる資質と態度を育成する。

(2) 重点努力目標

- ① 3年間を見通した系統的な指導により、望ましい勤労観や職業観を身につけさせ、自己実現のための進路学習資料の提供と指導・援助の推進を図る。

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1 学年：自らを見つめ、基本的な生活習慣・学力を自発的に身につけられるよう指導し、正しい職業観の育成に努める。2 学年：自己の適性を分析させ、望ましい人生観・職業観の育成、将来の進路実現に向け意欲的・継続的に学ぶ態度を育成する。3 学年：個々の生徒の適性・興味・能力を生かした的確な進路選択ができるよう、自己実現のための進路学習資料の提供と指導・援助の推進強化を図る。 |
|--|

- ② 幅広い進路学習指導を行うため、PTA・卒業生・地域社会連携強化を進める。
- ③ 生徒自ら進路啓発と就職の実力を高めるためのキャリア教育の奨励を図る。
- ④ 社会性を身につけ協調性を豊かにして職場への定着を高める。

(3) 具体的方策

- ① 早期に自ら進路決定ができるよう、3年間の計画的・継続的な進路指導と進路相談を実施する。
- ② 将来の生き方や進路を考えることができるよう、職場訪問や体験を実施する。
また、学校見学など生徒の自発的な進路活動の奨励・指導助言をする。
- ③ 就職希望者の基礎学力向上を図る指導、面接指導を強化する。
- ④ 大学等進学希望者の基礎学力向上及び学習習慣の指導を徹底する。
- ⑤ 各学科・教科との連携し、資格取得指導を強化する。
- ⑥ 職員協力のもと、積極的な職場開拓・企業訪問を実施し求人確保に努める。
- ⑦ 応募前の職場見学を行い、仕事の内容を理解させるとともに早期離職のないよう指導を徹底する。

農場部

(1) 農業学習の基本方針

- ① 将来の農業自営者及び農業理解者として、農業の基礎・基本を重点的に指導する。
- ② 農業学習のあらゆる機会を通して、豊かな人間形成に努めるとともに、実践的な職業人を育成する。
- ③ 学校農業クラブ活動を円滑に進められるように指導援助に努める。
- ④ 地域と連携し、開かれた農場づくりを目指す。

(2) 重点努力目標

- ① 実体験の充実を図る
- ② 進路を拓く農業学習の充実
- ③ 適正農場規模の具現化

(3) 具体的努力目標

1) 規律・躾教育の徹底

- ① 実習時における服装・頭髪等の徹底
- ② 集合時間の厳守
- ③ 挨拶、言葉遣い、礼の励行
- ④ 欠席・欠課の事前事後の届出と指導

2) 学校農業クラブ活動の充実とプロジェクト

- ① クラブ員として学校農業クラブ活動の充実
- ② 教科内学習における意識の高揚と活性化
- ③ プロジェクト発表・意見発表の指導援助
- ④ 農業鑑定、家畜審査競技、測量競技の指導援助
- ⑤ 奉仕活動の奨励

- 3) 学習環境の充実と整備
 - ①学習ノートの整理と活用方法の指導徹底
 - ②農場週番の指導と徹底
 - ③展掲示教育の充実
- 4) 環境整備と美化
 - ①農場内及び周辺的环境整備・美化
 - ②学校庭園の整備・美化
- 5) 安全教育の徹底
 - ①機械類の始業前点検と安全運転の励行
 - ②車両運行日誌記載の励行
 - ③農薬等の管理, 施肥の徹底
 - ④生徒更衣室の管理の徹底
- 6) 先端技術を活用した農業学習の推進
 - ①環境保全型農業に関する農業学習の推進
 - ②トレーサビリティ
 - ③コンピュータ利用学習
 - ④バイオ技術学習
- 7) 地域に開かれた学校農場の推進
 - ①販売実習での安全で新鮮な農産物の提供
 - ②地域内幼児の芋掘り遠足の受け入れ
 - ③管内小中学校の農業体験学習の受け入れ
 - ④支援学校との交流会
 - ⑤農業クラブ活動における環境学習の推進
 - ⑥地域連携事業等の実践・研究
 - ⑦民間企業との連携

事務部

- (1) 基本方針
本校教育目標の実現に向けて、適切な予算執行と環境整備に努める
- (2) 重点努力目標
 - ①安全な施設の維持及び清潔な職場環境の保持
 - ②迅速かつ正確な会計事務（複数目で確認）

11. 平成29年度日課表（教職員・生徒）

《通常6時間》

月 ～ 金		
農場打合せ	8:20 ~ 8:25 (5分)	
職員打合せ	8:30 ~ 8:35 (5分)	8:30 (チャイム)
学年打合せ	8:35 ~ 8:40 (5分)	8:40 (チャイム)
S H R	8:40 ~ 8:50 (10分)	
1校時	8:55 ~ 9:45	
2校時	9:55 ~ 10:45	
3校時	10:55 ~ 11:45	
4校時	11:55 ~ 12:45	
(昼休み)	12:45 ~ 13:25 (13:20予鈴)	
5校時	13:25 ~ 14:15	
6校時	14:25 ~ 15:15	
清掃	15:20 ~ 15:30 (10分)	
S H R	15:35 ~ 15:40 (5分)	(放課)

勤務時間	8:20 ~ 16:50	
休憩時間	12:40 ~ 13:25 (45分)	

4月	5月	6月	7月	8月	9月	行事
1 土 学年始業(～4/7)	1 月 入学式、入学式	1 木 教育相談期間(5短)、立席指導②	1 土 求人票公開、クレーン講習(実技～2)、高校合同説明会(仙南地区、栗田地区)	1 火 全国高等学校総合文化祭編玉三	1 金 ネット被害未然防止対策講演会	
2 日	2 火 憲法記念日	2 金 教育相談期間(5短)、英検④	2 日 県総体	2 水 水産(～8/5)	2 土	
3 月	3 水 水産祭	3 土 県総体	3 月 みやぎ学力状況調査、野球壮行式	3 木 3年登校日①	3 日	
4 火	4 木 みどりの日	4 日 県総体	4 火 5分短縮授業	4 金	4 月 3年進路模擬面接(5短)	
5 水	5 金 こどもの日	5 月 県総体、教育相談期間(5短)	5 水 5分短縮授業、成組発表	5 土	5 火 3年進路模擬面接(5短)	
6 水	6 土	6 火 教育相談期間(5短)	6 木 5分短縮授業、三者面談	6 日	6 水 3年進路模擬面接(5短)	
7 金	7 日	7 水 県総体報告会(5短)、教育相談期間	7 金 5分短縮授業、三者面談、県立見学会(宮城)	7 月	7 木 3年進路模擬面接(5短)、全国和牛能力共通会(～11)	
8 土	8 月	8 木 防災訓練①、教育相談期間(5短)	8 土 フォーグリアフ講習(座学～9)	8 火 3年登校日②	8 金 3年進路模擬面接(5短)	
9 日	9 火 芸術鑑賞会	9 金 教育相談期間(5短)	9 日	9 水	9 土	
10 月	10 水 始業式、入学式	10 水 第1回生徒会、県クレーン大会⑤⑥	10 月 午前授業、公開授業、三者面談	10 木	10 日	
11 火	11 火 菊池式、部活動紹介⑤⑥、立席指導①(～7)	11 水 苗圃祭(～19)、学科選択説明会(1年)⑥	11 火 午前授業、公開授業、三者面談、県クレーン大会(石巻)	11 金 山の日	11 月	
12 水	12 水 基礎力テスト、服装①(全学年)、新進塾生説明(1年)13:30～	12 木 教育相談期間(5短)	12 水 運動大会(全学年)打ち合せ(互理)	12 土	12 火 仙南地区企業ものづくり企業説明会	
13 木	13 木 個人写真撮影、原簿②(全学年)	13 土 仙南総体	13 木 午前授業、公開授業、三者面談、県クレーン大会(互理)	13 日	13 水	
14 金	14 金 内科・歯科検診13:15、部活動発表会	14 土 仙南総体	14 金 午前授業、公開授業、三者面談、関係協定会	14 月	14 木 全国高等学校総合体育大会水球(～8/20)	
15 土	15 月	15 木 県クレーン大会⑤⑥	15 土 フォーグリアフ講習(実技～17)	15 火	15 金	
16 日	16 火	16 金 第1回考査	16 日	16 水	16 土 就職試験	
17 月	17 水	17 土 全国和牛能力共通会宮城県予選(～18)、男女交際講習会(～18)	17 月 海の日	17 木	17 日	
18 火	18 木 県クレーン大会⑤⑥	18 日	18 火 5分短縮授業、公開授業、三者面談	18 金	18 月 敬老の日	
19 水	19 金	19 月 職業認定競技会展示期間(～23)	19 水 5分短縮授業、公開授業、三者面談	19 土	19 火	
20 木	20 土	20 火 追考査	20 木 体育大会(～21)、5分短縮授業、公開授業、三者面談	20 日	20 水	
21 金	21 日	21 水 追考査	21 金 5分短縮授業、公開授業、三者面談	21 月	21 木	
22 土	22 月	22 木 追考査	22 土	22 火	22 金	
23 日	23 火 県産クレーン大会(小牛田)	23 金	23 日	23 水	23 土 秋分の日	
24 月	24 水	24 土 クレーン講習(座学～25)	24 月 終業式	24 木	24 日	
25 火	25 木 仙南総体報告会、県総体壮行式	25 日	25 火 夏祭(～8/25)、インターンシップ(～2)	25 金	25 月	
26 水	26 金 自転車点検	26 月 職業認定競技会展示期間(～30)	26 水 県クレーン大会(青森～25)	26 土	26 火 第2回考査	
27 木	27 土 身体測定⑤⑥、尿検査(午検)	27 火	27 木 県クレーン大会(岩手～28)	27 日	27 水 第2回考査	
28 金	28 日 福祉検診(1年)9:00～	28 水 命の大切さを学ぶ教室	28 金 全国高等学校総合体育大会(～8/20)	28 月	28 木 第2回考査	
29 土	29 月 眼科検診(全)13:30～	29 木 県産クレーン大会(磐城)	29 土	29 火	29 金 第2回考査	
30 日	30 火 教育相談期間(5短)	30 金	30 日	30 水	30 土 学校説明会	
31 月	31 水 教育相談期間(5短)	31 月	31 月	31 木	31 日	
						仙南支援学校交流会(上旬)

10月		11月		12月		1月		2月		3月	
日	行事	日	行事	日	行事	日	行事	日	行事	日	行事
1	水	1	水	1	金	1	月 元日	1	水	1	木
2	木	2	木	2	土	2	火	2	金	2	金
3	火	3	金	3	日	3	水	3	土	3	土
4	水	4	土	4	月	4	木	4	日	4	日
5	木	5	日	5	火	5	金	5	月	5	月
6	金	6	月	6	水	6	土	6	火	6	火
7	土	7	火	7	木	7	日	7	水	7	水
8	日	8	水	8	金	8	月 成人の日	8	木	8	木
9	月	9	木	9	土	9	火	9	金	9	金
10	火	10	金	10	日	10	水	10	土	10	土
11	水	11	土	11	月	11	木	11	日	11	日
12	木	12	日	12	火	12	金	12	月	12	月
13	金	13	月	13	水	13	土	13	火	13	火
14	土	14	火	14	木	14	日	14	水	14	水
15	日	15	水	15	金	15	月	15	木	15	木
16	月	16	木	16	土	16	火	16	金	16	金
17	火	17	金	17	日	17	水	17	土	17	土
18	水	18	土	18	月	18	木	18	日	18	日
19	木	19	日	19	火	19	金	19	月	19	月
20	金	20	月	20	水	20	土	20	火	20	火
21	土	21	火	21	木	21	日	21	水	21	水
22	日	22	水	22	金	22	月	22	木	22	木
23	月	23	木	23	土	23	火	23	金	23	金
24	火	24	金	24	日	24	水	24	土	24	土
25	水	25	土	25	月	25	木	25	日	25	日
26	木	26	日	26	火	26	金	26	月	26	月
27	金	27	月	27	水	27	土	27	火	27	火
28	土	28	火	28	木	28	日	28	水	28	水
29	日	29	水	29	金	29	月	29	土	29	土
30	月	30	木	30	土	30	火	30	日	30	日
31	火	31	日	31	月	31	水	31	土	31	土

IV 教育課程

1. 教育課程編成の基本方針

教育課程の基本方針を以下のように踏まえながら編成をした。

- ① 専門校としての特色をいかす教育課程であること。
- ② 生徒の実態を踏まえ進路に応じた教育課程であること。
- ③ 実践・体験学習ができる教育課程であること。
- ④ 教育施設・設備が有効に活用される教育課程であること。

重点的には、生徒の実態・学校の実態に即して、特色と魅力ある幅広い職業教育・職業準備教育が展開できるようにし、中学校教育の上にとって普通科教育と職業科教育の基礎・基本となる学習が展開できるようにしている。また、地域社会、産業構造等の変化に弾力的に対応し「ふるさと定住後継者」の育成が十分発揮できるように編成している。さらに、各教育活動においては、実践的・体験的学習を重視し、生徒と教職員が一体となって活動できる場が取れるよう配慮している。

具体的には、特色ある専門高校実現のために、普通科・専門教科・特別活動の時数を考慮し、生徒一人ひとりの個性や能力・適性に応じた学習指導、特に基礎・基本を重視した教育課程にしている。また、2、3年生では、生徒の志向・能力・適性・進路を考慮し、実践的・体験的学習を重視した農業教科科目・選択教科科目を導入している。時間割においては、農業実習・遠隔地農場における実験・実習に対応できるよう連続授業展開をしている。

生徒により良い学習環境を提供するためには、社会構造の変化に応じた適切な職業教育の実践を目指し、絶えず教育課程を検討していくことを通年の課題としている。

2. 特色ある教育活動

校訓「質実剛健」「自律調和」をもとに心身共に健全で明るく調和のとれた人間性を養うことを目標に、様々な教育活動を展開している。

- ① 資格取得の奨励……卒業後を踏まえ各学科、教科の指導において様々な資格取得が可能。

<主な資格取得>

毒劇物取扱者、危険物取扱者、フォークリフト運転技能講習、玉掛け技能講習、小型車両系建設機械運転特別教育、アーク溶接特別教育、ガス溶接技能講習、レタリング検定、簿記検定、ビジネス文書実務検定、英語検定、漢字検定、家庭科食物技術検定

- ② 基礎・基本の定着……学校設定教科ベーシック読書術・算術、進路指導部が作成したスキルアップ問題集の導入。

- ③ 特別活動……運動部・文化部・生徒会・農業クラブなどの活動の奨励。

特に運動部ではウエイトリフティング部、ボクシング部が、インターハイ、国体などで入賞、文化部でも写真部、美術工芸部、文芸弁論部など活躍している。

	科目/学年	学科・系	生産技術系								環境技術系								
			食農科学科				動物科学科				森林環境科				園芸工学科				
			標準単位	1 生産	2	3	計	1 生産	2	3	計	1 環境	2	3	計	1 環境	2	3	計
国語	国語総合	4	4			4	4			4	4			4	4			4	
	現代文A	2		2		2		2		2	2			2		2		2	
	国語表現	3			3	3			3	3			3	3			3	3	
	古典A	2			(2)	(2)			(2)	(2)			(2)	(2)			(2)	(2)	
地理歴史	地理A	2		2		2		2		2	2			2		2		2	
	世界史A	2			2	2			2	2			2	2			2	2	
	日本史A	2			(2)	(2)			(2)	(2)			(2)	(2)			(2)	(2)	
公民	現代社会	2	2			2	2			2	2			2	2			2	
	政治・経済	2			(2)	(2)			(2)	(2)			(2)	(2)			(2)	(2)	
数学	数学Ⅰ	3	3			3	3			3	3			3	3			3	
	数学A	2		3		3	3			3	3			3	3			3	
	数学活用	2			2	2			2	2			2	2			2	2	
	数学Ⅱ	4			(4)	(4)			(4)	(4)			(4)	(4)			(4)	(4)	
理科	科学と人間生活	2			2	2			2	2			2	2			2	2	
	生物基礎	2	2			2	2			2	2			2	2			2	
	化学基礎	2		2		2	2			2	2			2	2			2	
	生物	4			(4)	(4)			(4)	(4)			(4)	(4)			(4)	(4)	
保健体育	体育	7~8	3	2	2	7	3	2	2	7	3	2	2	7	3	2	2	7	
	保健	2	1	1		2	1	1		2	1	1		2	1	1		2	
芸術	美術Ⅰ	2				2				2				2				2	
	美術Ⅱ	2			(2)	(2)			(2)	(2)			(2)	(2)			(2)	(2)	
	工芸Ⅰ	2			(2)	(2)			(2)	(2)			(2)	(2)			(2)	(2)	
	書道Ⅰ	2			(2)	(2)			(2)	(2)			(2)	(2)			(2)	(2)	
外国語	コミュニケーション英語基礎	2	2			2	2			2	2			2	2			2	
	コミュニケーション英語Ⅰ	3		3		3		3		3		3		3		3		3	
	英語会話	2			[2]	[2]			[2]	[2]			[2]	[2]			[2]	[2]	
	英語表現Ⅰ	2			(2)	(2)			(2)	(2)			(2)	(2)			(2)	(2)	
家庭	コミュニケーション英語Ⅱ	4			(4)	(4)			(4)	(4)			(4)	(4)			(4)	(4)	
	家庭総合	4	2	2		4	2	2		4	2	2		4	2	2		4	
情報	(専門の情報科目で代替)																		
ベーシック	※ ベーシック読書術		1			1	1			1	1			1	1			1	
	※ ベーシック算術		1			1	1			1	1			1	1			1	
普通科目計①			21	19	11	51	21	19	11	51	21	19	11	51	21	19	11	51	
選択科目計②					6	6			6	6			6	6			6	6	
農業	農業と環境	2~6	4			4	4			4	4			4	4			4	
	課題研究(総合的な学習の時間)	2~6		2	2	4		2	2	4		2	2	4		2	2	4	
	総合実習	2~8	2	2	2	6	2	2	2	6	2	2	2	6	2	2	2	6	
	時間外○		①	①	①	③	①	①	①	③	①	①	①	③	①	①	①	③	
	農業情報処理	2~6	2			2	2			2	2			2	2			2	
	野菜	2~8		△2	△4	△6													
	果樹	2~8		△2	△4	△6													
	草花	2~8															△4	△4	△8
	畜産	2~12					△2	△4	△6										
	食品製造	2~8		2	2	4		2	2	4									
	植物バイオテクノロジー	2~6															△4	△4	△8
	動物バイオテクノロジー	2~6						△2	△4	△6									
	農業経済	2~6				(4)	(4)			(4)	(4)			(4)	(4)			(4)	(4)
	食品流通	2~6				2	2			2	2			2	2			2	2
	林産物利用	2~8												△4	△4				
	農業土木設計	2~8												2	2				
	農業土木施工	2~6												2	2				
	造園計画	2~10												△4	△4				
	造園技術	2~6												4	4				
	測量	2~8												2	2				
	生物活用	2~5																2	2
	グリーンライフ	2~6			2		2												
	※ 動物科学	4						2	2	4									
	商業	簿記	2~8			(4)	(4)			(4)	(4)			(4)	(4)			(4)	(4)
	家庭	フードデザイン	4~6			(4)	(4)			(4)	(4)			(4)	(4)			(4)	(4)
	専門科目計③			8	10	12	30	8	10	12	30	8	10	12	30	8	10	12	30
	教科科目合計			29	29	29	87	29	29	29	87	29	29	29	87	29	29	29	87
①+②+③			①	①	①	③	①	①	①	③	①	①	①	③	①	①	①	③	
特別活動	ホームルーム活動	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	
週当たり総時間数			30	30	30	90	30	30	30	90	30	30	30	90	30	30	30	90	

凡例 ()は選択科目
 []は英語の選択科目
 ※印は学校設定科目
 時間外総合実習欄の○印は単位数
 情報は、農業科目「農業情報処理」により代替する。
 専門科目の必修選択 []の部分は、2年で選択した科目を、3年でも同じ科目を選択する。
 △印は必修選択科目の単位数

【3学年選択科目群】各群より1~2科目(4単位)を選択する。

I群	古典A (2)	政治・経済 (2)	美術Ⅱ (2)	数学Ⅱ(4)	生物(4)	コミュニケーション 英語Ⅱ(4)	フードデザ イン(4)	簿記(4)	農業経済(4)
II群	書道Ⅰ (2)	日本史A (2)	工芸Ⅰ (2)						

科目/学年	学科・系	生産技術系												環境技術系							
		食農科学科						動物科学科						森林環境科				園芸工学科			
		標準単位	1 生産	2	3	計	1 生産	2	3	計	1 環境	2	3	計	1 環境	2	3	計			
国語	国語総合	4	4			4	4			4	4			4	4			4			
	現代文A	2		2		2		2		2		2		2		2		2			
	国語表現	3			3	3			3	3			3	3			3	3			
	古典A	2			(2)	(2)			(2)	(2)			(2)	(2)			(2)	(2)			
地理歴史	地理A	2		2		2		2		2		2		2		2		2			
	世界史A	2			2	2		2	2			2	2			2	2	2			
	日本史A	2			(2)	(2)			(2)	(2)			(2)	(2)			(2)	(2)			
公民	現代社会	2	2			2	2		2	2		2	2		2		2	2			
	政治・経済	2			(2)	(2)			(2)	(2)			(2)	(2)			(2)	(2)			
数学	数学Ⅰ	3	3			3	3		3	3		3	3		3		3	3			
	数学A	2		3		3		3		3		3		3		3		3			
	数学活用	2			2	2		2	2			2	2			2	2	2			
	数学Ⅱ	4			(4)	(4)			(4)	(4)			(4)	(4)			(4)	(4)			
理科	科学と人間生活	2			2	2		2	2			2	2			2	2	2			
	生物基礎	2	2			2	2		2	2		2	2		2		2	2			
	化学基礎	2		2		2		2		2		2		2		2		2			
	生物	4			(4)	(4)			(4)	(4)			(4)	(4)			(4)	(4)			
保健体育	体育	7~8	3	2	2	7	3	2	2	7	3	2	2	7	3	2	2	7			
	保健	2	1	1		2	1	1		2	1	1		2	1	1		2			
芸術	美術Ⅰ	2		2		2		2		2		2		2		2		2			
	美術Ⅱ	2			(2)	(2)			(2)	(2)			(2)	(2)			(2)	(2)			
	工芸Ⅰ	2			(2)	(2)			(2)	(2)			(2)	(2)			(2)	(2)			
外国語	コミュニケーション英語基礎	2	2			2	2		2	2		2	2		2		2	2			
	コミュニケーション英語Ⅰ	3		3		3		3		3		3		3		3		3			
	英語会話	2			[2]	[2]			[2]	[2]			[2]	[2]			[2]	[2]			
	英語表現Ⅰ	2			[2]	[2]			[2]	[2]			[2]	[2]			[2]	[2]			
	コミュニケーション英語Ⅱ	4			(4)	(4)			(4)	(4)			(4)	(4)			(4)	(4)			
家庭	家庭総合	4	2	2		4	2	2		4	2	2		4	2	2		4			
情報	(専門の情報科目で代替)																				
ベーシック	※ ベーシック読書術		1			1	1			1			1	1			1	1			
	※ ベーシック美術		1			1	1			1			1	1			1	1			
普通科目計①			21	19	11	51	21	19	11	51	21	19	11	51	21	19	11	51			
選択科目計②					6	6			6	6			6	6			6	6			
農業	農業と環境	2~6	4			4	4		4	4		4	4		4		4	4			
	課題研究(総合的な学習の時間)	2~6		2	2	4		2	2	4		2	2	4		2	2	4			
	総合実習	2~8	2	2	2	6	2	2	2	6	2	2	2	6	2	2	2	6			
	時間外①		①	①	①	③	①	①	①	③	①	①	①	③	①	①	①	③			
	農業情報処理	2~6	2			2	2		2		2		2		2		2				
	野菜	2~8			△2	△4	△6														
	果樹	2~8			△2	△4	△6														
	草花	2~8															△4	△4	△8		
	畜産	2~12						△2	△4	△6											
	農業経営	2~6			(2)	(2)			(2)	(2)			(2)	(2)			(2)	(2)			
	農業機械	2~6			(2)	(2)			(2)	(2)			(2)	(2)			(2)	(2)			
	食品製造	2~8		2	2	4		2	2	4											
	植物バイオテクノロジー	2~6						△2	△4	△6							△4	△4	△8		
	動物バイオテクノロジー	2~6						△2	△4	△6											
	農業経済	2~6			(2)	(2)			(2)	(2)			(2)	(2)			(2)	(2)			
	食品流通	2~6			2	2										2		2			
	森林科学	2~8										△4		△4							
	林産物利用	2~8											△4	△4							
	農業土木設計	2~8											2	2							
	農業土木施工	2~6											2	2							
	造園計画	2~10											△4	△4							
	造園技術	2~6											△4	△4							
	測量	2~8											2	2							
	生物活用	2~5																2	2		
	グリーンライフ	2~6			2		2											2	2		
	※ 動物科学								2	2	4										
	商業	簿記	2~8			(4)	(4)			(4)	(4)			(4)	(4)			(4)	(4)		
	家庭	フードデザイン	4~6			(4)	(4)			(4)	(4)			(4)	(4)			(4)	(4)		
	専門科目計③			8	10	12	30	8	10	12	30	8	10	12	30	8	10	12	30		
教科科目合計			29	29	29	87	29	29	29	87	29	29	29	87	29	29	29	87			
①+②+③			①	①	①	③	①	①	①	③	①	①	①	③	①	①	①	③			
特別活動【ホームルーム活動】		3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3			
週当たり総時間数			30	30	30	90	30	30	30	90	30	30	30	90	30	30	30	90			

凡例 ()は選択科目 時間外総合実習欄の○印は単位数 △印は必修選択科目の単位数
 []は英語の選択科目 情報は、農業科目[農業情報処理]により代替する。
 ※印は学校設定科目 専門科目の必修選択 []の部分は、2年で選択した科目を、3年でも同じ科目を選択する。

【3学年選択科目群】各群より1~2科目(4単位)を選択する。

I群	農業経営 (2)	古典A (2)	政治・経済 (2)	美術Ⅱ (2)	数学Ⅱ(4)	生物(4)	コミュニケーション英語Ⅱ(4)	フードデザイン(4)	簿記(4)
II群	農業機械 (2)	農業経済 (2)	日本史A (2)	工芸Ⅰ (2)					

V 職員

1. 教職員数

人数	校長	教頭	主幹教諭	教諭	養護教諭	代替養護教諭	実習教諭	実習講師	実習助手	常勤講師	非常勤講師	事務職員	学校司書	技師(庁務)	代替事務職員	臨時職員	パート職員	小計	カウんセラー	スクールソーシャルワーカー	スクールの支援員	連携コーディネーター	学校医				薬剤師	小計	合計
																							内科	眼科	歯科	耳鼻科			
1	1	1	1	30	1	1	1	1	9	2	9	5	1	1	1	5	3	73	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10	83

2. 教職員一覧

☆学科長

★教科主任

職名	氏名	担当教科	担当学年	校務分掌	部顧問
1 校長	後藤 武徳				
2 教頭	長内 志郎				
3 主幹教諭	高杉 隆範	園芸工学科	1学年所属	農場部長	
4 教諭(再任用)	三枚橋竹人	数学	1-1 副	教務部副部長	剣道
5 教諭	塚目利喜雄	保健体育	2学年主任	生徒指導部	ウエイトリフティング
6 教諭	三浦 義博	食農科学科	3学年所属	進路指導部長	ソフトテニス
7 教諭	齋藤 朗	数学	2-4 副	図書情報部長	社会科学/囲碁将棋/バスケットボール
8 教諭	鷲 貴子	英語	2-2 副	保健相談部長	文芸弁論/写真
9 教諭	菊池 克哉	国語★	1-4 副	総務部長	バドミントン
10 教諭	佐藤 一志	保健体育★	1学年所属	生徒指導部長	硬式野球
11 教諭	五十嵐永治	森林環境科	3-3 正	農場部	卓球
12 教諭	樋口ちひろ	国語	3学年主任	進路指導部副部長	書道/音楽
13 教諭	鈴木 幹子	家庭★	1-1 正	進路指導部	家庭/文芸弁論
14 教諭	加野 良樹	保健体育	2学年所属	生徒指導部	
15 教諭	尾身 宜彦	食農科学科	2学年所属	教務部長	剣道
16 教諭	鈴木 清文	英語★	1-3 副	図書情報部副部長	囲碁将棋
17 教諭	村上 大亮	動物科学科☆	3-2 副	生徒指導部副部長	水泳/農業科学
18 教諭	伊藤 玄	地歴公民★	2-1 正	教務部	硬式野球
19 教諭	阿部 由	食農科学科☆	1学年主任	農場部副部長	ボクシング
20 教諭	洞口 泰邦	森林環境科	3-3 正	進路指導部	バレーボール
21 教諭	佐藤 寛紀	数学★	3-2 正	教務部	バドミントン
22 教諭	大和 知朗	森林環境科☆★	2-3 正	農場部副部長	バレーボール/農業科学
23 教諭	伊藤 敏好	動物科学科	2-2 正	生徒指導部	サッカー
24 教諭	日下 久美				
25 教諭	伊藤 隆文	芸術★	3-4 正	総務部	美術工芸/書道

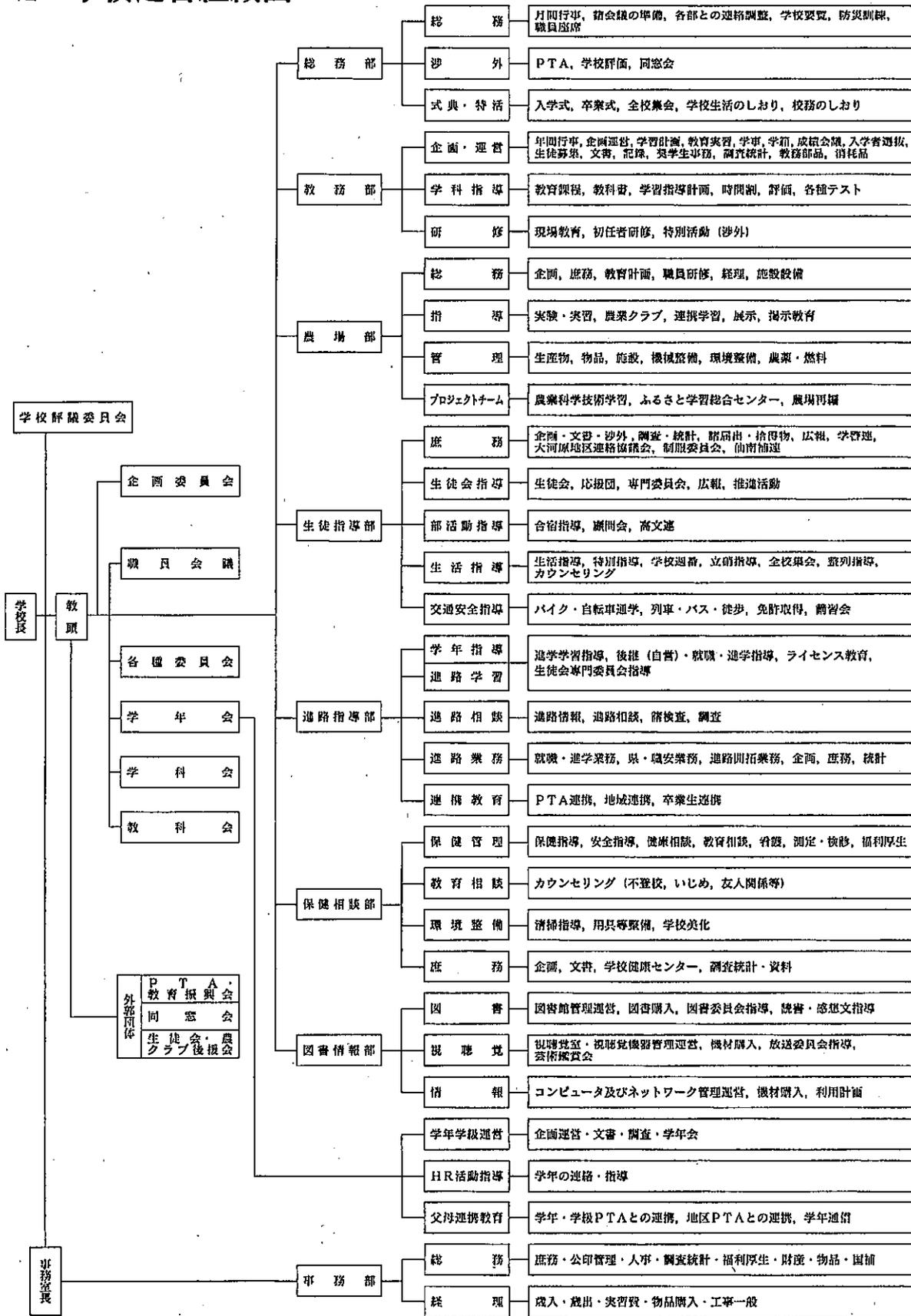
No.	職名	氏名	担当教科	担当学年	校務分掌	部顧問
26	教諭	川村 佐知子	園芸工学科	2-4 正	総務部	音楽/家庭
27	教諭	佐藤 彰子	園芸工学科☆	1-4 正	保健相談部副部長	卓球
28	教諭	奥山 典子	国語	2-1 副	進路指導部	写真/社会科学
29	教諭	村上 久遠	理科★	1-2 正	教務部	サッカー
30	教諭	石山 俊太	英語	3-1 正	生徒指導部	バスケットボール
31	教諭	軽部圭一郎	地歴公民	2-3 副	進路指導部	バスケットボール
32	教諭	米山真之輔		1-3 正	総務部	バレーボール
33	教諭	萩尾 斗武		3-1 副	教務部	ソフトテニス
34	養護教諭	佐藤 克実		1学年所属	保健相談部	
35	実習教諭	水野恵美子		2学年所属	図書情報部	自然科学/美術工芸
36	実習講師	江端美樹雄		2学年所属	農場部副部長	
37	実習助手(再任用)	大友 一男		1学年所属	農場部/教務部	
38	実習助手	大坪 孝志		3学年所属	農場部/進路指導部	
39	実習助手	佐藤 充		1学年所属	農場部/生徒指導部	ウエイトリフティング
40	実習助手	大立目 武		3学年所属	農場部/生徒指導部	ボクシング
41	実習助手	佐々木真梨		1学年所属	農場部/進路指導部	農業科学
42	実習助手	横山 寛栄		3学年所属	農場部/総務部	農業科学
43	実習助手	西村 千明		2学年所属	農場部/保健相談部	
44	実習助手	武田 優衣		3学年所属	農場部/総務部	
45	実習助手	渡邊 涼		3学年所属	農場部/教務部	硬式野球
46	講師	阿部 寿典		3-4 副	教務部	自然科学/水泳
47	講師	木幡 洋介		1-2 副	生徒指導部	ボクシング
48	代替養護教諭	稲村 祐香		3学年所属	保健相談部	ウエイトリフティング
49	非常勤講師	鈴木満太郎				
50	非常勤講師	浅野 佳子				
51	非常勤講師	佐藤 秀明				
52	非常勤講師	石垣 幹夫				
53	非常勤講師	武田 和樹				
54	非常勤講師	加藤 拓弥				
55	非常勤講師	丹野 良雄				
56	非常勤講師	島貫 文博				
57	非常勤講師	森田 晶子				
58	事務室長	高橋 純一			事務部	
59	主任主査(平務次長)	柏原 伸行			事務部	
60	主査	若生麻利子			事務部	
61	主事(学校司書)	楯石 幸子			事務部/図書情報部	

No.	職名	氏名	担当教科	担当学年	校務分掌	部顧問
62	主事	宗川 智洋			事務部	
63	主事	菊池 悠里			事務部	
64	代替事務職員	野呂瀬怜実			事務部/図書情報部	
65	主任技師	山家 進			事務部	
66	臨時職員	長田 敏子			事務部	事務補助
67	臨時職員	遠藤 孝俊				庁務補助
68	臨時職員	太田 定				農場業務補助
69	臨時職員	森 佳奈				農場業務補助
70	臨時職員	佐藤 重男				農場業務補助 (演習林)
71	パート職員	森 浩美				庁務補助
72	パート職員	金子 義昭				土日等動植物管理
73	パート職員	本郷 健志				土日等動植物管理
74	非常勤職員	鈴木 衛				心のケア支援員
75	非常勤職員	佐藤 孝次				連携コーディネーター
76	スクールソーシャルワーカー	伊藤 美奈				
77	スクールカウンセラー	二瓶 香織				
78	校医	日下 隆				管理校医
79	校医	水戸 武三				眼科
80	校医	大久 俊和				耳鼻科
81	校医	高橋 純孝				歯科
82	薬剤師	森 京子				
83	ALT	テリー・デュアー				ALT

3. 学校評議員

氏名	所属(役職)
佐藤 吉太郎	佐藤整骨院医院長
大野 幸雄	本校PTA会長, (株)ケーデーエム
大村 里子	元本校PTA会長
千葉 岩孝	元本校教職員, 自営業(アパート経営)
大宮 信雄	川崎校PTA顧問
中村 とみ子	民生員児童委員, 食生活改善委員
水沼 浩	ローソン川崎店オーナー, 川崎町商工会理事

VI 学校運営組織図



※各種委員会→企画委員会, 教育課程検討委員会, 農場運営委員会, 生徒指導委員会, 進路指導・推薦委員会, 保健指導委員会, 図書選定委員会, 学校災害対策委員会, 指名委員会, 選科委員会, 卒業祭実行委員会, 制服検討委員会, 国際理解教育担当, 環境緑化推進委員会, 衛生委員会, 生徒指導いじめ問題対策委員会, 「学校案内」等作成委員会, 学校保健委員会, (中退問題対策委員会,) 修学旅行実施検討委員会, ボランティア委員会, カウンセリング委員会, 特別支援教育推進委員会, 情報セキュリティ対策委員会, 統合校教育基本構想検討委員会

VII 生徒概要

1. 生徒在籍数

学科クラス	1年			学科クラス	2年			学科クラス	3年			
	男	女	計		男	女	計		男	女	計	
食農科学・動物科学科	1組	17	21	38	食農科学科1組	24	11	35	食農科学科1組	23	16	39
	2組	17	20	37	動物科学科2組	10	26	36	動物科学科2組	17	20	37
森林環境・園芸工学科	3組	32	10	42	森林環境科3組	29	10	39	森林環境科3組	28	6	34
	4組	31	12	43	園芸工学科4組	14	15	29	園芸工学科4組	11	20	31
小計		97	63	160	小計	77	62	139	小計	79	62	141
合計		253	187					440				

2. 出身中学校・出身市町村別生徒数

市町村	白石市			藤沢市			七ヶ宿町			大河原町			柴田町			村田町		川崎町		丸森町		角田市			亘理町			山元町		岩沼市				
	白石	南	東	白川	福岡	小原	丹田	遠刈田	宮	七ヶ宿	大河原	金ヶ瀬	榎木	船岡	船迫	村田一	村田二	川崎	廣岡	丸森	角田	北角田	金津	亘理	遠刈田	荒浜	吉田	山下	坂元	岩沼	岩沼西	岩沼北	玉浦	
1学年	7	2	11	0	3	0	3	1	2	1	21	3	14	14	5	0	3	0	1	0	2	4	1	5	0	0	1	4	0	8	1	2	0	
2学年	5	0	2	2	2	0	1	1	6	0	19	8	13	20	9	3	0	0	2	1	0	8	0	3	3	0	0	3	0	0	1	9	3	
3学年	3	2	10	2	0	1	1	0	2	0	24	2	6	12	4	1	3	2	1	0	1	5	1	4	0	1	0	2	0	5	0	4	0	
中学校別合計	15	4	23	4	5	1	5	2	10	1	64	11	33	46	18	4	6	2	4	1	3	17	2	12	3	1	1	9	0	13	2	15	3	
市町村別合計	52			17			1	75			97			10		6		1	22			17			9		33							

市町村	名取市					仙台市																	多賀城市	県外				計				
	名取一	名取二	増田	開上	みどり台	幸町	八軒	東仙台	八木山	八乙女	桜丘	六郷	蒲町	台原	長町	山田	郡山	袋原	柳生	中田	富沢	西多賀	七郷	根白石	往吉台	広瀬	多賀城		北信	遠瀬	上田	平賀東
1学年	8	0	2	1	2	1	0	1	2	2	1	1	0	0	0	1	1	5	2	6	1	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	159
2学年	8	2	3	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3	1	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	148	
3学年	9	1	2	0	0	0	0	3	0	0	0	1	1	1	4	2	2	0	5	1	0	1	2	0	1	1	1	0	0	0	138	
中学校別合計	25	3	7	1	2	2	1	4	2	2	1	2	1	1	6	4	10	3	13	2	1	1	2	1	2	1	1	1	1	1	445	
市町村別合計	38					62																	1	4				445				

3. 通学方法

	徒歩	自転車	バイク	バス	電車	その他(送迎等)	計
1学年	8	37	0	0	106	8	159
2学年	15	45	1	4	79	4	148
3学年	16	29	5	4	77	7	138
合計	39	111	6	8	262	19	445

4. 続柄・保護者の職業

続柄・職業	長男・長女	次男・次女	三男・三女	その他	計
1学年	97	48	11	3	159
2学年	94	44	8	2	148
3学年	82	40	12	4	138
合計	273	132	31	9	445

・保護者の職業分類

	農業	林業	漁業	鉱業	建設土木	製造	電気ガス水道	運輸通信
1年生	3	1	0	2	19	26	12	20
2年生	3	0	0	1	29	46	5	15
3年生	3	0	0	0	18	31	0	18
合計	9	1	0	3	66	103	17	53

	卸売小売	金融保険	不動産	サービス	公務員	その他	無職	合計
1年生	12	6	0	16	12	28	2	159
2年生	8	3	0	26	4	7	1	148
3年生	11	2	0	21	11	17	6	138
合計	31	11	0	63	27	52	9	445

VIII 進 路

1.平成28年度 進路決定状況

学科	進路決定			食農科学科			動物科学科			森林環境科			園芸工学科			
	人数	男	女	合計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
進学	大学・短大	1	3	4	1	1	2	0	2	2	0	0	0	0	0	0
	専門学校	8	7	15	2	0	2	3	3	6	2	0	2	1	4	5
	各種学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	9	10	19	3	1	4	3	5	8	2	0	2	1	4	5
就職	民間企業	50	41	91	10	8	18	8	15	23	19	6	25	13	12	25
	公務員	8	0	8	3	0	3	2	0	2	2	0	2	1	0	1
	臨時	12	6	18	6	2	8	2	1	3	4	1	5	0	2	2
	自営・縁故	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0
	未定	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	71	47	118	19	10	29	12	16	28	26	7	33	14	14	28	
合計	80	57	137	22	11	33	15	21	36	28	7	35	15	18	33	

2.年間指導計画

月	進路部	1学年	2学年	3学年
4	クラス開き		進路オリエンテーション	進路希望調査①(クラス毎)
	進路しおり配布		進路希望調査①/進路しおり説明会	進路オリエンテーション
			インターンシップ説明会	進路のしおりの確認
			IS希望者と企業間調整	
5	進学奨学金手続き①	進路オリエンテーション	IS希望者と企業アポイント	
		進路希望調査①	ISマナー講習	
			ISノート作成	
6	進路保護者生徒説明会		IS企業研究講習	進路保護者生徒説明会
	公務員試験開始		IS自己紹介書作成	進路希望調査②
	AO入試対応		表現・作文学習	面接セミナー
	進路指導委員会			SPI講習
7	求人票受付	進路のしおり活用	ISマナー講話	面接指導①
	応募前職場見学		進路適性検査 活用	履歴書の書き方
			インターンシップ(25~27)	SPI講習
			IS報告書、お礼状作成	求人票公開・応募前見学
8	推薦会議資料作成			登校日①(8/3)
	就職推薦会議			登校日②(8/2 就職)
	就職応募書類作成			登校日③(8/23 進学)
				SPI講習/面接練習
9	就職応募書類発送	TK式M2-DV(自己理解調査)		就職推薦会議
	就職試験開始			就職試験激励会
	進学奨学金手続き②			面接指導(P.T.A)
	進学推薦会議			就職試験開始(9/16~)
10	専門学校推薦出願	職業適性検査		進学推薦会議
		職業人講話	職業人講話	
11	大学推薦出願			
	就職合同面接会①		進路ガイダンス①	
12				スーツ着こなしセミナー
				入社準備セミナー①
1	一般求人受付	インターンシップガイダンス	進路希望調査②	入社準備セミナー②
		インターンシップ希望調査		
2	就職合同面接会②	3年生の先輩に聞く会	インターンシップ報告会	3年生の先輩に聞く会
	職業相談(職安)	インターンシップ報告会	3年生の先輩に聞く会	
3		進路希望調査②	進路ガイダンス(進路別)	
		進路ガイダンス		
		進路ガイダンス	進路ガイダンス②	
		キャリアセミナー		

IX. 特別活動

1. 部活動

部活動名	
体育系	1. バレーボール男子 2. バレーボール女子 3. ソフトテニス男子 4. ソフトテニス女子 5. 卓球 6. 硬式野球 7. 剣道 8. ウェイトリフティング 9. バスケットボール 10. サッカー 11. バドミントン男子 12. バドミントン女子 13. ボクシング 14. 水泳 15. 相撲愛好会
文化系	16. 文系弁論 17. 自然科学部 18. 社会科学部 19. 写真 20. 音楽 21. 美術工芸 22. 書道 23. 家庭科 24. 囲碁将棋 25. 軽音楽愛好会
農業クラブ系	25. 農業科学

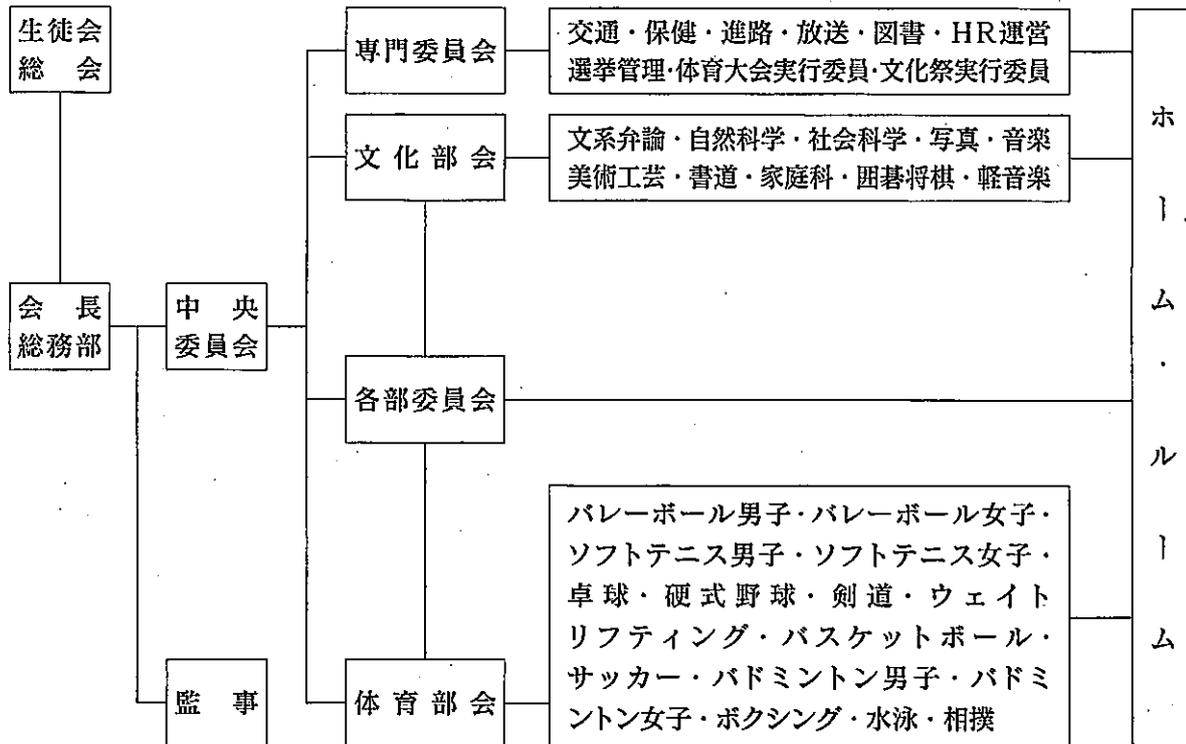
2. 生徒会

役員 生徒会長 高橋 秀輔 副会長 庄子 拓杜
大内 優輝

平成29年度 予算額 7,112,089円

平成28年度 予算額 6,975,999円

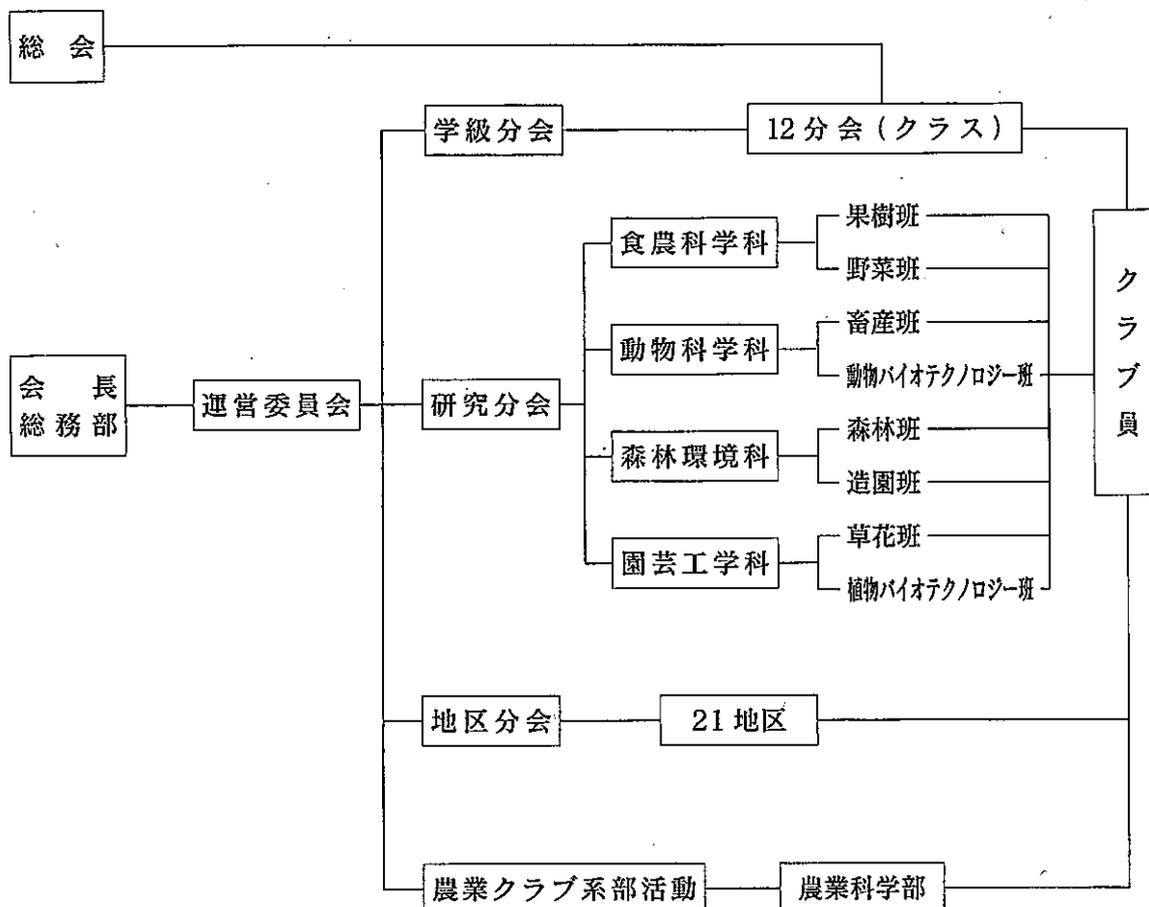
組織図



3. 学校農業クラブ

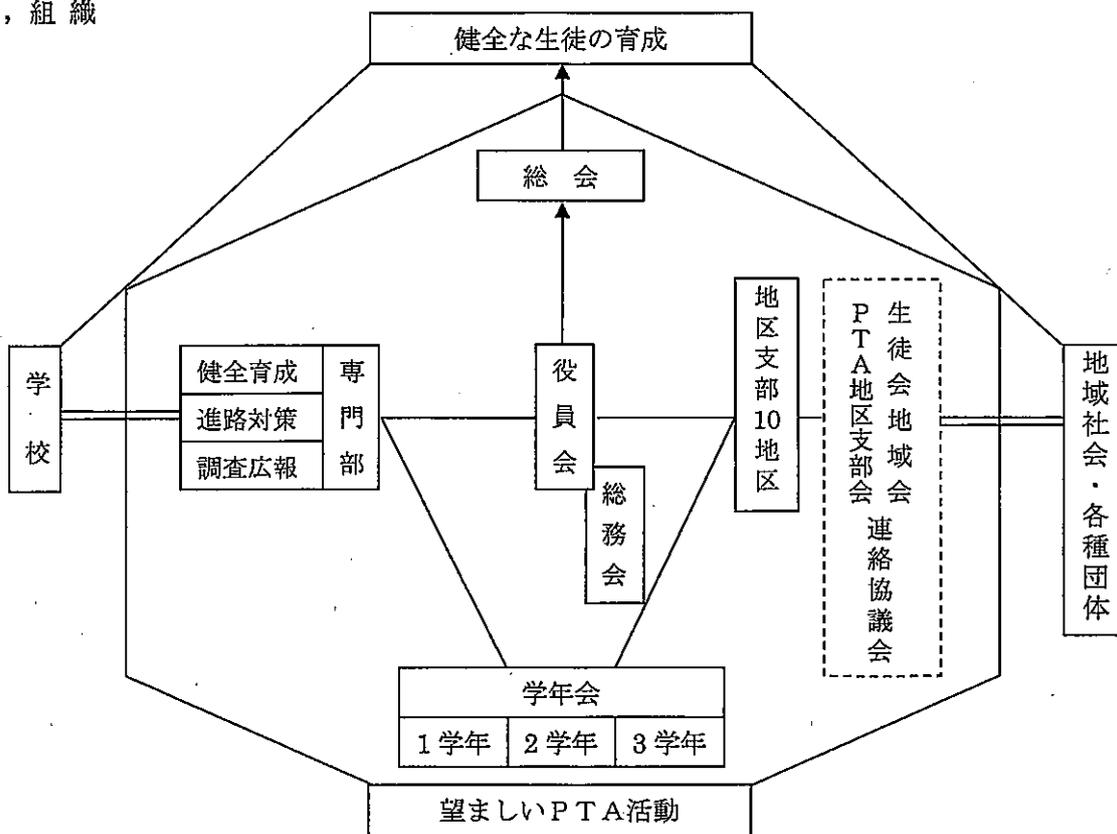
役員	農業クラブ	会長	瀬川 純
		副会長	佐藤 桃花
		幹事	佐藤 はづき
			八島 冷香
		書記	小松 瑞月
			高橋 司
		会計	高橋 海斗
			大友 あみ
		庶務	菅井 希
			伊藤 まかな

平成29年度 予算額 2,240,709 円



X PTA

1. 組織



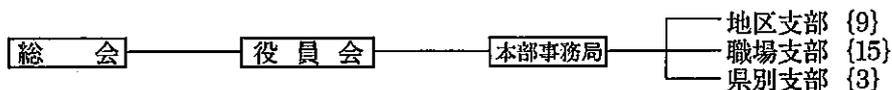
	構 成
役員会	会長 (1)、副会長 (3)、会計 (4)、監事 (4)、各学年委員長 (3)、各専門部委員長 (3)、各地区支部長 (10)、各学年・各専門部副委員長 (6)、事務局長 (1)、書記 (1)、事務局員 (若干名)
総務会	上記役員 教頭 (事務局長)、事務室長、各学年主任、総務部・教務部・生徒指導部・進路指導部・保健相談部・農場部の各部長

2. 役員

会 長 大野 幸雄
 副会長 佐藤 尚美
 玉手 勇
 菅野 雄二
 会 計 山田 悦子 鈴木 由紀 西畑 久美子
 大柳 未紀子 吉田 輝子
 監 事 大内 登久子 大内 千鶴
 濱崎 愛 渡邊 彩子

XI 同窓会

1. 組織



2. 役員

会長：菅野 信

副会長：目黒 正志、庄子和彦、近江 正人、長谷川 洋一、馬場 勝彦

参与：後藤 武徳 (29. 5. 20付)

3. 卒業生数

()の数字は女子で内数

本分校	名称	学科	会員数	本分校	名称	学科	会員数		
本校	郡立農事講習所		51	本校	宮城県柴田農林高等学校	緑地工学科	843		
	県・郡立柴田農学校	農業科	443			環境デザイン科	389(217)		
	県立柴田農林学校	農林科	1,013			園芸工学科	289(108)		
	県立柴田高等学校	農林科	236			農業土木科	1,527		
	宮城県柴田農林高等学校		農業科	2,022	分校		土木科	380(14)	
			農業科学科	396(120)			船岡分校	農業科	348
			食農科学科	311(120)			槻木分校	家庭科	153
			畜産科	1,508			白幡分校	普通科	757
			動物科学科	646(320)	川崎校	農業・普通科	3,754		
			林業科	1,943	合計			17,703	
			森林科学科	375(65)					
			森林環境科	277(55)					

XII 学校施設

1, 土地

内 訳	建 物 敷 地	運 動 場	実験実習地	計
面積m ²	11,589	14,278	1,001,310	1,027,177

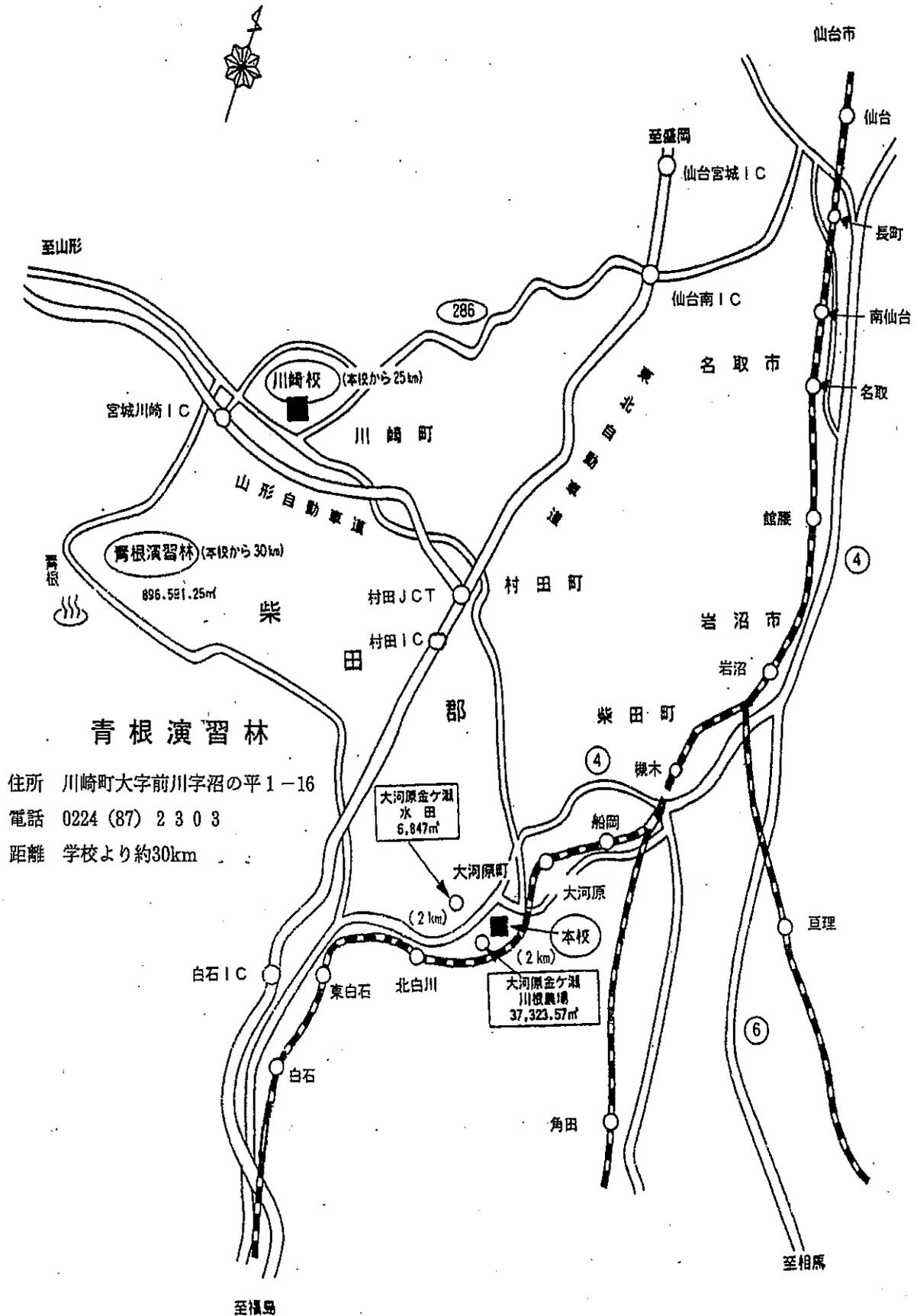
実験実習経営面積

経営別	水田	普通畑	野菜畑	果樹園	施設園芸	造園	林業苗畑	青根演習林	その他	計
面積m ²	6,818	10,960	8,109	8,983	6,200	6,700	6,000	896,592	50,948	1,001,310

2, 建 物

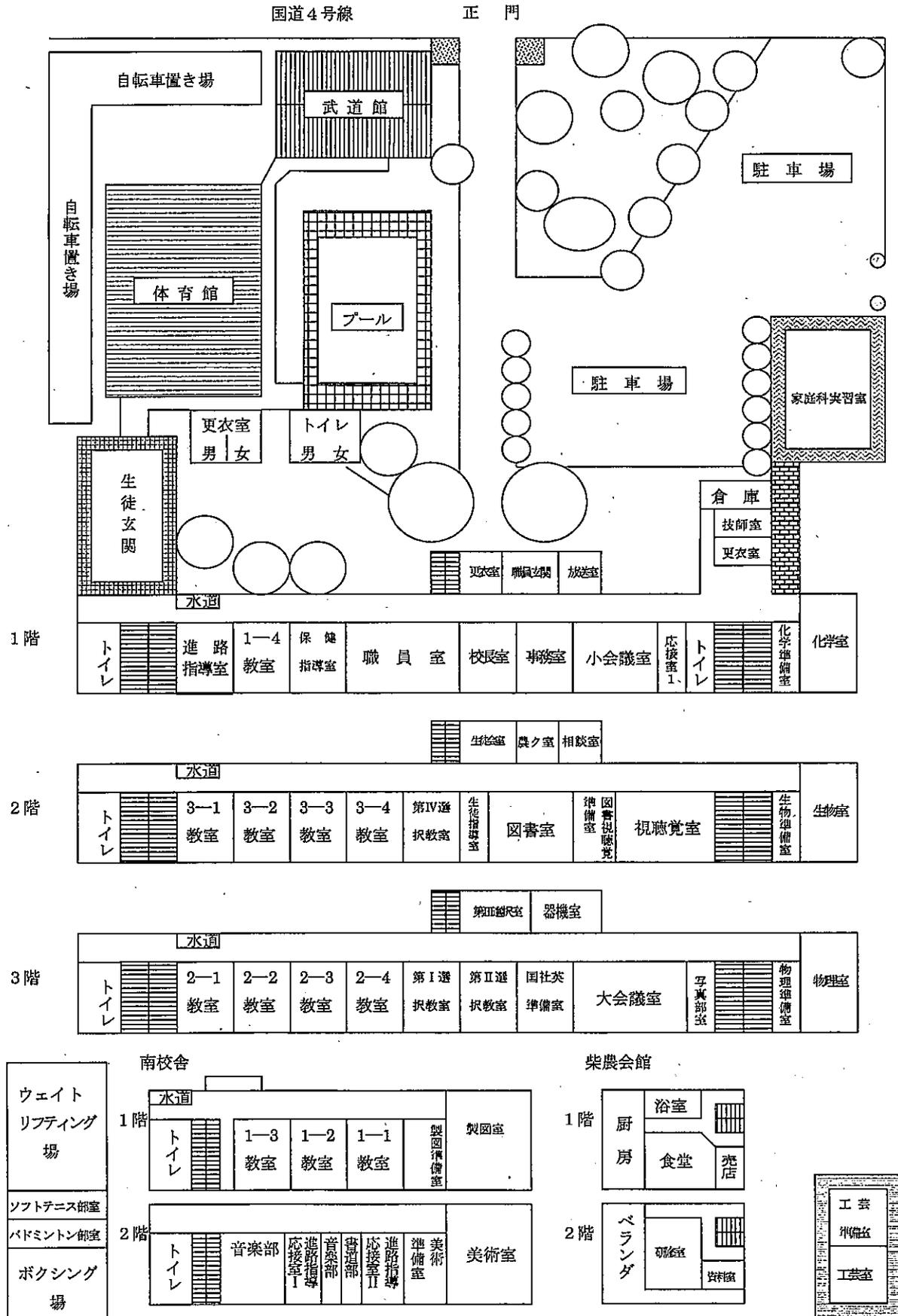
区 分	施設名	面積m ²	区 分	施設名	面積m ²
管 理 施 設	本校舎	3,736.04	実 験 実 習 室	農機具整備室	99.00
	南校舎	1,039.09		肥料舎	66.15
	体育館	1,409.90		作業畜産実験室	322.10
	更衣室	40.00		温 室	532.88
	柴農会館	432.31		造園実習室	180.00
	プール	(973.40)		計画造形実習室	159.30
	柔剣道場	413.40		水理実験実習室	163.80
	その他	513.17		川根実習棟	275.00
実 験 実 習 室	機械工作室	46.28	青 根 演 習 林 川 崎 校	用 土 室	32.40
	農業科学技術学習センター	541.90		家庭科実習室	280.00
	総合科学センター	1,271.01		実験動物肥育舎	228.56
	木材加工室	165.62		動物実験室	278.71
	林業製造実験室	135.69		倉庫(畜産実験室)	80.00
	土質実験室	129.60			
	土木施工室	198.00		実 習 室	585.00
	収納調整室	162.30		業務員宿舎	50.42
	ボイラー室	51.23		油 倉 庫	6.48
	作業準備室	132.23			
	資材倉庫	92.70			
	生徒実習更衣室	291.00		管理施設等	3,198.97
				総 計	17,340.24

学校・農場の位置略図

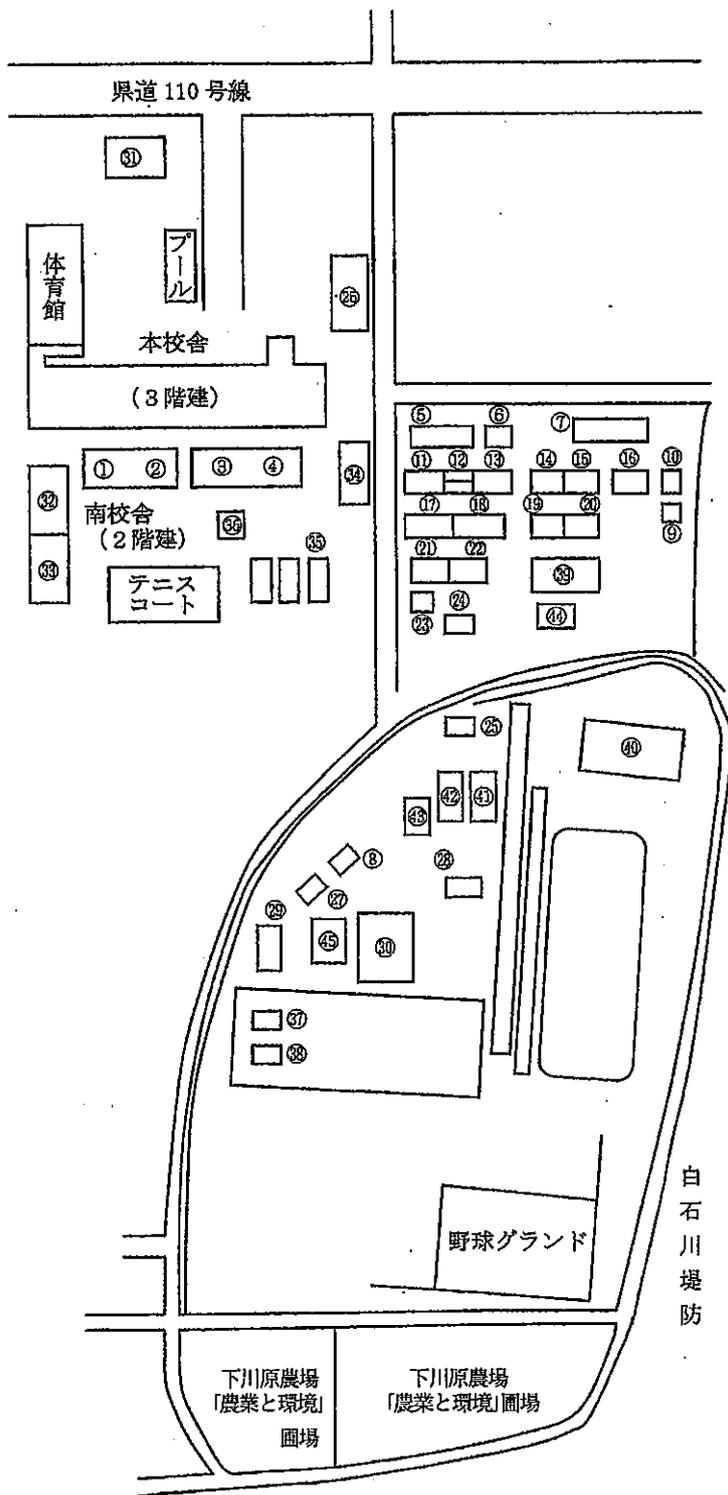


4. 校舎および実験実習室施設配置図

①校舎平面図

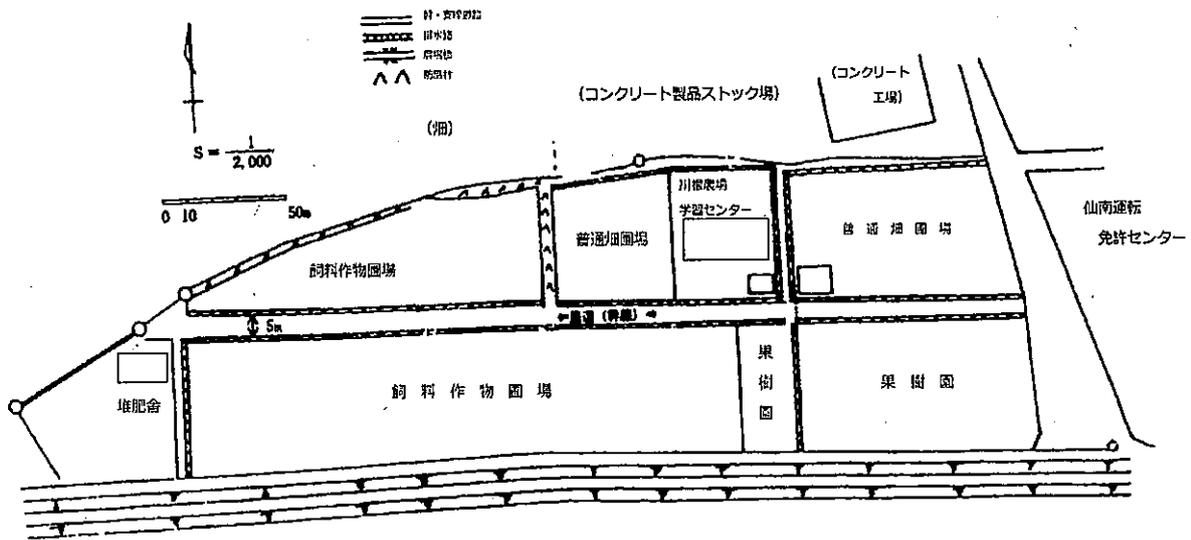


(2) 本校実験実習施設配置図



- ① 製図室 (1階)
- ② 美術室 (2階)
- ③ 食堂・売店・浴室 (1階)
- ④ 合宿室・資料室 (2階)
- ⑤ 農場管理棟
・農場管理室
・コンピューター室
・バイオ実験室 (1階)
・バイオ実験室 (2階)
- ⑥ 1階農機具実習室
2階女子更衣室
- ⑦ 総合科学センター
- ⑧ 便 所
- ⑨ 車 庫
- ⑩ 資材倉庫
- ⑪ 作物実験室
- ⑫ 準備室
- ⑬ 食品加工室
- ⑭ 造園管理室
- ⑮ 機械工作室
- ⑯ 農機具整備室
- ⑰ 男子更衣室
- ⑱ 農業基礎実習室
- ⑲ 材料実験室
- ⑳ 林産加工室
- ㉑ トレーニング室
- ㉒ 園芸工学教室
- ㉓ 製材室
- ㉔ 畜産教室
- ㉕ 野菜倉庫
- ㉖ 家庭科実習室
- ㉗ 用土室
- ㉘ 野菜準備室
- ㉙ 冷蔵庫室・野菜教室
- ㉚ 水耕温室1号
- ㉛ 武道館
- ㉜ ウエイトリフティング場
- ㉝ ボクシング場
- ㉞ 工芸実習室・美術部室
- ㉟ 草花温室
- ㊱ 温 室 (ミストハウス)
- ㊲ 倉 庫
- ㊳ 部 室
- ㊴ 動物飼育舎
- ㊵ 野菜温室
- ㊶ 野菜ハウスI
- ㊷ 育苗温室
- ㊸ 野菜ハウスII
- ㊹ 動物科倉庫
- ㊺ 水耕温室2号

5. 川根農場 (平面図)

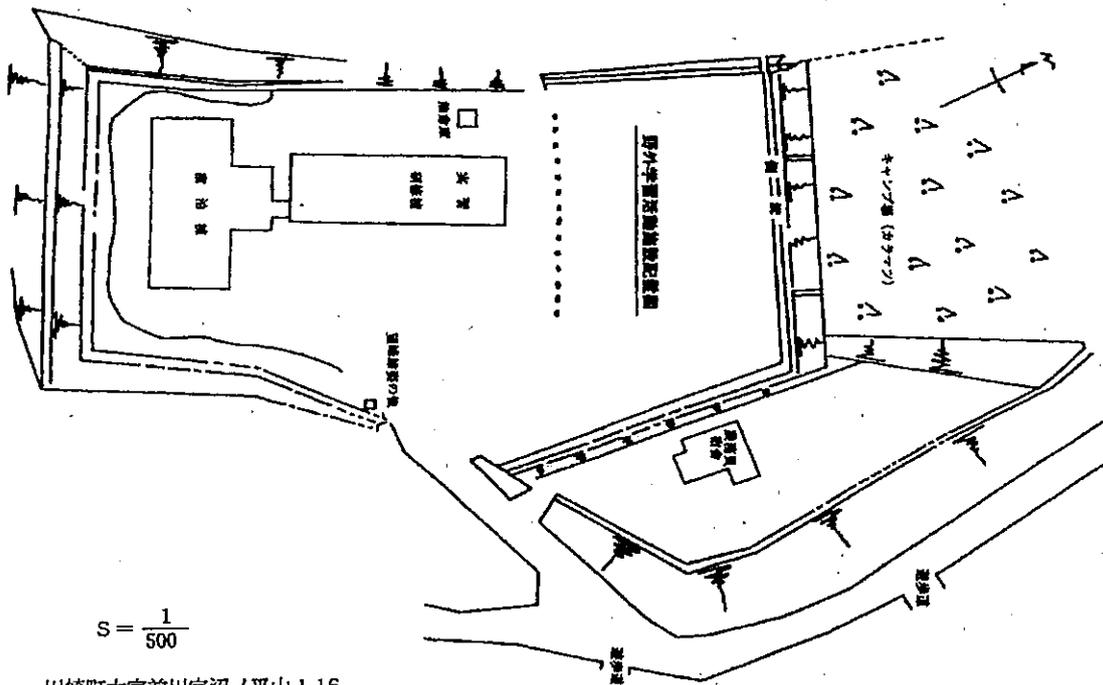


白石川堤防

堤外地

柴田郡大河原町金ヶ瀬川根
面積 34,464.45 m²

6. 青根演習林



川崎町大字前川字沼ノ平山 1-16
面積 896,591.25 m²

校訓

質実剛健

人間として、かぎり気なくまじめで素直であり、他にまどわされず、ひたすら自分の勤めに励み心身共に強くすこやかなこと。

自律調和

自分のわがままを抑え、善悪の判断は勿論のことよく考えて行動し、常に正しい道からはずれず、人間としてつりあいがとれてまとまっていること。

平成 29 年度 学 校 要 覧



宮城県大河原商業高等学校

〒989-1201

宮城県柴田郡大河原町大谷字西原前 154 の 6

TEL 0224(52)1064・1065

FAX 0224(52)1568



全 日 制 課 程
流 通 マ ネ ジ メ ン ト 科
情 報 シ ス テ ム 科
O A 会 計 科

定 時 制 課 程 普 通 科

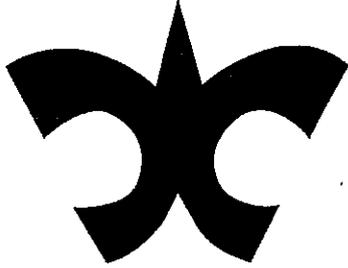
校 是 文 質 彬 彬

(ぶんしつひんびん)

論語「雍也」篇に収められている人間としてあるべき一つの理想像について説いたものであり、「文質彬彬として、然る後に君子なり」とある。

意味するところは「外面に表れた美しさ(文)と内面の実質(質)とが、ほどよく調和し、共に備わっていること」である。

校 章



情報化社会に即応した校章として、メカニク的な形象で、宮城県大河原商業高等学校の頭文字「大」を図案化したもの。

内容は二つの半円が Commercial School の頭文字で、同時に男女共学を意味し、互いに協力しながら向上躍進する姿を表している。

宮城県大河原商業高等学校校歌

作詞 菅原 敬
作曲 三品 登

Moderato

ぎ おうをのぞむ おぎ のさと はじ
め はとおく た い -しやう- の
はる けきあ ゆ -みう け -つぎ て
わ か き とも どちら つど いた り わが
ま なび や よ お お -が わ ら

- 一、 蔵王を望む 荻野里
創めは遠く 大正の
遥げき歩み 受けつぎて
若きともどち 集いたり
わが学び舎よ 大河原
- 二、 流れつきせぬ 大川の
清き調べを 鑑とし
たゆまず磨く 学とわざ
さときともどち 競いたり
わが学び舎よ 大河原
- 三、 奉仕の精神 胸に秘め
理想はいよよ 高く持ち
明日の日本を 身に負わん
奮えともどち 励むべし
わが学び舎よ 大河原

学校沿革

- 大正 11. 4. 12 大河原町立実科高等女学校の設立認可
(大河原尋常高等小学校内に併設)
13. 4. 1 同校に補習科設置 1学級(40名)
13. 5. 1 同校を宮城県大河原実科高等女学校と改称
- 昭和 16. 12. 22 宮城県大河原中学(高2卒業後4ヶ月夜間授業)の設置認可
17. 4. 12 同校開校式並びに入学式挙行(大河原国民学校内に併設)
18. 4. 1 宮城県大河原実科高等女学校を宮城県大河原高等女学校と改称
21. 5. 4 宮城県大河原中学校設立認可
22. 1. 13 学則一部変更 昼間部設置認可(昼間部を一部夜間部を二部)
22. 4. 5 宮城県大河原中学校を柴田郡大河原町大谷字西原前154番地の6(現在地)に移転
22. 4. 13 宮城県大河原高等女学校を現在地に移転
23. 4. 13 宮城県大河原中学校と宮城県大河原高等女学校と合併、宮城県大河原高等学校の設立認可
24. 4. 1 「宮城県大河原高等学校組合」の設立認可
24. 7. 18 宮城県柴田農林高等学校普通科となる。
(同年4月1日にさかのぼり県立移管)
24. 10. 31 宮城県柴田高等学校と改称、その普通部となる
(同年4月1日にさかのぼる)
27. 5. 28 第1校舎(234坪)竣工
28. 4. 1 宮城県柴田高等学校普通部が分離独立して宮城県大河原高等学校となる。
28. 4. 20 学校分離式挙行(開校記念日とする)
30. 6. 11 第2校舎6教室(165坪)竣工
31. 3. 28 商業科 家庭科各1学級設置認可
普通科2学級(学級定員50名)
31. 6. 5 第4校舎特別教室(224.25坪)竣工
34. 2. 3 商業科2学級となる。
34. 12. 15 体育館兼講堂(225.5坪)竣工
商業科特別教室(99坪)竣工
35. 5. 20 感謝の碑建立
36. 1. 30 第6校舎3教室(93.55坪)竣工
37. 10. 24 図書館、商業実践室竣工
38. 4. 1 宮城県教育委員会規則第5号により県立高等学校規則の一部改正
全日制課程 普通科2学級 商業科4学級
家政科1学級(学級定員50名)
定時制課程 普通科1学級(学級定員40名)
39. 2. 20 第7校舎(85坪)竣工
40. 3. 31 プール寄附金受納(37.10.20竣工)
41. 4. 1 商業科1学級(定員50名)増設家政科募集停止
42. 6. 30 萩野会館竣工
43. 5. 7 商業科特別教室(商業実践室・タイプ室・簿記室)竣工
43. 6. 6 商業特別教室新築竣工
44. 11. 10 第6校舎昇降口増築工事ならびに渡り廊下増築工事完成
46. 4. 1 情報処理科1学級(定員45名)設置
商業科6学級定員(270名)となる。
普通科募集停止。
46. 10. 19 運動部部庫1棟(59.4㎡)竣工
47. 3. 31 南校舎(情報処理科特別教室 普通教室4)竣工
電算機導入(FACOM230-15)
47. 4. 1 情報処理科2学級(定員90名)商業科5学級(定員225名)となる。
47. 9. 28 運動場拡張(10,162.77㎡)
48. 3. 25 柔道場竣工(264.69㎡)
48. 4. 1 宮城県大河原商業高等学校と改称する。営業科2学級、情報処理科2学級、経理科2学級、商業科1学級の小学科制となる。
(学級定員45名)
48. 10. 1 校名変更を機会に生徒の制服を改定
49. 4. 1 校歌、校旗、記章の改定
51. 7. 10 北校舎(調理室、講義室、文書実務室、簿記室、普通教室2)竣工
51. 12. 26 第4校舎(旧調理室、被服室)をパレコトに引屋
52. 7. 10 調理室・社会科講義室等完成
52. 11. 3 北校舎(普通教室12、校長室、職員室、会議室、事務室、保健室、生徒相談室、放送室、監視室)竣工
53. 4. 25 玄関前ロータリー造園工事竣工
53. 12. 10 南校舎(教室3、商品実験室、売買実務室、昇降口、準備室、経理実践室、簿記機械室、図書室、美術室、音楽室、定時制職員室)・渡廊下竣工
53. 12. 30 書庫、渡廊下、生徒・職員自転車置場竣工
54. 3. 22 体育館全焼
54. 12. 28 生徒会館(おぎの会館)竣工
55. 2. 25 生徒会館食堂営業開始
55. 5. 16 体育館落成(1,440㎡)
55. 11. 13 60周年記念式典挙行
56. 2. 27 玄関前アスファルト舗装工事竣工
56. 10. 13 生徒自転車置場増設
58. 2. 25 テニスコート西側排水溝改良工事竣工
58. 3. 20 中庭造園竣工
59. 4. 1 財団法人日本進路指導協会進路指導研究委託を受ける。(61.3.31)
59. 8. 28 プール更衣室等改修工事竣工
59. 11. 27 進路指導研究用モニターテレビ(1学年全クラス設置)
59. 12. 1 パソコン導入(16B 6台経理科)
59. 12. 20 火災報知装置増設工事竣工
60. 4. 1 文部省研究指定(進路指導関係)を受ける。
(62.3.31)
60. 10. 12 野球場バックネット改修工事竣工
60. 10. 15 進路指導研究用モニターテレビ(2学年全クラス設置)
60. 11. 18 パソコン導入(16B 4台産振法・営・商科)
61. 2. 15 焼却炉新設工事竣工
61. 3. 14 校旗掲揚台新設(卒業記念品60年度)
61. 3. 15 パソコン(16B 6台経理科)
61. 5. 31 進路指導研究用モニターテレビ設置(3学年全クラス)
61. 6. 10 パソコン(16B 7台経理科)
61. 10. 1 電算機更新(320E一式端末機24台情報処理科)
61. 10. 20 体育館屋根塗装工事竣工
62. 5. 16 北校舎(管理棟)ガス配管工事竣工
62. 5. 16 南校舎(商品実験室)床ガス配管改修工事竣工
63. 2. 24 産振設備ワープロ3台(営・商科)
63. 3. 16 防火扉改修工事竣工(第一期)
63. 4. 1 端末機5台導入(情報処理科)
63. 8. 8 防火扉改修工事竣工(第二期)
63. 9. 5 家庭科調理室ガス管取替工事竣工
- 平成 元. 7. 11 屋体前手洗撤去
- 元. 9. 23 第20回全日本ギターコンクール3年連続最優秀賞受賞(通算5度目)
- 元. 11. 13 端末機一式管理換(新財務会計システム事務室)
2. 2. 23 体育館北側防球ネット取付工事竣工
2. 3. 20 油倉庫新築工事竣工
3. 3. 29 LL48台導入(英語科)
3. 10. 1 電算機更新(FACOM M-740一式端末機65台)(情報処理科)
3. 12. 9 第21回全日本ギターコンクール特別金賞受賞
4. 2. 18 ワープロ4台導入(OASYS 70SF営・商科)
4. 3. 19 プール改修
4. 3. 23 防球ネット設置
4. 3. 30 1学年7教室蛍光灯増設
4. 9. 21 体育館屋根塗装工事竣工(北側)
4. 10. 25 クラブハウス新築工事竣工
4. 10. 27 70周年記念式典挙行
5. 10. 28 産振設備パソコン4台導入(商業科)
5. 12. 16 体育館屋根防水塗装工事竣工(南側)
6. 3. 30 防球ネット(天蓋)設置
6. 4. 1 学科改編により平成6年度入学生から営業科が流通経済科となる。
6. 9. 10 北校舎壁面(文書実務室内外)防水工事及び格技場屋根防水塗装工事竣工

6. 12. 21 間照明装置改修工事並びに商研棟ワープロ導入に伴うクーラーコンセント等電源工事竣工
7. 1. 31 学科改編による産振設備ワープロ42台導入(流通経済科)
7. 1. 31 机(ワープロ専用)21台, 椅子42脚購入
7. 2. 24 平成6年度学校教育設備整備費国庫補助(定時制)によりビデオ編集機及びコントローラ購入
7. 3. 31 体育館屋根防水塗装工事竣工(北側)
7. 3. 31 渡り廊下設置工事竣工
7. 11. 30 商業実践棟改修工事竣工
8. 3. 6 運動場夜間照明装置改修工事竣工
8. 3. 28 視聴覚室電動黒板改修工事竣工
8. 9. 2 体育館床塗装工事
8. 9. 20 第1端末室他床等改修工事
8. 9. 20 キュービクル容変改修工事
8. 10. 1 電算機更新113台
8. 3. 24 野球グラウンド防球ネット改修工事
12. 3. 24 第二体育館竣工
12. 4. 1 学科改編により平成12年度入学生から流通マネジメント科2学級、情報システム科2学級、OA会計科2学級となる。
12. 4. 12 開校記念・第二体育館落成記念講演 国土館大学助教授・同柔道部監督 斎藤仁氏
12. 12. 15 文部省研究指定 光ファイバー網による学校ネットワーク活用研究 開発事業実践報告会
13. 12. 20 倉庫改築竣工
13. 8. 21 キュービクル改修
13. 9. 10 商業科特別教室下水道接続
13. 10. 1 コンピュータ機種更新(175台)
13. 11. 6 80周年記念式典挙行
13. 11. 12 コンピュータ室エアコン(7台)設置
14. 11. 15 全国高等学校生徒商業研究発表大会優秀(商業研究グループ)
14. 2. 7 体育館耐震補強
14. 3. 27 防風ネット設置
14. 8. 27 南校舎屋上防水改修
14. 11. 8 消火栓配管改修
14. 11. 18 全国高等学校生徒商業研究発表大会優秀(商業研究グループ)
15. 3. 10 プール新設
15. 11. 7 耐震工事(第一期完了)
16. 4. 1 OA会計科1学級となる
16. 9. 8 体育館屋根一部改修工事
16. 10. 18 耐震工事(第二期完了)
16. 11. 24 ウェイトトレーニング屋根葺替工事
16. 12. 17 プール跡地防球ネット設置工事
17. 3. 31 プール跡地整地工事
18. 2. 15 屋内運動場大規模改修工事
18. 10. 1 コンピュータ機種更新(178台) 定時制コンピュータ室にパソコン導入(41台)
18. 10. 4 図書室・ワープロ室エアコン設置工事
18. 10. 31 校舎内部改修工事(定時制)
18. 12. 5 非常照明設置工事(定時制)
19. 3. 28 フェンス改修工事
19. 4. 1 機械警備開始 定時制課程 白石高校定時制と統合し学年2学級(定員80名)となる 三年修業制を開始
19. 10. 10 事務室等エアコン設置工事
19. 10. 31 ギター部室耐震改修工事
19. 12. 26 グラウンド内側側溝設置工事
20. 9. 14 電柱交換工事
20. 11. 25 サーバー室・第二端末室エアコン工事
21. 1. 7 食堂改修工事
21. 2. 6 共架ケーブル設置工事
21. 3. 26 体育館脇通路改修工事
21. 9. 1 定時制教室間仕切壁設置工事
21. 9. 24 ソフトボール北側防球ネット改修工事(第一期)
22. 1. 26 合宿所解体等工事
22. 2. 17 南通用門改修工事
22. 3. 26 学校ICT環境整備事業による生徒用(65台)、校務用(60台)パソコン、プロジェクター(2台)等購入
22. 9. 1 ギター部室廊下壁・床等補修工事
22. 9. 29 学校教職員事務用パソコン(18台)購入
22. 10. 7 ソフトボール北側防球ネット改修工事(第二期)
22. 11. 8 校内電話交換機設備更新工事
23. 2. 3 トイレ改修工事
23. 11. 22 創立90周年記念式典
24. 3. 16 第二職員室エアコン設置工事
24. 4. 1 制服改定
25. 3. 15 災害復旧工事
26. 4. 1 定時制課程 学年1学級(定員40名)となる
27. 3. 17 流通実践室「模擬会議システム通信機」購入
28. 1. 21 給水設備更新工事(揚水ポンプ交換等)

歴代校長

代	氏名	就任・離任	就任	離任
1	齋藤 良治	T11.4~T11.8	大正 11.4	大正 11.8
2	佐藤 広治	T11.8~T13.3	大正 11.8	大正 13.3
3	千葉 貞	T13.3~S2.2	大正 13.3	昭和 2.2
4	大内 隆雄	S2.2~S10.5	昭和 2.2	昭和 10.5
5	小山 元之進	S10.5~S16.3	昭和 10.5	昭和 16.3
6	佐藤 昌治	S16.3~S21.3	昭和 16.3	昭和 21.3
7	佐々木 四郎	S21.3~S23.4	昭和 21.3	昭和 23.4
8	佐藤 広治	S23.4~S23.12	昭和 23.4	昭和 23.12
9	佐々木 四郎	S23.12~S24.7	昭和 23.12	昭和 24.7
10	渡辺 靖	S24.7~S24.10	昭和 24.7	昭和 24.10
11	瀬戸 金治	S24.11~S28.3	昭和 24.11	昭和 28.3
12	猪股 琢磨	S28.4~S43.3	昭和 28.4	昭和 43.3
13	菅原 敬	S43.4~S50.3	昭和 43.4	昭和 50.3
14	菊地 俊英	S50.4~S54.3	昭和 50.4	昭和 54.3
15	遠藤 敬一	S54.4~S56.3	昭和 54.4	昭和 56.3

代	氏名	就任・離任	就任	離任
16	柏 信一	S56.4~S58.3	昭和 56.4	昭和 58.3
17	我妻 三男	S58.4~S62.3	昭和 58.4	昭和 62.3
18	米谷 稔	S62.4~H元.3	昭和 62.4	平成 元.3
19	氏家 正	H元.4~H03.3	平成 元.4	平成 03.3
20	菊地 一	H03.4~H06.3	平成 03.4	平成 06.3
21	佐藤 克夫	H06.4~H08.3	平成 06.4	平成 08.3
22	吉川 清	H08.4~H11.3	平成 08.4	平成 11.3
23	佐藤 孝一	H11.4~H14.3	平成 11.4	平成 14.3
24	永山 亜男	H14.4~H17.3	平成 14.4	平成 17.3
25	梶川 藤雄	H17.4~H19.3	平成 17.4	平成 19.3
26	佐藤 茂樹	H19.4~H22.3	平成 19.4	平成 22.3
27	阿部 敏	H22.4~H24.3	平成 22.4	平成 24.3
28	池田 東照	H24.4~H27.3	平成 24.4	平成 27.3
29	佐藤 充幸	H27.4~H29.3	平成 27.4	平成 29.3
30	佐々 浩二	H29.4~	平成 29.4	現

教職員定員数・現員数

課程別	職名	校長	教頭	主幹教諭	教諭	養護教諭	常勤講師	非常勤講師	事務職員	講師教諭	実習助手 (司書)	事務職員	庁務	臨時職員	計
全日制	定員	1	1		42	1			3	4	1	2			55
	現員	1	1	1	38	1	3	8	4	4	1	1		2	65
定時制	定員				6	1			1						9
	現員		1		5	1	1	2	1						11

施設概要

1 土地

校舎敷地	11,251.89 m ²
運動場	35,687.27 m ²
計	46,939.16 m ²

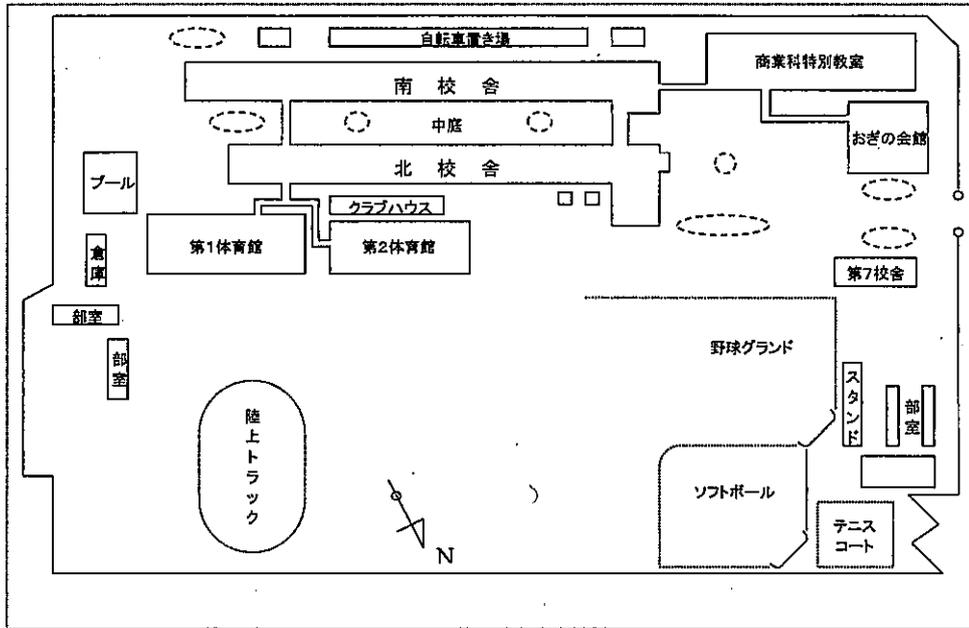
(運動場には第1・2体育館を含む)

2 建物

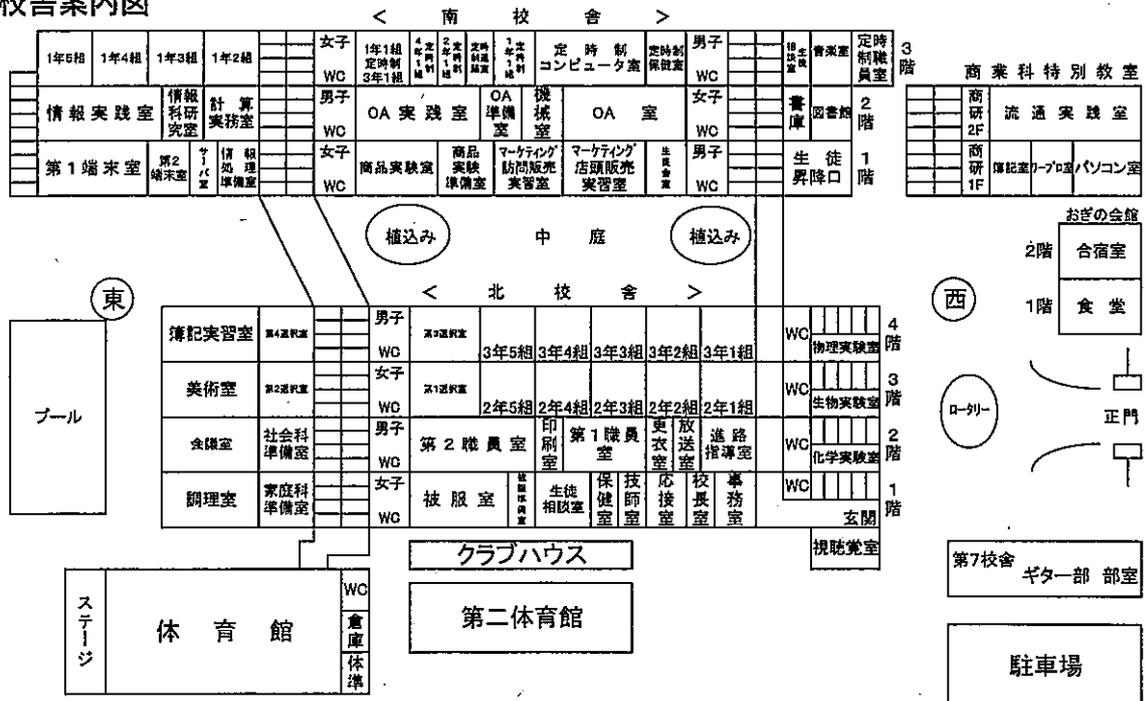
校舎	9,682.49 m ²
体育館	1,648.20 m ²
第2体育館	1,010.50 m ²
その他	1,569.40 m ²
計	13,910.59 m ²

(校舎:北校舎・南校舎・商業科特別教室・第7校舎)

校舎略図



校舎案内図



I 全日制課程

1 教育目標

生徒一人ひとりが心豊かで、薰り高い芸術文化の創造者になるとともに、社会に貢献できる人間を目指す。

<具体的な目標>

- (1) 教養・人格・心身のバランスが取れた人間
- (2) 生命の尊重
- (3) 責任と規律の重視
- (4) 勤労意欲の向上
- (5) 商業に関する専門的な知識・技術の体得

(学校経営方針)

(1) 基礎学力の向上

- (イ) 朝読書
- (ロ) 朝自習(週3日) 国語, 数学, 英語 ※成績上位者の表彰
- (ハ) 各種検定試験の受験奨励
- (ニ) スタディサプリの活用
学力向上, 学習習慣の確立
- (ホ) 授業力の向上
各教科別に年1回の研究授業の実践, ICTを活用した授業の実践

(2) 生徒指導の充実(多様な生徒へのきめ細かい対応)

- (イ) 基本的生活習慣
 - ① 挨拶の励行
 - ② 交通法規の遵守
 - ③ 場に応じた正しい服装・言動の理解
 - ④ 時間厳守(5分前行動)
- (ロ) 部活動の奨励(目的・目標を明確にする。練習時間の確保と配慮)
- (ハ) ビジネスマナーに関する各種講話・研修の開催
- (ニ) 情報モラル教育
 - ① 携帯電話, メール, SNSに関するトラブルへの迅速な対応。
 - ② 法令の説明と遵守(名誉毀損, 著作権等)
- (ホ) 放課後の生徒の様子を把握
部活動等の取組状況, 男女交際の状況, 教室内での様子(ゲーム等)
- (ヘ) リーダーシップ, 自主性の育成
生徒に活躍の機会・場を与える。交流の機会の確保等。

(3) 進路指導の充実(多様な進路指導へのきめ細かい対応)

- (イ) 進路学習
 - ① 「生き方, あり方」の指導
 - ② 働く喜び・魅力(金融機関, デパート, 官公庁他)
 - ③ 大学での学び喜び・学び方, 専門学校での学び方
 - ④ 資格と職業の関係

- (ロ) 模擬試験, 課外等の検討 (進路希望に応じて公平に計画・実施)
 - ① 就職模試, 進学模試, 公務員模試, 看護学校模試等
 - ② 課外・講習等 夏季・冬季休業等の活用
- (ハ) 講話の企画 (本校卒業生等)
- (4) 防災教育の推進
 - (イ) 避難所設営訓練, 炊き出し訓練 (アルファ米等), 簡易トイレ設営訓練等
 - (ロ) LHR等での学習 (防災マップの作成等)
- (5) ICT教育の充実 (授業, 行事, 部活動等でのiPadなどの活用)
- (6) 言語活動の充実 (「読む」「書く」「話す」「聞く」ことの習慣化)
- (7) 美化活動の推進
 - (イ) 清掃の徹底 (校舎内からごみを一掃), 花壇の整備
 - (ロ) 清掃後の点検の習慣化
- (8) 心のケアの充実
 - (イ) 事例の共有化 (中学校訪問時, 家庭訪問時等)
 - (ロ) 連携を密にした指導 (担任・SC・養護教諭・学年主任・管理職等)
- (9) 開かれた学校づくり
 - (イ) 学校通信の作成・配布 (近隣地域の世帯へ)
 - (ロ) 学校HPの活用 (行事, 試合等の結果等の更新)
- (10) 魅力ある学校づくり
 - (イ) 県事業予算の積極的活用をとおした学習活動 (進学, 就職, 公務員等の進路対策等)
 - (ロ) 未知の分野の学習活動 (企業見学, 大学見学等)

〈本年度の重点目標〉

- (1) 学習活動の充実
- (2) ICT教育の充実
- (3) 言語活動の充実
- (4) 生徒指導の充実
- (5) 部活動の充実
- (6) 進路指導の充実
- (7) 防災教育と健康・安全指導の充実

2 生徒在籍数

男	女	合計
192	391	583

1学年 195名								
流通マネジメント科			情報システム科			OA会計科		
男	女	計	男	女	計	男	女	計
19	63	82	36	46	82	4	27	31

2学年 193名								
流通マネジメント科			情報システム科			OA会計科		
男	女	計	男	女	計	男	女	計
20	58	78	45	30	75	4	36	40

3学年 195名								
流通マネジメント科			情報システム科			OA会計科		
男	女	計	男	女	計	男	女	計
18	62	80	37	40	77	9	29	38

3 職 員 一 覧

職名	教科	氏名	学級担任	校務分掌	担当科目	担当クラブ	P T A担当地区
校長		佐々浩二					
教頭		佐藤真					
主幹教諭	商業	佐藤 栄			マーケティング, 広告と販売促進, 総合実践, 課題研究	ワープロ	白石・七ヶ宿
教諭	商業	菅野昭彦	3年2組副担	生徒指導部	マーケティング, 広告と販売促進, 経済活動と法, 課題研究	野球	川崎
〃	社会	目黒清美	3年1組副担	教務部	世界史A, 日本史A	美術	角田・丸森
〃	保健体育	瀬戸正博	1年2組副担	保健厚生部長	保健体育	バレーボール(男)	大河原
〃	商業	大久和彦	2年1組副担	生徒指導部	マーケティング, 簿記, ビジネス実務, 情報処理	バドミントン(女)	船迫
〃	数学	山之日浩二	1年1組副担	総務部	数学I, 数学A	水泳	槻木
〃	英語	柴崎隆浩	2年4組副担	図書視聴覚部長	コミュニケーション英語I, コミュニケーション英語II	卓球(男), 英語研究	角田・丸森
〃	理科	阿部貴尚	2学年主任	保健厚生部	科学と人間生活, 地学基礎	バドミントン(男女)	白石・七ヶ宿
〃	商業	板垣俊哉	3年3組担任	進路指導部	簿記, 情報処理, ビジネス情報管理, 総合実践	バドミントン(男)	仙台
〃	商業	齋藤裕美	3年1組担任	進路指導部	簿記, 情報処理, マーケティング, 広告と販売促進, 総合実践, 課題研究	珠算・電卓	亘理・山元
〃	理科	森谷浩明	3年3組副担	教務部	化学基礎, 物理基礎, 生物基礎	科学, 陸上	村田
〃	商業	阿部 恵	2年4組担任	生徒指導部	簿記, ビジネス情報, ビジネス情報管理, 総合実践	放送局, 珠算・電卓	蔵王
〃	保健体育	瀧場 愛	3学年所属	総務部	保健体育	水泳	
〃	家庭	佐藤久美恵	2年2組副担	図書視聴覚部長	家庭総合, 子どもの発達と保育	JRC	岩沼
〃	商業	加藤章司	2学年所属	教務部長	情報処理, 原価計算, 総合実践, 課題研究	バレーボール(女), 水泳	槻木
〃	商業	石野 均	2年5組担任	生徒指導部	ビジネス情報, 簿記, ビジネス実務, 総合実践, 財務会計I, 課題研究	バスケットボール(男女)	亘理・山元
〃	商業	山口直子	2学年所属	総務部長	情報処理, 財務会計I, 総合実践, 課題研究	簿記	仙台
〃	社会	伊藤修一	1年3組副担	進路指導部	地理A	剣道	白石・七ヶ宿
〃	英語	畠雄史	3学年主任	情報管理部	コミュニケーション英語I, コミュニケーション英語II, 英語表現I	卓球(女)	船迫
〃	保健体育	畠山和之	1学年所属	生徒指導部長	保健体育	野球	船岡
〃	商業	増子里奈	1年2組担任	保健厚生部	簿記, 情報処理, マーケティング, 総合実践, 課題研究	美術	仙台
〃	商業	飯藤智子	3年5組副担	教務部	簿記, 財務会計I, 電子商取引, ビジネス情報, 課題研究	ギター, 吹奏楽団	船岡
〃	商業	大瀧 学	1学年所属	情報管理部	情報処理, ビジネス情報, 課題研究	陸上	村田
〃	国語	吉澤伸子	1年5組担任	進路指導部	国語総合, 国語表現	書道, 吹奏楽団	船迫
〃	商業	石山一則	1年4組副担	生徒指導部	プログラミング, 情報処理, ビジネス情報管理, 総合実践, ビジネス実務	ギター	亘理・山元
〃	商業	尾形伸一郎	3学年所属	進路指導部長	電子商取引, ビジネス情報管理, ビジネス情報, 課題研究	吹奏楽団	岩沼
〃	国語	菊地聖子	3年4組副担	教務部	国語総合, 現代文B	文芸, JRC	槻木
〃	保健体育	遠藤 岳	1学年主任	教務部	保健体育	バスケットボール(男)	岩沼
〃	商業	八島堅司	1年5組副担	情報管理部長	マーケティング, ビジネス基礎, 簿記, 総合実践, 電子商取引, 課題研究	コンピュータ, 商業研究	角田・丸森
〃	商業	高野隼一	2年2組担任	進路指導部	ビジネス基礎, マーケティング, 総合実践, 電子商取引	ワープロ	船岡
〃	商業	菊地貴樹	3年5組担任	図書視聴覚部長	簿記, 原価計算, 総合実践, 課題研究	ソフトテニス(男)	大河原
〃	商業	堀米麻美	1年3組担任	総務部	ビジネス情報, 情報処理, プログラミング, 課題研究	ギター, 簿記	蔵王
〃	国語	芳賀賢祐	2年1組担任	生徒指導部	現代文B	ソフトボール, 生徒会	村田
〃	英語	大友慎太郎	3年2組担任	進路指導部	コミュニケーション英語II	サッカー	蔵王
〃	商業	品川 諒	3年4組担任	教務部	プログラミング, ビジネス経済, 財務会計I, 総合実践, 課題研究	バスケットボール(女)	名取
〃	数学	河野健太	2年3組担任	教務部	数学A, 数学B	ソフトテニス(女)	大河原
〃	商業	佐藤潤平	1年4組担任	生徒指導部	プログラミング, 簿記, ビジネス情報, 課題研究	フットボール, 商業研究, 生徒会	川崎

職名	教科	氏名	学級担任	校務分掌	担当科目	担当クラブ	PTA担当地区
再任用教諭	商業	増岡 隆	2年5組副担	総務部	ビジネス基礎、情報処理、簿記、ビジネス情報、原価計算、課題研究	剣道	名取
再任用教諭	商業	幕田 秀一	1年1組担任	図書視聴覚部	簿記、マーケティング、ビジネス実務、総合実践、原価計算、課題研究	ソフトテニス	大河原
常勤講師	数学	鈴木 秀明	3学年所属	教務部	数学I、数学B、数学II	卓球(女)	白石・七ヶ宿
常勤講師	商業	齋藤 一	2年3組副担	総務部	ビジネス基礎、ビジネス情報、ビジネス情報管理、総合実践、課題研究	バレーボール(女)	川崎
養護教諭		工藤 晴美		保健厚生部			白石・七ヶ宿
実習講師	理科	佐藤 嘉則	1学年所属	保健厚生部	科学と人間生活	科学	名取
〃	商業	柴田 秀喜	3学年所属	進路指導部	プロジェクト、総合実践、ビジネス情報管理、電子商取引	コンピュータ、サッカー	角田・丸森
実習助手	商業	佐藤 美香	1学年所属	生徒指導部	情報処理、ビジネス情報、総合実践、電子商取引	バレーボール(男)	船岡
再任用実習助手	商業	大沼 佳子	2学年所属	総務部	商品開発、総合実践	ペン習字	大河原
就職支援教員		田村 至					
非常勤講師	商業	高橋 忠之			商品開発		
〃	英語	今野 敦			コミュニケーション英語I		
〃	家庭	日下 真里子			家庭総合		
〃	社会	佐藤 秀敏			現代社会		
〃	音楽	大沼 愛子			音楽I		
〃	美術	尾崎 森平			美術I		
〃	保健体育	高橋 良摩			保健体育		
〃	保健体育	松原 美矩			保健体育		
A L T	英語	デュア-JR・ワカギン					
スクールカウンセラー		神 麻希子					

事務職員・校医一覽

職名	氏名	事務分掌
事務室長	鈴木 淳一	総括
主任主査	半澤 裕子	管財・総務
主査	小野寺 裕美	総務・経理
主事	高野 彩子	図書視聴覚部
主事	岡崎 美佳彩	総務・経理
再任用	桑嶋 啓	総務・経理
技師(庁務)	樋口 淳	庁務
臨時職員	丹野 勇	庁務

職名	氏名
管理校医(内科)	甘糟 仁
校医(内科)	平井 秋
校医(耳鼻科)	大久 俊和
校医(眼科)	水戸 武三
校医(歯科)	武者 昌洋
校医(歯科)	相原 幸雄
薬剤師	関谷 幸郎

4 卒業生数

名称	人員
高女本科	1,515
実高女補習科	353
専攻科	141
附設課程	33
普通科	2,934

名称	人員
家政科	519
商業科	4,129
経理課	2,310
情報処理科	2,393
営業科	1,753

29
平成28年3月31日

名称	人員
流通経済科	452
流通マネジメント科	1,127
情報システム科	1,109
OA会計科	698
合計	19,466

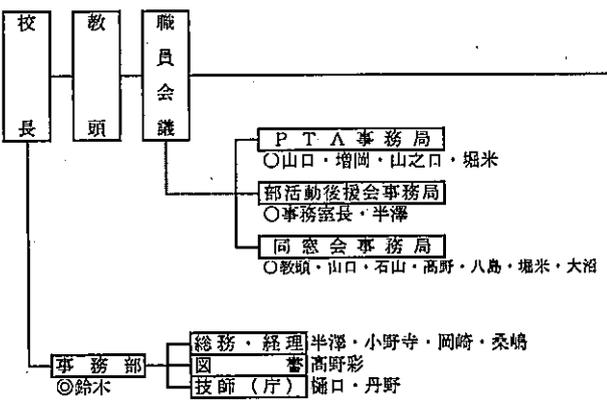
5 年間行事予定表 (全日制)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
1 土		月	木 衣替え	土 仙南地区公立高校合同説明会	火 高文祭 (文芸・郷土)	金	1
2 日		火 振替休日	金	日 全商ビジネス文書検定	水 高文祭 (文芸・郷土)	土	2
3 月	着任日	水 憲法記念日	土 県総体 珠算電卓競技大会	月	木 高文祭 (文芸・郷土)	日	3
4 火		木 みどりの日	日 県総体	火	金 高文祭 (文芸・郷土)	月 就職書類発送	4
5 水		金 こどもの日	月 県総体	水	土 高文祭 (文芸・郷土) ②就職情報説明会	火	5
6 木		土	火	木	日	水 進路セミナー事前指導	6
7 金		日	水 ③進路ガイダンス	金	月	木	7
8 土		月	木	土 日商ワーキング検定 県生徒商業研究発表大会	火	金	8
9 日		火	金	日 全商ビジネス文書検定 全経簿記検定	水	土	9
10 月	第1期始業式 新入式 入学式 頭髪服装検査	水 ①進路ガイダンス	土 情報処理競技大会	月	木	日 全商英語検定	10
11 火	対面式部紹介 ①移動セッション(～13)	木	日 日商簿記検定	火	金 山の日	月	11
12 水	到達度テスト	金	月	水	土	火	12
13 木	①耳鼻科検診・尿検査	土 仙南総体	火	木	日	水	13
14 金	スポーツテスト・尿検査・身体測定・各種委員会	日 仙南総体	水 ①②内科検診	金 漢字検定	月 インターハイ (水球)	木	14
15 土		月	木	土	火 インターハイ (水球)	金	15
16 日	基本情報技術者試験	火	金	日	水 ②出校日 インターハイ (水球)	土 就職試験開始	16
17 月	各種委員会	水	土 簿記コンクール県大会 ワールド競技大会	月 海の日	木 インターハイ (水球)	日	17
18 火	前登録 ②歯科検診 ①循環器検診	木	日 全商珠算・電卓検定	火	金 就職推進会議 インターハイ (水球)	月 敬老の日	18
19 水		金	月	水	土 インターハイ (水球)	火	19
20 木	開校記念日 開校記念講話	土	火 防災避難訓練	木	日 インターハイ (水球)	水	20
21 金	①③歯科検診	日	水 ネット被害未然防止教室	金	月	木	21
22 土		月	木	土	火 ③出校日	金	22
23 日		火	金	日	水 ③出校日	土 秋分の日	23
24 月		水 県総体壮行式	土	月 全校集会 朝自習コンクール	木 ③出校日	日 全商情報処理検定	24
25 火	②歯科検診	木	日 全商簿記実務検定	火	金 全校集会 頭髪服装検査 ①②到達度テスト ③就職進学相談	月	25
26 水	前期生徒総会	金	月	水	土	火	26
27 木	眼科検診 公務員講習会	土	火	木 ③出校日	日	水	27
28 金	①胸部レントゲン検診	日 全経簿記検定	水	金 オープンキャンパス	月	木 第1期終業式	28
29 土	昭和の日	月	木 体育祭 (球技)	土	火	金 家庭学習日 (-6)	29
30 日	P T A 総会	火 貧血検査	金 体育祭 (球技)	日 高文祭 (文芸・郷土)	水	土	30
31 月		水 ②③内科検診	土	月 高文祭 (文芸・郷土)	木	日	31
備考	進路企業訪問 公務員模試	進路企業訪問 公務員模試 公務員講習会	進路企業訪問 公務員模試 公務員講習会 ③就職進学模試 各種壮行式	公務員模試 公務員特別学習会 ④小論文模試 ⑤SPI対策テスト みやぎ学力状況調査 ⑥保健講話 清掃強化週間 地区PTA 各種壮行式		②SPI対策テスト PTA会員研修旅行 各種壮行式	
SC	SC	SC	SC	SC	SC	SC	
日数	①②③ 16	①②③ 19	①②③ 22	①② 15 ③ 16	①② 5 ③ 9	①②③ 19	
			I 期中間まで①②③49日 (考査除くと45日)			I 期末まで①②47日 (考査除くと43日) ③ 52日 (考査除くと48日)	

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1日		水 体育祭(陸上)	金	月 元旦	木	木 卒業式	1
2月	第1期始業式 衣替え 履服服装検査 進路分け	木	土	火	金	金	2
3火		金 文化の日	日	水	土	土	3
4水	芸術鑑賞会	土	月	木	日 全商商業経済検定	日	4
5木		日	火	金	月 ③出校日	月 後期選抜準備	5
6金		月	水	土	火	火 後期選抜	6
7土		火	木	日	水	水	7
8日		水 ②進路が'イ'ンス	金	月 成人の日	木 合格発表	木	8
9月	体育の日	木	土	火 全校集会 頭髪服装検査	金 漢字検定	金	9
10火	みやぎ高校PTAのつどい	金 生徒会役員選挙	日	水	土	土	10
11水		土	月	木	日 建国記念の日	日 みやぎ鎮魂の日	11
12木		日 全商計算・電卓実務検定 みやぎ商業教育フェア	火	金	月 振替休日	月	12
13金		月	水 ②振替休日	土	火	火	13
14土	県高等学校商業実務 総合競技大会	火	木 ②振替休日	日	水	水 合格発表	14
15日		水 後期生徒総会	金	月	木 ③出校日	木	15
16月		木	土	火	金	金	16
17火		金	日 全商英語検定	水	土	土	17
18水		土	月	木	日 全経簿記検定	日	18
19木	大商祭準備	日 日商簿記検定	火	金	月	月	19
20金	大商祭(校内発表)	月	水	土	火	火	20
21土	大商祭(一般公開)	火	木	日 全商情報処理検定	水 日商簿記検定	水 春分の日	21
22日	全商会計実務検定	水	金 全校集会 ワックスがけ	月	木	木	22
23月	振替休日	木 勤労感謝の日	土 天皇誕生日	火	金	金 終業式	23
24火		金	日	水	土	土	24
25水		土	月	木	日 日商簿記検定	日	25
26木		日 王間シンポジウム 実務検定全経簿記 検定	火	金	月	月 予備登校	26
27金		月	水	土	火	火	27
28土	漢字検定	火 防災避難訓練	木	日 全商簿記実務検定	水 卒業式予行 同窓会入会式	水 離任式	28
29日		水	金	月	木	木	29
30月		木	土	火 前期選抜準備(-4)	金	金	30
31火		日	日	水 前期選抜(-6)	土	土	31
第2回進学推薦会議 ①SPI入門テスト 公務員講習会 ②就職進学模試 基本情報技術者試験 各種社行式 ①小論文模試	公務員講習会 ②小論文模試	公務員講習会 ①③保健講話 朝自習コンクール	公務員講習会 活字強化週間 課題研究全体発表会	公務員講習会 公務員模試 3年生の進路から学ぶ会			
SC	SC	SC	SC	SC	SC	SC	
①②③ 21	①②③ 20	①②③ 16	①②③ 16	①② 17 ③ 3	①② 13 ③ 1		
Ⅱ期中間まで①②③39日 (考査除くと35日)					合計	①②199 Ⅱ期末まで51日(考査除くと47日) ③ 178 Ⅱ期末まで34日(考査除くと30日)	

6 校務分掌

- 連絡委員会 (※総務部)**
校長・教頭(司会)・主幹教諭・総務部長・教務部長・生徒指導部長・進路指導部長・情報管理部長・保健厚生部長・図書視覚部長・各学年主任・商業科主任・各学科長・事務室長
※拡大連絡委員会(教主任・事務次長を含む)
- 教育課程/教科書選定委員会 (※教務部)**
教頭(委員長)・主幹教諭・総務部長・教務部長・理科・社会科・数学科・理科・保健体育科・家庭科・芸術科・芸術科・商業科・各学科長・教務部長
- いじめ防止(生徒指導問題)対策推進委員会 (※生徒指導部)**
校長(委員長)・教頭・主幹教諭・生徒指導部長・保健厚生部長・養護教諭・各学年主任・保健厚生部特別支援担当
- 修学旅行検討委員会 (※核当学年)**
校長(委員長)・教頭・主幹教諭・総務部長・教務部長・生徒指導部長・保健厚生部長・各学年主任・事務室長
- 特別支援教育・メンタルケア委員会 (※保健厚生部)**
教頭(委員長)・主幹教諭・総務部長・教務部長・生徒指導部長・保健厚生部長・養護教諭・保健厚生部特別支援担当・各学年主任
- 大商祭検討委員会 (※生徒指導部)**
教頭(委員長)・主幹教諭・総務部長・生徒指導部長・各学年代表・各部代表・生徒指導部担当・生徒会担当
- 指定・指名委員会 (※事務部)**
校長(委員長)・教頭・主幹教諭・総務部長・事務室長・事務次長
- 学校評価委員会 (※総務部) / 入学者選抜委員会 (※教務部)**
校長(委員長)・教頭・主幹教諭・総務部長・教務部長・生徒指導部長・進路指導部長・情報管理部長・保健厚生部長・図書視覚部長・各学年主任・各教科主任・各学科長・事務室長・教務入学者選抜担当
- 情報化(キャリア対策・校内ネットワーク)推進委員会 (※情報管理部)**
教頭(全)(委員長)・教頭(全)・教務部長(全)・教務部長(全)・生徒指導部長(全)・生徒指導部長(全)・進路指導部長・情報管理部長・各学科長・総務部代表・保健厚生部代表・図書視覚部代表・各学年代表・商業科(全)・教務部情報化担当(全)・事務室長・事務次長
- 学校保健安全委員会 (※保健厚生部)**
校長(委員長)・教頭(全)・教頭(全)・主幹教諭・教務部長・生徒指導部長・保健厚生部長(全)・保健厚生部長(全)・養護教諭(全)・養護教諭(全)・各学年主任・保健体育科主任・理科主任・家庭科主任・事務室長・保健厚生部員・校医
- 衛生委員会 (※保健厚生部)**
校長(委員長)・健康管理医・養護教諭(全)・養護教諭(全)・衛生管理者
- 交通安全対策委員会 (※生徒指導部)**
校長(委員長)・教頭・主幹教諭・生徒指導部長・各学年主任・生徒指導部担当
- セクハラ防止対策委員会**
教頭(全)・教頭(全)・養護教諭(全)・養護教諭(全)・衛生管理者
※拡大委員会(全日制各部長・各学科長・各学年主任・生徒会担当者を含む)



- 総務部**
部長 ◎山口
- 教務部**
部長 ◎加藤
- 生徒指導部**
部長 ◎島山
- 進路指導部**
部長 ◎尾形
- 保健厚生部**
部長 ◎瀬戸
- 教育相談**
- 図書視覚部**
部長 ◎柴崎
- 視覚関係**
◎菊地貴
- 情報管理部**
部長 ◎八島
- 総務・文書管理 山口・増岡・山ノ口・瀧場・齋藤一・堀米・大沼
- 儀式・渉外 増岡・佐藤栄(防災主任)
- 施設・用途 齋藤一・山ノ口・堀米
- 避難訓練・防災 齋藤一・山ノ口・堀米
- 奨学 山口・齋藤一
- 行事予定・職員会議 山口・増岡
- 環境教育・環境美化 齋藤一・増岡
- 高校ガイド P T A 山口・増岡・山ノ口・瀧場・堀米
- 同窓会 堀米・大沼・山口
- 教育課程 加藤・目黒
- 教務内規 加藤・飯藤・品川
- 学習管理・証明書発行 加藤・飯藤・鈴木秀
- 入試業務 加藤・河野・飯藤・森谷
- 時間割 河野・森谷・飯藤・鈴木秀
- 定期考査 目黒・森谷・飯藤・鈴木秀
- 成績処理 品川・河野・鈴木秀
- 教科書 菊地聖・森谷・目黒・飯藤
- 教育実習 遠藤・森谷
- ワークショップ 遠藤・飯藤・鈴木秀・目黒
- シラバス 森谷・菊地聖・河野
- みやぎ学力状況調査 菊地聖・遠藤・鈴木秀
- 学校説明会 加藤・遠藤・飯藤
- 中学生本校訪問 飯藤・目黒
- 校内LAN 品川・河野・鈴木秀
- 大商祭 鈴木秀・菊地聖
- 文書管理 加藤・飯藤・河野
- 学習活動 鈴木秀・菊地聖・森谷
- 研究授業 目黒・飯藤・遠藤
- システム 品川・河野
- 総務 島山・大久・石野
- 生活指導 島山・石野・大久
- 交通安全指導 阿部貴・石山
- 生徒会 芳賀・佐藤潤
- 拾得物・掲示 佐藤美
- 諸届・諸願 島山・石野・阿部貴・石山・芳賀・大久
- 特別活動 大久・菅野
- 部活動 大久・石山
- 高体連 島山
- 高文連 石山
- 総務 尾形・齋藤裕・吉澤
- 調査統計・広報 柴田
- 就職・公務員指導 大友・高野隼・坂垣・吉澤
- 進学指導 齋藤裕・伊藤
- インターンシップ 高野隼・伊藤
- 学力向上 伊藤・坂垣・大友・高野隼
- システム開発 柴田・坂垣
- 進路ノート 大友・伊藤
- 総務 瀬戸・工藤
- 清掃 佐藤嘉・瀬戸
- 保健安全教育 工藤・瀬戸
- 購買 増子・瀬戸
- 環境美化 佐藤嘉・増子
- レクリエーション 瀬戸・佐藤嘉
- 保健委員会 佐藤嘉・工藤
- 文化祭 瀬戸・工藤・佐藤嘉
- 総務 瀬戸・阿部貴・佐藤嘉
- 相談員 阿部貴・工藤・カウンセラー
- 相談室利用状況 阿部貴・工藤・瀬戸
- 職員研修 工藤・瀬戸・阿部貴
- カウンセラー担当 阿部貴・工藤・瀬戸
- 特別支援コーディネーター 増子
- 総務 柴崎
- 庶務・会計 高野彩
- 調査・統計 高野彩・柴崎
- 図書指導(朝の読書) 柴崎
- 読書感想文 柴崎・佐藤久
- 芸術鑑賞 柴崎・佐藤久・暮田
- 情報システム 高野彩・柴崎
- 図書購入 高野彩・佐藤久・柴崎
- 図書委員会 柴崎・佐藤久・高野彩
- 総務 菊地貴
- 学校行事記録 菊地貴・暮田・柴崎
- 機材管理・貸出 菊地貴・暮田・柴崎
- 視覚室利用 菊地貴・暮田
- 委員会指導 菊地貴・暮田
- 総務 八島
- ネットワーク 八島・大瀧・島
- 各種調査・システム開発 大瀧・八島・島
- ホームページ 島・八島・大瀧
- 研修・企画 八島・大瀧・島

7 教育課程表 (1・2・3年生)

宮城県大河原商業高等学校

教科	科目	標準 単位数	H29 H28 H27				H29 H28 H27				H29 H28 H27						
			1年	2年	3年	合計	1年	2年	3年	合計	1年	2年	3年	合計			
国語	国語総合	4	4			4	8~11	4			4	8~11	4			4	8~11
	国語表現	3			選A 3	選3				選A 3	選3				選A 3	選3	
	現代文B	4		2	2	4	必8 選3		2	2	4	必8 選3		2	2	4	必8 選3
地理史	世界史A	2		2		2	4~7		2		2	4~7		2		2	4~7
	日本史A	2			選A 3	選3				選A 3	選3				選A 3	選3	
	地理	2	2			2	必4 選3		2		2	必4 選3		2		2	必4 選3
公民	現代社会	2			2	2	必2			2	2	必2			2	2	必2
数学	数学Ⅰ	3	3			3	8~11	3			3	8~11	3			3	8~11
	数学Ⅱ	4			選B 3	選3				選B 3	選3				選B 3	選3	
	数学A	2		3		3			3		3			3		3	
	数学B	2			2	2	必8 選3			2	2	必8 選3			2	2	必8 選3
理科	科学と人間生活	2		2		2	4~10		2		2	4~10		2		2	4~10
	物理基礎	2			選A 3	選3				選A 3	選3				選A 3	選3	
	化学基礎	2			2	2				2	2				2	2	
	生物基礎	2			選B 3	選3				選B 3	選3				選B 3	選3	
保健体育	体育	7~8	3	2	2	7	9	3	2	2	7	9	3	2	2	7	9
	保健	2	1	1		2	必9	1	1		2	必9	1	1		2	必9
芸術	音楽Ⅰ	2	選芸 2			2	2	選芸 2			2	2	選芸 2			2	2
	美術	2	選芸 2			2	必2	選芸 2			2	必2	選芸 2			2	必2
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	3	3			3	9~12	3			3	9~12	3			3	9~12
	コミュニケーション英語Ⅱ	4		3	3	6			3	3	6			3	3	6	
	英語表現Ⅰ	2			選B 3	選3	必9 選3			選B 3	選3	必9 選3			選B 3	選3	必9 選3
家庭	家庭総合	4		2	2	4	必4		2	2	4	必4		2	2	4	必4
情報	社会と情報	2	*	*	*	*		*	*	*	*		*	*	*	*	
各教科に共通する 各教科・科目合計			必18	必17	15~21 必15 選6	50~56 必50 選6		必18	必17	15~21 必15 選6	50~56 必50 選6		必18	必17	15~21 必15 選6	50~56 必50 選6	
商業	ビジネス基礎	2~4	2			2		2			2		2			2	
	課題研究	2~4			2	2				2	2				2	2	
	総合実践	2~4			4	4				3	3				4	4	
	ビジネス実務	2~4		2		2				選B 3	選3				2	2	
	マーケティング	2~4	3	3		6				選A 3	選3				選A 3	選3	
	商品開発	2~4		3		3											
	広告と販売促進	2~4			2	2											
	ビジネス経済	2~4			選A 3	選3					選A 3	選3				選A 3	選3
	経済活動と法	2~4			選B 3	選3					選B 3	選3				選B 3	選3
	簿記	2~4	3	3		6				4	4				6	6	
	財務会計Ⅰ	2~4			選B 3	選3					選B 3	選3				4	4
	原価計算	2~4			選A 3	選3					選A 3	選3				4	4
	情報処理	2~4	3			3			5		5			3		3	
	ビジネス情報	2~4			選B 3	選3				7	7				3	3	
電子商取引	2~4			選A 3	選3				選A 3	選3				選A 3	選3		
プログラミング	2~4				4			4		4							
ビジネス情報管理	2~4				必30 選6				3	3	必30 選6				必30 選6		
家庭	子どもの発達と保育	2~6			選B 3	選3				選B 3	選3				選B 3	選3	
専門学科において開設される 教科・科目合計			必11	必11	8~14 必8 選6	30~36 必30 選6		必11	必11	8~14 必8 選6	30~36 必30 選6		必11	必11	8~14 必8 選6	30~36 必30 選6	
各教科に共通する各教科・科目 及び専門学科において開設される 教科・科目合計			必29	必28	23~29 必23 選6	80~86 必80 選6		必29	必28	23~29 必23 選6	80~86 必80 選6		必29	必28	23~29 必23 選6	80~86 必80 選6	
特別活動(LHR)	1	1	1	1	3			1	1	1	3			1	1	1	3
総合的な活動の時間	3~6			1	1					1	1				1	1	
合計			30	30	30	90		30	30	30	90		30	30	30	90	

- 1 必修教科・科目について
- (1) 情報「社会と情報」は各学科「情報処理」で代替
 - (2) [総合的な学習の時間] は各学科共通の2学年1単位、及び商業科3学年「課題研究」2単位で代替
- 2 教育課程における選択科目について
- (1) 芸術選択(選芸1学年2単位) 「音楽Ⅰ」及び「美術Ⅰ」のうちから1科目選択する
 - (2) 選択A(3学年3単位)
 - 全クラスオープン科目(「国語表現」「日本史A」「物理基礎」「地学基礎」「ビジネス経済」「電子商取引」及び学科選択科目のうちから1科目選択する)
 - ① 流通マネジメント科は、学科選択科目「原価計算」
 - ② 情報システム科は、学科選択科目「原価計算」「マーケティング」
 - ③ O.A会計科は、学科選択科目「マーケティング」
 - (3) 選択B(3学年3単位)
 - 全クラスオープン科目(「数学Ⅱ」「生物基礎」「英語表現Ⅰ」「子どもの発達と保育」「経済活動と法」及び学科選択科目のうちから1科目選択する)
 - ① 流通マネジメント科は、学科選択科目「財務会計Ⅰ」「ビジネス情報」
 - ② 情報システム科は、学科選択科目「ビジネス実務」「財務会計Ⅰ」

8 生徒概要

(1) 出身中学校別生徒数

都市町村		中学校	1年	2年	3年	合計
白石市		小原	2	1	1	4
		東	13	10	18	41
		南	1	1	2	4
		白石	16	8	14	38
		白川	1		2	3
		福岡	8	6	7	21
刈田郡	蔵王町	円田	2	3	4	9
		遠刈田	1	2	5	8
		宮	9	7	4	20
柴田郡	大河原町	金ヶ瀬	4	8	3	15
		大河原	40	32	17	89
	柴田町	船岡	5	15	19	39
		船迫	5	5	6	16
	村田町	榎木	11	8	7	26
		村田第一	10	3	6	19
	川崎町	村田第二		4	5	9
		川崎	1	5	5	11
	角田市	富岡	2	2		4
		角田	7	4	6	17
伊具郡	丸森町	金津	1	3	2	6
		北角田	10	19	13	42
岩沼市		丸森	1	2	3	6
		岩沼	4	4	2	10
		岩沼西	1	1	7	9
		岩沼北	3	3	2	8
		玉浦	3	3		6
亶理郡	亶理町	逢隈	3	1	1	5
		吉田	2	2	1	5
		荒浜	1	1		2
		亶理	5	4	3	12
山元町	山下		3	9	12	
	みどり台			1	1	
名取市		増田	1	2	1	4
		名取第一	3	10	7	20
		名取第二	6	3	2	11
		関上	1		3	4
		郡山			1	1
仙台市		五橋			1	1
		五城			1	1
		袋原	1			1
		中田	3	1	3	7
		長町			1	1
		八軒		3		3
		山田	1			1
		富沢	2	1		3
		柳生	4			4
		生出		1		1
		六郷		1		1
塩竈市	玉川	茂庭台		1	1	
		玉川	1			1
合計			195	193	195	583

(2) 通学状況

イ 交通機関別利用生徒数

交通機関	学年				合計
	1年	2年	3年	合計	
列車	115	97	111		323
自転車	43	57	37		137
自動車	15	25	30		70
バス	5	7	8		20
徒歩	17	7	8		32
バイク	0	0	1		1
合計	195	193	195		583

ロ. 列車乗降駅別生徒数

路線	駅名	1年	2年	3年	合計
東北本線	越 河			1	2
	白 石	39	24	40	103
	東白石	10	6	3	19
	北白川	1	1	2	4
	船 岡	4	3	1	8
	榎 木	14	7	6	27
	岩 沼	10	11	10	31
	館 腰	3	7	5	15
	名 取	7	7	8	22
	南 仙 台	8	4	4	16
	太 子 堂		1		1
	長 町	3	7	3	13
	仙 台			2	2
	岩 切				
	東 仙 台			1	1
	常磐線	逢 隈	3	1	1
亶 理		4	5	3	12
浜 吉 田		3	1	1	5
山 下			3	9	12
坂 元					
仙山線	東 照 宮				
	熊 ヶ 根				
仙台空港線	社せきのした				
	阿 武 隈				
阿急武行線	横 倉				
	角 田	5	6	7	18
	南 角 田				
	北 丸 森				
	丸 森	1	2	3	6
合 計		115	97	111	323

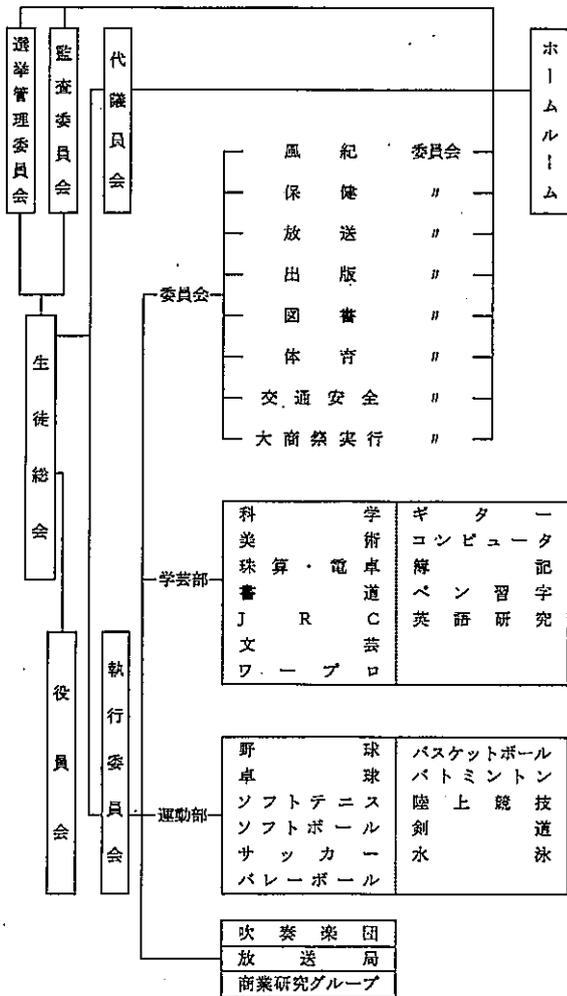
ハ. バス方面別利用生徒数

駅名	1年	2年	3年	合計
青根・遠刈田	1	0	0	1
川 崎	3	6	4	13
村 田	1	0	4	5
そ の 他	0	1	0	1
合 計	5	7	8	20

(3) 居住町別生徒数



9 生徒会機構図



10 進路状況 (平成 28 年度)

(1) 総括

区分	卒業生数	就職者数			進学者数			その他					
		民間企業		公務員	計	大学	短大	専門学校	計	就職未定者	進学未定者	アルバイト等	計
		県内	県外										
男子	59	21	3	3	27	9	2	21	32	0	0	0	0
女子	110	64	3	3	70	4	6	27	37	0	0	3	3
計	169	85	6	6	97	13	8	48	69	0	0	3	3

※就職進学者はどちらもカウント

(2) 進学先・就職先別内訳

区分	地域	学科名	性別	就職先										進学者数					
				内定職					内定産					大	短	専	門		
				専	事	販	サ	技	製	建	運	卸	金					不	公
県内	流通	男	1	1	5	1	8	4		3			1	8	4	2	6		
		女	9	13	7	5	34	8		15	1		2	8	34	1	3	14	
	情報	男	2	1	1	5	3	12	5		3		1	2	1	12	4	18	
		女	10	3	1	1	16	4		1	5	1		1	4	16	1	7	
	OA	男	1		2	1	4			1			1	2	4	1	1	3	
		女	12	2	1	2	17	4		1	6	4	1	1	17	2	4	6	
計	男	0	4	2	3	10	5	24	0	9	0	1	6	0	0	1	3	0	
女	0	31	18	9	8	1	67	0	16	0	2	26	5	1	1	3	13	67	
県外	流通	男			1		2			1	1					2		0	
		女			2		2									2	2	1	1
	情報	男	1				1			1						1	1	1	1
		女					0									0		1	1
	OA	男					0									0			0
		女			1		1									1	1		0
計	男	0	1	1	0	0	1	3	0	0	0	2	1	0	0	0	0	3	0
女	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	1	2
合計	男	0	36	21	15	18	7	97	0	25	0	5	33	5	1	2	6	16	97
女	0	31	18	9	8	1	67	0	16	0	2	26	5	1	1	3	13	67	

(3) 専門・各種学校進学内訳

領域	公務員・ビジネス・遊学	ホテル・観光	教育・福祉	社会福祉	電気・電子・通信	コンピュータ・ゲーム関係	建設・自動車	医療	医療福祉	調理・栄養関係	美容・メイク	芸術・音楽	その他
男	3	1				14	1			1	1		
女	5	1	1					6	8		2	2	2
計	8	2	1	0	0	14	1	6	8	1	3	2	2

II 定時制課程

1 教育目標

生徒一人ひとりが心豊かで、薰り高い芸術文化の創造者となるとともに、社会に貢献できる人間を目指す。

< 具体的な目標 >

- (1) 教養・人格・心身のバランスが取れた人間
- (2) 生命の尊重
- (3) 責任と規律の重視
- (4) 勤労意欲の向上

< 学校経営方針 >

(1) 基礎学力の向上

検定試験への取組

ICTを活用した授業実践

(2) 生徒指導の充実（多様な生徒へのきめ細かい対応）

(イ) 基本的生活習慣

- ① 挨拶の励行
- ② 交通法規の遵守
- ③ 場に応じた正しい服装・言動の理解
- ④ 時間厳守（5分前行動）

(ロ) 部活動の奨励（目的・目標を明確にする。練習時間の確保と配慮）

(ハ) 情報モラル教育

- ① 携帯電話、メール、ライン等に関するトラブルへの迅速な対応。
- ② 法令の説明と遵守（名誉毀損、著作権等）

(ニ) 放課後の生徒の様子を把握

部活動等の取組状況，男女交際の状況，教室内での様子（ゲーム等）

(ホ) リーダーシップ、自主性の育成

生徒に活躍の機会・場を与える。交流の機会の確保

(3) 進路指導の充実（多様な進路指導へのきめ細かい対応）

(イ) 進路学習

- ① 「生き方、あり方」の指導
- ② 働く喜び・魅力
- ③ 大学での学び喜び・学び方，専門学校での学び方
- ④ 資格と職業の関係

(ロ) 模擬試験の実施

(ハ) 講話の企画（本校卒業生等）

(4) 防災教育の推進

(イ) 避難所設営・炊き出し訓練（アルファ米等）、簡易トイレ設営訓練等

(ロ) LHR等での学習（防災マップの作成等）

- (5) ICT教育の充実（授業，行事，部活動等でのiPadなどの活用）
- (6) 言語活動の充実（「読む」「書く」「話す」「聞く」ことの習慣化）
- (7) 美化活動の推進
- (8) 心のケアの充実
 - (イ) 事例の共有化（中学校訪問時，家庭訪問時等）
 - (ロ) 連携を密にした指導（担任・SC・養護教諭・学年主任・管理職等）
- (9) 開かれた学校づくり
 - (イ) 学校通信の作成・配布（出身中学校、近隣地域の世帯へ）
 - (ロ) 学校HPの活用（行事，試合等の結果等の更新）
- (10) 魅力ある学校作り
 - (イ) 県事業予算の積極的活用をととした学習活動（進学，就職，公務員等の進路対策等）
 - (ロ) 未知の分野の学習活動（企業見学，大学見学等）

< 重点目標 >

- (1) 学習指導の充実
- (2) ICT教育の充実
- (3) 言語活動の充実
- (4) 生徒指導の充実
- (5) 部活動の充実
- (6) 進路指導の充実
- (7) 防災教育と健康・安全指導の充実

2 生徒在籍数

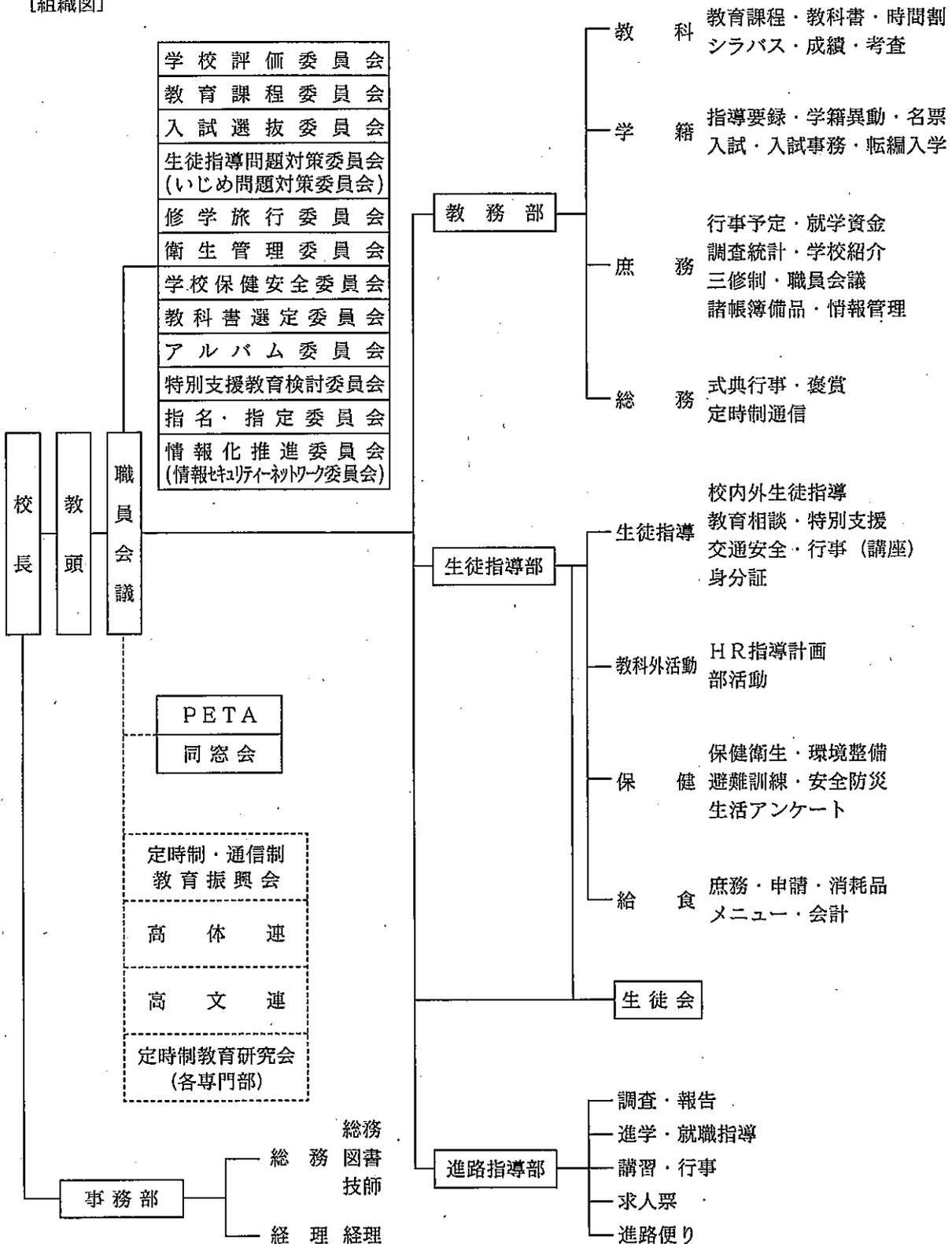
区分	学 年		1 年			2 年			3 年			4 年			合 計		
	男	女	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
在 籍	8	4	12	4	4	8	6	7	13	4	3	7	22	18	40		

3 職員一覧表

職 名	氏 名	担 当 教 科	ク ラ ブ	担 当 学 年
校 長	佐々 浩 二			
教 頭	小野 正 美			
事務室長	鈴木 淳 一			
教 諭	田中 源 三	商 業	文 化	1年1組・2年1組 副担任
〃	大槻 雅 彦	数 学	卓 球	3年1組・4年1組 副担任
〃	瀬川 秀 人	保 健 体 育	バドミントン	3学年主任・1組正担任
再任用教諭	太田 裕	地歴・公民	柔 道	4学年主任・1組正担任
〃	伊藤 尚 宏	理 科	文化・卓球・バド・柔道・バスケ	1学年主任・1組正担任
養護教諭	加藤 文			(育休)
代替養護教諭	鈴木 保志乃			
常勤講師	渡邊 良 樹	国語・書道・情報	バスケットボール	2学年主任・1組正担任
非常勤講師	目黒 敬 章	英 語		
〃	西山 大 樹	家 庭		
主 査	小野寺 裕 美			

4 校務分掌

[組織図]



5 校務分掌一覧

分掌部	所管事項及び担当者							
教務部 ◎太田 大槻 渡邊 瀬川 鈴木保	教科	教育課程	○田中、渡邊	教科書	○渡邊、大槻	時間割	○渡邊、大槻	
		視聴覚・シラバス	○大槻、鈴木		成績・考査	○瀬川、渡邊		
	学籍	指導要録	○田中、渡邊	学籍異動	○田中、大槻	名票	○渡邊、鈴木	
		入試・入学事務	○田中、渡邊(入試時は教務部員)			転種入学	○大槻、鈴木	
	庶務	行事予定	○田中、渡邊		職員会議	○田中、渡邊		
		就学資金	○渡邊、大槻		離職簿備品	○渡邊、鈴木		
		情報管理	○大槻、田中		学校紹介	○大槻、渡邊		
		調査統計	○瀬川(みやぎ学力状況調査) ○田中(学校評価)					
	総務	式典行事・褒賞	○大槻、渡邊		定時制通信	○教頭、田中		
	生徒指導部 ◎太田 伊藤 渡邊 瀬川 鈴木保	生徒指導	校内外生徒指導	○太田(学警連、仙南生指連、町内生指連位)				
教育相談・特別支援			○伊藤、太田、鈴木		交通安全	○太田、瀬川		
行事(講座)		○太田、鈴木		身分証	○渡邊、太田			
教科外活動		HR指導計画	○渡邊、太田		部活動	○太田、瀬川		
保健		環境整備	○伊藤、鈴木		生徒会	ともしび	○太田、渡邊、鈴木	
		生活アンケート	○鈴木、伊藤					
給食	申請	○伊藤、鈴木		行事	○太田、他			
	メニュー	○鈴木、伊藤		消耗品	○鈴木、伊藤			
進路指導部 ◎瀬川 太田・伊藤 大槻・田中	調査・報告	○瀬川、田中、伊藤		求人票	○大槻、伊藤、田中			
	進学・就職指導	○瀬川、太田、大槻		進路便り	○大槻、田中			
	講習・行事	○瀬川、伊藤、大槻						

各種委員会	学校評価委員会	校長、教頭、事務室長、各部長、各学年主任
	教科書選定委員会	教頭、教科部長、教務部担当、各教科主任
	教育課程委員会	教頭、教科部長、教務部担当、各教科主任
	入試選抜委員会	教頭、教科部長、教務部員(田中、渡邊)
	生徒指導問題対策委員会 (いじめ問題対策委員会)	校長、教頭、生徒部長、教育相談担当、各学年主任、養護教諭 PETA会長、(SC-SSW)
	修学旅行委員会	教頭、教科部長(2学年・3学年)
	特別支援教育検討委員会	教頭、生徒部長、コーディネーター(伊藤)、養護教諭
	衛生管理委員会	校長、養護教諭
	学校保健安全委員会	校長、教頭、保健厚生担当、養護教諭
	アルバム委員会	教頭、第3、4学年担任
指名・指定委員会	校長、教頭、関係部長、事務室長	
情報化推進委員会 (関係七カ所ネットワーク委員会)	教頭、教科部長、生徒部長、ネットワーク担当(田中)	

学級担任	学年	1学年	2学年	3学年	4学年
	正担任(主任)	伊藤 尚宏	渡邊 良樹	瀬川 秀人	太田 裕
	副担任	田中 源三		大槻 雅彦	

諸団体	主任	担当者		
	定休連	瀬川 秀人	太田 裕・鈴木保志乃	
	定選援	渡邊 良樹	伊藤 尚宏・大槻 雅彦	
	定選教研	田中 源三	大槻 雅彦・渡邊 良樹	
PETA(PTA関係)	太田 裕	瀬川 秀人・鈴木保志乃		

部活動	顧問	顧問	
	バスケットボール	渡邊 良樹	生徒会 (生徒部) ○太田・瀬川・渡邊・鈴木
	バドミントン	瀬川 秀人	
	卓球	大槻 雅彦	
	柔道	太田 裕	
文化	田中 源三		

6 学年別教育課程

教科	科目	標準単位	1学年	2学年	3学年	4学年	計
国語	国語総合	4	3	2			5
	現代文B	4			3	2	5
地理・歴史	世界史A	2			2	2	4
	地理A	2		2			2
公民	現代社会	2	2				2
数学	数学I	3	2	2			4
	数学活用	2			2		2
	数学A	2				3	3
理科	科学と人間生活	2	2				2
	化学基礎	2		2			2
	生物基礎	2				2	2
	地学基礎	2			2		2
保健体育	体育	7~8	2	2	3	2	9
	保健	2	1	1			2
芸術	書道I	2			2		2
外国語	コミュニケーション英語I	2	2				2
	コミュニケーション英語II	3		3			3
	コミュニケーション英語III	4			2	2	4
家庭	家庭基礎	2	2				2
情報	社会と情報	2		2			2
	ビジネス基礎	2~4				3	3
商業	簿記	2~4	2	2			4
	情報処理	2~4			2	2	4
	総合的な学習の時間	3~6	1	1	1	1	4
単位数小計		19	19	19	19	76	
特別活動	LHR	4	1	1	1	1	4
合計		20	20	20	20	80	

7 出身中学校別生徒数

中学校	1年	2年	3年	4年	計
石	1	1			2
東			1	1	2
大河原	7	3	3	2	15
船岡	3		2	3	8
角田		1	4	1	6
金津			2		2
船迫		1		1	2
塩竈市立第三	1				1
名取第一			1		1
県外		1			1
合計	12	8	13	7	40

8 通学状況調査

交通手段	1年	2年	3年	4年	計
列車	1	3	2	1	7
バス					0
徒歩	2	3	2	1	8
自転車	7	1	2	4	14
バイク			1	1	2
自動車			1		1
自動車(送迎)	2	1	5		8
計	12	8	13	7	40

9 年間行事予定 (定時制)

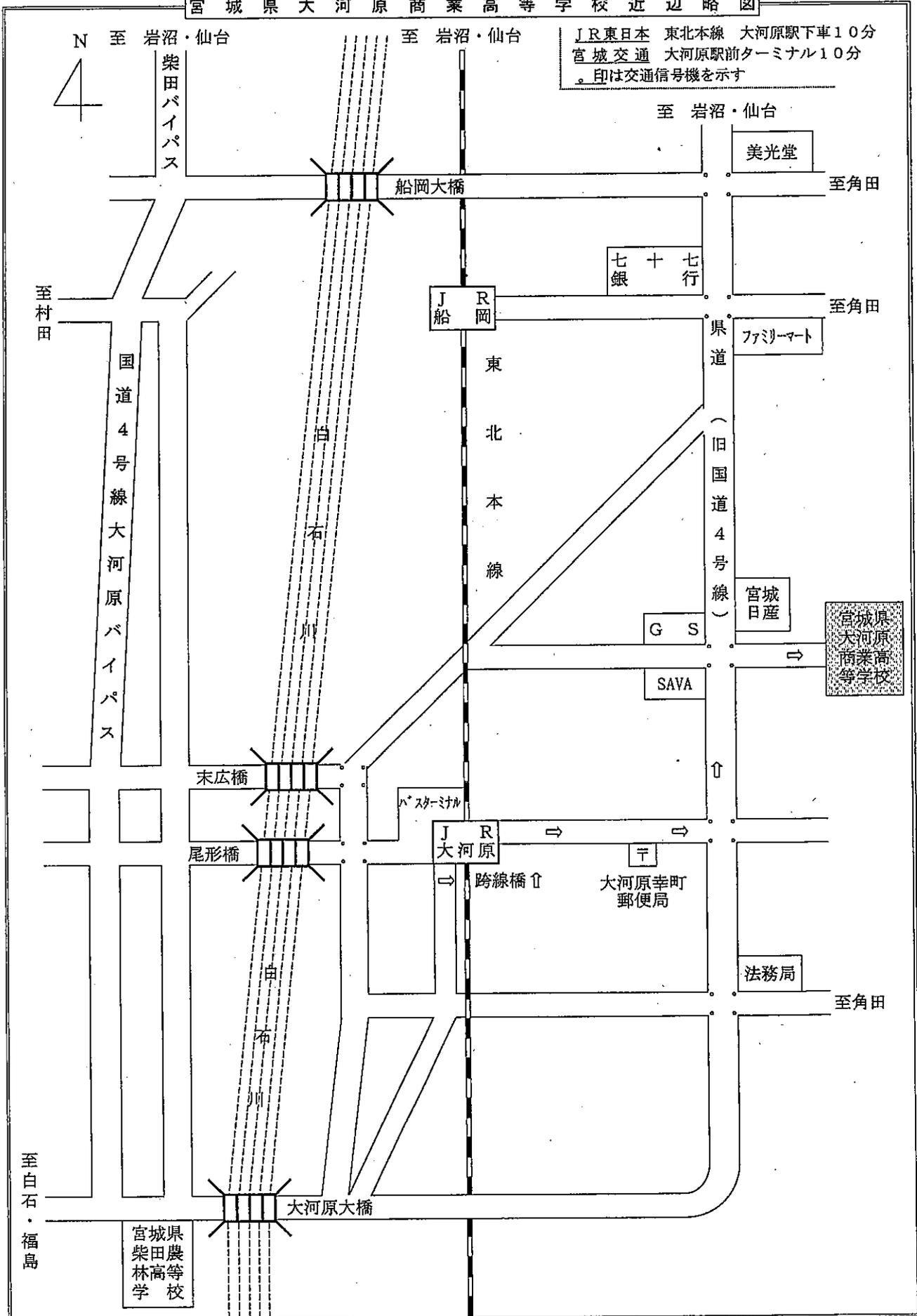
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
1	土 年度始休業↑	月	木	土	火 夏季休業	金	1
2	日 4/1~4/7	火 PETA親睦交流会	金 単票 県定通教研総会	日 全商ビジネス検定	水 7/21~8/24	土 生徒の集い	2
3	月 着任式	水 憲法記念日	土	月	木	日	3
4	火	木 みどりの日	日	火	金 28	月	4
5	水 全定合同会議	金 こどもの日	月	水 答案返却①追検査①	土	火	5
6	木 定時制職員会議	土	火 大表	木 みやぎ学力状況調査 答案返却②追検査②	日	水	6
7	金	日	水 定体連壮行式	金 みやぎ学力状況調査 単票	月	木	7
8	土	月	木	土	火	金	8
9	日	火	金 成績会議	日	水	土	9
10	月 入学式・始業式・新任式	水 生徒総会	土 定体連仙南支部大会	月	木	日	10
11	火 対面式・体位測定	木	日	火 大表	金 山の日	月 職員胃検診	11
12	水 部活動紹介・登録	金 教科研究会	月 振替休日	水 進路(ようこそ先輩)	土	火	12
13	木	土	火 内科検診	木	日	水	13
14	金 耳鼻科検診	日	水	金 成績・職員会議	月	木	14
15	土	月 中間考査日割発表 心電図検査尿検査	木	土	火	金	15
16	日	火	金	日	水	土 就職試験開始	16
17	月	水	土 定体連県大会	月 海の日	木	日	17
18	火	木	日	火	金	月 敬老の日	18
19	水 進路村エンターテイン 眼科検診	金 職員会議	月 振替休日	水 生徒会行事①	土	火	19
20	木 開校記念日	土	火	木 終業式 補講説明会	日	水	20
21	金 職員会議	日	水 職員会議 定体連報告会	金 4年出校日① 清掃ボランティア	月	木 職員会議	21
22	土	月 I 期中間考査↑	木 期末考査日割発表	土	火	金	22
23	日	火	金	日	水	土 秋分の日	23
24	月	水	土	月 4年出校日②	木 職員会議 4年出校日④	日 全商情報処理検定	24
25	火 結核検診	木	日 28 全商簿記実務検定	火 4年出校日③	金 始業式・面談週間↑	月	25
26	水	金 追考査①	月	水	土	火 中間考査日割発表	26
27	木 歯科検診	土	火	木 職員健康診断	日	水 生徒会役員改選	27
28	金 PETA総会	日	水	金	月	木	28
29	土 昭和の日	月 追考査②	木 I 期末考査↑	土	火	金	29
30	日	火	金	日	水	土	30
31		水		月	木		
備 考	教科書購入 定通振仙南支部総会 校外学習(花見) 進路調査①	交通安全教室	定通振宮城県総会	避難訓練① I 期末補講 進路調査②	定体連全国大会 就職推薦会議	マナーアップ週間 進路調査③ 保健講話	

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1	日	水	金	月	木	木	1
			Ⅱ期末考査 ↑	元日	採点日1日目	卒業式	
2	月	木	土	火	金	金	2
					採点日2日目	大表	
3	火	金	日	水	土	土	3
	Ⅱ期中間考査 ↑	文化の日					
4	水	土	月	木	日	日	4
5	木	日	火	金	月	卒	5
						後期選抜準備	
6	金	月	水	土	火	卒	6
	41 ↓		40 ↓		日割発表	後期選抜入試	
7	土	火	木	日	水	卒	7
	生活体験発表会		答案返却①追考査①	↓	4年単票	採点日1日目	
8	日	水	金	月	木	卒	8
		↑	答案返却②追考査②	成人の日	前期合格発表	採点日2日目	
9	月	木	土	火	金	卒	9
	体育の日	修学旅行(3年)		始業式	4年大表		
10	火	金	日	水	土	土	10
	追考査①	↓					
11	水	土	月	木	日	日	11
	追考査②		単票		建国記念の日	みやぎ鎮魂の日	
12	木	日	火	金	月	卒	12
					振替休日	1~3年進級認定会議	
13	金	月	水	土	火	卒	13
	単票		大表 進路(外部講師講話)		Ⅲ期末考査(1~3年) ↑		
14	土	火	木	日	水	卒	14
						後期合格発表	
15	日	水	金	月	木	卒	15
					4年卒認会議 職員会議		
16	月	木	土	火	金	卒	16
	大表				↓ 37	職員会議	
17	火	金	日	水	土	土	17
				進路達成報告会			
18	水	土	月	木	日	日	18
	成績・職員会議		成績・職員会議				
19	木	日	火	金	月	卒	19
	生徒会行事②				答案返却①追考査①	二次募集準備	
20	金	月	水	土	火	卒	20
	遠足	職員会議			答案返却②追考査②	二次募集入試	
21	土	火	木	日	水	卒	21
	(全日:大商祭)		補講説明会	全商情報処理検定	進路が'イ'マス	春分の日	
22	日	水	金	月	木	卒	22
			終業式	職員会議	4年追認会議	二次合格発表	
23	月	木	土	火	金	卒	23
	↑	勤労感謝の日	天皇誕生日			修業式	
24	火	金	日	水	土	土	24
	授業公開	期末考査日割発表	冬季休業 ↑	4年Ⅲ期末考査 ↑			
25	水	土	月	木	日	日	25
			12/24~1/7				
26	木	日	火	金	月	卒	26
		全商ビジネス文書検定			↓	1~3年単票	予備登校
27	金	月	水	土	火	卒	27
	↓				予餞会	諸帳簿提出	
28	土	火	木	日	水	水	28
				全商簿記実務検定	卒業式予行		
29	日	水	金	月	木	木	29
				答案返却①追考査①		年度末休業	
30	月	木	土	火	日	金	30
				前期選抜準備 答案返却②追考査②		3/25~3/31	
31	火		日	水	土	土	31
				前期選抜入試 宅			
		薬物乱用防止教室 避難訓練②	Ⅱ期末補講 進路調査④	全体反省会 いじめ対策委員会	進路調査⑤		

10 年度別卒業生数

年度	卒業生数			備考 回生	年度	卒業生数			備考 回生
	男子	女子	合計			男子	女子	合計	
昭和 19	35	0	35	中学夜間	昭和 56	9	1	10	定時制 34
20	34	0	34	"	57	3	0	3	" 35
21	0	0	0	"	58	6	3	9	" 36
22	22	0	22	"	59	4	0	4	" 37
"	54	0	54	中学夜間二部	60	6	0	6	" 38
23	42	0	42	"	61	7	0	7	" 39
"	112	0	112	中学夜間二部	62	16	2	18	" 40
"	15	0	15	定時制 1	63	17	5	22	" 41
24	41	0	41	" 2	平成 元	12	11	23	" 42
"	5	0	5	中学夜間	2	18	9	27	" 43
25	41	0	41	定時制 3	3	19	8	27	" 44
26	48	1	49	" 4	4	19	11	30	" 45
27	43	0	43	" 5	5	16	1	17	" 46
28	35	0	35	" 6	6	19	6	25	" 47
29	27	0	27	" 7	7	11	3	14	" 48
30	26	1	27	" 8	8	10	2	12	" 49
31	22	0	22	" 9	9	7	5	12	" 50
32	10	1	11	" 10	10	12	1	13	" 51
33	15	0	15	" 11	11	19	3	22	" 52
34	24	0	24	" 12	12	11	1	12	" 53
35	15	2	17	" 13	13	7	9	16	" 54
36	19	0	19	" 14	14	15	3	18	" 55
37	33	0	33	" 15	15	14	9	23	" 56
38	19	2	21	" 16	16	9	11	20	" 57
39	9	2	11	" 17	17	14	9	23	" 58
40	18	1	19	" 18	18	18	4	22	" 59
41	36	8	44	" 19	19	13	6	19	" 60
42	26	2	28	" 20	20	9	8	17	" 61
43	32	3	35	" 21	21	8	13	21	" 62
44	26	2	28	" 22	22	22	7	29	" 63
45	25	2	27	" 23	23	14	8	22	" 64
46	30	5	35	" 24	24	12	6	18	" 65
47	15	4	19	" 25	25	16	15	31	" 66
48	13	8	21	" 26	26	15	7	22	" 67
49	22	3	25	" 27	27	2	5	7	" 68
50	22	1	23	" 28	28	4	5	9	" 69
51	11	3	14	" 29					
52	11	1	12	" 30					
53	11	3	14	" 31					
54	12	1	13	" 32					
55	11	4	15	" 33					
合 計						1,500	257	1,757	
(中 学 夜 間)						(304)	(0)	(304)	
(定 時 制)						(1,196)	(257)	(1,453)	

宮城県大河原商業高等学校近辺略図



JR東日本 東北本線 大河原駅下車10分
 宮城交通 大河原駅前ターミナル10分
 。印は交通信号機を示す

N 至 岩沼・仙台

至 岩沼・仙台

至 岩沼・仙台

至角田

至角田

宮城県大河原商業高等学校

至角田

至村田

国道4号線 大河原バイパス

白石川

東北本線

県道 (旧国道4号線)

至白石・福島

宮城県柴田農林高等学校

大河原大橋

末広橋

尾形橋

J船 R岡

七十七行 七銀

美光堂

ファミリーマート

G S

SAVA

J R 大河原

大河原幸町郵便局

法務局

バス

跨線橋

平成 7 年 度

7 教 3 3 - 3 0 2 号

柴田農林高総合実習棟新築地質調査

報 告 書

平成 8 年 3 月

宮 城 県 土 木 部 営 繕 課

協和地下開発株式会社仙台支店

ま え が き

今般御下命を賜りました「平成7年度 7教33-302号柴田農林高総合実習棟新築地質調査」について本書を以って御報告申し上げます。

本書に基づいて設計・施工されるにあたっての御質問、御照会には当社担当技術員が誠意をもって御答え申し上げます。

なお、今般の御下命に対して厚くお礼を申し上げますと共に、種々御配慮くださいました関係各位に深謝し、今後共御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成 8 年 3 月

協和地下開発株式会社仙台支店

仙台市若林区舟丁16番地

電 話 022-267-2770

F A X 022-267-3584

目 次

§ 1. 調査概要	P - 1
1-1. 調査目的	P - 1
1-2. 一般事項	P - 1
1-3. 調査数量	P - 2
§ 2. 調査方法	P - 4
§ 3. 地形、地質の概要	P - 6
3-1. 地 形	P - 6
3-2. 地 質	P - 8
§ 4. 調査結果	P - 9
4-1. 地盤構成	P - 9
4-2. 地層各論	P - 11
4-3. 地下水位	P - 12
§ 5. 考 察	P - 13
5-1. 支持層および基礎形式	P - 13
5-2. 杭支持力の検討	P - 15

《 添付資料 》

- ・ 案 内 図
- ・ 調査位置平面図 (S=1:200)
- ・ ボーリング柱状図
- ・ 記 録 写 真

§ 1. 調査概要

1-1. 調査目的

柴田農林高総合実習棟新築敷地内の地盤構成と地盤の相対的な強さを把握し、計画建物の基礎設計の資料とすることを目的として実施したものである。

1-2. 一般事項

1) 業務件名：7教3-302号

柴田農林高総合実習棟新築地質調査

2) 業務場所：宮城県柴田郡大河原町字川上原7-2

3) 業務期間：平成8年2月21日～8年3月15日

4) 業務概要：・ 機械ボーリング (φ66mm)

B-1孔 …………… 40m (GL-20mまで素掘)

B-2孔 …………… 40m 計 80m

・ 標準貫入試験

B-1孔 …………… 20回

B-2孔 …………… 40回 計 60回

(土質別内訳は1-3調査数量内訳表に示す)

5) 使用機器：・ ロータリー式オイルフィード型試錐機 1台

・ 標準貫入試験器 1式

6) 発注者：宮城県土木部営繕課

7) 受注者：協和地下開発株式会社仙台支店

仙台市若林区舟丁16番地

電話：022-267-2770

FAX：022-267-3584

現場代理人：久我 哲郎

主任技術者：滝沢 進

1-3. 調査数量

表 1-1 調査数量内訳表

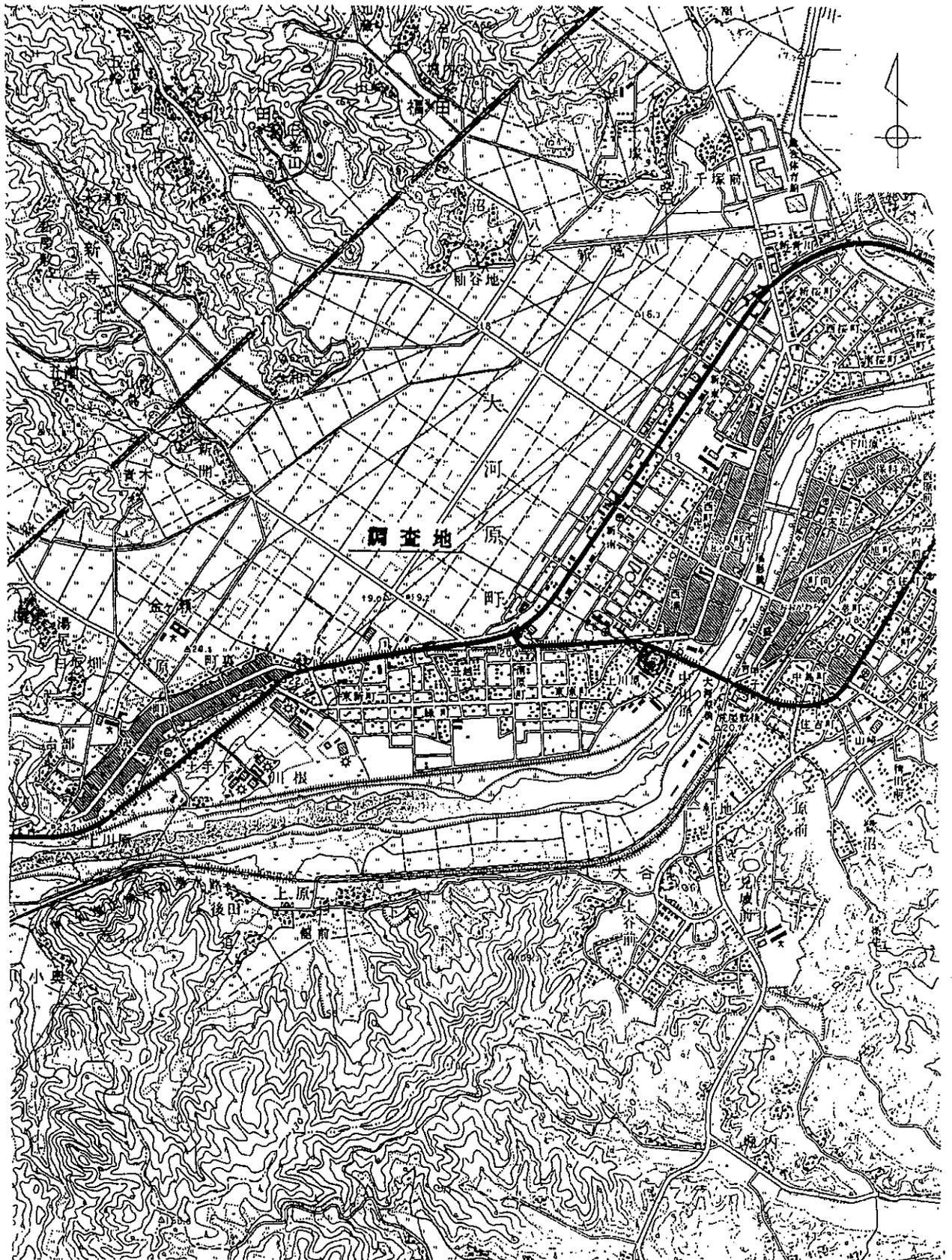
	土質区分	No. 1	No. 2	計
掘 進 長 (m)	粘性土	22.45	20.50	42.95
	砂・砂質土	6.50	11.25	17.75
	砂 礫	11.05	8.25	19.30
	計	40.00	40.00	80.00
標準貫入試験 (回)	粘性土	3	21	24
	砂・砂質土	6	11	17
	砂 礫	11	8	19
	計	20	40	60

注1) 掘削口径は66mm

注2) No. 1孔はGL-20mまで素掘

图 1-1 调查地案内图

S=1:25,000



§ 2. 調査方法

調査は「敷地調査共通仕様書」(建設大臣官房庁営繕部監修, 平成5年度版)、地盤調査法(地盤工学会編, 平成7年度版)等に準拠したほか、次に示すとおり実施した。

1) 機械ボーリング

ボーリングは計画敷地内の地盤構成とその相対的強さを確認するほかに、ボーリング孔内において標準貫入試験を行うために実施したものであり、ロータリー式オイルフィード型試錐機(東邦D-1型)を用いて実施した。

掘進はコアチューブ先端に取り付けたメタルクラウンに回転と圧力を加え地盤を切削することにより行う。こうして標準貫入試験とともに掘進全長の土質試料を採取し、その試料の肉眼観察をもって土質を判別した。

2) 標準貫入試験

標準貫入試験はボーリング孔を利用し、地盤の硬軟や締まりの程度の相対値を表わすところのN値を求めるために実施したものである。

試験はJIS A 1219に基づいて行い図1-2(P-5)に示すように63.5Kgのハンマーを75cmの高さから自由落下させ、その打撃エネルギーにより先端のサンプラーを30cm貫入するのに必要な打撃回数、すなわちN値を求めた。

N値の本打ちの打撃回数は60回を限度とした。

機械ボーリングの掘進装置一般図(オイルフィード型)、標準貫入試験略図を次頁に示す。

(参考) 相対密度, コンシステンシー(相対稠度)の状態表現

	N 値	相 対 密 度		N 値	コンシステンシー
	砂	0 ~ 4		非常にゆるい	粘 土
4 ~ 10		ゆるい	2 ~ 4	軟らかい	
10 ~ 30		中位の	4 ~ 8	中位の	
30 ~ 50		密な	8 ~ 15	硬い	
50 以上		非常に密な	15 ~ 30	非常に硬い	
			30 以上	固結した	

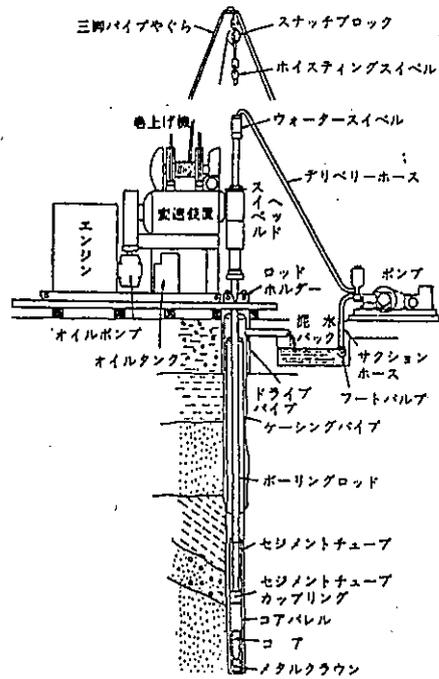
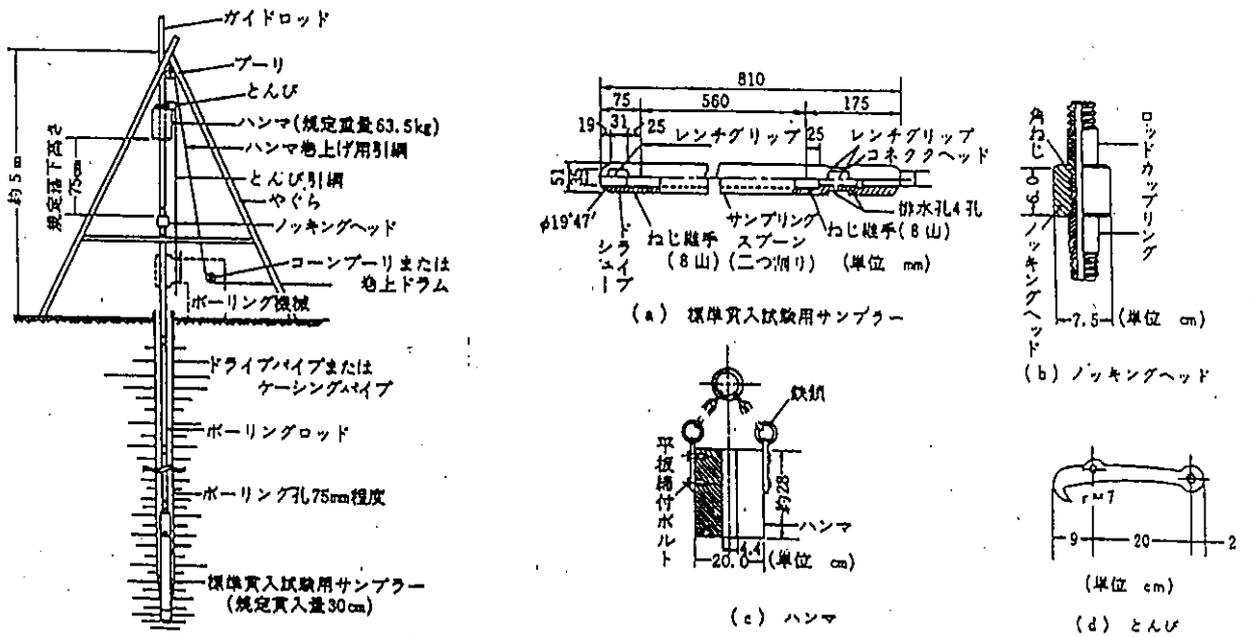


図 2-1 掘進装置一般図



(貫入試験略図)

(主な試験用具)

図 2-2 標準貫入試験図

§ 3. 地形、地質の概要

3-1. 地 形

調査地はJR東北本線大河原駅の西方、直線距離にして約0.8kmの所に位置する。

調査地である柴田農林高の北側は国道4号線に面し、敷地の東～南側のすぐ近く白石川が東～東北方向に流れている。

すなわち、調査地は白石川の左岸部に位置し、地形的には標高約100m前後を示す丘陵地に囲まれた沖積平野である。

調査地周辺における沖積平野は、次頁の「微地形区分図」に示されているように、白石川の両岸に沿って自然堤防が発達し、その背後に*後背湿地が発達している。

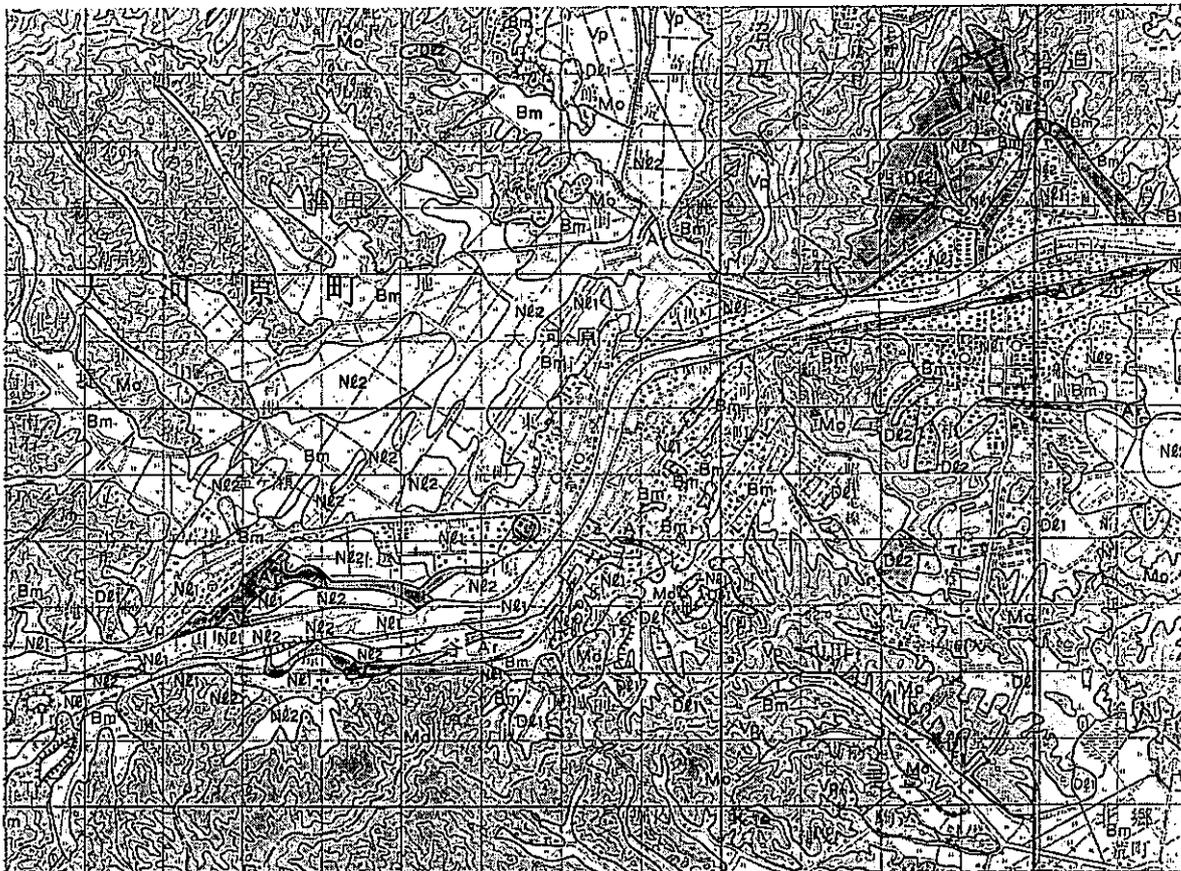
今回の調査地は自然堤防区域内に部分的に入り込んで形成された後背湿地部に相当する所と推定され、標高約18m前後を示している。

* こうはいしっち 後背湿地 英 back slough, back marsh, back swamp 独 Hinterwasser 仏 dépression latérale humide 露 пойменное болото はらん原上で自然堤防の背後にできる沼沢性の低湿地。洪水時に流路からあふれだした水は流路の両側にひろがるが、減水が始まると自然堤防に妨げられて元の流路にもどれないために、長時間、流路の両側の低地部に湛(たん)水して沼や湿地となり自然の蒸発をまつ。通常、平野部を流れる河川では後背湿地が水田化し、それよりやや高燥な自然堤防上に集落、畑地などがのり、土地利用の状態から両者の分布が推定できる。 <高山茂実>

「地学事典」(平凡社発行)による。

次頁に「調査地付近微地形区分図」を示す。

图 3-1 调查地附近微地形区分图



微地形区分图凡例

地形区分		記号	
人工地形	埋立地(海浜部・湖沼部)	Nc	
	平地部造成地(切土・盛土)⊙	Dd1	
	山地部造成地(切土・盛土)⊙	Dd2	
平地部地形	浜	Br	
	自然堤防	発達部	N21
		未発達部	N22
	後背湿地	Bm	
	旧河道		
	扇状地及び扇	Ff	
	谷底平地	Vp	
	段丘平坦面	Tr	
段丘			
山地部地形	地すべり性地形分布域		
	火山地形	Vi	
	山地	Mo	

3-2. 地 質

白石川流域の沖積平野をとり囲む丘陵～山地部を構成する地質は、新生代第三紀中新世の槻木層や新寺層の砂岩・シルト岩(いずれも凝灰質)、凝灰岩類であるが〔5万分の1地質図幅「白石」(国土地理院発行による)〕、沖積平野部では白石川による侵食作用によって第三紀層は深く削剥され、厚い沖積層によって覆われている。

今回実施したボーリング結果によると、沖積層は腐植物をやや多く含む後背湿地堆積物である粘性土がGL-30m前後の所まで堆積しており、その下位は主として河川の氾濫時の堆積物である砂礫層が分布しているのが確認された。

§ 4. 調査結果

今回の調査は計画建物の敷地内の2箇所において機械ボーリングを実施したものであり、その結果は「ボーリング柱状図」および「地層推定断面図」として別図に示した。

ここではボーリングとそれと平行して実施した標準貫入試験結果ならびに試料採取の観察によって確認された地盤構成とその土性等について記述する。

(なお、ボーリングNo. 1孔はGL-20.00mまでは標準貫入試験を実施しない素掘とした)

4-1. 地盤構成

2箇所におけるボーリング結果から、調査地の地盤構成をまとめると次のとおりである。

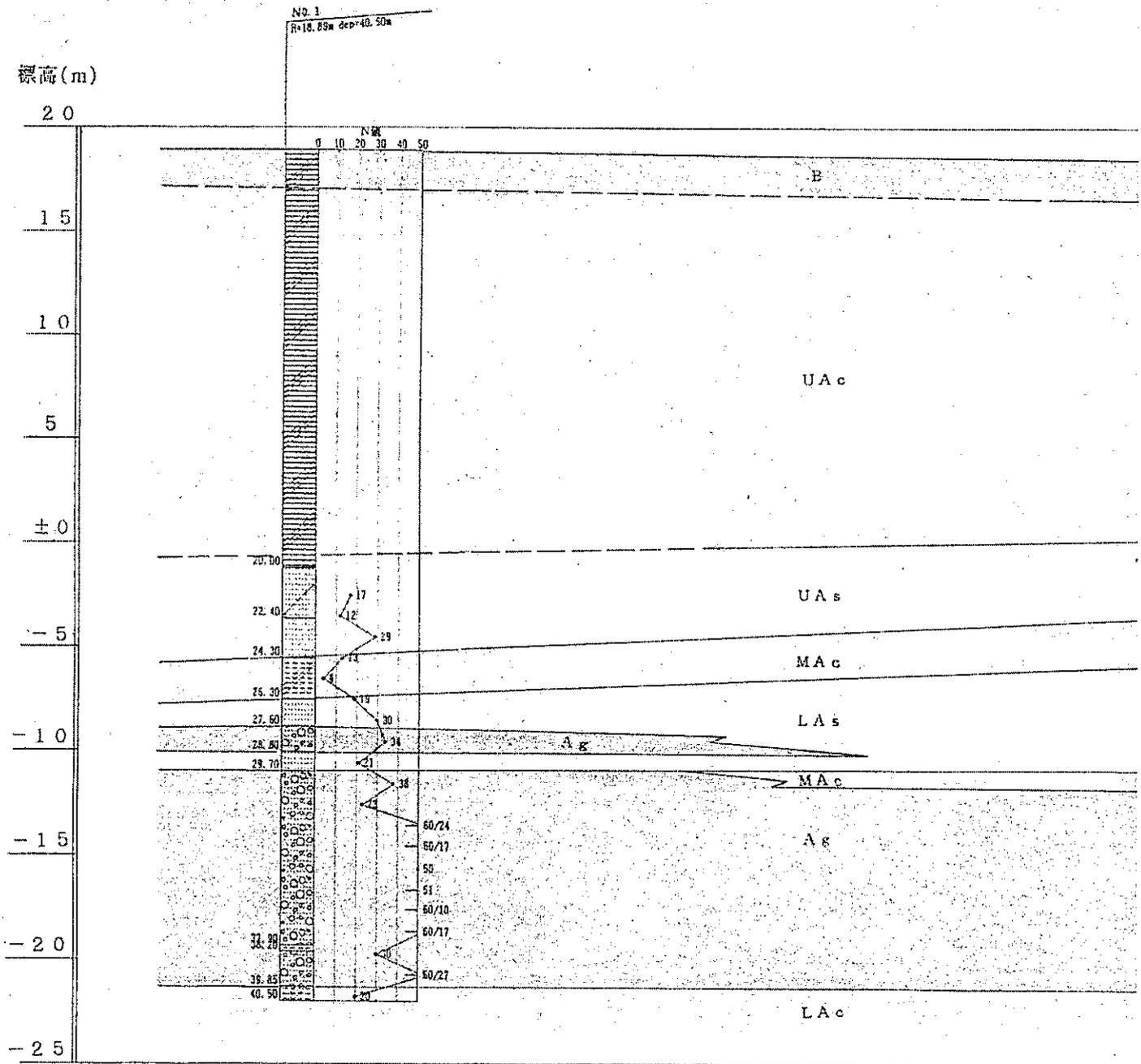
表4-1 地盤構成表

地質時代	地層区分	記号	摘要
—	盛土	B	シルト質細砂からなる。砂の粒子細かくルーズ
第 四 紀 沖 積 世	上部粘性土層	UAc	シルト質粘土, シルトからなる。腐植物をはさむ。所々砂質シルト, 微細砂をはさむ。含水量多くN=0~4を示し軟弱。
	上部砂層	UAs	細砂, 細~中砂, シルト混じり細砂, シルト質細砂からなる。N=3~29で細粒分多いほどルーズ
	中部粘性土層	MAc	砂質シルト, シルト質粘土からなる。いずれも腐植物を少量混入。N=4を示す。
	下部砂層	LAs	礫混じり粗砂, 中砂, 細砂~中砂, シルト質細砂からなる。N=8~28。
	砂礫層	Ag	径3~40mm前後の角礫を主体とし、50mm位のものも点在。所々粘性土を薄く挟む。礫主体で砂分は少ない。N=23~60以上
	下部粘性土層	LAc	砂質シルト, 砂混じりシルトからなる。細砂を不規則にはさむなど不均質。N=9~20。

次頁に「地層推定断面図」を示す。

地層推定断面図

縮尺

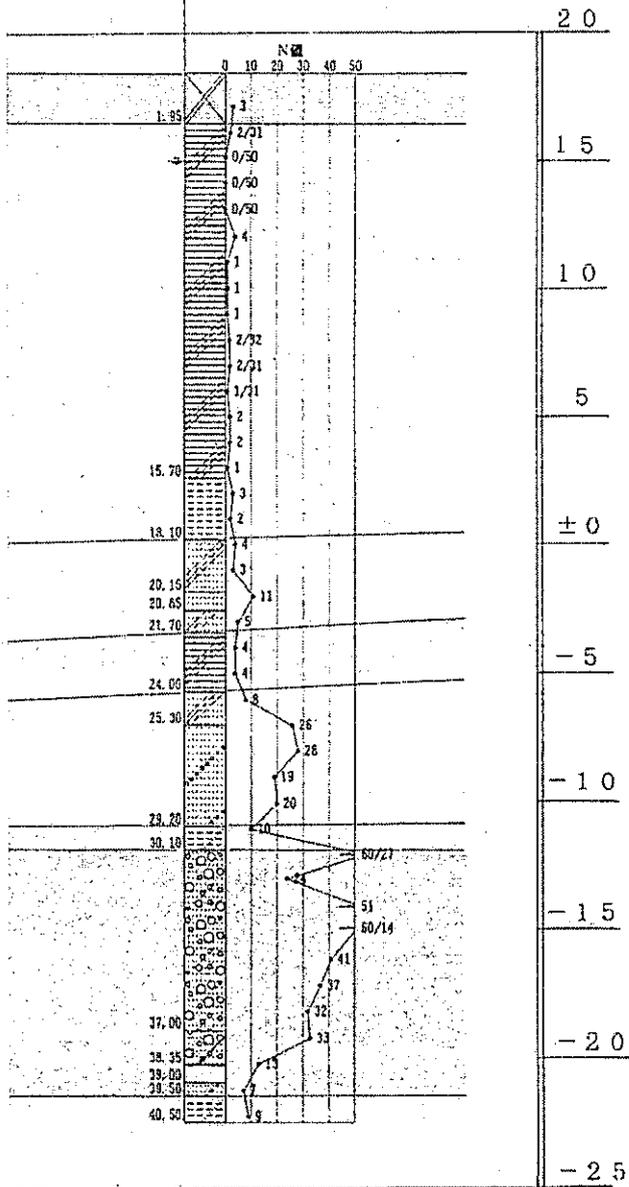


H 1 : 200

V 1 : 200

No. 2
H=13.47m dep=40.50m

標高(m)



〈 凡 例 〉

地質時代	地層区分	記号	備 考
第 一	盛 土	B	シルト質細砂からなる。砂の粒子細かくルーズ
第 四	上部粘性土層	UA c	シルト質粘土、シルトからなる。腐植物をはさむ。所々砂質シルト、微細砂をはさむ。含水量多くN=0~4を示し軟弱。
	上部砂層	UA s	細砂、細~中砂、シルト混じり細砂、シルト質細砂からなる。N=3~29で細粒分多いほどルーズ
沖 積 世	中部粘性土層	MA c	砂質シルト、シルト質粘土からなる。いずれも腐植物を少量混入。N=1を示す。
	下部砂層	LA s	礫混じり粗砂、中砂、細砂~中砂、シルト質細砂からなる。N=8~25
	砂 礫 層	Ag	径3~10mm前後の角礫を主体とし、50mm位のものも点在。所々粘性土を薄く挟む。礫主体で砂分は少ない。N=23~60以上
	下部粘性土層	LA c	砂質シルト、砂混じりシルトからなる。細砂を不規則にはさむなど不均質。N=9~20

4-2. 地層性状

前項の地層区分ごとの地層性状について記述する。

- ・ 盛土 (B)

暗茶褐色のシルト質細砂からなる。砂の粒子細かく、ルーズである。層厚はボーリング No. 2 孔で 1.95 m であるが、敷地全体にわたっては明瞭でない。

- ・ 上部粘性土層 (U A c)

暗灰色のシルト質粘土およびシルトからなる。いずれも腐植物を混入しているが、比較的混入の少ない部分もあり、これらが互層状に累積している。

腐植物は分解したものと未分解の繊維質のものが混在する。また、所々砂質シルト層や微細砂層を数 cm ~ 数 10 cm 位の厚さではさんでいる。

全体に含水量多く軟弱で、N 値は大略 0 ~ 2 と小さく、砂分の多い所で 3 ~ 4 と僅かに大きくなっている。

- ・ 上部砂層 (U A s)

細砂, 細 ~ 中砂, シルト混じり細砂及びシルト質細砂からなる。前 2 者は粒子やや粗いが、シル質細砂は粒子はごく細かく砂質シルト状を呈する。

N 値は砂の粒子が細かいほど、またシルト・粘土分を多く含むほど小さく、シルト混じり細砂, シルト質細砂は 3 ~ 17, 細砂, 細 ~ 中砂では 11 ~ 29 とやや大きい値を示している。色調はいずれも暗灰色を呈する。

- ・ 中部粘性土層 (M A c)

No. 1 孔では砂質シルト, No. 2 孔ではシルト質粘土からなる。砂質シルトは微細砂分多く、腐植物を少量混入し含水量やや多い。シルト質粘土は不規則に細砂をはさむなど、やや不均質で含水量は中くらいである。いずれも色調は暗灰色である。N 値は 4 を示し、やや堅い感がある。

- ・ 下部砂層 (L A s)

礫混じり粗砂, 中砂, 細 ~ 中砂およびシルト質細砂からなる。シルト質細砂はごく細かくシルト・粘土分に富んでおり、粘性土層との漸移層と推定されるが、ほかは粒子粗く、中でも礫混じり粗砂層は 3 ~ 10 mm 前後の円礫を多く混入している。

N 値はシルト質細砂は 8 と小さいがほかは 19 ~ 28 を示している。色調は暗青灰色である。

・ 砂礫層 (A g)

礫径は3~40mm前後の角礫を主体とし、50mm前後のものも点在している。マトリックスは粗砂からなり、一般にシルト・粘土分は少ないが、No. 2孔のGL-35m以深はシルト・粘土分がやや多い。また部分的にシルトの薄層をはさむ。

全体に礫分が主で、砂分は比較的少ない。なお、No. 2孔のGL-38.35m間は黒褐色の腐植木片をはさんでいるが、局部的なものとして推定される。

砂礫層のN値は23~60以上の範囲を示すが、30程度以下は粘性土をはさむ所か粘性土を多く含む所と推定され、また腐植木片部や部分的に礫分の少ない所ではN=7~13と低い値を示してゐる。色調は主として暗灰色を呈する。

・ 下部粘性土層 (L A c)

砂質シルト、砂混じりシルトからなっている。いずれも細砂を不規則にはさみ、あるいは混入するなど不均一である。

含水量は中くらいでN値は9~20を示す。

4-3. 地下水位

ボーリング孔において測定した孔内水位(無水掘りによって確認したもの)は次のとおりである。

- ・ B-1孔 …… GL-3.60 (標高 15.29m)
- ・ B-2孔 …… GL-3.40 (標高 15.07m)

したがって、地下水位は標高約15m付近にあるものと推定される。

§ 5. 考 察

調査結果にもとづいて、計画建物(RC造2階建)の基礎工に対する検討を行い、基礎設計の参考資料とする。

5-1. 支持層および基礎形式

計画敷地内における地盤状況は、GL-20m前後までは粘性土層からなり、GL-20m前後からほぼGL-30mまでは砂層を主体として構成されており、その下位には砂礫層が続いている。

GL-20m前後まで分布している粘性土層は、 $N = 0 \sim 2$ 程度を示す所が多い極めて軟弱な土層であり、これを支持層とした直接基礎は支持力の不足が明らかで、また摩擦杭工法は粘性土層の圧密による負の摩擦力が杭周面に作用すると、全く支持力が期待できなくなり、やはり不適当な工法である。

さらに、粘性土層の下位の砂層が主体となっている部分の地層は部分的に30前後のN値を示すものの、10以下の砂層や粘性土層をはさんでいるため、これを支持層とした場合、圧密沈下を生じる等の不安要素があり、この部分を支持層とした杭基礎工法は確実性に欠ける。

したがって、支持層としてはGL-30m前後以深に分布する砂礫層とすることが適切であり、基礎形式としては支持層深度から杭基礎が適切となる。

この場合の杭種は、支持層の深さ、中間層の状態などからPHC杭等の既製コンクリート杭および場所打ち杭が考えられ、また周辺の影響を考慮し、コンクリート杭の場合はプレボーリング打撃工法か中掘り工法が考えられ、場所打ち杭の場合は、建物の荷重が小さいことから比較的小径の施工も可能で、かつ騒音、振動の少ないアースドリル工法が考えられる。

〈 杭体強度による支持力 〉

杭体強度から決まる許容支持力は、杭材の許容応力度にもとづき、施工性および一般の実状などを考慮して得られる杭体の標準耐力に対して、長さ径比および溶接継手による低減を行った値とする。

表11.9 運心カプレストレストコンクリートぐいの標準耐力
及び長さ径比・溶接継手による低減率

ぐいの種類 ぐい径(mm)	運心カプレストレストコンクリートぐい(PCぐい)				高強度プレストレストコンクリートぐい(PHCぐい)				長さ径比による低減率 (%)	長さ径比の限界	溶接継手による低減率		
	厚さ(mm)	断面積(cm ²)	種別	標準耐力(t)	厚さ(mm)	断面積(cm ²)	種別	標準耐力(t)					
300	60	452	A	30	70	60	452	A	50	110	L/d-80	105	1箇所につき5%
								B	45	130			
								C	45	135			
350	65	582	A	40	90	60	546	A	60	135			
								B	55	155			
								C	50	160			
400	75	765	A	50	120	65	684	A	75	170			
								B	70	195			
								C	65	205			
450	80	929	A	60	145	70	835	A	90	210			
								B	90	240			
								C	80	250			
500	90	1159	A	75	180	80	1055	A	115	265			
								B	110	300			
								C	105	315			
600	100	1570	A	105	245	90	1441	A	160	360			
								B	155	415			
								C	140	430			

1) 標準耐力は、下記によって算定する。
 PCぐいは、 $0.8\bar{f}_c \cdot A$ (A種) ここで、
 PHCぐいは、 $0.7\bar{f}_c \cdot A$ (A種)
 $0.9\bar{f}_c \cdot A$ (B種)
 $1.0\bar{f}_c \cdot A$ (C種)

ここで、
 \bar{f}_c : ぐい材の許容応力度から有効プレストレスを差引いた値 (kg/cm²)
 A: ぐいの最小断面積 (cm²)

ここで、L: ぐい長さ(m)
 d: ぐい径(m)

(iii) 場所打ちコンクリートぐい

表11.11 場所打ちコンクリートぐい (F_c=210kg/cm²) の標準耐力
及び長さ径比による低減率

工法	ぐい径 (mm)	最小断面積 A (cm ²)	標準耐力(t)			長さ径比による低減率 (%)	長さ径比の限界
			長期		短期		
			水あり	水なし			
アースドリル オールケーシング バース	800	5020	160	180	長期の2倍	L/d-60	80
	1000	7850	255	285			
	1200	11300	365	415			
	1500	17660	575	645			
	1800	25430	830	930			
	2000	31400	1025	1150			
	2200	37990	1240	1395			
	2500	49060	1600	1800			
	3000	70650	2305	2595			

1) 標準耐力は、 $0.7f_c \cdot A$ によって算定する。
 ここで、 f_c : ぐい材の許容応力度 (kg/cm²)
 A: ぐいの最小断面積 (cm²)

2) ぐいの最大径は、一般に、アースドリル工法が1.5m、オールケーシング工法が2.0mとする。

ここで、L: ぐい長さ (m)
 d: ぐい径 (m)

5-2. 杭 支 持 力

PHC杭を用いたプレボーリング打撃工法、中掘り工法および場所打ち杭の杭支持力について検討する。

1) 杭持力の算定式

〈地盤の抵抗による支持力〉

・プレボーリング打撃工法及び中掘り打撃工法

$$R_n = \frac{25}{3} \cdot \bar{N} \cdot A_p + \frac{1}{3} \left(\frac{1}{5} \cdot \bar{N}_s \cdot L_s + \frac{1}{2} \cdot \bar{q}_v \cdot L_c \right) \phi \quad \dots\dots(11.12)$$

ただし、 $\bar{N} \leq 60$ 、 $\bar{N}_s \leq 25$ 、 $\bar{q}_v \leq 10(t/m^2)$ 、 $R_n \leq \frac{25}{3} \cdot 60 \cdot A_p$ とし、打込みは、2d程度行うものとする。

記号

R_n ：地盤の長期許容支持力(t)

\bar{N} ：杭先端下部1d、上部4dの範囲にある地盤の実測N値の平均値(dは杭の直径)。

ただし、堅固な支持層が明確で、杭を支持層に50cm以上かつ、杭径以上貫入した場合には、先端N値を \bar{N} と読みかえることができる。

A_p ：杭先端の有効断面積(m^2)で、先端開放杭は、下記によることのできる。

- 遠心カプレストレストコンクリート杭の場合

$$H/d_1 \geq 2 \text{ の場合 } \quad A_p = 0.25 \pi \cdot d^2 \quad \dots\dots(11.10)$$

- 鋼管杭の場合

$$H/d_1 \geq 5 \text{ の場合 } \quad A_p = 0.2 \pi \cdot d^2 \quad \dots\dots(11.11)$$

$$5 > H/d_1 \geq 2 \text{ の場合 } \quad A_p = 0.04 \pi \cdot d \cdot H$$

ここで、H：支持層への根入れ深さ(m)

d_1 ：杭の内径(m)

\bar{N}_s ：杭周囲の砂質土地盤の実測 \bar{N}_s 値の平均値。

なお、鋼管杭で杭先端に6mmを超える補強バンドを使用する場合は \bar{N}_s の値を適切に低減する。

L_s ：砂質土地盤中にある杭の長さ(m)

ただし、地盤の液状化のおそれのある部分を除く。

\bar{q}_v ：杭周囲の粘性土地盤の一軸圧縮強度の平均値。

L_c ：粘性土地盤中にある杭の長さ(m)

ϕ ：杭の周長(m)

・アースドリル工法、オールケーシング工法、リバース工法（掘削土が水
有りの場合）

$$R_a = \frac{15}{3} \cdot \bar{N} \cdot A_p + \frac{1}{3} \left(\frac{1}{5} \cdot \bar{N}_s \cdot L_s + \frac{1}{2} \cdot \bar{q}_u \cdot L_c \right) \phi - W \quad \dots\dots(11.14)$$

かつ

$$R_a = \frac{7.5}{F_p} \cdot \bar{N} \cdot A_p + \frac{1}{2} \left(\frac{1}{3} \cdot \bar{N}_s \cdot L_s + \frac{1}{2} \cdot \bar{q}_u \cdot L_c \right) \phi - W \quad \dots\dots(11.15)$$

かつ

$$R_a = \frac{7.5}{3} \cdot \bar{N} \cdot A_p + \frac{1}{3} \left(\frac{1}{3} \cdot \bar{N}_s \cdot L_s + \frac{1}{2} \cdot \bar{q}_u \cdot L_c \right) \phi - W \quad \dots\dots(11.16)$$

以下とする。ただし、 $\bar{N} \leq 50$ 、 $\bar{N}_s \leq 25$ 、 $\bar{q}_u \leq 10$ (t/m²)とする。

記号

R_a : 地盤の長期許容支持力(t)

\bar{N} : 杭先端下部1d、上部1dの範囲にある地盤の実測N値（60を上限とする）の平均値（dは杭の直径）。

ただし、堅固な支持層（N値50以上の層）が明確で、杭を支持層に1m以上かつ杭径以上貫入させる場合は先端N値を50とすることができる。

A_p : 杭先端の全断面積 (m²)

\bar{N}_s : 杭周囲の砂質土地盤の実測N値の平均値

L_s : 砂質土地盤中にある杭の長さ(m)

ただし、地盤の液状化のおそれのある部分を除く。

また、拡底杭の場合には、杭先端から杭先端径かつ1mの部分及び拡底部の傾斜面以深の部分を除く。

\bar{q}_u : 杭周囲の粘性土地盤の一軸圧縮強度の平均値

L_c : 粘性土地盤中にある杭の長さ(m)

ϕ : 杭の周長(m)

F_p : 杭先端の極限支持力に対する寄与係数で

$$F_p = \frac{0.1d}{\text{即時沈下量の許容値}} \quad \text{かつ} \quad 3 \text{以上}$$

とする。

ただし、即時沈下量の値は表11.10の値以下とする。

d : 杭径(m)

ただし、拡底杭の場合には杭先端の設計径とする。なお、拡底杭の施工径は、(財)日本建築センターの評定に基づき設計径+10cm又は設計径+20cmとする。

W : 杭自重 (t)

2) 支持力の検討

検討地点を支持層および中間層のN値の小さいNo. 2孔地点とする。次頁に杭設置仮定図を示した。

① プレボーリング打撃工法、中掘り打撃工法

I) 地盤支持力

\bar{N} …… 支持層である砂礫層の杭先端部のN値は50~60以上を示しており、杭 $N_1=50$

$$N_2 = \frac{24+60}{2} = 42 \rightarrow 40 \quad \text{とすると} \quad N = \frac{50+40}{2} = 45$$

$\bar{N}_s, \bar{q}_u, L_s, L_c$ …… 図5-1に示すとおりとする。

$$\bar{N}_{s1} = 5.7 \text{ t/m}^2, \quad \bar{N}_{s2} = 18.0 \text{ t/m}^2, \quad \bar{N}_{s3} = 25.0 \text{ t/m}^2$$

$$\bar{q}_u = 1.25 \times N = 1.25 \times 40 = 5.0 \text{ t/m}^2$$

$$L_{s1} = 3.6\text{m}, \quad L_{s2} = 6.1\text{m}, \quad L_{s3} = 3.0\text{m}$$

$$L_c = 2.3\text{m}$$

したがって、地盤抵抗による鉛直支持力 R_a は

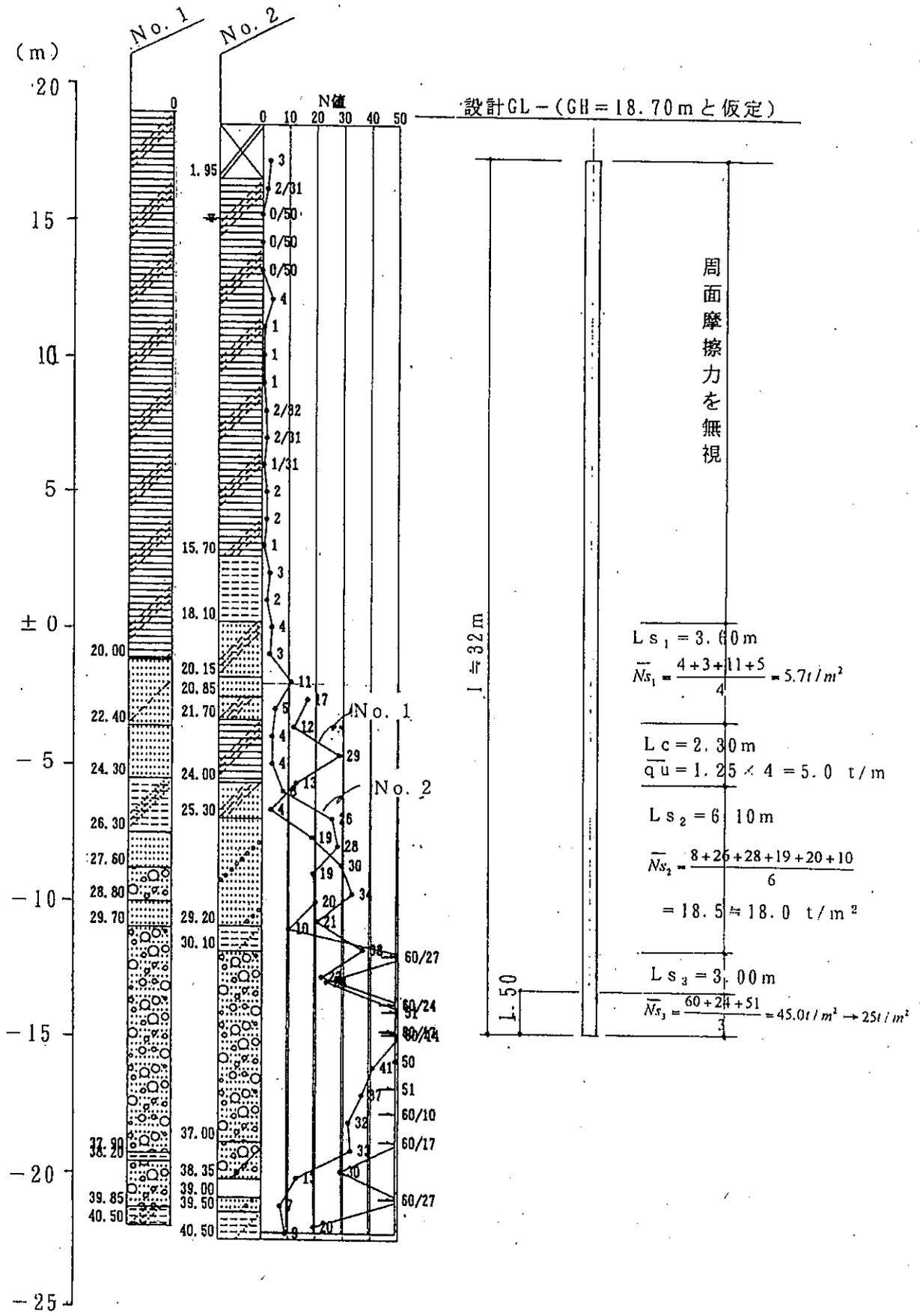
$$\begin{aligned} R_a &= \frac{25}{3} \times 45 \times A_p + \frac{1}{3} \left\{ \frac{1}{5} (5.7 \times 3.6 + 18.0 \times 6.1 + 25.0 \times 3.0) + \frac{1}{2} \times 5.0 \times 2.3 \right\} \Psi \\ &= 375 A_p + 15.6 \Psi \end{aligned}$$

$\phi 450\text{mm}, \phi 500\text{mm}$ の R_a は次のとおりとなる。

$$\phi 450 \quad \dots \quad \approx 81 \text{ t/本}$$

$$\phi 500 \quad \dots \quad \approx 97 \text{ t/本}$$

図 5-1 杭設置仮定図



Ⅱ) 杭体強度による支持力

PHCパイプA種を用いるものとすれば、杭体強度から決まる許容承载力 Ra' は

$\phi 450$ mmの場合

$$\text{長さ径比による低減率} \quad \frac{R}{d} = \frac{3.2}{0.45} = 71.1 < 80 \quad \text{不要}$$

継手による低減率 継手2箇所であるから $5\% \times 2 = 10\%$

$\phi 450$ mm PHCパイプ(A種)の標準耐力90 t

$$\therefore Ra' = 90 - (90 \times 0.1) = 81 \text{ t/本} = Ra (=81 \text{ t/本})$$

$\phi 500$ mmの場合

$$\frac{R}{d} = \frac{3.2}{0.5} = 64.0 < 80 \quad \text{長さ径比による低減不要}$$

$\phi 500$ mm PHCパイプ(A種)の標準耐力115 t

$$\therefore Ra' = 115 - (115 \times 0.1) = 103 \text{ t/本} > Ra (=97 \text{ t/本})$$

PHCパイプによる杭基礎の許容支持力は、Ⅰ), Ⅱ) で求められた値のうち小さい方の値をとり、次のとおりとなる。

$\phi 450$	$Ra = 81 \text{ t/本}$
$\phi 500$	$Ra = 97 \text{ t/本}$

③ 場所打ち杭

φ 800mm, φ 1000 について検討する。

I) 地盤支持力

\bar{N} , \bar{N}_s , L_s , \bar{q}_u , L_c の値をPHC杭の場合と同様とする。

$$\phi \ 800\text{mm} \quad W = \pi \left(\frac{d}{2} \right)^2 \times L \times \gamma c = 3.14 \left(\frac{0.8}{2} \right)^2 \times 32 \times 2.5 = 40.2 \text{ t}$$

$$\phi \ 1000\text{mm} \quad W = \pi \left(\frac{d}{2} \right)^2 \times L \times \gamma c = 3.14 \left(\frac{1.0}{2} \right)^2 \times 32 \times 2.5 = 62.8 \text{ t}$$

したがって、地盤抵抗による鉛直支持力 R_a は

$$\begin{aligned} \phi \ 800\text{mm} \quad R_a &= \frac{15}{3} N \cdot A_p + 15.6 \Psi - W \\ &= \frac{15}{3} \times 45 \times 0.502 + 15.6 \times 2.512 - 40.2 \\ &= 111.9 \text{ t/本} \approx 110 \text{ t/本} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \phi \ 1000\text{mm} \quad R_a &= \frac{15}{3} \times 45 \times 0.785 + 15.6 \times 3.14 - 62.8 \\ &= 162.8 \text{ t/本} \approx 160 \text{ t/本} \end{aligned}$$

II) 杭体強度による支持力

長さ径比による低減

$$\phi \ 800\text{mm} \quad \dots \quad \frac{R}{d} = \frac{3.2}{0.8} = 40 < 60 \quad \text{不要}$$

$$\phi \ 1000\text{mm} \quad \dots \quad \frac{R}{d} = \frac{3.2}{1.0} = 32 < 60 \quad \text{不要}$$

したがって、場所打ち杭の杭体強度による支持力 (R_a') として、標準耐力をそのまま採ってよい。

$$\text{すなわち、} \quad \phi \ 800\text{mm} \quad \dots \quad R_a' = 160 \text{ t/本}$$

$$\phi \ 1000\text{mm} \quad \dots \quad R_a' = 255 \text{ t/本}$$

I), II) のうち小さい方の値をとると、場所打ち杭の許容支持力 R_a は次のとおりとなる。

$$\phi \ 800 \quad \dots \quad R_a = 110 \text{ t/本}$$

$$\phi \ 1000 \quad \dots \quad R_a = 160 \text{ t/本}$$

〈 杭支持力のまめ 〉

杭種・工法		杭径(mm)	地盤支持力 (t/本)	杭体強度による 支持力 (t/本)	杭支持力 (t/本)
P H	プレボーリング 打撃工法	450	81	81	81
		500	97	103	97
C 杭	中掘り 打撃工法	450	81	81	81
		500	97	103	97
場所打ち杭		800	110	160	110
		1000	160	255	160

3) 負の摩擦力に対する検討

調査地には極めて軟弱な粘性土層が約20mの厚さで堆積しており、この層が沈下を生じると支持杭には下向きの力(負の摩擦力)がかかるため、これに対するの安全性について検討する。

検討は次式によって行う。

$$\frac{P+P_{FN}}{a_p} \leq s f$$

$$P+P_{FN} \leq \frac{R_r+R_f}{1.2}$$

記号 P : 杭頭に作用する長期荷重 (t)

P_{FN} : 負の摩擦力によって中立点に生じる杭の最大軸力 (t)

a_p : 杭の実断面積 (cm²)

$s f$: 杭材料の短期許容応力度 (t/cm²)

R_r : 極限支持力あるいは基準支持力時の杭先端支持力 (t)

R_f : 正の極限摩擦力 (t)

P_{FN} , R_f は次式による。

$$P_{FN} = \phi \int_0^{L_n} \tau dz$$

$$R_f = \phi \int_{L_n}^L \tau dz$$

記号 ϕ : 杭の周長 (m)

τ : 杭周面の摩擦力度 (t/m²)

L_n : 杭頭から中立点までの距離 (m)

L : 杭の全長 (m)

・ 杭周面摩擦力 τ

砂質土 $\tau = 3 + N/5$ (t/m²)

粘性土 $\tau = 0.3 \sigma_z$ (t/m²)

・ 中立点の深さ L_n

砂礫層への支持杭であるから $L_n = 0.95 L_a$
(L_a : 圧密沈下面までの深さ)

ボーリング No. 2 地点を検討地点とする。

図 5-2 負の摩擦力検討図

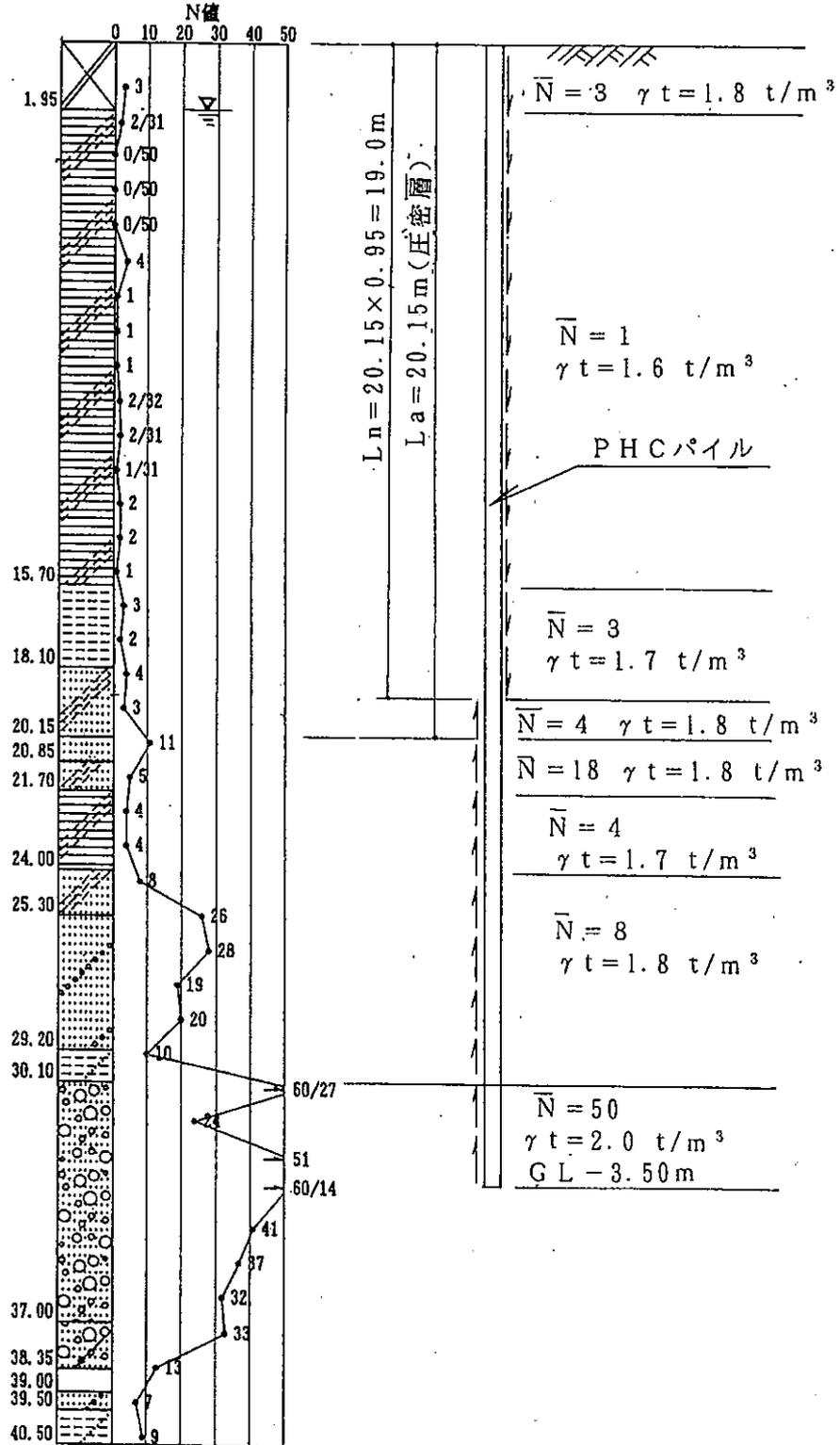


表 5-2 杭周面の摩擦力度 τ の計算表

地層の 下端深度 (m)	層厚 (m)	土質 (平均N値)	γ, γ' (t/m ³)	$\Delta\sigma_z$ (t/m ²)	σ_z (t/m ²)	$\tau=0.3\sigma_z$ (t/m ²)	各層の 平均 τ (t/m ²)
1.95	1.95	盛土 (3)	1.8	3.51	3.51	—	3.6
15.70	13.75	シルト質粘土 (1)	0.6	8.25	11.76	3.5	3.5
19.00 (中位点)	3.30	シルト (3)	0.7	2.31	14.07	4.2	4.2
20.15	1.15	シルト質細砂 (3)	0.8	0.92	14.99	—	3.6
21.70	1.55	中砂 (3)	0.8	1.24	16.23	—	4.6
24.00	7.30	シルト質粘土 (4)	0.7	5.11	21.34	6.4	6.4
30.10	6.10	礫混じり粗砂 (18)	0.8	4.88	26.22	—	6.6
33.50	3.40	砂礫 (50)	1.0	3.40	29.62	—	13.0

PHC 杭 $\phi 500\text{mm}$ 、場所打ち $\phi 800\text{mm}$ の場合について検討する。

1) PHC 杭 $\phi 500\text{mm}$ の場合

$$P_{FN} = 1.570(1.95 \times 3.6 + 13.75 \times 3.5 + 3.3 \times 4.2)$$

$$= 1.570 \times 69.005 = 108.33 \text{ t}$$

$$R_F = 1.570(1.15 \times 3.6 + 1.55 \times 4.6 + 7.3 \times 6.4 + 6.1 \times 6.6 + 3.4 \times 13.0)$$

$$= 1.570 \times 142.45 = 223.6 \text{ t}$$

く 杭躯体強度に関する検討

杭の実断面積 $a_p = 1055 \text{ cm}^2$

杭材料の短期許容応力度 $sf = 400 \text{ kg/cm}^2$

高強度のプレストレストコンクリートの設計基準強度 $F_c = 800 \text{ kg/cm}^2$ とすると

$$sf = \frac{F_c}{4} \times 2 = \frac{800}{4} \times 2 = 400 \text{ kg/cm}^2$$

ここで $P = 97 \text{ t}$, $P_{FN} = 108.33 \text{ t}$ であるから

$$\frac{P + P_{FN}}{ap} = \frac{97 + 108.33}{1055} = 0.194 \text{ t/cm}^2 < 0.40 \text{ t/cm}^2 (sf) \quad \text{OK}$$

〈 杭の支持力に関する検討 〉

PHC 杭 $\phi 500 \text{ mm}$ の場合

$$R_p = 25 \text{ N} \cdot A_p = 25 \times 45 \times 0.196 = 220.5 \text{ t}$$

$$R_f = 223.64 \text{ t}$$

$$R_{FN} = 108.33 \text{ t}$$

$$\textcircled{1} \quad P + P_{FN} = 97 + 108.33 = 205.33 \text{ t}$$

$$\textcircled{2} \quad \frac{R_p + R_f}{1.2} = \frac{220.5 + 223.64}{1.2} = 370.11 \text{ t}$$

① < ② となり、杭の支持力は負の摩擦力に対して安全である。

2) PHC 杭 $\phi 800 \text{ mm}$ の場合

$$P_{FN} = 2.512 \times 69.005 = 173.34 \text{ t}$$

$$R_p = 2.512 \times 142.45 = 357.83 \text{ t}$$

〈 杭躯体強度に関する検討 〉

杭の実断面積 $ap = 5024 \text{ cm}^2$

杭材料の短期許容応力度 $sf = 105 \text{ kg/cm}^2$

コンクリートの設計基準強度 $F_c = 210 \text{ kg/cm}^2$ とすると

$$sf = \frac{F_c}{4} \times 2 = \frac{210}{4} \times 2 = 105 \text{ kg/cm}^2$$

ここで $P = 110 \text{ t}$, $P_{FN} = 173.3 \text{ t}$ であるから

$$\frac{P + P_{FN}}{ap} = \frac{110 + 173.3}{5024} = 0.056 \text{ t/cm}^2 < 0.105 \text{ t/cm}^2 (sf) \quad \text{OK}$$

〈 杭の支持力に関する検討 〉

$$R_p = 15 N \cdot A_p = 15 \times 45 \times 0.502 = 339.12 \text{ t}$$

$$R_f = 357.83 \text{ t}$$

$$R_{FN} = 173.34 \text{ t}$$

$$\textcircled{1} \quad P + P_{FN} = 110 + 173.34 = 283.34 \text{ t}$$

$$\textcircled{2} \quad \frac{R_p + R_f}{1.2} = \frac{339.12 + 357.83}{1.2} = 580.79 \text{ t}$$

① < ②となり、杭の支持力は負の摩擦力に対して安全である。

4) 杭基礎工法の比較

参考として対象地における各杭基礎工法についての比較表を示した。

表 5-3 杭基礎比較表

	P H C 杭		場所打杭 (アースドリル)
	フレホーリング 打撃工法	中掘り 打撃工法	
騒音・振動	○	○	◎
工期	◎	○	△
工事費	◎	○	△
評価	◎	○	△

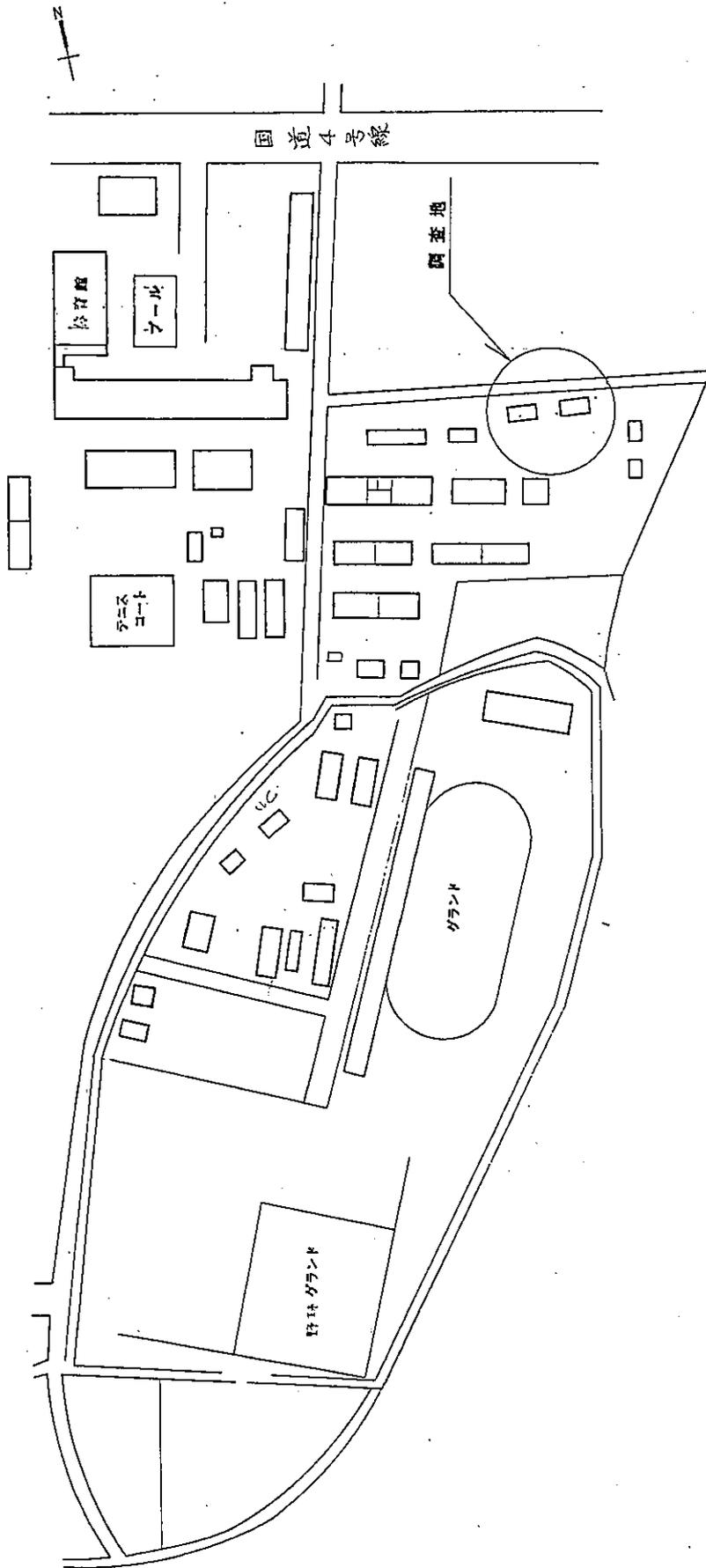
◎ : 最も適する

○ : 適する

△ : 検討を要する

以上

案内図



調査位置図

調査位置図

S=1:20

N

敷地境界線

探壁

実習
S造2

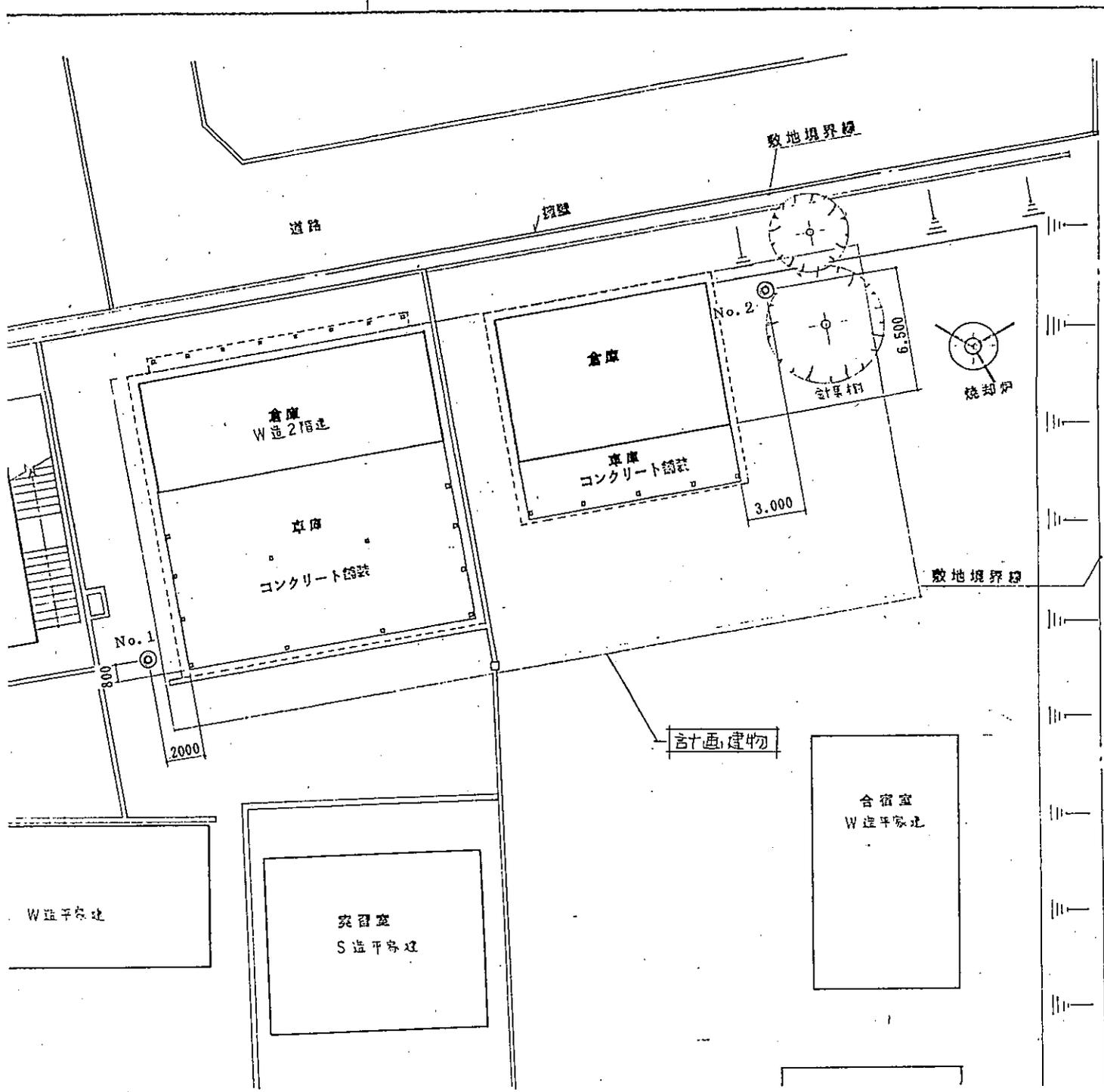
±0 実習棟
RC造2階建

4.200

道路

実習室
S造平屋建

配座図 1/200



□
 BM (学内水準点)
 標高19.394m

ボーリング柱状図

ボーリング柱状図

調査名 平成7年度 7教33-302号 柴田農
林高総合実習棟新築地盤調査委

ボーリングNo.									
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

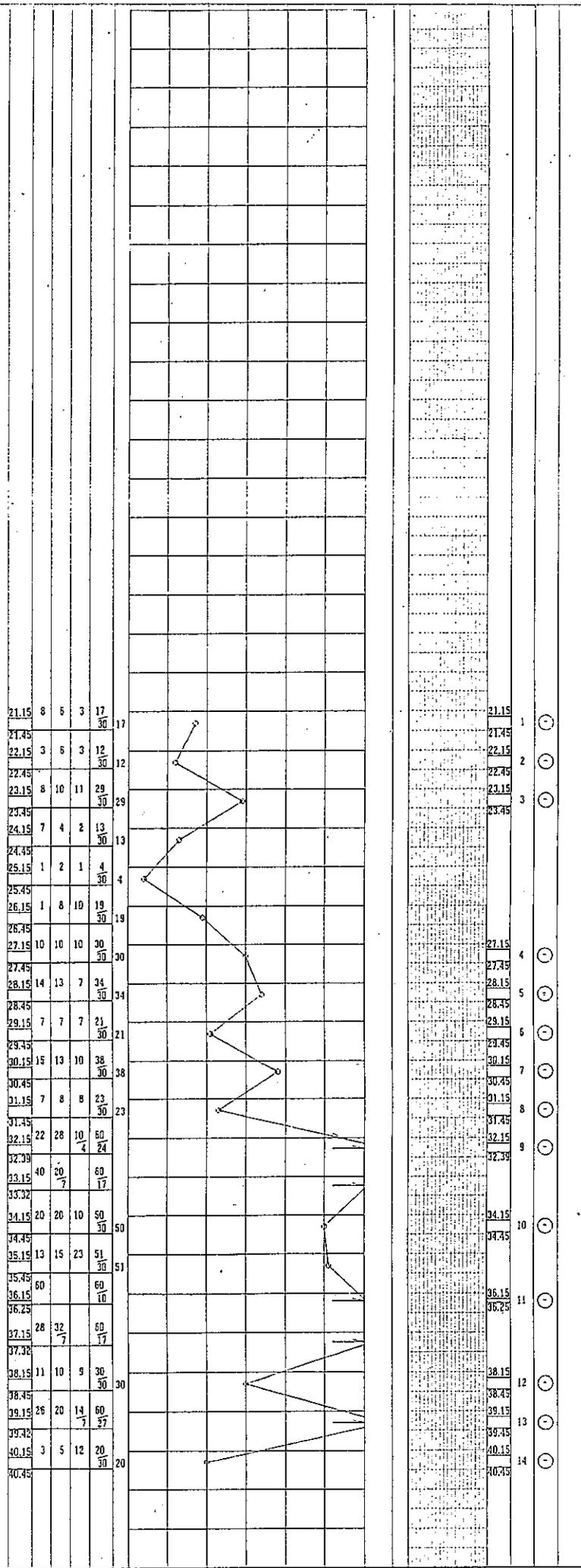
事業・工事名 構造物（RC造2階建）基礎地盤調査

シートNo.

ボーリング名	NO. 1		調査位置	柴田郡大河原町字上川原7-2			北緯	
発注機関	宮城県土木部宮構課			調査期間	平成8年2月21日～8年3月15日		東経	
調査業者名	協和地下開発株式会社仙台支店 電話(022-267-2770)		主任技師	滝沢 進	現場代理人	久我 哲郎	コ 鑑定者	滝沢 進
ボーリング責任者	秋田 良任							
孔口標高	H=18.89m	角	180°上 90°	方	北 0° 270°西 180°南	地盤勾配	水平0°	使用機種
総掘進長	40.50m	度	下 0°	向		試錐機	東邦 D-I 型	ハンマー落下用具
						エンジン	NS60	ポンプ
								コーンアーリー
								V-3

標尺 (m)	層厚 (m)	深 度 (m)	注 状 況 図	土 質 区 分	色 調	相 対 密 度	相 対 稠 度	記 事	標準貫入試験				原位置試験 深 度 (m)	試験名 および結果	試料採取 深 度 (m)	採取方法	室内試験 掘 進 月 日	
									深 度 (m)	10cm ごと の 打撃回数	打撃回数 / 貫入値 (cm)	N 値						
1			シルト質粘土～シルト															
2																		
3																		
4																		
5																		
6																		
7																		
8																		
9																		
10																		
11																		
12																		
13																		
14																		
15																		
16																		
17																		
18																		
19																		
20	-1.1	20.00		20.00														
21				シルト混じり細砂	暗 青 灰			シルトを全体に不規則にはさま 中砂も混じり粒子はやや不均一	21.15	8	6	3	11	30	17		1	○
22	-3.51	2.40	22.40						21.45	3	6	3	12	30	12		2	○
									22.15	3	6	3	12	30	12			

3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20	-1.11	20.00	20.00		シルト質粘土〜シルト	暗灰			
21					シルト混じり細砂	暗青灰	シルトを全体に不規則にはさむ。 中砂も混じり位子はやや不均一		
22	-3.51	2.40	22.40		中細砂	暗青灰	中砂主体で粗砂を混じる。 シルト分あり。		
23					細砂	暗青灰	粗細砂が多い。 腐植物を少量混入。 含水量や多い。		
24	-5.41	1.90	24.30		シルト	暗青灰			
25					中砂	暗青灰	粗砂混じる。細砂を点在。 シルト・粘土分少ない。		
26	-7.41	2.00	26.30		砂	暗青灰	粒径3〜20mmと小さい。 円礫。亜角礫からなる。		
27	-8.71	1.30	27.50		細中砂	暗青灰	細砂をブロック状に混入。 位子不均一。		
28	-9.91	1.20	28.80						
29	-10.81	0.90	29.70						
30									
31									
32									
33									
34									
35									
36									
37									
38	-19.01	8.20	37.30		シルト	青灰	礫は径3〜50mm前後の角礫を主とし、亜角礫も混じる。 全体に礫が多く、砂分はやや少なめ。 30〜30.5m付近シルトを不規則にはさむ。		
39	-19.31	0.30	38.10						
40	-20.98	1.65	39.85						
41	-21.61	0.62	40.50						
42									



4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16	2.77	13.75	15.70	シルト質粘土	暗灰				
17				シルト	暗灰				
18	0.37	2.40	18.10	シルト質細砂	暗灰				
19				細砂	暗灰				
20	-1.68	2.05	20.15	シルト質細砂	暗灰				
21	-2.38	0.70	20.65	細砂	暗灰				
22	-1.23	0.85	21.70	シルト質細砂	暗灰				
23				シルト質粘土	暗灰				
24	-5.55	2.30	24.00	シルト質細砂	暗灰				
25	-6.83	1.30	25.30	シルト質細砂	暗灰				
26				凝混じり粗砂	暗灰				
27				凝混じり粗砂	暗灰				
28				凝混じり粗砂	暗灰				
29	-10.73	3.90	29.20	凝混じり粗砂	暗灰				
30	-11.63	0.90	30.10	凝混じり粗砂	暗灰				
31				砂	暗灰				
32				砂	暗灰				
33				砂	暗灰				
34				砂	暗灰				
35				砂	暗灰				
36				粘土混じり砂	暗灰				
37	-18.53	6.90	37.00	粘土混じり砂	暗灰				
38	-19.88	1.35	38.35	腐植物	暗灰				
39	-20.53	0.65	39.00	腐植物	暗灰				
40	-21.03	0.50	39.50	腐植物	暗灰				
41	-22.03	1.00	40.50	腐植物	暗灰				
42									

2.5m付近まで褐色
3~4m間分解した腐植物をやや多く混入する。
4~6m間砂質シルトからなり、微細砂多く混入。
10m付近から腐植物の混入はやや少ないが、部分的に多く混入している。
全体に含水量多く軟かい。

腐植物少量混入。
粘土分も多い。
含水量多く軟かい。

砂の粒子ごく細かく、シルトを多く含む。

中砂も含み粒子やや粗い。

シルト分多く、微細砂分多い。

含水量中くらいで、ほぼ均質。
2.3m付近からやや砂分多くなる。

砂の粒子粗かく、シルト分多い。

全体に3~10mmくらいの円礫を多く混入。
砂の粒子粗い。
シルト・粘土分はごく少ない。

2.9m付近から礫分や多くなる。
細砂を不規則に混入。
含水量多い。

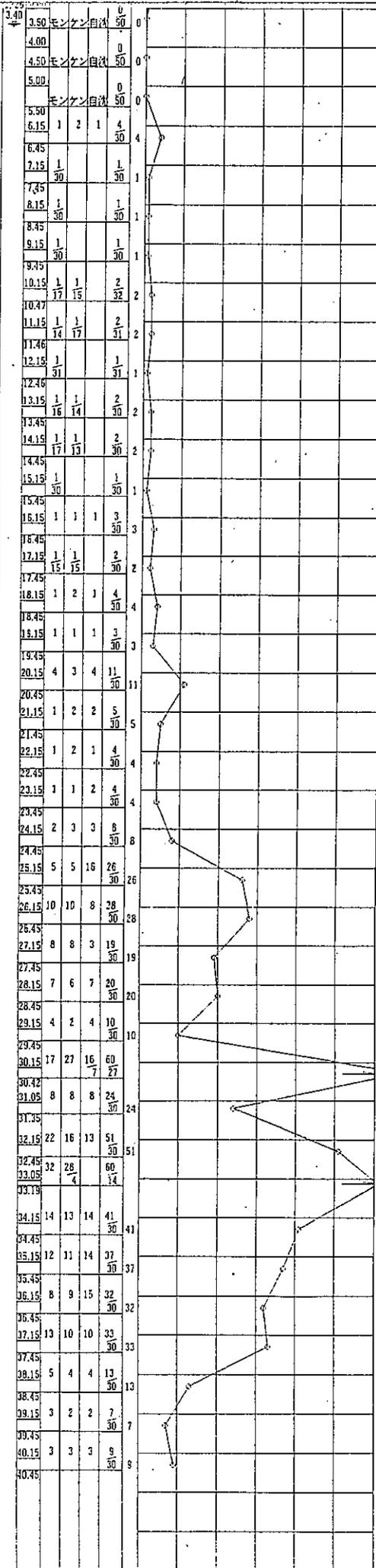
粒径3~30mmの角礫が主体であるが、40mm前後のものも点在。
3.1m付近礫分や少ない。
マトリックスは粗砂からなり、シルト・粘土分は少ない。
3.5m付近より礫分や少なくなり、3.6m付近より粘土分や多くなる。

3~20mm程度の比較的小粒の角礫を主体とする。
粘土分や多い。

腐植した不片からなり、砂、シルトを混入。

シルト分を含む粗砂。

粗砂を不規則に混入。
含水量は中くらい。



南部地区職業教育拠点校新築等設計
公募型プロポーザル判定委員会設置要綱

(設置)

第1条 南部地区職業教育拠点校新築等設計業務を委託するに当たり、より優れた設計者を公募型プロポーザルによって選定するために、「南部地区職業教育拠点校新築等設計公募型プロポーザル判定委員会」(以下「判定委員会」という。)を設置する。

(判定委員会の所掌事務及び報告義務)

第2条 判定委員会は、次に掲げる事務を所掌する。

- (1) プロポーザル方式の実施要項等の策定に関すること。
 - (2) 公募型プロポーザル方式による設計者の評価・選定に関すること。
 - (3) プロポーザルに係る提案書類を審査し、設計候補者を選定すること。
- 2 判定委員会は、前項の選定結果を判定結果報告書により知事に報告する。

(組織)

第3条 判定委員会は判定委員5名をもって構成する。

- 2 判定委員は、別表に掲げる者を充てる。

(任期)

第4条 判定委員の任期は、この要綱の施行の日から平成30年3月31日までとする。

(会長及び副会長)

第5条 判定委員会に会長及び副会長を置く。

- 2 会長及び副会長は、判定委員の互選によって定める。
- 3 会長は会務を総理し、判定委員会を代表する。
- 4 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるとき又は欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 判定委員会の会議は、会長が必要に応じて招集し、その議長となる。

- 2 判定委員会の会議は、判定委員の過半数の出席がなければ開くことができない。
- 3 判定委員会の議事は、出席した判定委員の過半数をもって決定し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 4 会長は必要に応じて、判定委員会の会議に判定委員以外の者の出席を求めることができる。

(秘密の保持)

第7条 判定委員は、審査上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。

(責務)

第8条 判定委員は、プロポーザルに参加する設計者に対して援助を行ってはならない。

(庶務)

第9条 判定委員会の庶務は、土木部営繕課において処理する。

(その他)

第10条 この要綱に定めるもののほか、判定委員会の運営に関して必要な事項は、会長が定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成30年1月11日から施行する。
- 2 この要綱は、平成30年3月31日限り、その効力を失う。

別表（第3条関係）

南部地区職業教育拠点校新築等設計公募型プロポーザル判定委員会
判定委員名簿（敬称略）

※凡例：◎会長 ○副会長

※	分野	区分	氏名	所属・役職
◎	建築	学識経験者	伊藤 真市 いとう しんいち	公立大学法人宮城大学 事業構想学部 デザイン情報学科 准教授
	建築	行政（国）	岡本 政喜 おかもと まさき	国土交通省 東北地方整備局営繕部整備課 課長
	教育	施設管理者	後藤 武徳 ごとう たけのり	宮城県 柴田農林高等学校 校長
	教育	施設管理者	佐々 浩二 ささ こうじ	宮城県 大河原商業高等学校 校長
○	建築	行政（県）	三浦 俊徳 みうら としのり	宮城県 土木部 次長（技術担当）